

岐阜市地域福祉計画策定基礎調査

報告書

平成 25 年 3 月

岐阜市

目 次

I	地域福祉計画に係る住民・事業者の意識調査の結果	1
1	アンケート調査の概要	1
(1)	アンケート調査の目的	1
(2)	調査期間	1
(3)	調査方法	1
(4)	調査対象・回収状況	1
(5)	調査結果の見方	2
2	市民向けアンケート調査の結果	3
(1)	回答者属性	3
(2)	地域（近所）の人とのつながり（絆）について	5
(3)	趣味等の活動（仲間づくり、習い事、レクリエーション、自己啓発等）を通じた人との つながり（絆）について	10
(4)	地域活動について	13
(5)	「孤立」することの問題意識について	23
(6)	ご近所同士の見守り・助け合い活動について	30
(7)	福祉（支え合い）マップづくり活動について	38
(8)－1	ボランティア活動に対する考え方について	43
(8)－2	介護支援ボランティア・ポイント制度について	47
(9)－1	災害対策について	51
(9)－2	緊急医療情報カードの活用について	54
(9)－3	災害時要援護者支援対策について	57
(10)	その他	62
3	社会福祉施設・事業所向けアンケート調査の結果	75
(1)	回答者属性	75
(2)	地域との連携について	76
(3)－1	ボランティア活動の場づくりについて	85
(3)－2	介護支援ボランティアについて	93
(4)	非常災害対策について	100
(5)	その他	107
4	NPO向けアンケート調査の結果	109
(1)	回答者属性	109
(2)	運営上の課題について	111
(3)	地域との連携について	113
(4)	介護支援ボランティア・ポイント制度について	115
(5)	その他	117

5	調査票	118
	(1) 市民向けアンケート調査	118
	(2) 社会福祉施設・事業所向けアンケート調査	122
	(3) NPO向けアンケート調査票	124
II	関係団体等ヒヤリング調査	126
1	ヒヤリングの概要	126
	(1) ヒヤリングの目的	126
	(2) 調査方法・実施日等	126
	(3) ヒヤリング対象	127
2	ヒヤリングの結果	129
	(1) 社会福祉協議会支部	129
	(2) 老人クラブ連合会	132
	(3) 児童館・児童センター	133
	(4) 青少年育成市民会議	135
	(5) 福祉コミュニティ構築推進支援事業の補助対象団体	136
	(6) 生活・介護支援サポーター養成講座の修了者等	138
	(7) 民生委員・児童委員協議会	140
	(8) 地域包括支援センター	142
	(9) 知的障害者相談員、身体障害者相談員	145
III	地域福祉市民会議	147
1	会議の概要	147
	(1) 会議の目的	147
	(2) 実施日時、話し合いのテーマ、参加者数	147
	(3) 会議の進行方法（意見聴取の方法）	147
2	会議の結果	150
	(1) 第1回 「あなたの地域の福祉課題」	150
	(2) 第2回 「子育て世帯の地域福祉」	157
	(3) 第3回 「高齢者の地域福祉」	162
	(4) 第4回 「障がい者の地域福祉」	168
	(5) 第5回 「まとめ」	175

I 地域福祉計画に係る住民・事業者の意識調査の結果

1 アンケート調査の概要

(1) アンケート調査の目的

この調査は、「第2期岐阜市地域福祉計画」の計画期間（平成21年度～25年度）の終了に伴い、新たな地域福祉計画を策定するための基礎調査として、地域福祉に関する意識や考え方、地域福祉活動の実態などを把握することを目的として実施しました。

(2) 調査期間

平成24年7月3日から平成24年7月24日

(3) 調査方法

郵送による配布・回収

(4) 調査対象・回収状況

① 市民

市内に居住する20歳以上の方の中から年齢・性別ごとに層別無作為抽出した2,000人

	配布数（通）		有効回答数（通）		有効回答率	
	男	女	男	女	男	女
20～29歳	123	123	17	35	13.8%	28.5%
30～39歳	162	159	38	77	23.5%	48.4%
40～49歳	170	173	50	62	29.4%	35.8%
50～59歳	143	150	56	72	39.2%	48.0%
60～69歳	170	188	86	105	50.6%	55.9%
70～79歳	123	155	69	73	56.1%	47.1%
80歳以上	57	104	29	48	50.9%	46.2%
計	948	1,052	345	473	36.4%	45.0%
合計	2,000		841		42.1%	

※年齢及び性別の無回答者がいるため、各年代の合計、男女別と全体の合計は一致しません。

② 社会福祉施設・事業所

市内に事業所をおく社会福祉施設・事業所 302か所

	配布数（通）	有効回答数（通）	有効回答率
社会福祉施設・事業所	302	186	61.6%

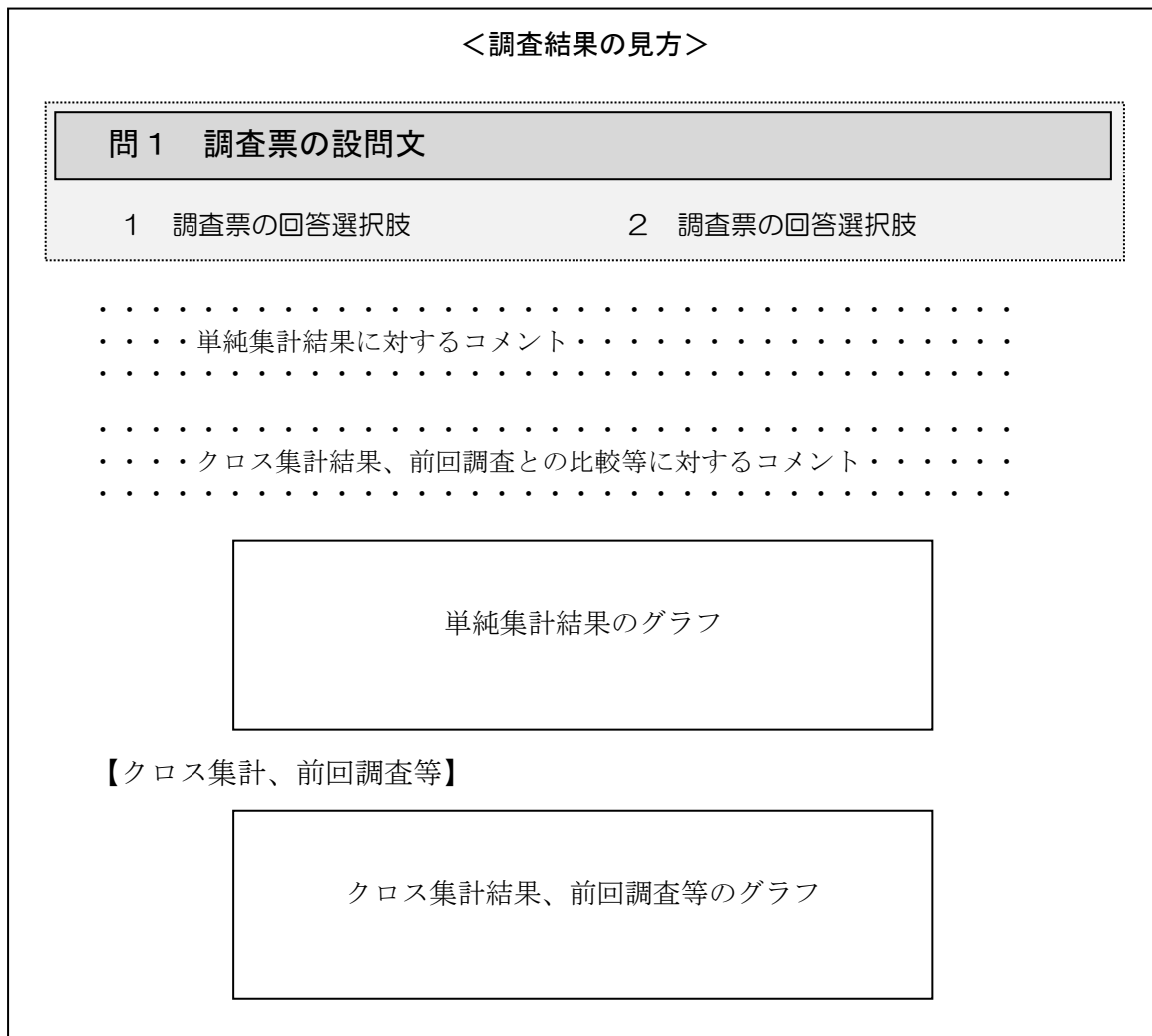
③ NPO

市内に拠点を持つ福祉関係のNPO 64 団体

	配布数 (通)	有効回答数 (通)	有効回答率
NPO 法人	64	24	37.5%

(5) 調査結果の見方

・次ページ以降の本文の見方については下図のとおりです。

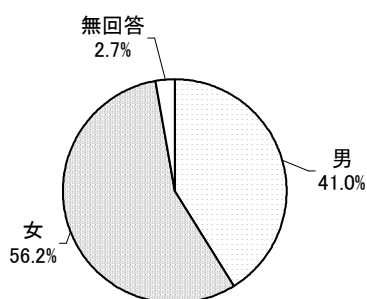


- ・回答は各質問の回答者数 (N) を基数とした百分率 (%) で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100%になりません。

2 市民向けアンケート調査の結果

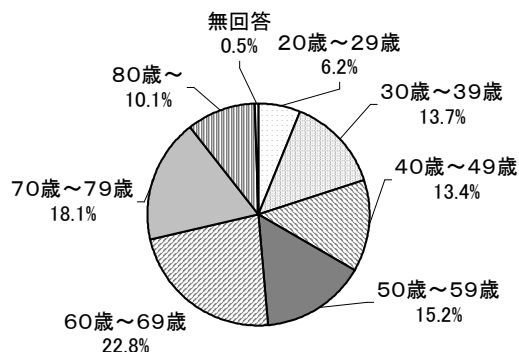
(1) 回答者属性

問1 性別



N = 841

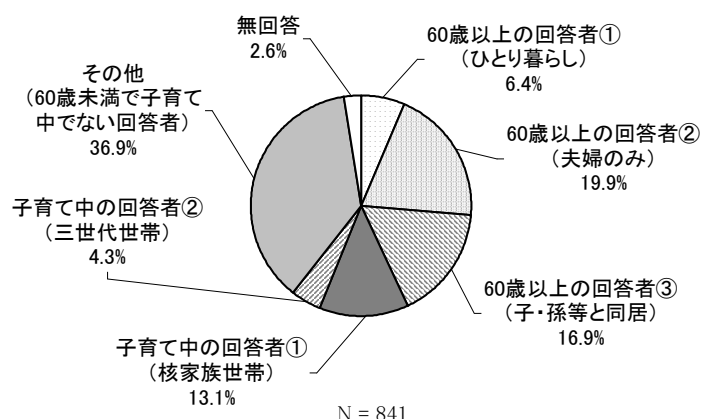
問2 年齢



N = 841

問3 家族構成（同居している家族）

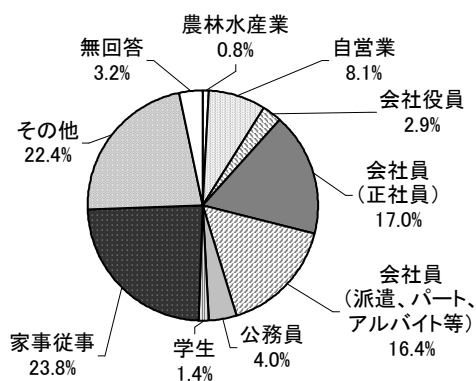
区分	回答
独身で一人暮らし	7.8%
独身で家族と住んでいる	12.8%
結婚しており、一人暮らし	3.1%
結婚しており、家族と住んでいる	70.8%
その他	3.0%



N = 841

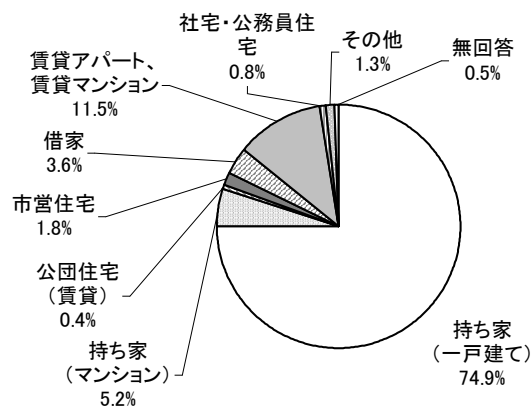
※ この結果を右記のような「家族との同居状況」別に再集計した上で、問16・問17・問28・問30において、クロス集計を施しています。

問4 職業



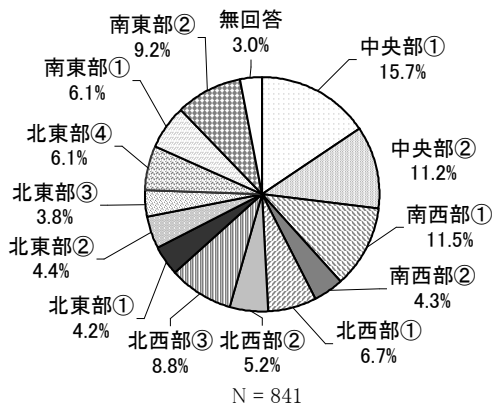
N = 841

問5 住居形態



N = 841

問 6 居住地域

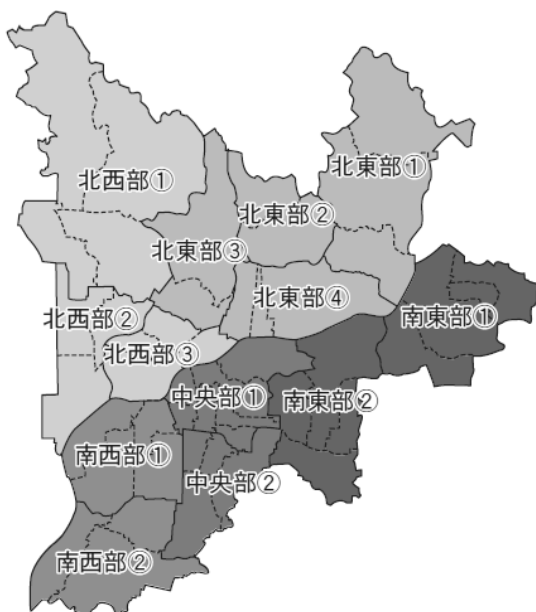


※地域の区分は、岐阜市総合計画で定める「13の地域生活圏域」によっています。

(参考)「13の地域生活圏域」を構成する自治会連合会地区と人口

地域生活圏域	自治会連合会地区	対象年齢人口	人口割合
中央部①	金華・京町・明德・徹明・白山・梅林・本郷・華陽・木之本	45,348	13.6%
中央部②	加納東・加納西・茜部・厚見	34,048	10.2%
南西部①	本荘・三里・市橋・鏡島	41,056	12.3%
南西部②	鶉・日置江・柳津町	22,109	6.6%
北西部①	黒野・方泉・西郷・網代	21,301	6.4%
北西部②	木田・七郷・合渡	15,955	4.8%
北西部③	島・早田・城西・則武	31,567	9.5%
北東部①	藍川・三輪南・三輪北	15,761	4.7%
北東部②	岩野田・岩野田北	12,701	3.8%
北東部③	鷺山・常磐	14,156	4.2%
北東部④	長良・長良西・長良東	25,396	7.6%
南東部①	岩・芥見・芥見東・芥見南	19,339	5.8%
南東部②	日野・長森南・長森北・長森西・長森東	35,208	10.5%

資料：住民基本台帳（平成24年4月1日現在）



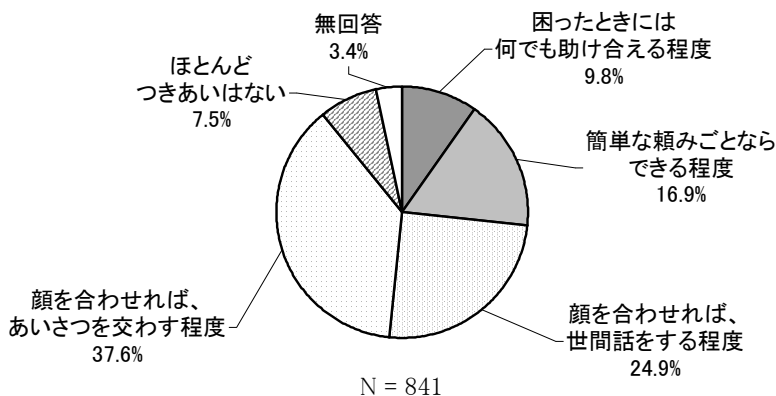
(2) 地域（近所）の人とのつながり（絆）について

問7 あなたはどの程度の近所づきあいをしていますか。（いずれかに○）

- 1 困ったときには何でも助け合える程度
- 2 簡単な頼みごとならできる程度
- 3 顔を合わせれば、世間話をする程度
- 4 顔を合わせれば、あいさつを交わす程度
- 5 ほとんどつきあいはない

「困ったときには何でも助け合える程度」（9.8%）、「簡単な頼みごとならできる程度」（16.9%）のように“手助けや頼みごとができる程度”とする回答が、合わせて3割弱となっています。これに対して、これらよりは近所づきあいの程度が浅い「顔を合わせれば、世間話をする程度」（24.9%）、「顔を合わせれば、あいさつを交わす程度」（37.6%）のような“世間話やあいさつをする程度”とする回答が、合わせて6割強となっています。さらに、「ほとんどつきあいはない」も7.5%となっています。

年齢別にみると、“手助けや頼みごとができる程度”とする回答の割合は、30歳代の1割強から70歳代の4割弱まで、年齢層が高くなるほど高くなる傾向が見られますが、80歳代になると3割弱となっています。



【年齢別】

年齢層	N	割合 (%)					
		困ったときには何でも助け合える程度	簡単な頼みごとならできる程度	顔を合わせれば、世間話をする程度	顔を合わせれば、あいさつを交わす程度	ほとんどつきあいはない	無回答
全体	841	9.8	16.9	24.9	37.6	7.5	3.4
20歳～29歳	52	3.8	9.6	65.4		21.2	
30歳～39歳	115	7.0	9.6	20.9	51.3	11.3	
40歳～49歳	113	5.3	15.9	25.7	43.4	9.7	
50歳～59歳	128	5.5	18.0	22.7	46.1	7.0	0.8
60歳～69歳	192	9.9	24.0	31.3	22.9	4.7	7.3
70歳～79歳	152	17.1	21.1	27.0	29.6	0.7	4.6
80歳～	85	18.8	10.6	24.7	29.4	10.6	5.9

※全体（単純集計）の回答数（N=841）と各年齢層の回答数の合計（N=837）とが一致しないのは、問2（「あなたの年齢についてお答えください」）に対して有効な回答があったもののみを集計しているためです。本問以降のクロス集計においても同様に、参照する問の有効回答が100%とならないため、全体（単純集計）の回答数とクロス集計の回答数の合計とは一致しません。

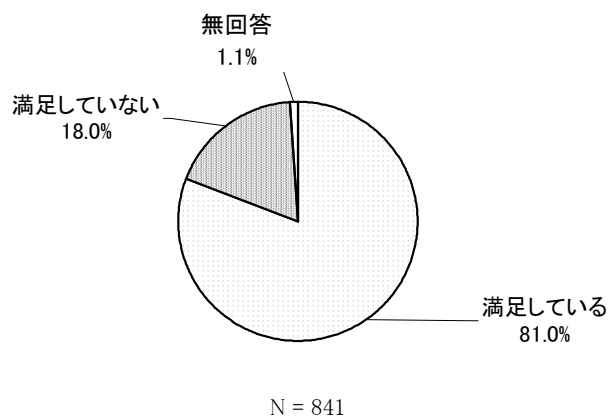
**問8 あなたは今の近所づきあいの程度（問7の回答）に満足していますか。
（どちらかに○）**

1 満足している

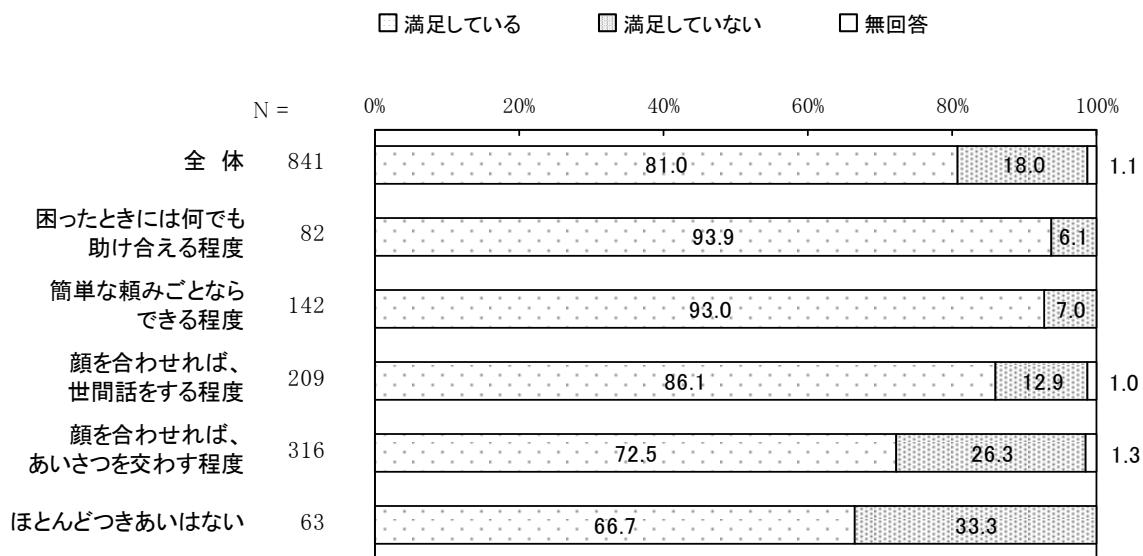
2 満足していない →問8-2へ

「満足している」が81.0%に対して、「満足していない」が18.0%となっています。

問7の近所づきあいの程度別にみると、「満足している」の割合は、「困った時には何でも助け合える程度」（93.9%）から「ほとんどつきあいはない」（66.7%）まで、近所づきあいの程度が浅くなるほどが低くなる傾向が見られます。



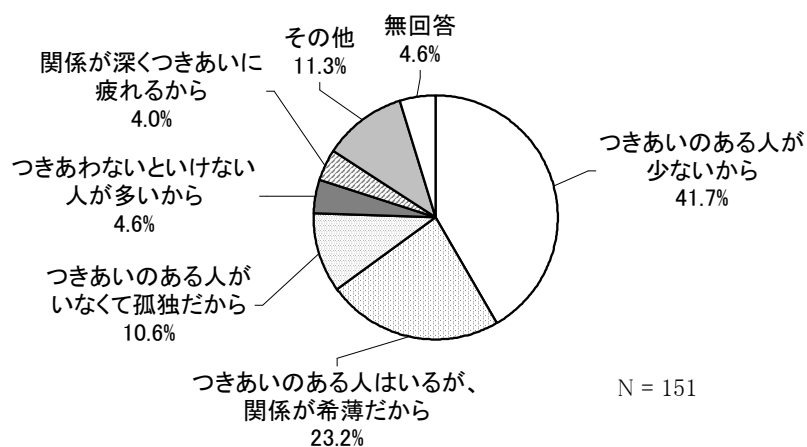
【(問7) 近所づきあいの程度別】



問 8-2 (問 8 で 2 を選んだ方) 満足していない点はどのようなところですか。あなたのお考えに最も近いものを一つお選びください。(いずれかに○)

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1 つきあいのある人がいなくて孤独だから | 2 つきあいのある人が少ないから |
| 3 つきあいのある人はいるが、関係が希薄だから | 4 関係が深くつきあいに疲れるから |
| 5 つきあわないといけない人が多いから | |
| 6 その他 () | |

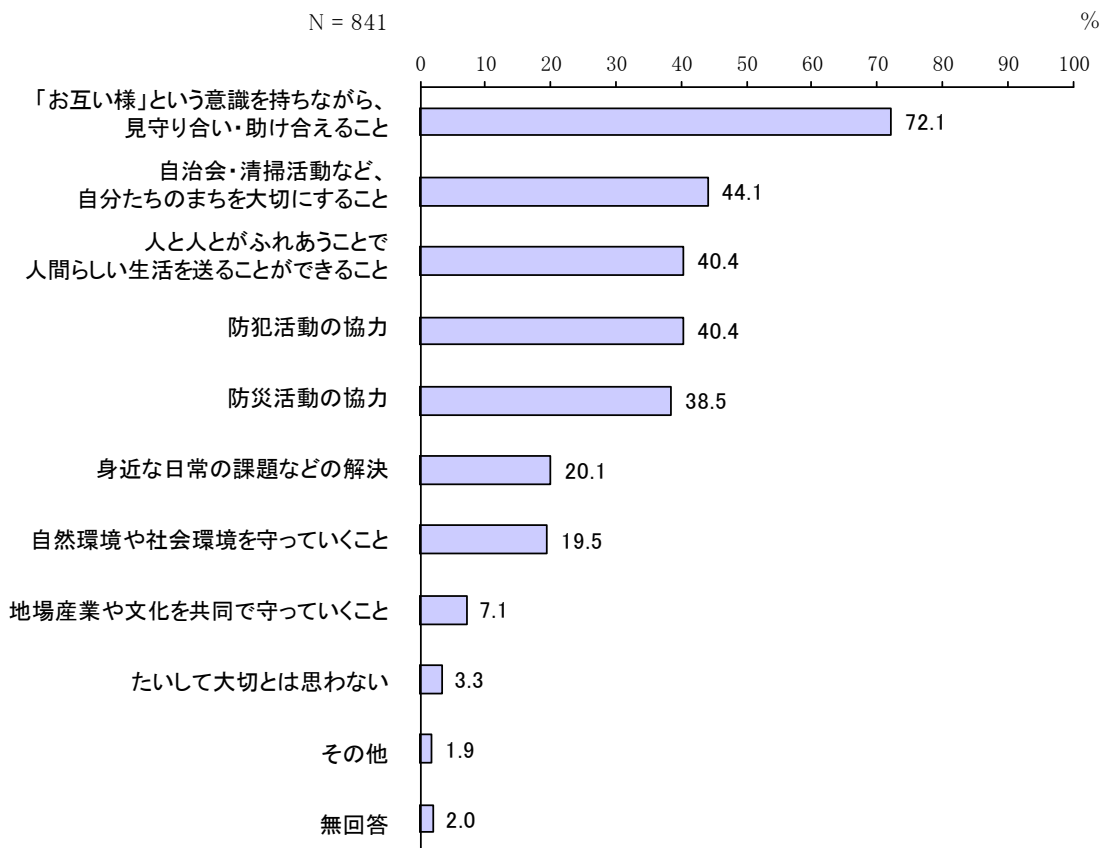
「つきあいのある人が少ないから」(41.7%)、「つきあいのある人はいるが、関係が希薄だから」(23.2%)、「つきあいのある人がいなくて孤独だから」(10.6%)のように“近隣関係がないことや希薄なこと”を満足していない理由とする回答が、合わせて8割弱となっています。これに対して、「つきあわないといけない人が多いから」が4.6%、「関係が深くつきあいに疲れるから」が4.0%となっています。



問9 近所づきあいのどのような面が大切だと思いますか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるもの全てに○)

- 1 人と人とがふれあうことで人間らしい生活を送ることができること
- 2 「お互い様」という意識を持ちながら、見守り合い・助け合えること
- 3 自治会・清掃活動など、自分たちのまちを大切にすること
- 4 身近な日常の課題などの解決
- 5 防災活動の協力
- 6 防犯活動の協力
- 7 地場産業や文化を共同で守っていくこと
- 8 自然環境や社会環境を守っていくこと
- 9 たいして大切とは思わない
- 10 その他 ()

回答者の最も多くが「“お互い様”という意識を持ちながら、見守り合い・助け合えること」(72.1%)を挙げており、次いで4割前後が「自治会・清掃活動など、自分たちのまちを大切にすること」(44.1%)、「人と人とがふれあうことで人間らしい生活を送ることができること」(40.4%)、「防犯活動の協力」(40.4%)、「防災活動の協力」(38.5%)を挙げています。

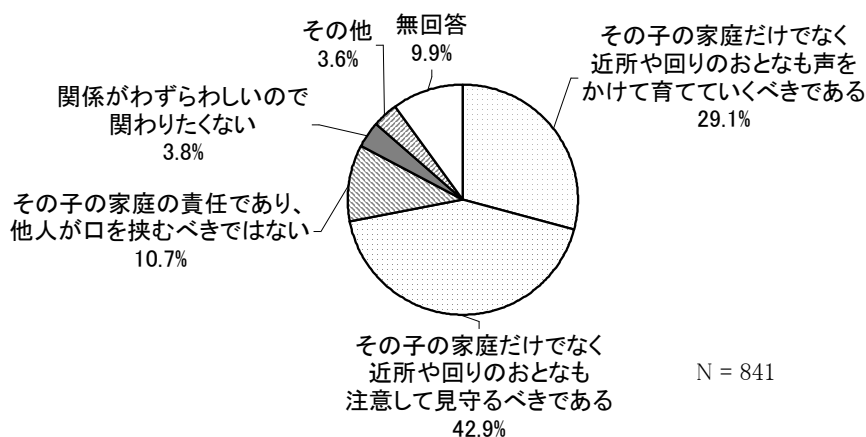


問 10 近所で接する子どもたちについてどう思いますか。あなたのお考えに最も近いものをお選びください。(いずれかに○)

- 1 その子の家庭だけでなく近所や回りのおとも声をかけて育てていくべきである
- 2 その子の家庭だけでなく近所や回りのおとも注意して見守るべきである
- 3 その子の家庭の責任であり、他人が口を挟むべきではない
- 4 関係がわずらわしいので関わりたくない
- 5 その他 ()

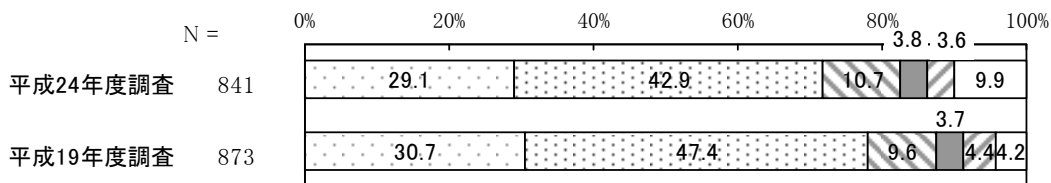
「その子の家庭だけでなく近所や回りのおとも注意して見守るべきである」(42.9%)、「その子の家庭だけでなく近所や回りのおとも声をかけて育てていくべきである」(29.1%) のように、“なんらかの関わりを持つべき” とする回答が、合わせて 7 割強となっています。これに対して、「その子の家庭の責任であり、他人が口を挟むべきではない」が 10.7%、「関係がわずらわしいので関わりたくない」が 3.8%となっています。

平成 19 年度に岐阜市が実施したアンケート調査 (以下、「前回調査 (H19、市)」と言います。) と比較してみると、“なんらかの関わりを持つべき” とする回答の割合が 6.1 ポイント減少しています。



【前回調査 (H19、市) との比較】

- その子の家庭だけでなく近所や回りのおとも声をかけて育てていくべきである
- その子の家庭だけでなく近所や回りのおとも注意して見守るべきである
- その子の家庭の責任であり、他人が口を挟むべきではない
- 関係がわずらわしいので関わりたくない
- その他
- 無回答



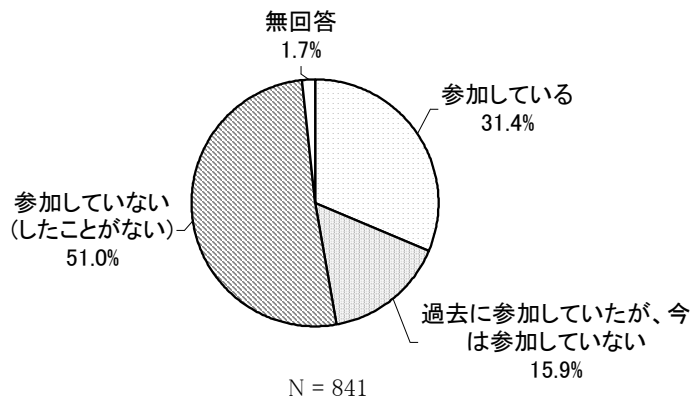
(3) 趣味等の活動（仲間づくり、習い事、レクリエーション、自己啓発等）を通じた人とのつながり（絆）について

問 11 あなたはなんらかの趣味等の活動に参加していますか。（いずれかに○）

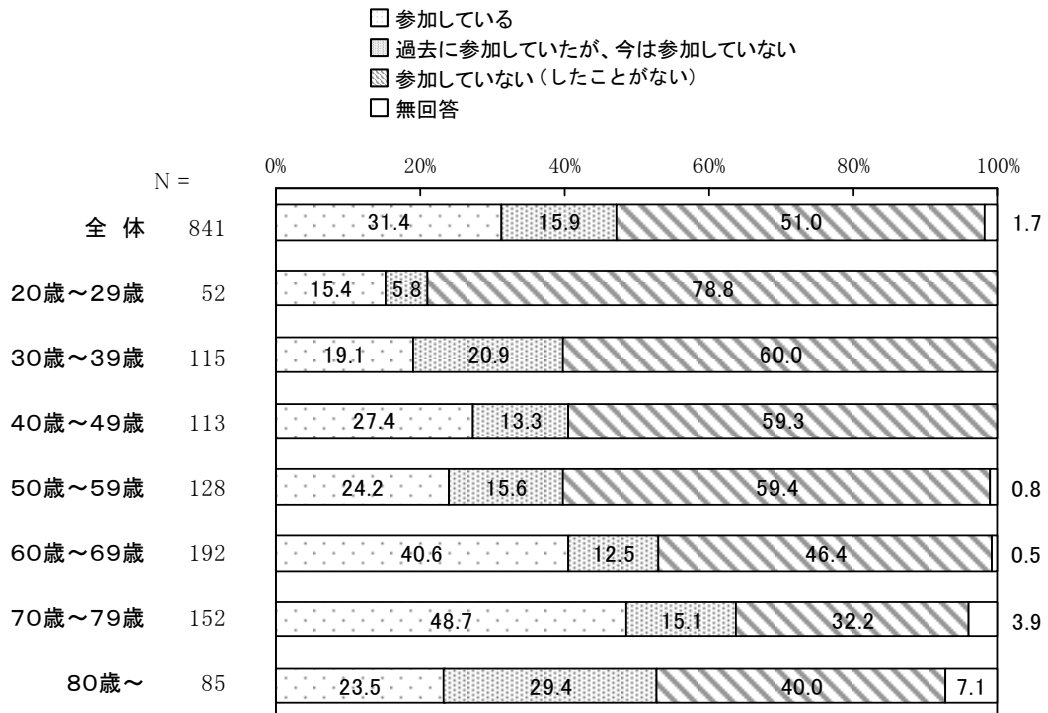
- 1 参加している →問11-2、3へ
- 2 過去に参加していたが、今は参加していない →問11-2、3へ
- 3 参加していない

「参加している」が 31.4%に対して、「参加していない（したことがない）」が 51.0%となっています。一方、「過去に参加していたが、今は参加していない」が 15.9%となっています。

年齢別にみると、「参加している」の割合は、20 歳代（15.4%）から年齢層が高くなるほど高くなる傾向が見られますが、40 歳代（27.4%）から 50 歳代（24.2%）にかけては低下し、60 歳代（40.6%）では 4 割強、70 歳代（48.7%）では 5 割弱と全体平均（31.4%）の 3 割強より高くなり、80 歳代（23.5%）になると再び低くなっています。



【年齢別】



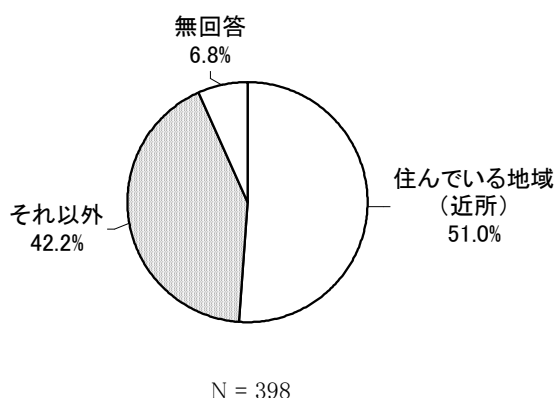
問 11-2 (問 11 で 1 か 2 を選んだ方) あなたが主に参加している (していた) 趣味等の活動の場所はどの地域ですか。(いずれかに○)

1 住んでいる地域 (近所)

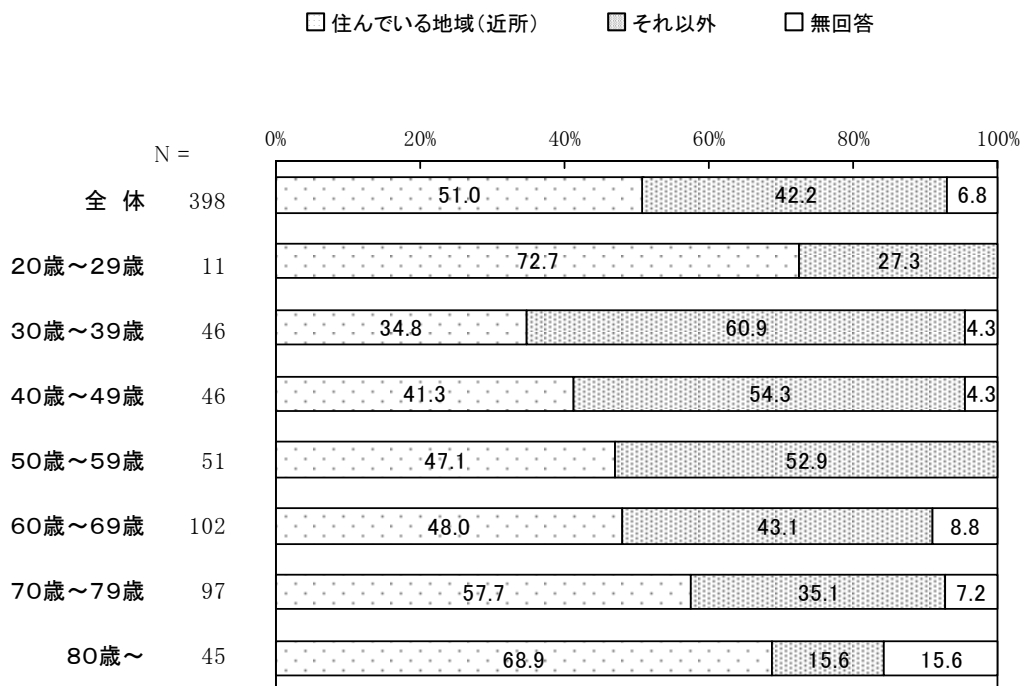
2 それ以外

「住んでいる地域 (近所)」が 51.0% に対して、「それ以外」が 42.2% となっています。

年齢別にみると、「住んでいる地域 (近所)」の割合は、30 歳代 (34.8%) から 80 歳代 (68.9%) まで年齢層が高くなるほど高くなる傾向が見られます。なお、20 歳代 (72.7%) は、この割合が最も高くなっていますが、回答者が 11 人に留まっていることに留意する必要があります。



【年齢別】

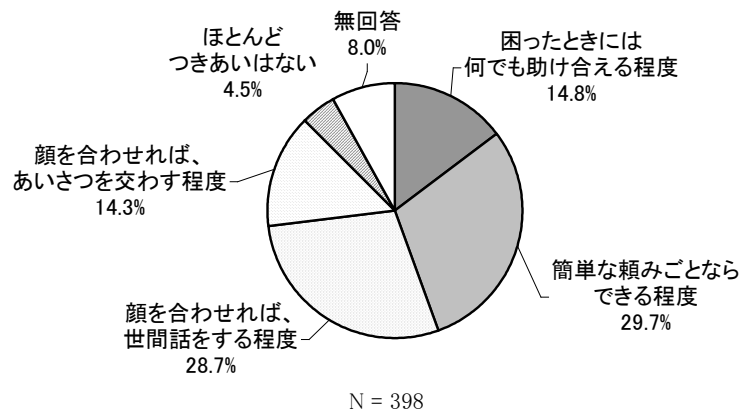


問 11-3 (問 11 で 1 か 2 を選んだ方) あなたが参加している (していた) 趣味等の活動のメンバーと、普段 (活動を行っていないとき) のつきあいはどの程度だと思いますか。(いずれかに○)

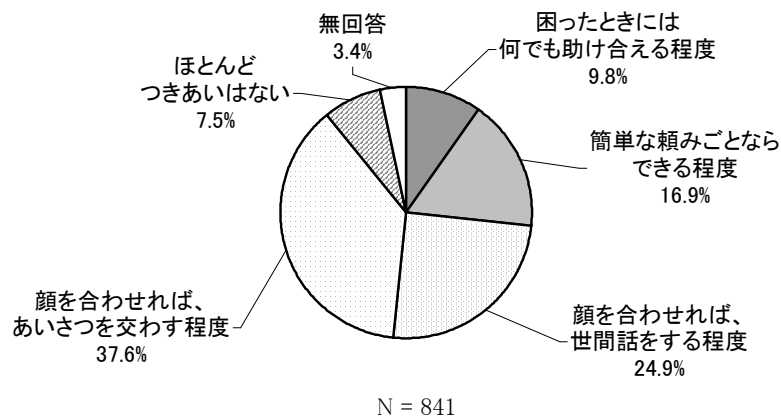
- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1 困ったときには何でも助け合える程度 | 2 簡単な頼みごとならできる程度 |
| 3 顔を合わせれば、世間話をする程度 | 4 顔を合わせれば、あいさつを交わす程度 |
| 5 ほとんどつきあいはない | |

「困ったときには何でも助け合える程度」(14.8%)、「簡単な頼みごとならできる程度」(29.7%)のように、“手助けや頼みごとができる程度”とする回答が合わせて4割強となっています。これに対して、これらよりは付き合いの程度が浅い「顔を合わせれば、世間話をする程度」(28.7%)、「顔を合わせれば、あいさつを交わす程度」(14.3%)のように、“世間話やあいさつをする程度”とする回答も合わせて4割強であり“手助けや頼みごとができる程度”と同程度となっています。

問 7 の近所づきあいの程度においては、“手助けや頼みごとができる程度”が3割弱であり“世間話やあいさつをする程度”が6割強であったことと比較すると、趣味等の活動メンバー間にはより親密な人間関係が築かれやすいことが伺えます。



【問 7 (再掲)】



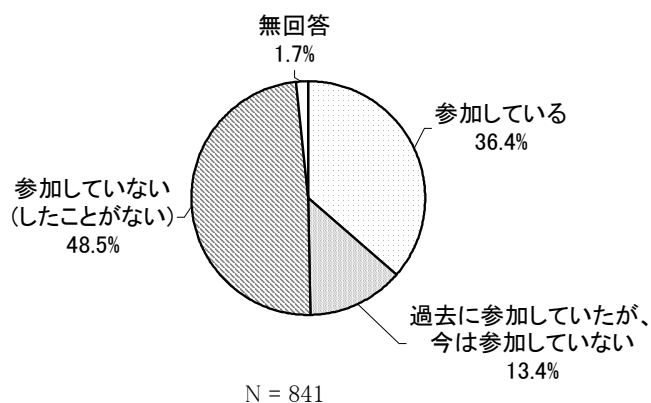
(4) 地域活動について

問 12 あなたはなんらかの地域活動に参加していますか。(いずれかに○)

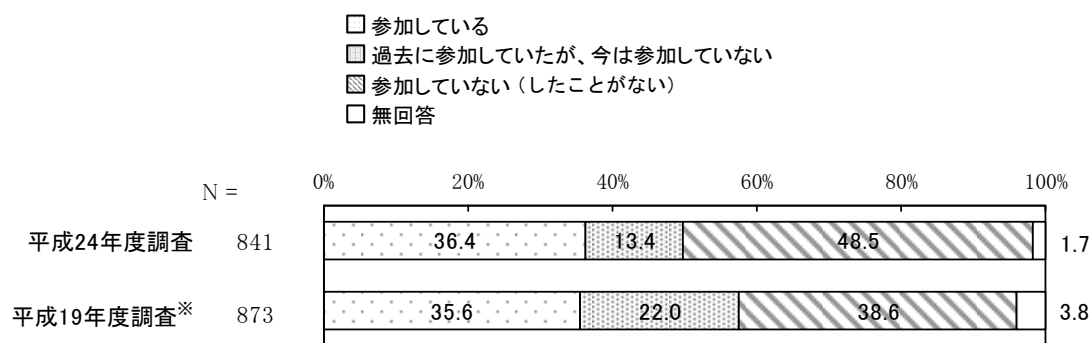
- 1 参加している →問12-2、3へ
 2 過去に参加していたが、今は参加していない →問12-2、3へ
 3 参加していない

「参加している」が 36.4%に対し、「参加していない(したことがない)」が 48.5%となっています。一方、「過去に参加していたが、今は参加していない」が 13.4%となっています。

前回調査(H19、市)と比較してみると、「参加していない(したことがない)」*の割合が 9.9ポイント増加しています。



【前回調査(H19、市)との比較】



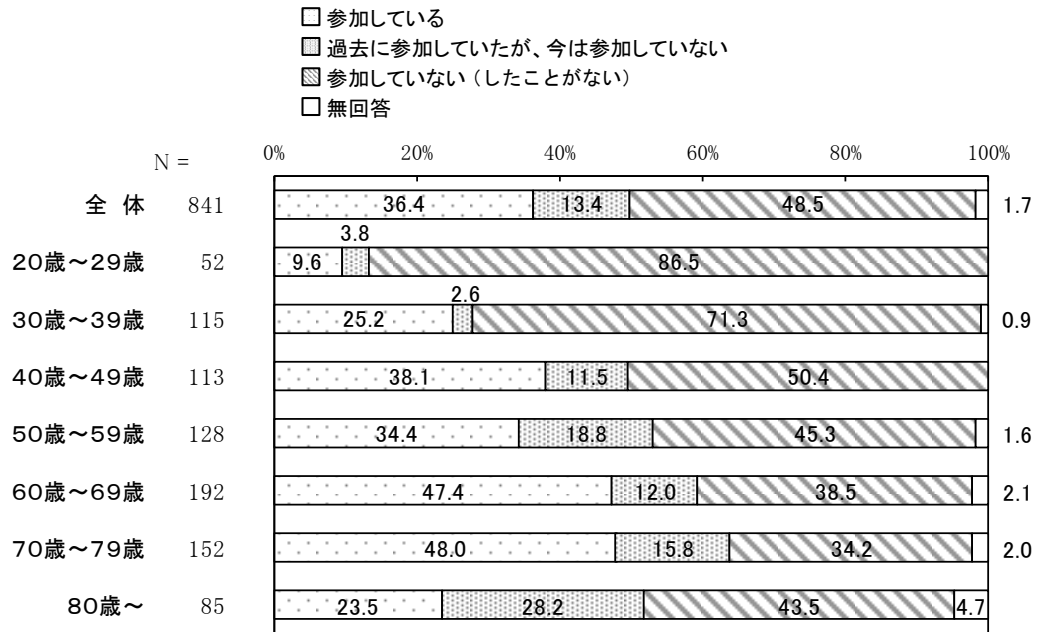
※前回調査(H19、市)の質問は「あなた自身が自治会活動のなんらかの活動に参加していますか。」となっており、今回の「あなたはなんらかの地域活動に参加していますか。」と若干異なります。

2 市民向けアンケート調査の結果

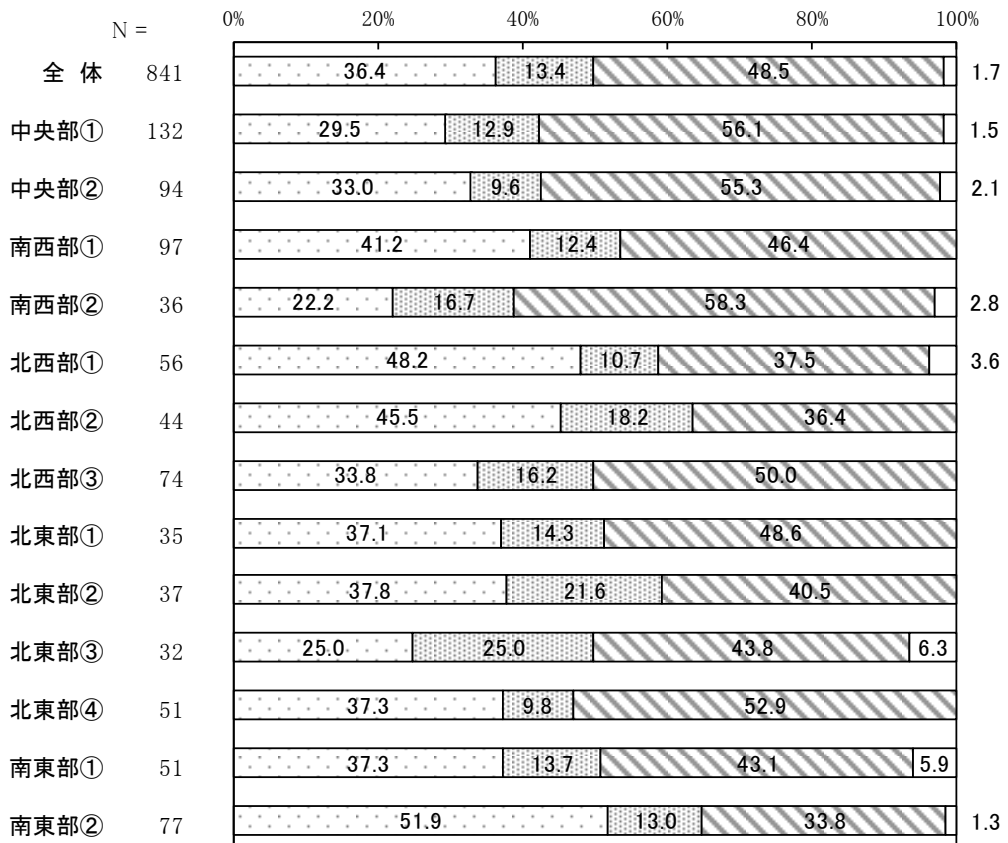
年齢別にみると、「参加している」の割合は、20歳代（9.6%）から年齢層が高くなるほど高くなる傾向が見られますが、40歳代（38.1%）から50歳代（34.4%）にかけては低下し、60歳代（47.4%）、70歳代（48.0%）では5割弱と全体平均（36.4%）の4割弱より高くなり、80歳代（23.5%）になると再び低くなっています。

地域生活圏域別にみると、「参加している」の割合は、北西部①（48.2%）、北西部②（45.5%）、南東部②（51.9%）で5割前後、南西部①（41.2%）、北東部①（37.1%）、北東部②（37.8%）、北東部④（37.3%）、南東部①（37.3%）で4割前後、これら以外の地域で2割強～3割前後となっています。

【年齢別】



【地域生活圏域別】

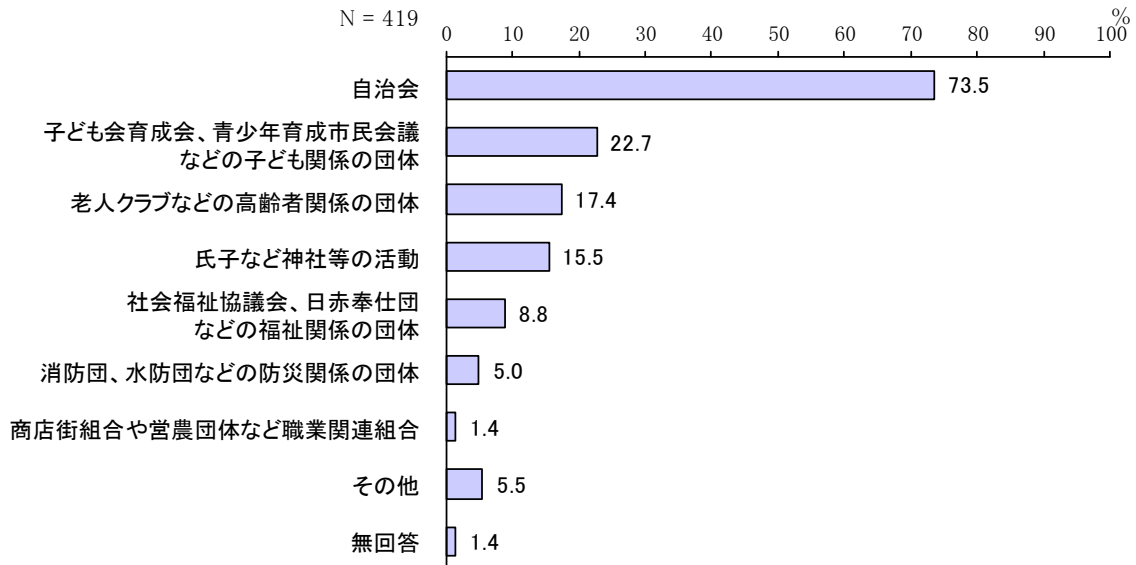


問 12-2 (問 12 で 1 か 2 を選んだ方) あなたが参加している (していた) 地域の活動団体は何ですか。(当てはまるもの全てに○)

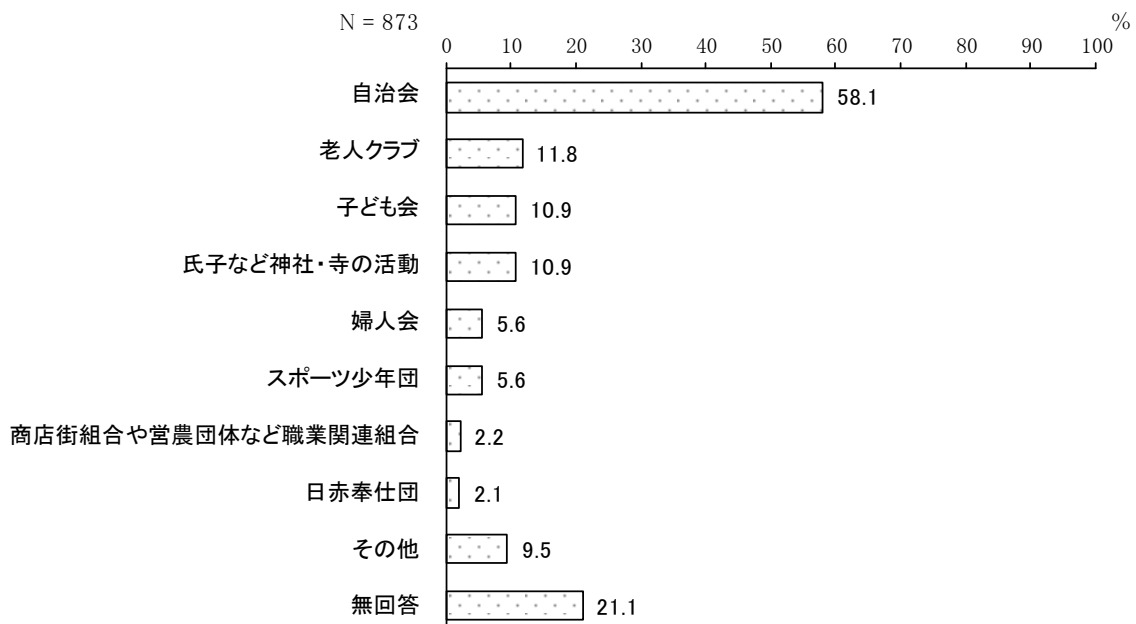
- 1 自治会
- 2 社会福祉協議会、日赤奉仕団などの福祉関係の団体
- 3 老人クラブなどの高齢者関係の団体
- 4 子ども会育成会、青少年育成市民会議などの子ども関係の団体
- 5 消防団、水防団などの防災関係の団体
- 6 氏子など神社等の活動
- 7 商店街組合や営農団体など職業関連組合
- 8 その他 ()

回答者の最も多くが「自治会」(73.5%)を挙げており、次いで2割前後が「子ども会育成会、青少年育成市民会議などの子ども関係の団体」(22.7%)、「老人クラブなどの高齢者関係の団体」(17.4%)、「氏子など神社等の活動」(15.5%)を挙げています。

前回調査(H19、市)と比較してみると、上位4団体の構成は同じですが、「老人クラブ」と「子ども会等の子ども関係の団体」の順位が逆転しているのは、前回調査(H19、市)では「スポーツ少年団」が「子ども会」とは別の選択肢としてあったためであると考えられます。



【前回調査 (H19、市)】

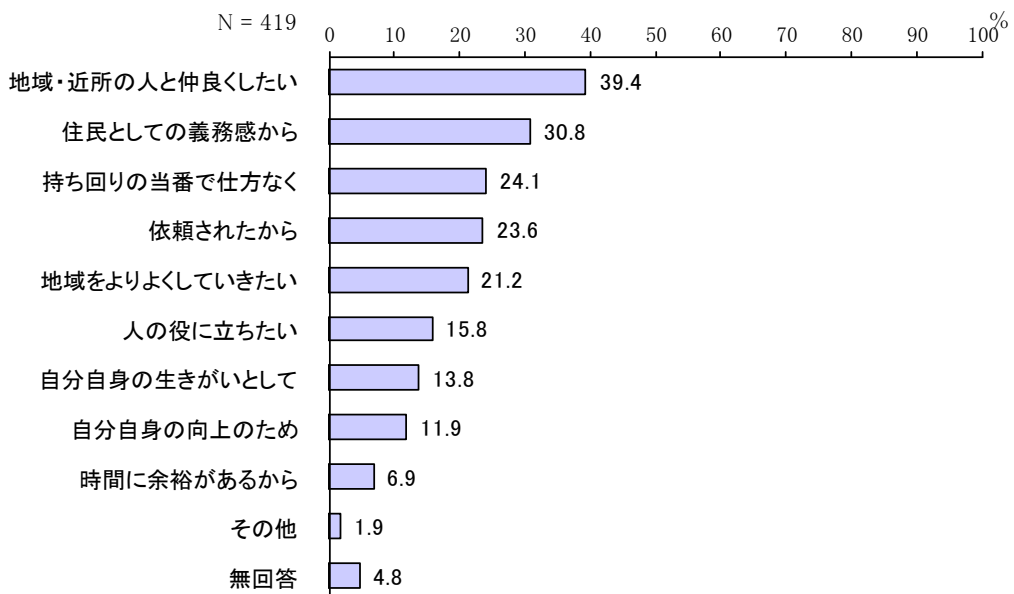


問 12-3 (問 12 で 1 か 2 を選んだ方) あなたが地域活動に参加している (していた) 動機は何ですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。
(当てはまるもの全てに○)

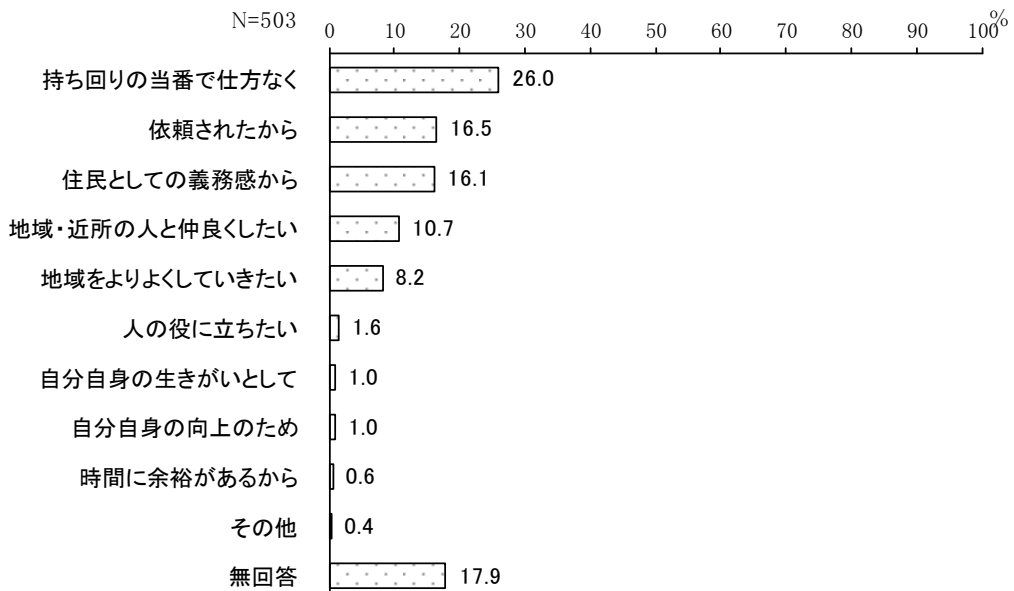
- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 地域をよりよくしていきたい | 2 地域・近所の人と仲良くしたい |
| 3 人の役に立ちたい | 4 自分自身の向上のため |
| 5 自分自身の生きがいとして | 6 持ち回りの当番で仕方なく |
| 7 時間に余裕があるから | 8 住民としての義務感から |
| 9 依頼されたから | 10 その他 () |

回答者の最も多くが「地域・近所の人と仲良くしたい」(39.4%)を挙げており、次いで3割強が「住民としての義務感から」(30.8%)、2割強が「持ち回りの当番で仕方なく」(24.1%)、「依頼されたから」(23.6%)、「地域をよりよくしていきたい」(21.2%)を挙げています。

前回調査(H19、市)と比較してみると、前回調査では「持ち回りの当番で仕方なく」、「依頼されたから」、「住民としての義務感から」などの義務的動機を示す回答が1位から3位までを占めていましたが、今回は積極的動機を示す「地域・近所の人と仲良くしたい」の割合が最も高くなっています。



【前回調査 (H19、市)】

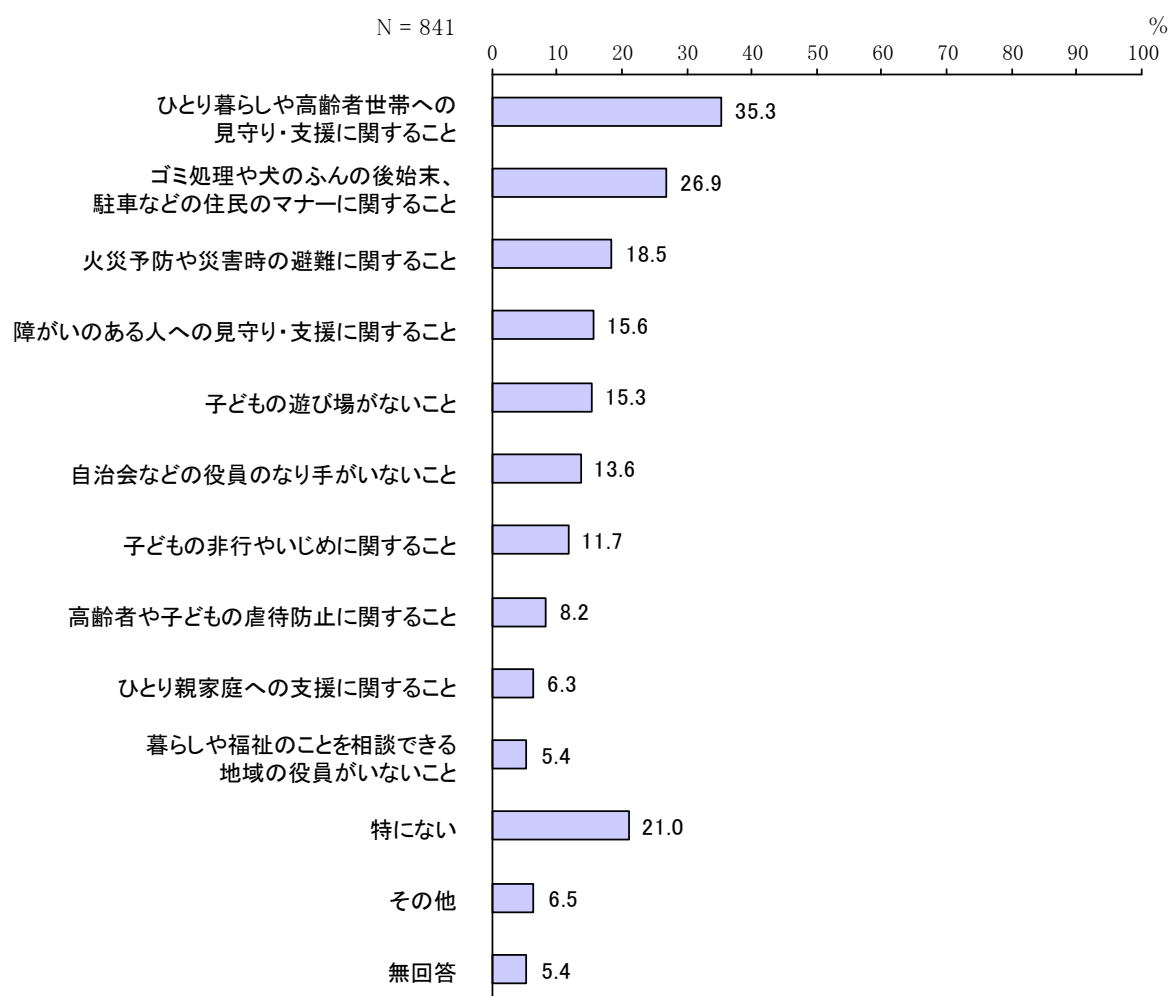


問 13 あなたの地域で、「解決が必要な問題」があるとすれば、それはどのようなものですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるもの全てに○)

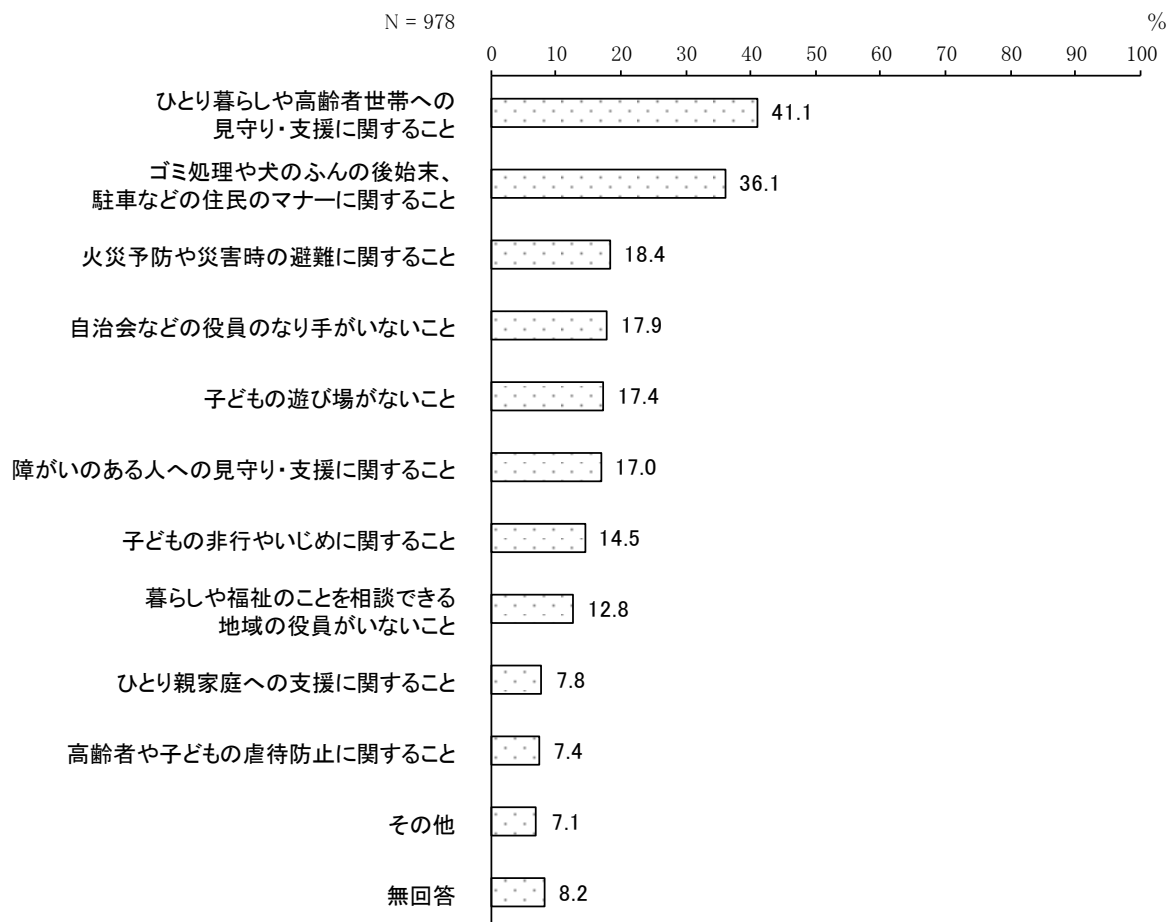
- 1 ひとり暮らしや高齢者世帯への見守り・支援に関すること
- 2 障がいのある人への見守り・支援に関すること
- 3 ひとり親家庭への支援に関すること
- 4 高齢者や子どもの虐待防止に関すること
- 5 子どもの非行やいじめに関すること
- 6 子どもの遊び場がないこと
- 7 火災予防や災害時の避難に関すること
- 8 自治会などの役員のなり手がいないこと
- 9 暮らしや福祉のことを相談できる人がいないこと
- 10 ゴミ処理や犬のふんの後始末、駐車などの住民のマナーに関すること
- 11 特にない
- 12 その他 ()

回答者の最も多くが「ひとり暮らしや高齢者世帯への見守り・支援に関すること」(35.3%)を挙げており、次いで3割弱が「ゴミ処理や犬のふんの後始末、駐車などの住民のマナーに関すること」(26.9%)、2割弱が「火災予防や災害時の避難に関すること」(18.5%)、「障がいのある人への見守り・支援に関すること」(15.6%)、「子どもの遊び場がないこと」(15.3%)を挙げています。これらの方で、2割強が「特にない」(21.0%)を挙げています。

平成21年度の「第2次岐阜市地域福祉活動計画策定にかかるアンケート調査」(以下、「前回調査(H21、社協)」)と比較してみると、第1位から第3位までの順位は同じとなっており、前回調査の結果と同様の傾向がみられます。



【前回調査 (H21、社協)】

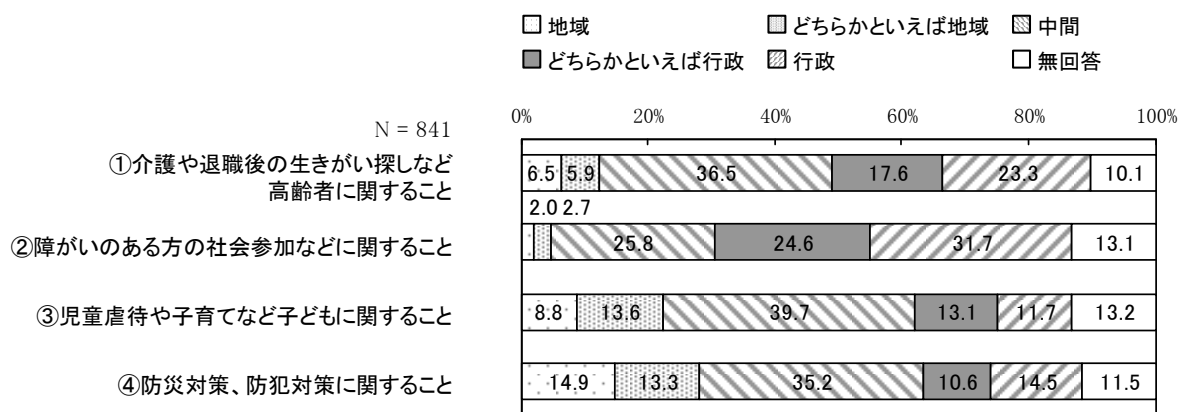


※前回調査 (H21、社協) には『特にない』の回答項目はありません。

問 14 地域で抱える問題は、行政だけでなく地域のみなさまも一緒に解決していくことが必要です。以下の項目について、行政と地域住民のどちらがより主体性をもって取り組むべきことと思いますか。（より地域で取り組むべき場合を1、より行政で取り組むべき場合を5、その中間を3とし、1～5のいずれかに○をつけてください。）

分 野	取り組むべき比重の高さ				
	地域 ←	中間			→ 行政
① 介護や退職後の生きがい探しなど高齢者に関すること	1	2	3	4	5
② 障がいのある方の社会参加などに関すること	1	2	3	4	5
③ 児童虐待や子育てなど子どもに関すること	1	2	3	4	5
④ 防災対策、防犯対策に関すること	1	2	3	4	5

「① 介護や退職後の生きがい探しなど高齢者に関すること」と「② 障がいのある方の社会参加などに関すること」については、「1（地域）」、「2（どちらかといえば地域）」のように“地域”とする回答より、「5（行政）」、「4（どちらかといえば行政）」のように“行政”とする回答が高くなっています。一方で、「③ 児童虐待や子育てなど子どもに関すること」と「④ 防災対策、防犯対策に関すること」は「3（中間）」という回答が最も高く、“行政”と“地域”という回答は同程度となっています。

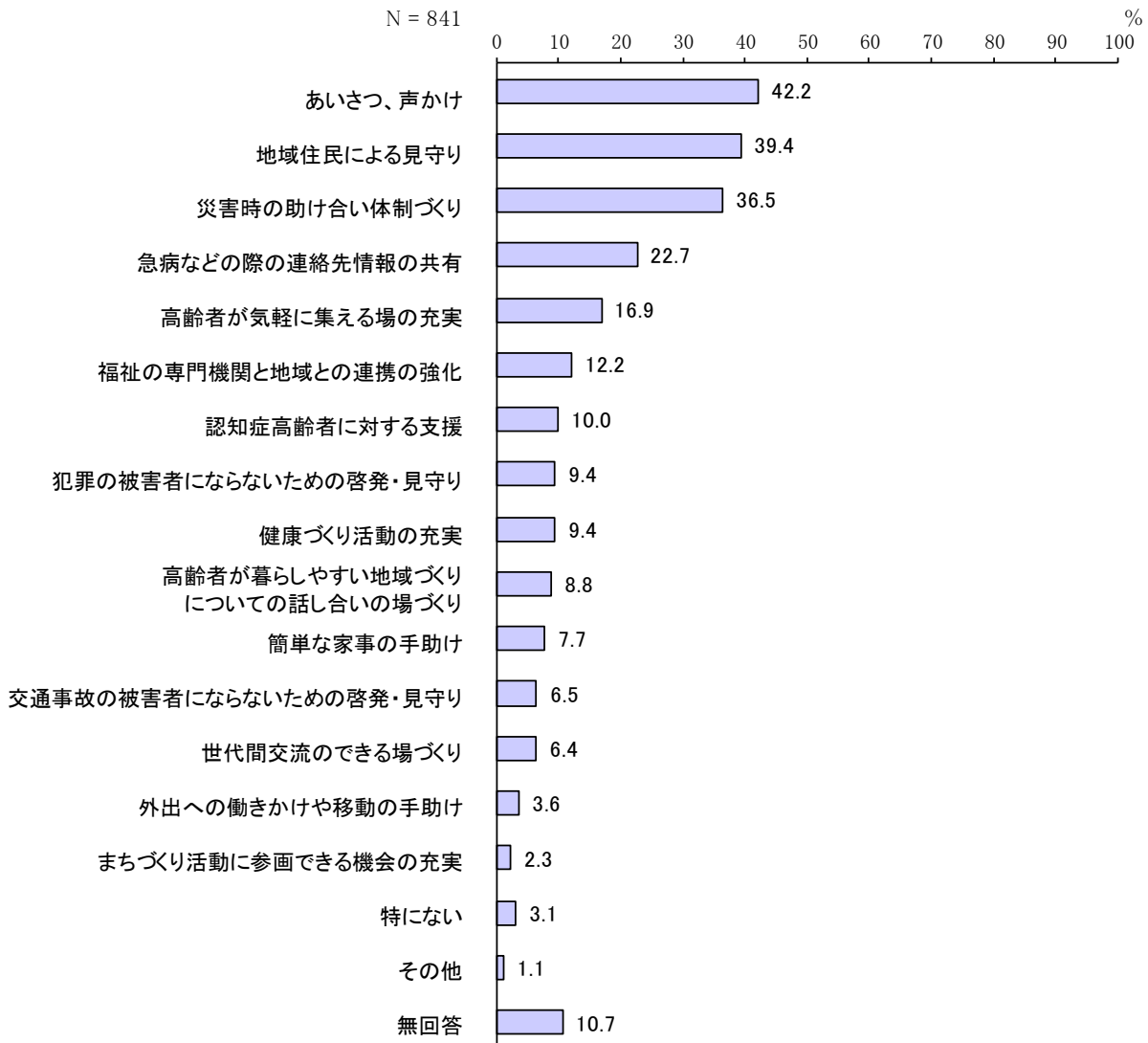


問 15 暮らしやすい地域づくりを考えたとき、地域住民が主体的に取り組むべきことは何だと思いますか。①高齢者、②障がい者、③子育て世帯のそれぞれについてお選びください。(特に重要だと思うもの3つまでに○)

① <高齢者>

- 1 地域住民による見守り（安否確認や困りごとを抱えていないかなど）
- 2 簡単な家事（ゴミ出しなど）の手助け
- 3 災害時の助け合い体制づくり
- 4 急病などの際の連絡先情報の共有
- 5 犯罪の被害者にならないための啓発・見守り
- 6 交通事故の被害者にならないための啓発・見守り
- 7 まちづくり活動に参画できる機会の充実
- 8 あいさつ、声かけ
- 9 高齢者が気軽に集える場（サロン、サークル活動など）の充実
- 10 外出（地域の交流行事への参加など）への働きかけや移動の手助け
- 11 高齢者が暮らしやすい地域づくりについての話し合いの場づくり
- 12 健康づくり活動の充実
- 13 世代間交流のできる場づくり
- 14 認知症高齢者に対する支援（徘徊を見かけたときの対応など）
- 15 福祉の専門機関と地域との連携の強化（地域の中で民生委員・児童委員や行政への連絡役員を決めるなど）
- 16 特にない
- 17 その他（ ）

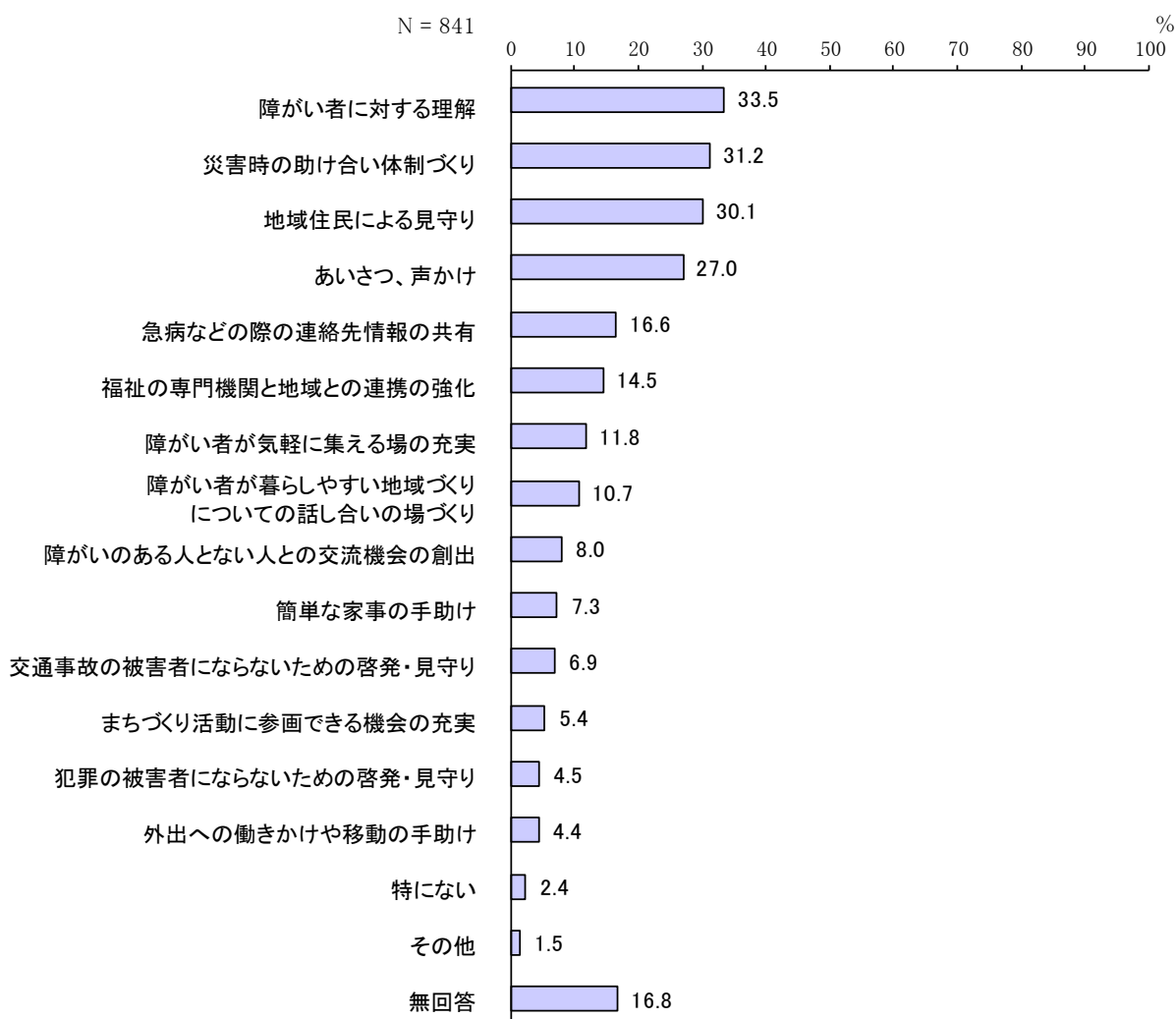
回答者の4割前後が「あいさつ、声かけ」(42.2%)、「地域住民による見守り（安否確認や困りごとを抱えていないかなど）」(39.4%)、「災害時の助け合い体制づくり」(36.5%)を挙げており、次いで2割前後が「急病などの際の連絡先情報の共有」(22.7%)、「高齢者が気軽に集える場（サロン、サークル活動など）の充実」(16.9%)を挙げています。



② <障がい者>

- 1 地域住民による見守り（困りごとを抱えていないかなど）
- 2 簡単な家事（ゴミ出しなど）の手助け
- 3 災害時の助け合い体制づくり
- 4 急病などの際の連絡先情報の共有
- 5 犯罪の被害者にならないための啓発・見守り
- 6 交通事故の被害者にならないための啓発・見守り
- 7 まちづくり活動に参画できる機会の充実
- 8 あいさつ、声かけ
- 9 障がいのある人とない人との交流機会の創出
- 10 障がい者が気軽に集える場（サロン、サークル活動など）の充実
- 11 外出（地域の交流行事への参加など）への働きかけや移動の手助け
- 12 障がい者が暮らしやすい地域づくりについての話し合いの場づくり
- 13 障がい者に対する理解
- 14 福祉の専門機関と地域との連携の強化（地域の中で民生委員・児童委員や行政への連絡役員を決めるなど）
- 15 特にない
- 16 その他（ ）

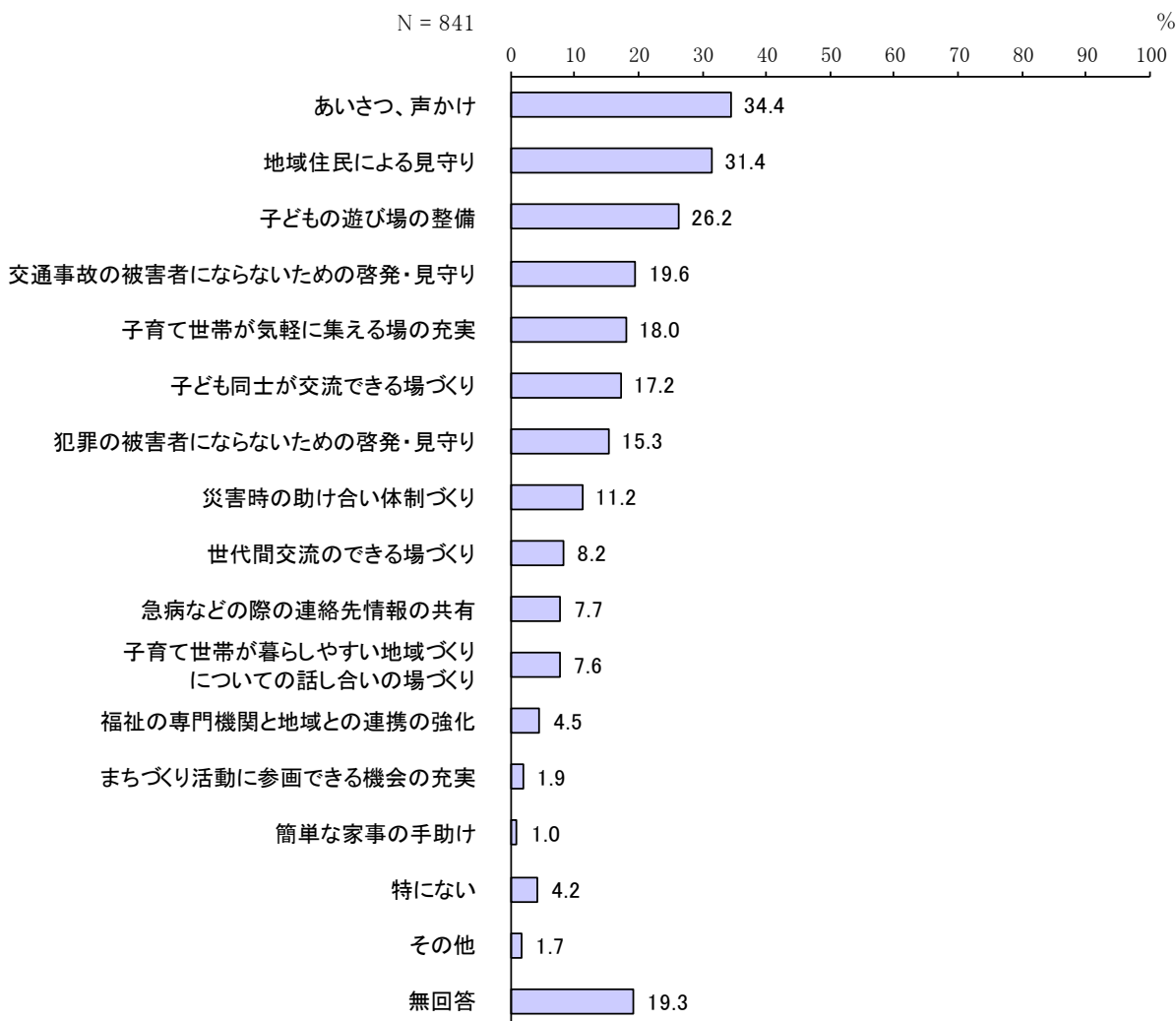
回答者の3割前後が「障がい者に対する理解」（33.5%）、「災害時の助け合い体制づくり」（31.2%）、「地域住民による見守り（困りごとを抱えていないかなど）」（30.1%）、「あいさつ、声かけ」（27.0%）を挙げており、次いで2割弱が「急病などの際の連絡先情報の共有」（16.6%）を挙げています。



③ <子育て世帯>

- 1 地域住民による見守り（困りごとを抱えていないかなど）
- 2 簡単な家事（ゴミ出しなど）の手助け
- 3 災害時の助け合い体制づくり
- 4 急病などの際の連絡先情報の共有
- 5 犯罪の被害者にならないための啓発・見守り
- 6 交通事故の被害者にならないための啓発・見守り
- 7 まちづくり活動に参画できる機会の充実
- 8 子どもの遊び場の整備（清掃や見回りなど）
- 9 あいさつ、声かけ
- 10 子育て世帯が気軽に集える場（子育てサロン、サークル活動など）の充実
- 11 子育て世帯が暮らしやすい地域づくりについての話し合いの場づくり
- 12 子ども同士が交流できる場づくり（行事の開催など）
- 13 世代間交流のできる場づくり
- 14 福祉の専門機関と地域との連携の強化（地域の中で民生委員・児童委員や行政への連絡役員を決めるなど）
- 15 特にない
- 16 その他（ ）

回答者の3割前後が「あいさつ、声かけ」（34.4%）、「地域住民による見守り（困りごとを抱えていないかなど）」（31.4%）、「子どもの遊び場の整備（清掃や見回りなど）」（26.2%）を挙げており、次いで2割弱が「交通事故の被害者にならないための啓発・見守り」（19.6%）、「子育て世帯が気軽に集える場（子育てサロン、サークル活動など）の充実」（18.0%）、「子ども同士が交流できる場づくり（行事の開催など）」（17.2%）、「犯罪の被害者にならないための啓発・見守り」（15.3%）を挙げています。



(5) 「孤立」することの問題意識について

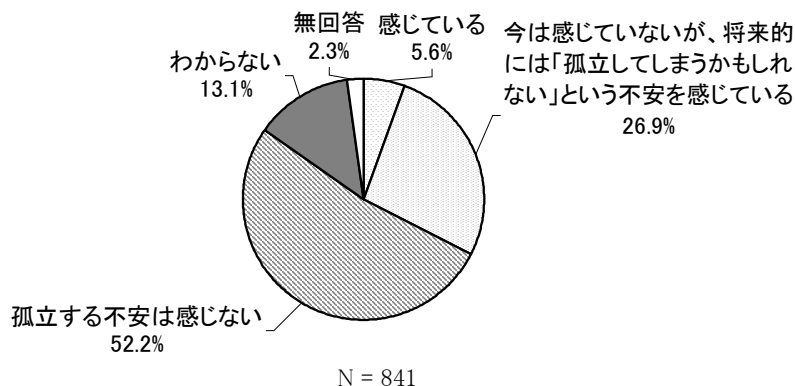
本市においても、ひとり暮らしや、夫婦のみ、親子のみなど、小規模な家庭が増えてきていることから、身近に頼れる人がいないままに、孤独感や自分自身の健康上の問題、家族の介護や子育てに関する困難や不安などを抱え込んでしまっているご家庭が増えてきていることが懸念されます。さらに、近所づきあいや友人・知人間においてもプライバシーには立ち入らないのが礼儀であるという意識等から、結果的に、身近な人も気が付かないまま事態を深刻化させてしまうことが懸念されます。

そこで、孤立感に関する意識についてお尋ねします。

問16 あなたは、現在、「孤立している」と感じていますか。(いずれかに○)

- 1 感じている →問16-2へ
- 2 今は感じていないが、将来的（概ね10年以上先）には「孤立してしまうかもしれない」という不安を感じている。 →問16-2へ
- 3 孤立する不安は感じない
- 4 わからない

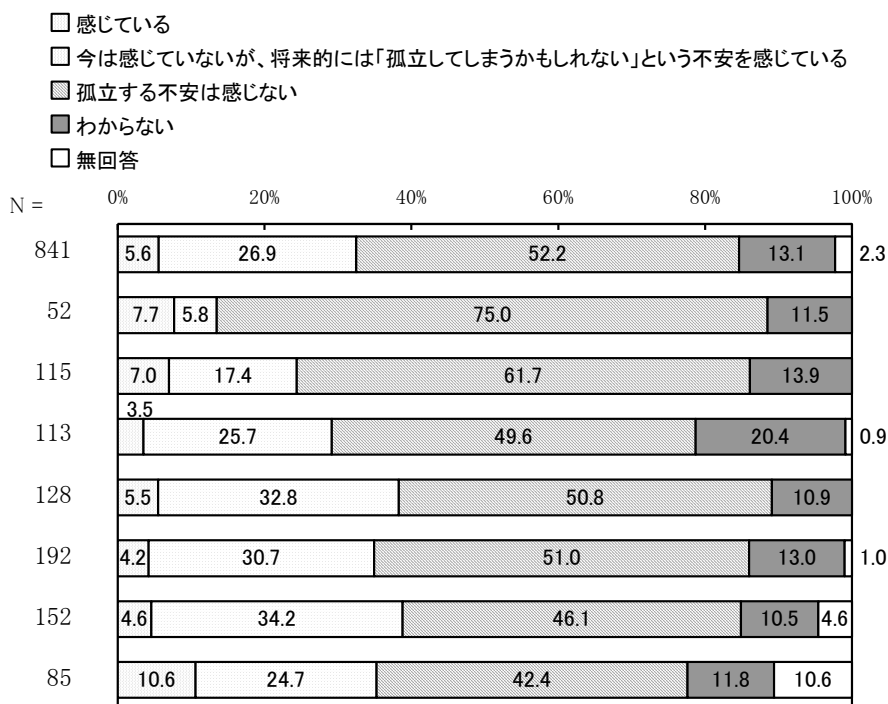
「感じている」(5.6%)、「今は感じていないが、将来的（概ね10年以上先）には“孤立してしまうかもしれない”という不安を感じている。」(26.9%)のように“(将来を含め)不安を感じている”とする回答が、合わせて3割強となっています。これに対し、「孤立する不安は感じない」が52.2%となっています。一方、「わからない」が13.1%となっています。



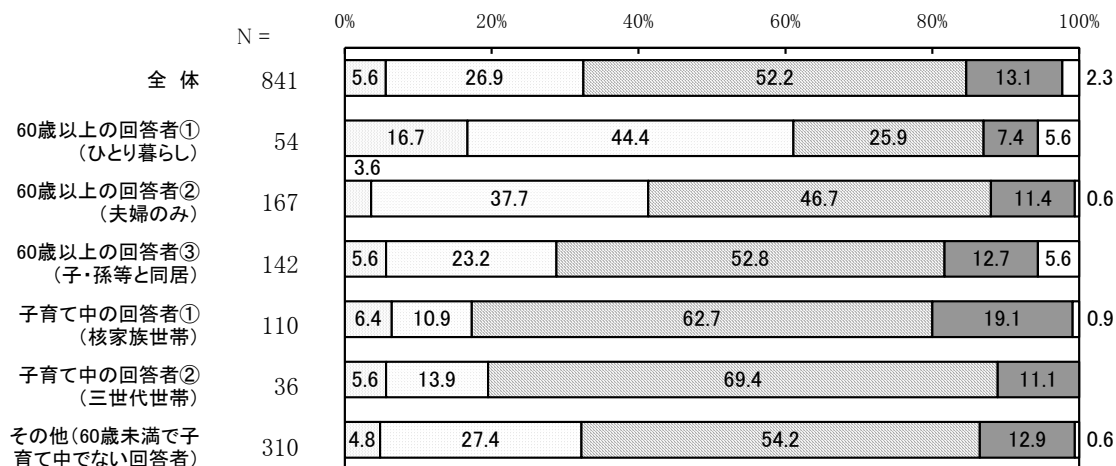
年齢別にみると、“(将来を含め) 不安を感じている” とする回答の割合は、50 歳代から 80 歳代で全体平均の 3 割強を数ポイント上回っています。

家族との同居状況別にみると、“(将来を含め) 不安を感じている” とする回答の割合は 60 歳以上の回答者① (ひとり暮らし) で 6 割強、60 歳以上の回答者② (夫婦のみ) で 4 割強と全体平均の 3 割強を上回って高くなっています。一方、子育て中の回答者① (核家族世帯)、子育て中の回答者② (三世代世帯) では 2 割弱と全体平均を 1 割以上下回って低くなっています。

【年齢別】



【家族との同居状況別】

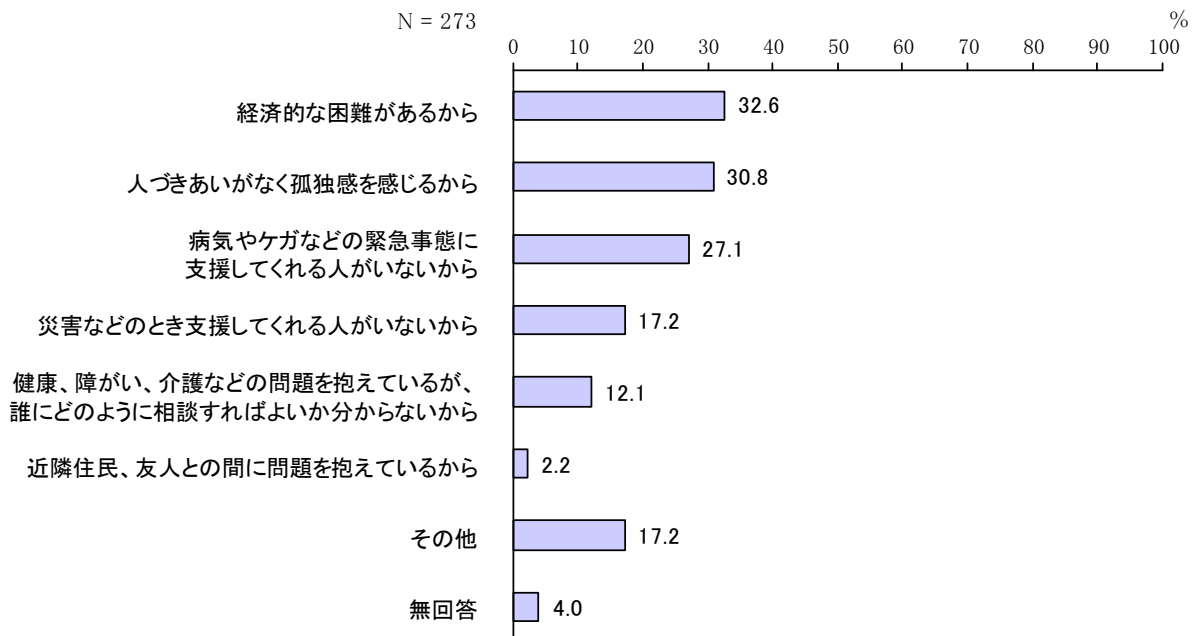


問 16-2 (問 16 で 1 か 2 を選んだ方)「孤立している」又は「将来、孤立してしまうかもしれない」と感じる理由は何ですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるもの全てに○)

- 1 人づきあいがなく孤独感を感じるから
- 2 経済的な困難があるから
- 3 災害などのとき支援してくれる人がいないから
- 4 病気やケガなどの緊急事態に支援してくれる人がいないから
- 5 健康、障がい、介護などの問題を抱えているが、誰にどのように相談すればよいか分からないから
- 6 近所、友人との間に問題を抱えているから
- 7 その他()

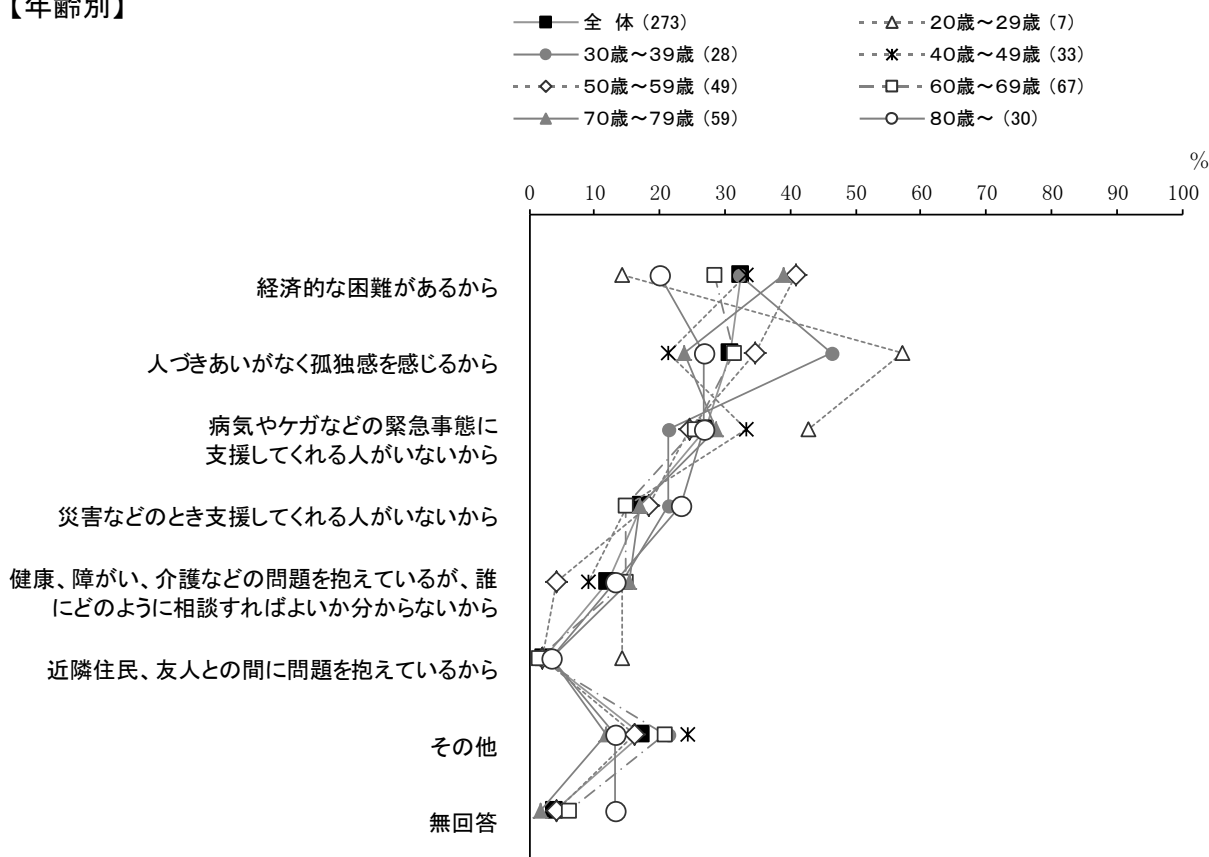
回答者の 3 割前後が「経済的な困難があるから」(32.6%)、「人づきあいがなく孤独感を感じるから」(30.8%)、「病気やケガなどの緊急事態に支援してくれる人がいないから」(27.1%)を挙げ、次いで 2 割弱が「災害などのとき支援してくれる人がいないから」(17.2%)を挙げています。

なお、この質問に対し回答者の 2 割弱が「その他」を挙げています。「その他」() 欄への記入は 43 件あり、その主なものとして、[地域(近所)との付き合いが少ない/独身だから/妻(夫)が死んだら 1 人になってしまう]など将来的には孤独な状況になってしまうことを懸念するものが 22 件、[年老いた時の健康状態/将来、認知症を患う不安]など将来的に健康状態が悪化することによる孤立を懸念するものが 6 件ありました。



年齢別にみると、「経済的な困難があるから」の割合が50歳代(40.8%)、70歳代(39.0%)で4割前後と全体平均(32.6%)より高くなっており、逆に80歳代(20.0%)では全体平均を1割以上下回って低くなっています。また、「人づきあいがなく孤独感を感じるから」の割合は、30歳代(46.4%)で5割弱と全体平均(30.8%)を2割程度上回って高く、40歳代(21.2%)、70歳代(23.7%)で2割強と全体平均を1割程度下回って低くなっています。なお、20歳代の傾向は全体平均と異なっていますが、回答者が7人に留まっていることに留意する必要があります。

【年齢別】



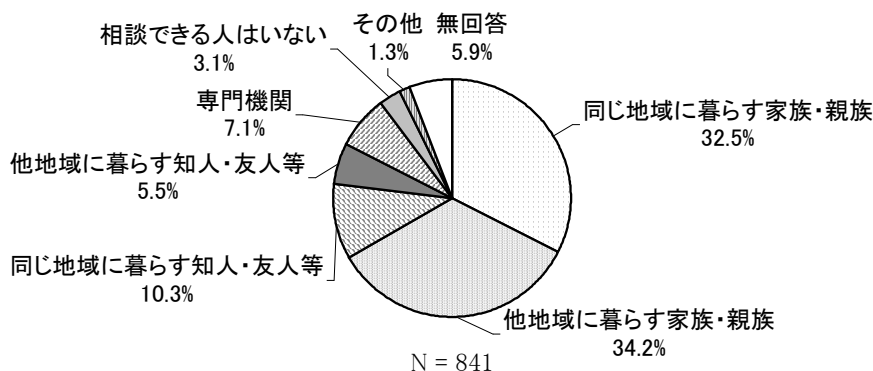
※回答を選択した者がいない場合(0%の場合)は、グラフに表示されていません。

問17 生活の中で困ったとき、主に誰（どこ）に相談しますか。（※ここで、「同じ地域」とは同じ小学校区または自治会連合会地区のこととしてお答えください。）
（いずれかに○）

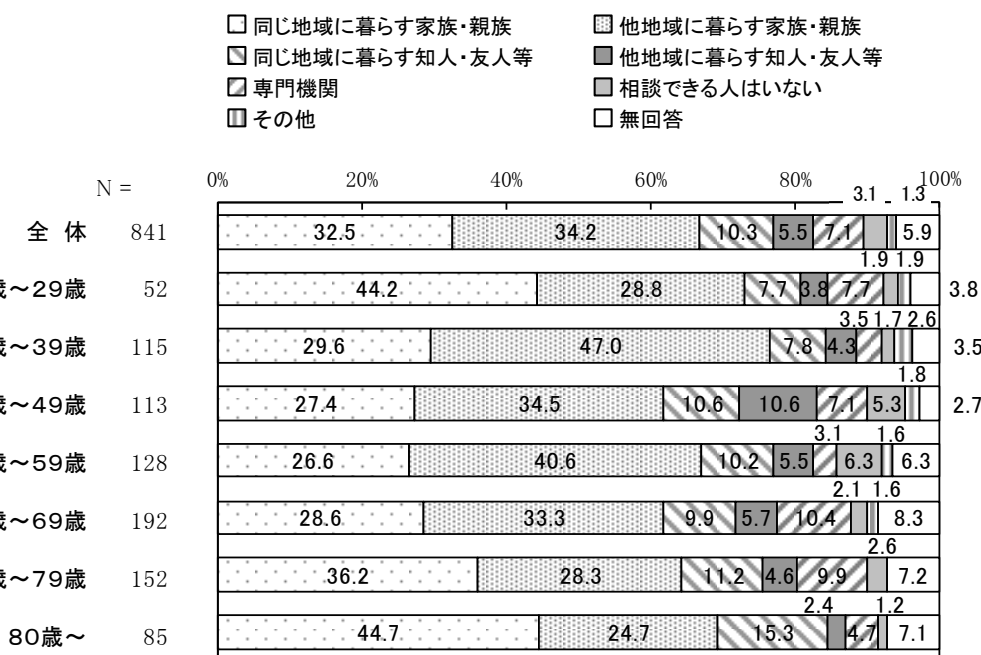
- 1 同じ地域に暮らす家族・親族
- 2 他地域に暮らす（1以外の）家族・親族
- 3 同じ地域に暮らす知人・友人等 →問17-2へ
- 4 他地域に暮らす（3以外の）知人・友人等
- 5 専門機関 →問17-3へ
- 6 相談できる人はいない
- 7 その他（ ）

「同じ地域に暮らす家族・親族」（32.5%）、「他地域に暮らす家族・親族」（34.2%）のように同じ地域又は他地域の家族・親族を相談先として挙げる回答が、それぞれ3割強となっています。次いで1割前後の回答者が「同じ地域に暮らす知人・友人等」（10.3%）、「専門機関」（7.1%）、「他地域に暮らす知人・友人等」（5.5%）を挙げており、相談先となる知人・友人等は「同じ地域」が「他地域」の約2倍となっています。一方、「相談できる人はいない」が3.1%となっています。

年齢別にみると、「同じ地域に暮らす家族・親戚」の割合は、20歳代（44.2%）から50歳代（26.6%）までは年齢層が高くなるほど低くなる傾向が見られ、60歳代（28.6%）から80歳代（44.7%）までは年齢層が高くなるほど高くなる傾向が見られます。また、「他地域に暮らす家族・親戚」の割合は、30歳代（47.0%）で5割弱、50歳代（40.67%）で4割強と高く、80歳代（24.7%）で2割強と低くなっています。一方、「同じ地域に暮らす友人・知人等」の割合は、20歳代（7.7%）から70歳代（11.2%）までが1割前後、80歳代（15.3%）で2割弱となっています。また、「他地域に暮らす友人・知人等」は、40歳代（10.6%）以外は1割未満となっています。

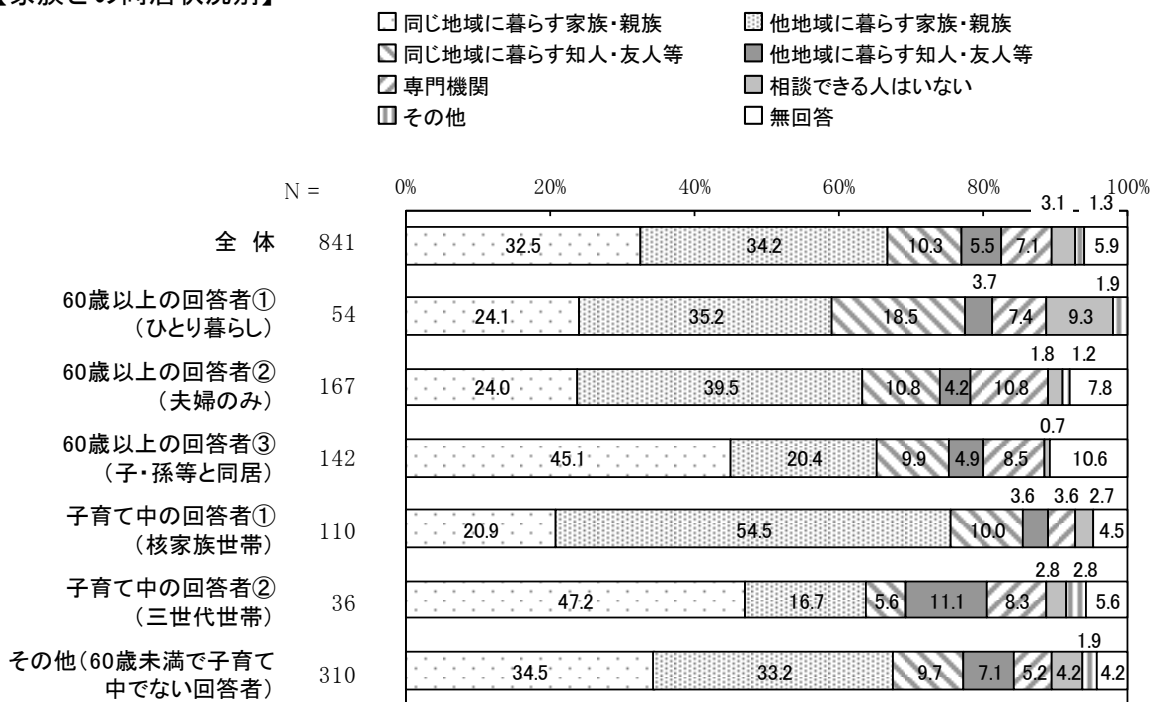


【年齢別】



家族との同居状況別にみると、60歳以上の回答者①（ひとり暮らし）や60歳以上の回答者②（夫婦のみ）においても、「同じ地域に暮らす家族・親族等」が各2割強、「他地域に暮らす家族・親族等」が各4割弱と、やはり家族・親族等が主な相談先となっていますが、60歳以上の回答者①（ひとり暮らし）においては、「同じ地域に暮らす友人・知人等」の割合が18.5%、「相談できる人はいない」が9.3%とそれぞれ全体平均より数ポイント高くなっています。また、子育て中の回答者①（核家族世帯）においては「他地域に暮らす家族・親族等」が54.5%と主たる相談先になっています

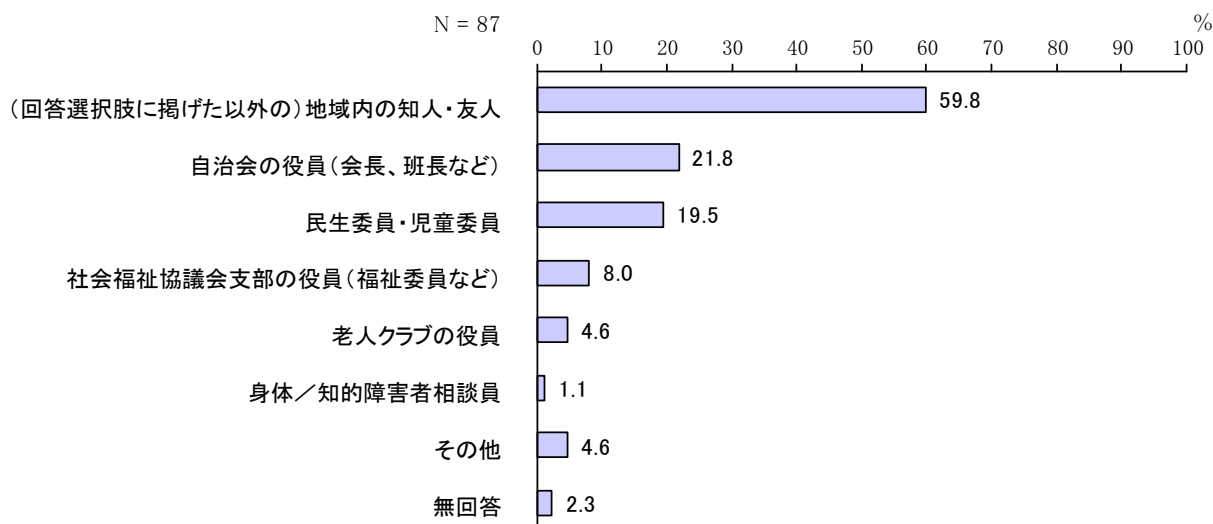
【家族との同居状況別】



問 17-2 (問 17 で 3 を選んだ方) 具体的には、地域の中のどのような立場の人に相談しますか。(当てはまるもの全てに○)

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1 民生委員・児童委員 | 2 社会福祉協議会支部の役員(福祉委員など) |
| 3 自治会の役員(会長、班長など) | 4 老人クラブの役員 |
| 5 身体/知的障害者相談員 | 6 上記以外の地域内の知人・友人 |
| 7 その他() | |

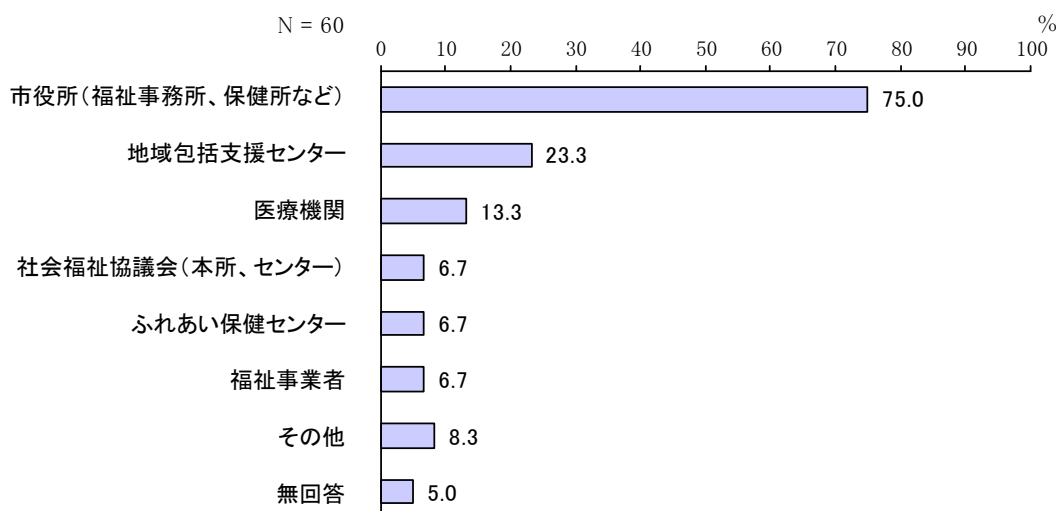
回答者の最も多くが「(回答選択肢に掲げた以外の)地域内の知人・友人」(59.8%)を挙げており、次いで2割前後が「自治会の役員(会長、班長など)」(21.8%)、「民生委員・児童委員」(19.5%)を挙げています。



問 17-3 (問 17 で 5 を選んだ方) 具体的には、どのような機関に相談しますか。(当てはまるもの全てに○)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 市役所(福祉事務所、保健所など) | 2 社会福祉協議会(本所、センター) |
| 3 地域包括支援センター | 4 ふれあい保健センター |
| 5 福祉事業者 | 6 医療機関 |
| 7 その他() | |

回答者の最も多くが「市役所(福祉事務所、保健所など)」(75.0%)を挙げており、次いで2割強が「地域包括支援センター」(23.3%)、1割強が「医療機関」(13.3%)を挙げています。



(6) ご近所同士の見守り・助け合い活動について

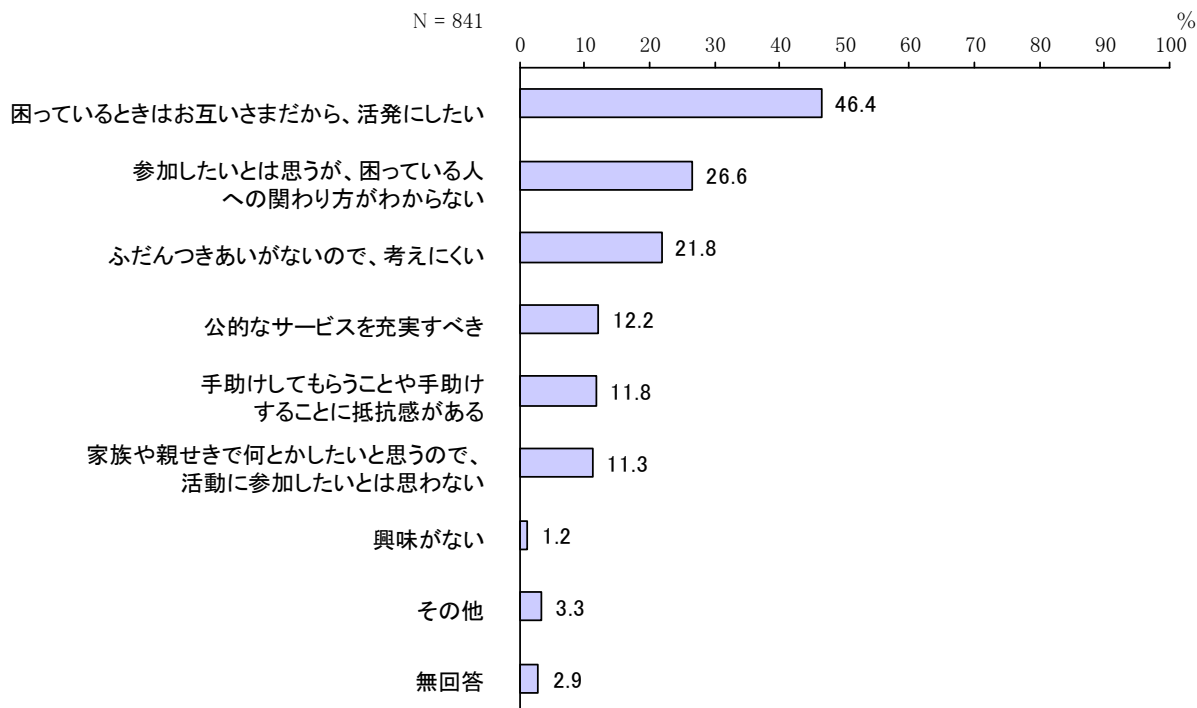
本市においても、近隣住民が相互に協力し合い、ひとり暮らしの高齢者や障がい者など、生活上何らかの手助けが必要な方に対する見守りや生活支援を行う活動に取り組もうとする地域が増えてきました。そこで、地域の見守り・助け合い活動に対するあなたのお考えについてお尋ねします。

問 18 ご近所同士の見守り・助け合い活動について、あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるもの全てに○)

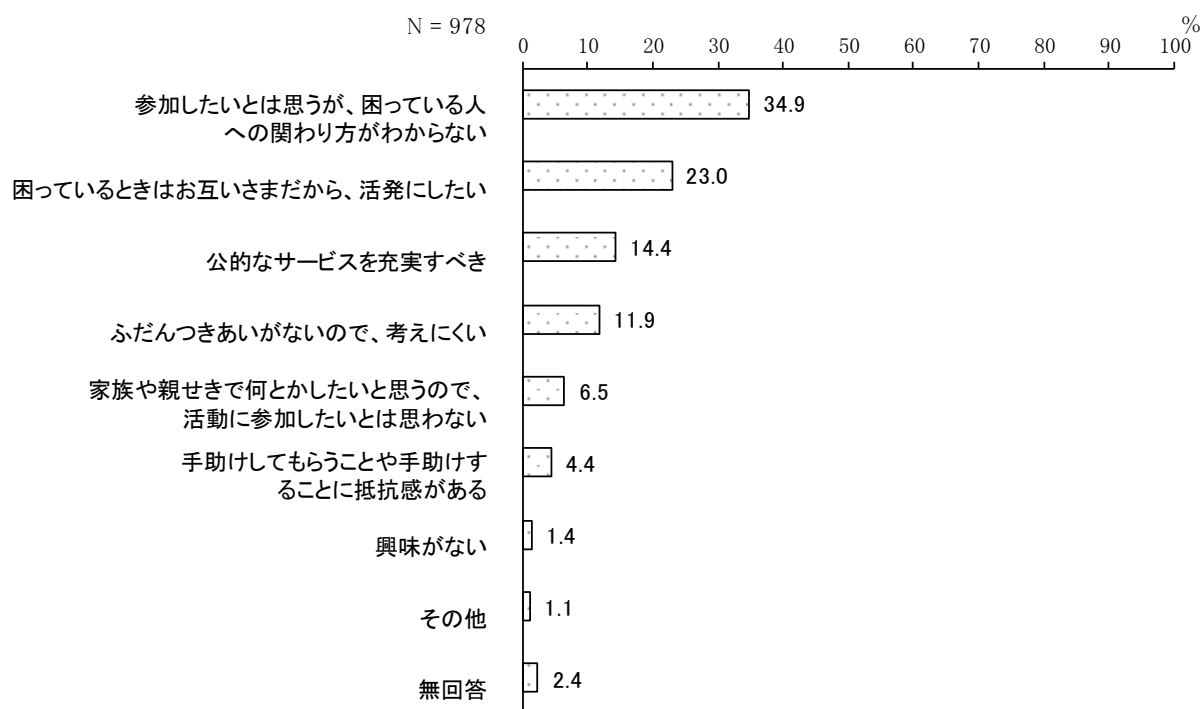
- 1 困っているときはお互いさまだから、活発にしたい
- 2 参加したいと思うが、困っている人への関わり方がわからない
- 3 手助けしてもらうことや手助けすることに抵抗感がある
- 4 家族や親せきで何とかしたいと思うので、活動に参加したいとは思わない
- 5 ふだんつきあいがないので、考えにくい
- 6 公的なサービスを充実すべき(そうすれば、近所同士の活動は必要ない)
- 7 興味がない
- 8 その他()

回答者の 5 割強が「困っているときはお互いさまだから、活発にしたい」(46.4%) を挙げている一方で、3 割強が「参加したいと思うが、困っている人への関わり方がわからない」(26.6%)、2 割強が「ふだんつきあいがないので、考えにくい」(21.8%) を挙げています。

前回調査(H21、社協)では、「参加したいと思うが、困っている人への関わり方が分からない」が 3 割強、「困っているときはお互いさまだから、活発にしたい」が 2 割強でしたが、今回は「困っているときはお互いさまだから、活発にしたい」が 5 割強、「参加したいと思うが、困っている人への関わり方が分からない」が 3 割強となり順位が逆転しています。



【前回調査 (H21、社協)】

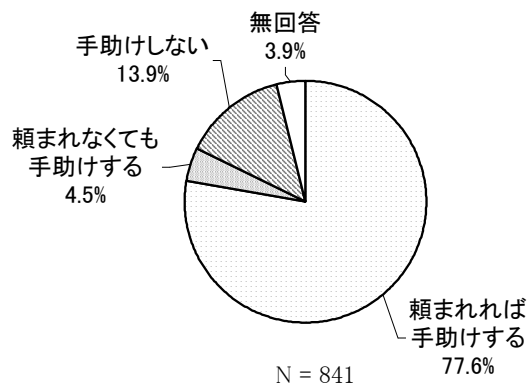


問 19 地域の中で、病気や介護、子育てなどで困っている家庭があったときに、あなたは手助けしますか。(いずれかに○)

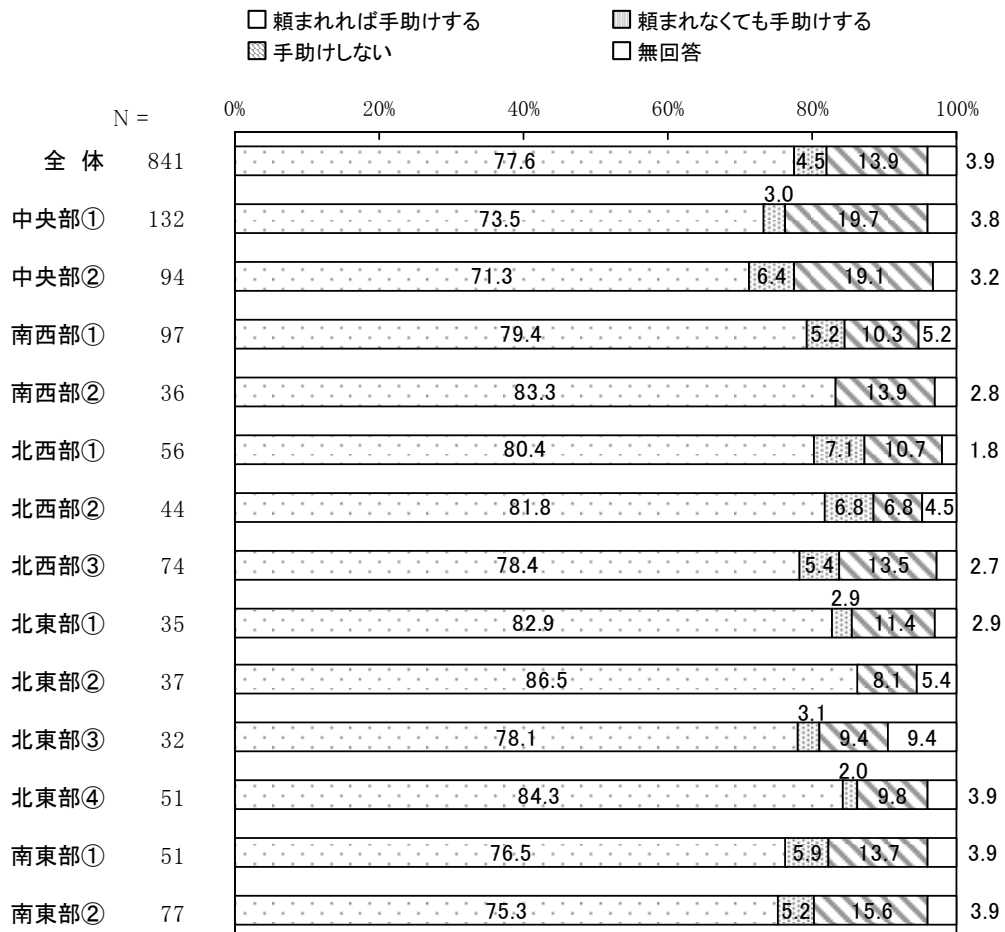
- 1 頼まれれば手助けする →問19-2へ 2 頼まれなくても手助けする →問19-2へ
 3 手助けしない →問19-3へ

「頼まれれば手助けする」(77.6%)と、「頼まれなくても手助けする」(4.5%)のように“手助けする”とする回答が、8割強となっています。これに対し、「手助けしない」は13.9%となっています。

地域生活圏域別にみると、“手助けする”とする回答の割合は、北西部①、北西部②、北東部①、北東部②、北東部④が9割弱となっており、これら以外の地域で8割前後となっています。



【地域生活圏域別】

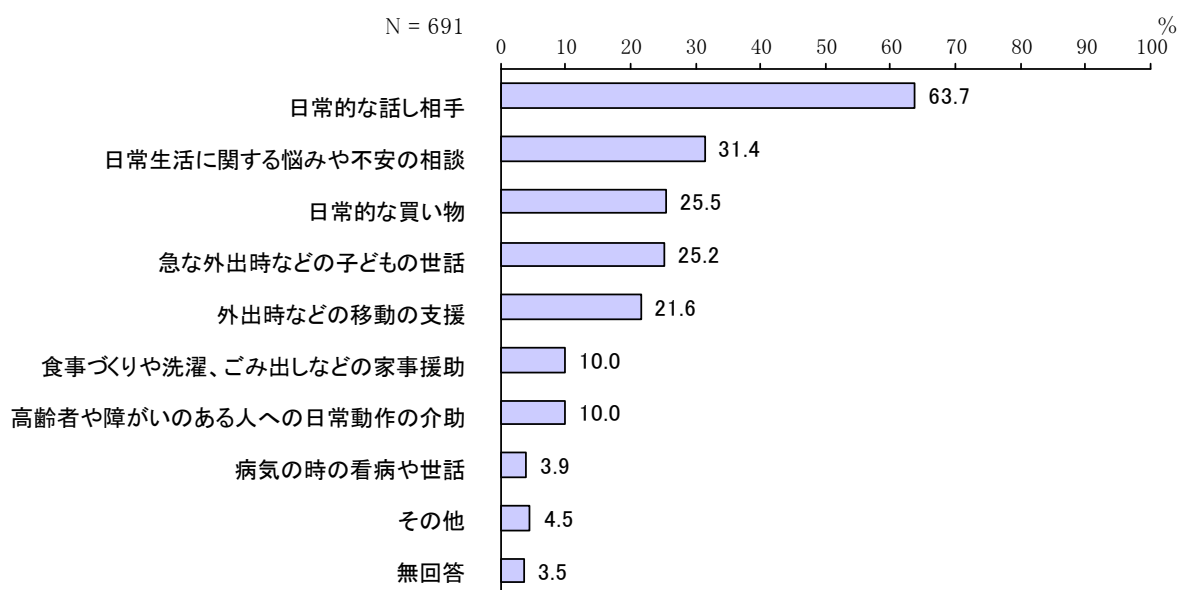


問 19-2(問 19 で 1 か 2 を選んだ方) あなたはどのような手助けができますと思いますか。
(当てはまるもの全てに○)

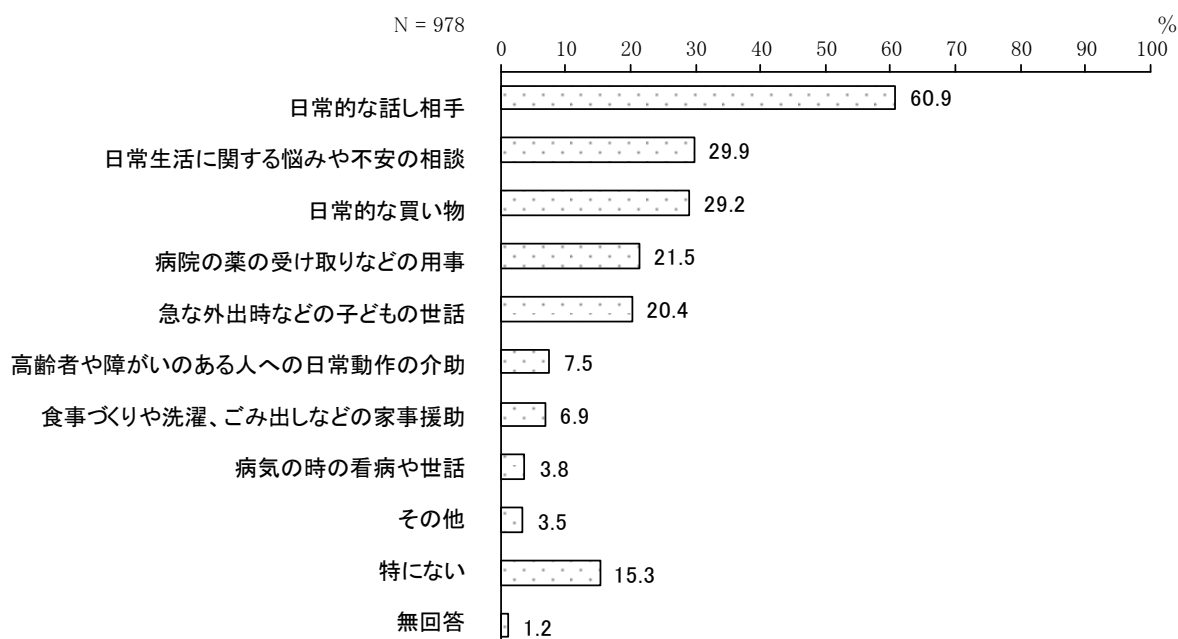
- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1 日常적인話し相手 | 2 日常적인買い物 |
| 3 急な外出時などの子どもの世話 | 4 食事づくりや洗濯、ゴミだしなどの家事援助 |
| 5 高齢者や障がい者への日常動作の介助 | 6 病気の時の看病や世話 |
| 7 外出時などの移動の支援 | 8 日常生活に関する悩みや不安の相談 |
| 9 その他 () | |

回答者の最も多くが「日常적인話し相手」(63.7%)を挙げており、次いで3割前後が「日常生活に関する悩みや不安の相談」(31.4%)、「日常적인買い物」(25.5%)、「急な外出時などの子どもの世話」(25.2%)、2割強が「外出時などの移動の支援」(21.6%)を挙げています。

前回調査(H21、社協)と比較してみると、第1位から第3位までの順位は同じとなっており、今回の調査結果と同様の傾向があります。



【前回調査 (H21、社協)】



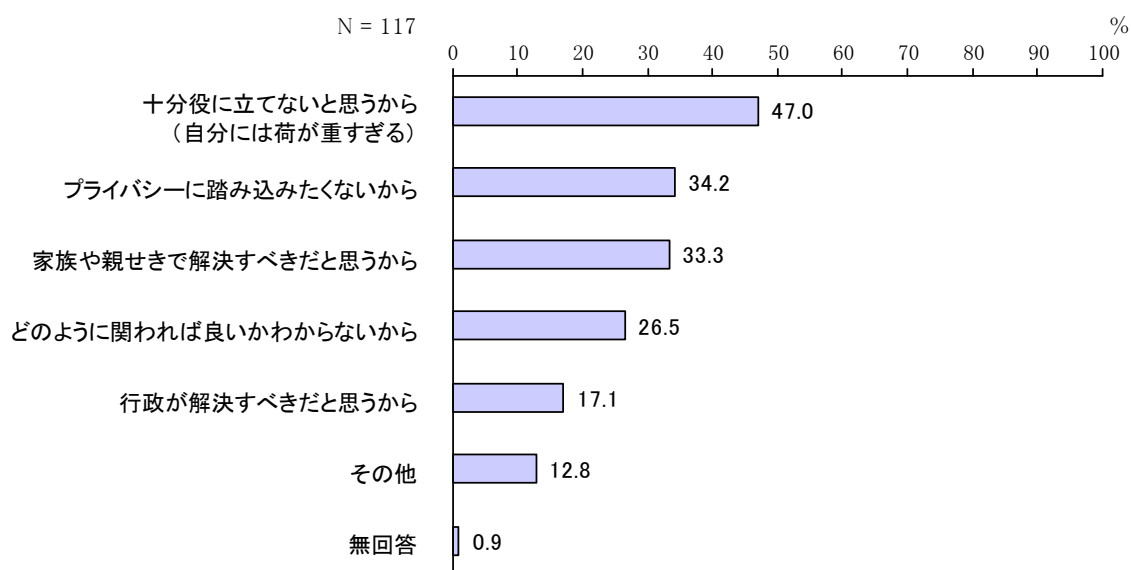
※平成21年度社協調査では、問19に該当する設問はなく、『特にない』という選択肢があります。

問 19-3 (問 19 で 3 を選んだ方) 手助けしない理由は何ですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるもの全てに○)

- 1 どのように関われば良いかわからないから 2 プライバシーに踏み込みたくないから
 3 家族や親せきで解決すべきだと思うから 4 行政が解決すべきだと思うから
 5 十分役に立てないと思うから (自分には荷が重すぎる)
 6 その他 ()

回答者の最も多くが「十分役に立てないと思うから (自分には荷が重すぎる)」(47.0%) を挙げており、次いで 3 割前後が「プライバシーに踏み込みたくないから」(34.2%)、「家族や親せきで解決すべきだと思うから」(33.3%)、「どのように関われば良いかわからないから」(26.5%)、2 割弱が「行政が解決すべきだと思うから」(17.1%) を挙げています。

なお、この質問に対し回答者の 1 割強が「その他」を挙げています。「その他」() 欄への記入は 9 件あり、[自分の家庭のことで手一杯/育児中]など、手助けする余裕がないことを理由として挙げるものが 5 件、[自身が高齢者]など十分な役割が果たせないことを懸念するものが 4 件ありました。



問 20 あなたは、病気や介護、子育てなどで困ったときに、地域の人に手助けを求められることができますか。(いずれかに○)

1 できる →問20-2へ

2 できない →問20-3へ

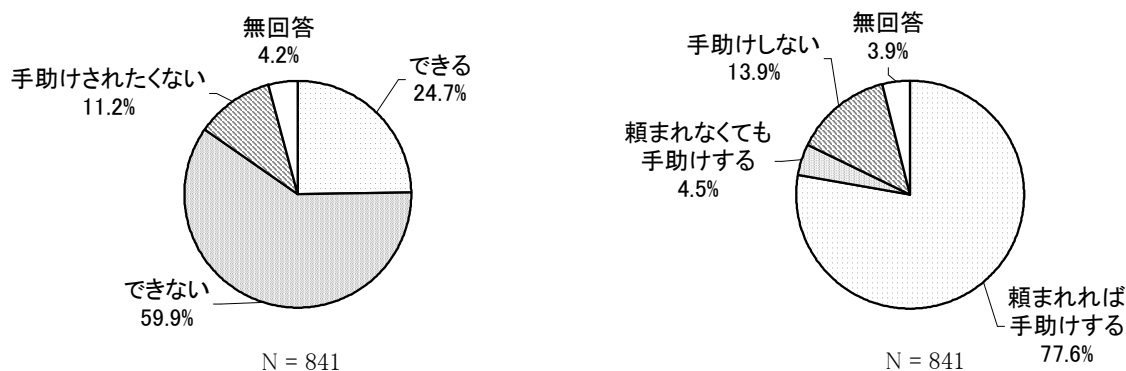
3 手助けされたくない →問20-3へ

地域の人に手助けを求めることが「できる」が24.7%であったのに対し、「できない」が59.9%、「手助けされたくない」が11.2%となっています。

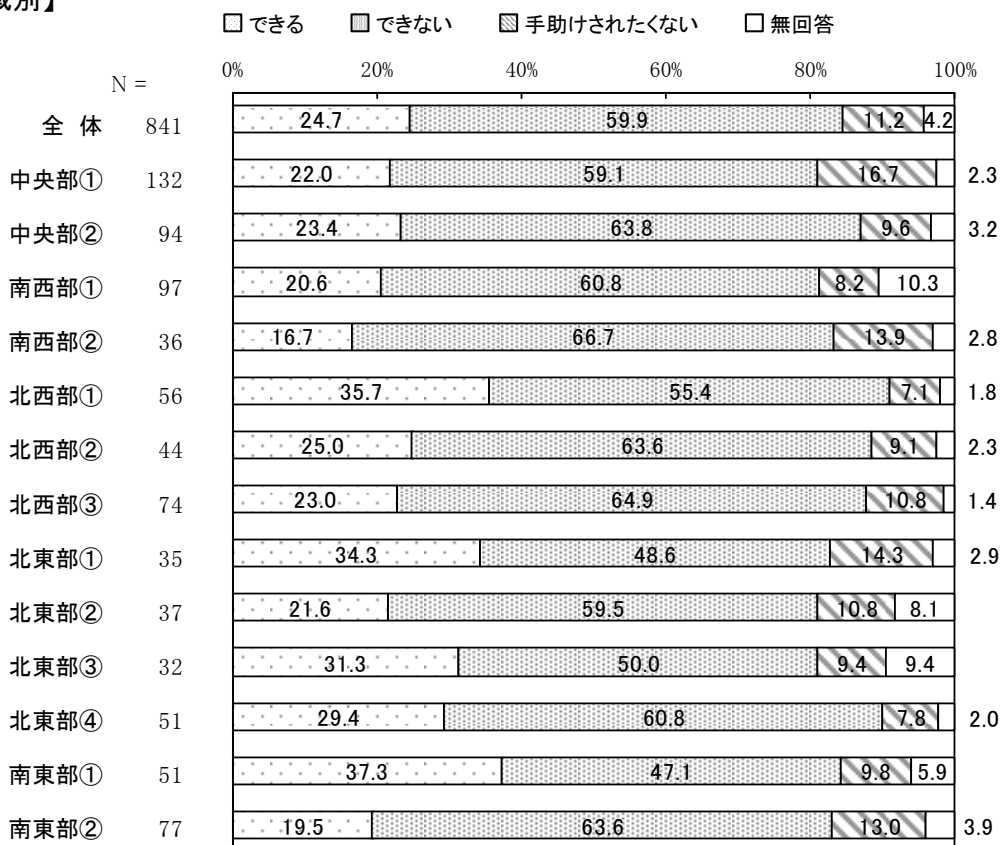
問19の他人(他家族)が困っている場合には、8割弱の人が「頼まれれば手助けする」と回答していますが、この設問においてわかるように、自分が助けられる側になった場合には、助けを求めること「できない」(59.9%)又は「手助けされたくない」(11.2%)が合わせて7割強となっています。

地域生活圏域別にみると、「できる」の割合は、北西部①(35.7%)、北東部①(34.3%)、北東部③(31.3%)、北東部④(29.4%)、南東部①(37.3%)で3割前後であり、これら以外の地域で2割前後となっています。

【問19(再掲)】



【地域生活圏域別】

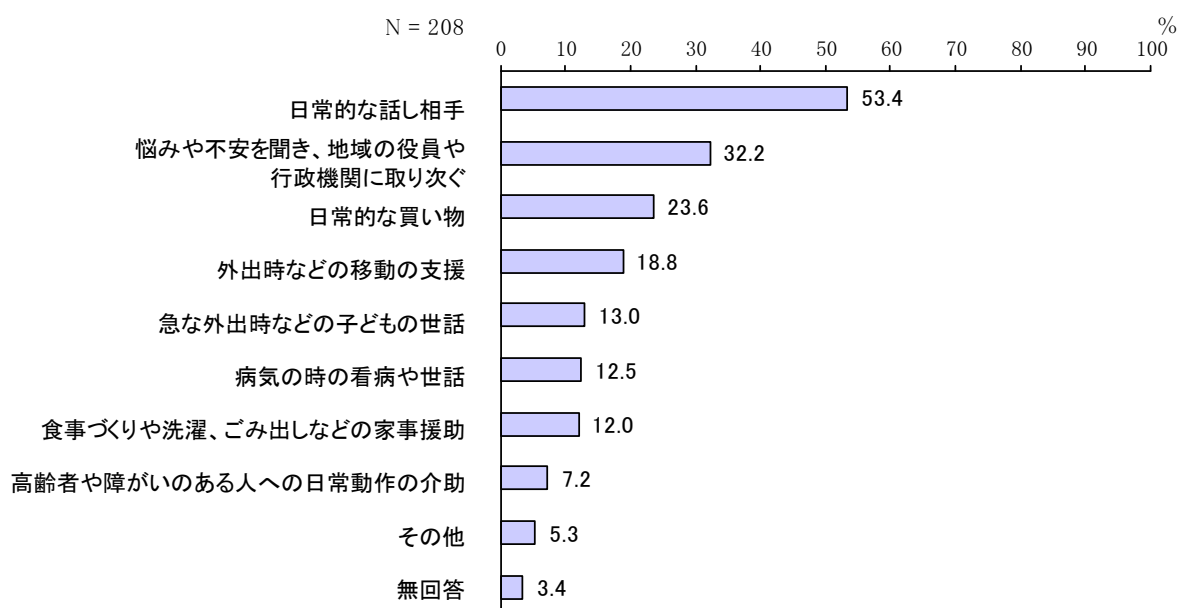


問 20-2 (問 20 で 1 を選んだ方) あなたはどのような手助けをしてもらいたいですか。
(当てはまるもの全てに○)

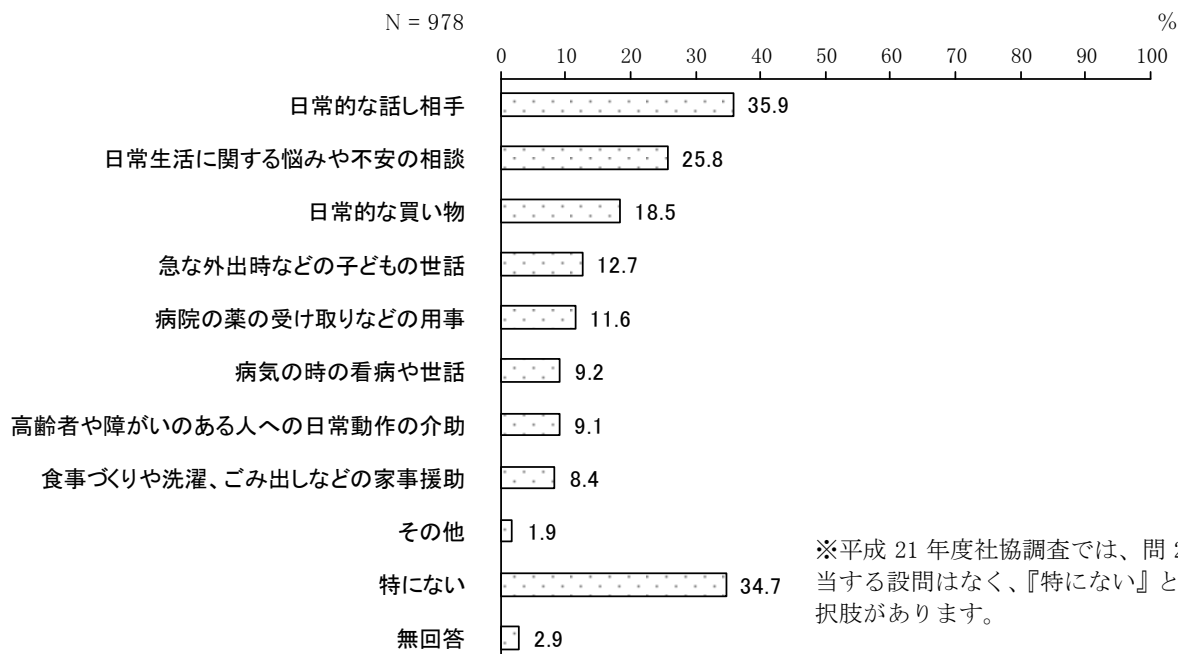
- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1 日常的な話し相手 | 2 日常的な買い物 |
| 3 急な外出時などの子どもの世話 | 4 食事づくりや洗濯、ゴミだしなどの家事援助 |
| 5 高齢者や障がいのある人への日常動作の介助 | 6 病気の時の看病や世話 |
| 7 外出時などの移動の支援 | |
| 8 悩みや不安を聞き、地域の役員や行政機関に取り次ぐ | |
| 9 その他 () | |

回答者の最も多くが「日常的な話し相手」(53.4%)を挙げており、次いで3割強が「悩みや不安を聞き、地域の役員や行政機関に取り次ぐ」(32.2%)、2割前後が「日常的な買い物」(23.6%)、「外出時などの移動の支援」(18.8%)を挙げています。問 19-2 の手助けできることと比較すると、第1位から第3位までの順位は同じとなっています。

前回調査(H21、社協)と比較してみると、第1位から第3位までの順位は同じとなっており、今回の調査と同様の傾向が見られます。



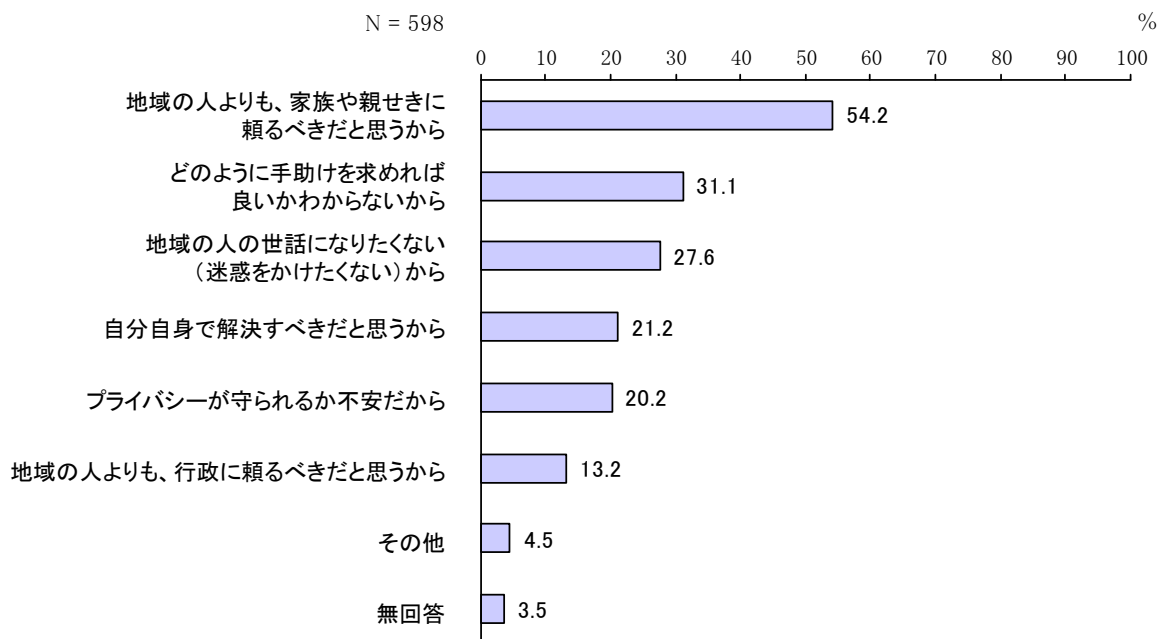
【前回調査 (H21、社協)】



問 20-3 (問 20 で 2 か 3 を選んだ方) 地域の人に手助けを求めない理由は何ですか。
あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるもの全てに○)

- 1 どのように手助けを求めれば良いかわからないから
- 2 プライバシーが守られるか不安だから
- 3 地域の人のお世話になりたくない(迷惑をかけたくない)から
- 4 地域の人よりも、家族や親せきに頼るべきだと思うから
- 5 地域の人よりも、行政に頼るべきだと思うから
- 6 自分自身で解決すべきだと思うから
- 7 その他()

回答者の最も多くが「地域の人よりも、家族や親せきに頼るべきだと思うから」(54.2%)を挙げており、次いで3割前後が「どのように手助けを求めれば良いかわからないから」(31.1%)、「地域の人のお世話になりたくない(迷惑をかけたくない)から」(27.6%)、2割強が「自分自身で解決すべきだと思うから」(21.2%)、「プライバシーが守られるか不安だから」(20.2%)を挙げています。



(7) 福祉（支え合い）マップづくり活動について

近年、本市においても福祉（支え合い）マップづくり活動に取り組む地域が増えてきました。

福祉（支え合い）マップづくり活動とは、地域の中で孤立している人や孤立しそうな人がいないかどうかを点検するとともに、そのような人をどのように見守り・支えていくか等について話し合うために、ご近所に暮らす人同士が集い、自らの地域の地図を囲みながら、お互いの気付き（孤立していると思われる人に関する情報、手助けしてあげられること、など）を書き込んでいく活動です。

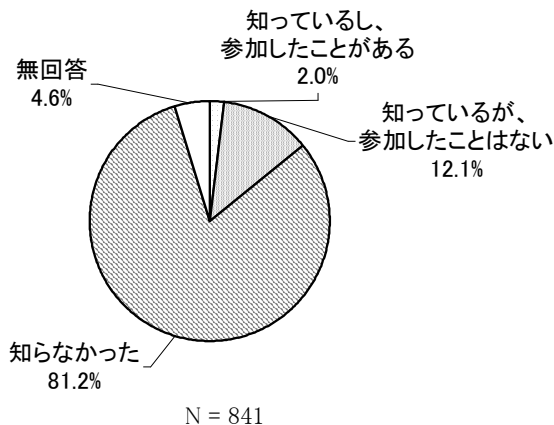
そこで、福祉マップづくり活動に対するあなたのお考えについてお尋ねします。

問21 あなたは「福祉（支え合い）マップづくり」を知っていましたか。また、あなたは参加したことがありますか。（いずれかに○）

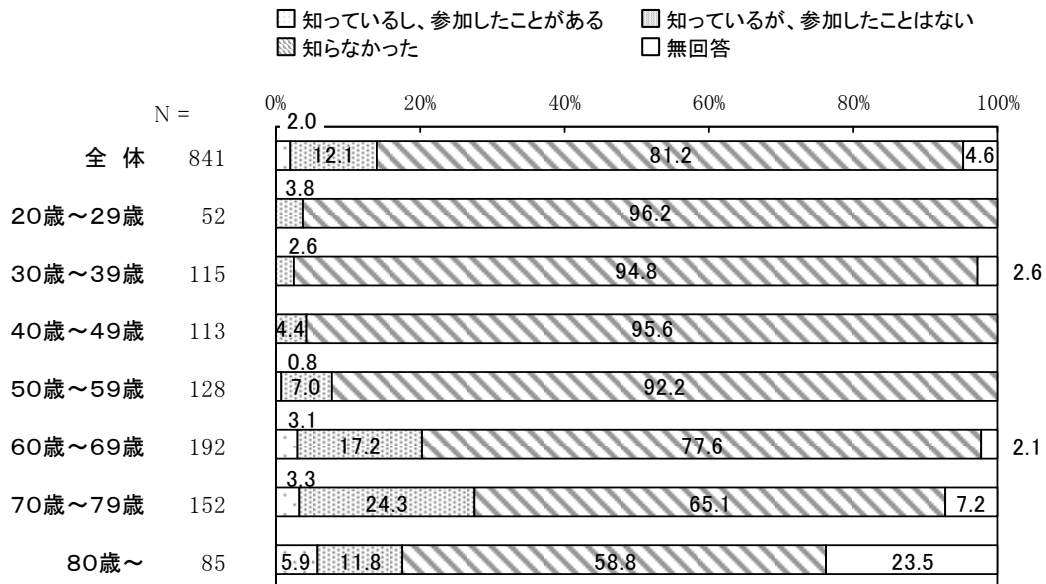
- 1 知っているし、参加したことがある
- 2 知っているが、参加したことはない →問21-2へ
- 3 知らなかった →問21-2へ

「知っているし、参加したことがある」が2.0%、「知っているが、参加したことはない」が12.1%、「知らなかった」が81.2%となっています。

年齢別にみると、「知っているし、参加したことがある」は全年齢層を通じて1割に満たず、最も高い80歳代でも5.9%に留まっています。また、「知っているが、参加したことはない」は、20歳代から50歳代で1割未満に留まっていますが、60歳代（17.2%）、70歳代（24.3%）で2割前後と全体平均（12.1%）より高くなっており、80歳代（11.8%）で1割強となっています。



【年齢別】

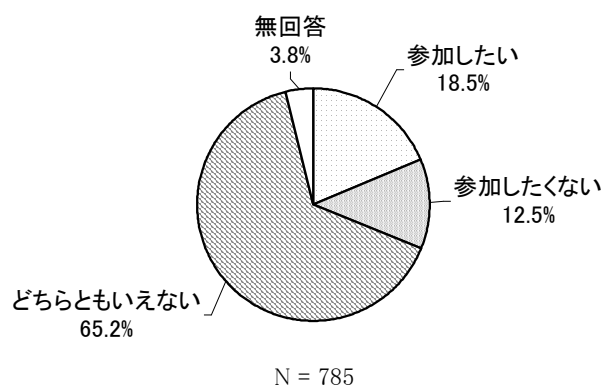


問 21-2 (問 21 で 2 か 3 を選んだ方) あなたの地域で福祉 (支え合い) マップづくり活動が行われることとなった場合 (既に行われている場合は「引き続き行われる場合」)、あなたは参加したいと思いますか。(いずれかに○)

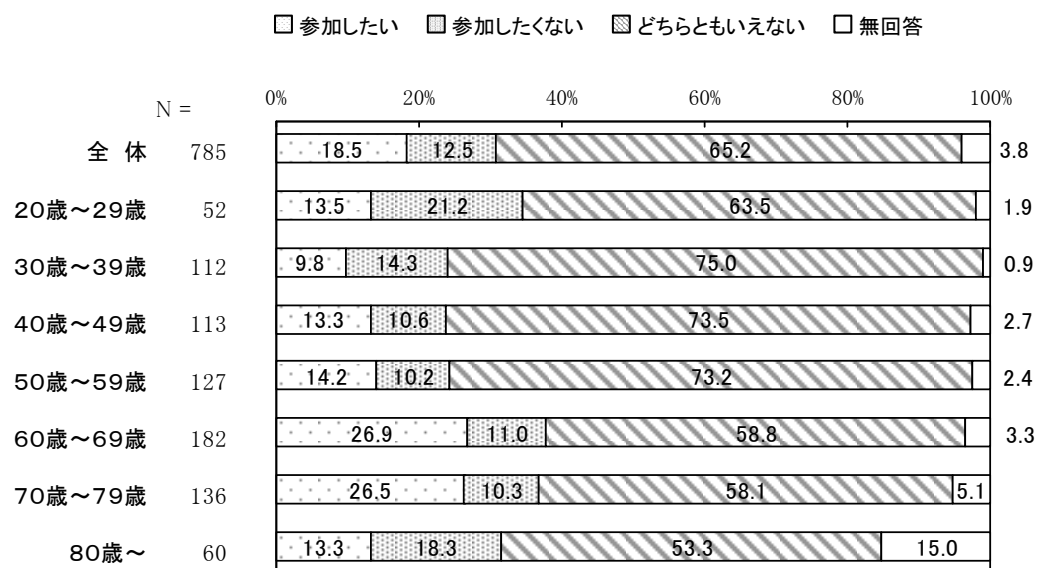
- 1 参加したい
2 参加したくない →問21-3へ
3 どちらともいえない →問21-3へ

「参加したい」が 18.5%に対して、「参加したくない」が 12.5%となっています。一方、「どちらともいえない」は 65.2%となっています。

年齢別にみると、「参加したい」の割合は、20 歳代 (13.5%) から 30 歳代 (9.8%) にかけては低下していますが、40 歳代 (13.3%) からは年齢層が高くなるほど高くなる傾向が見られ、特に 60 歳代 (26.9%)、70 歳代 (26.5%) では 3 割弱と全体平均 (18.5%) より高くなり、80 歳代 (13.3%) になると再び低くなっています。

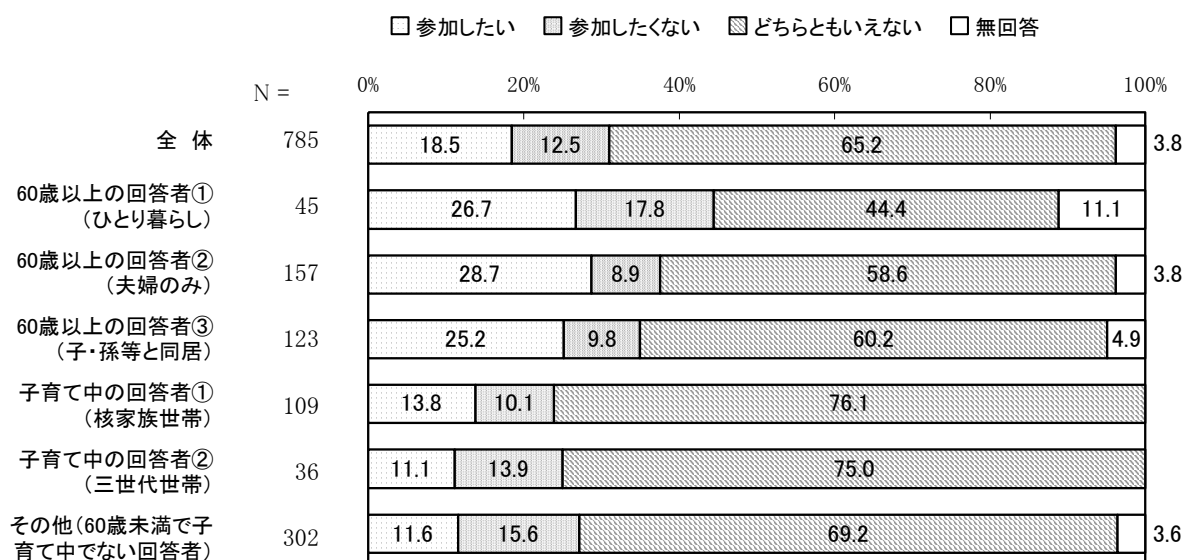


【年齢別】



家族との同居状況別にみると、60歳以上の回答者①（ひとり暮らし）、60歳以上の回答者②（夫婦のみ）、60歳以上の回答者③（子・孫等と同居）のように、回答者が60歳以上の場合には3割弱が「参加したい」を挙げており、全体平均の2割弱より高くなっています。一方で、60歳未満の回答者①（核家族世帯）、60歳未満の回答者②（三世代世帯）のように、回答者が60歳未満の場合には1割強と全体平均より低くなっています。また、60歳以上の回答者①（ひとり暮らし）で「参加したくない」が2割弱となっており、これ以外の家族類型の1割前後と比べ高くなっています。

【家族との同居状況別】

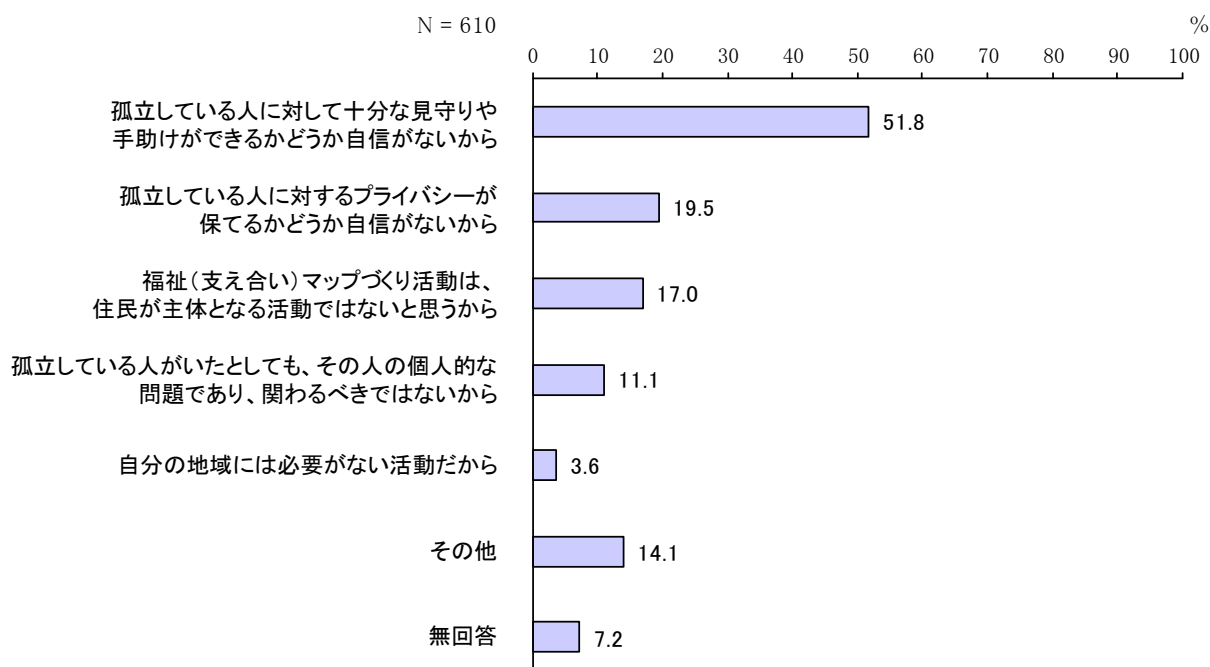


問 21-3 (問 21-2 で 2 か 3 を選んだ方) 福祉 (支え合い) マップづくり活動に参加したくないと思う理由は何ですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。
(当てはまるもの全てに○)

- 1 孤立している (しそうな) 人がいたとしても、その人の個人的な問題であり、関わるべきではないから
- 2 孤立している (しそうな) 人に対して十分な見守りや手助けができるかどうか自信がないから
- 3 孤立している (しそうな) 人に対するプライバシーが保てるかどうか自信がないから
- 4 福祉 (支え合い) マップづくり活動は、住民が主体となる活動ではないと思うから (行政や福祉事業者等が主体となるべき活動である)
- 5 自分の地域には必要がない活動だから
- 6 その他 ()

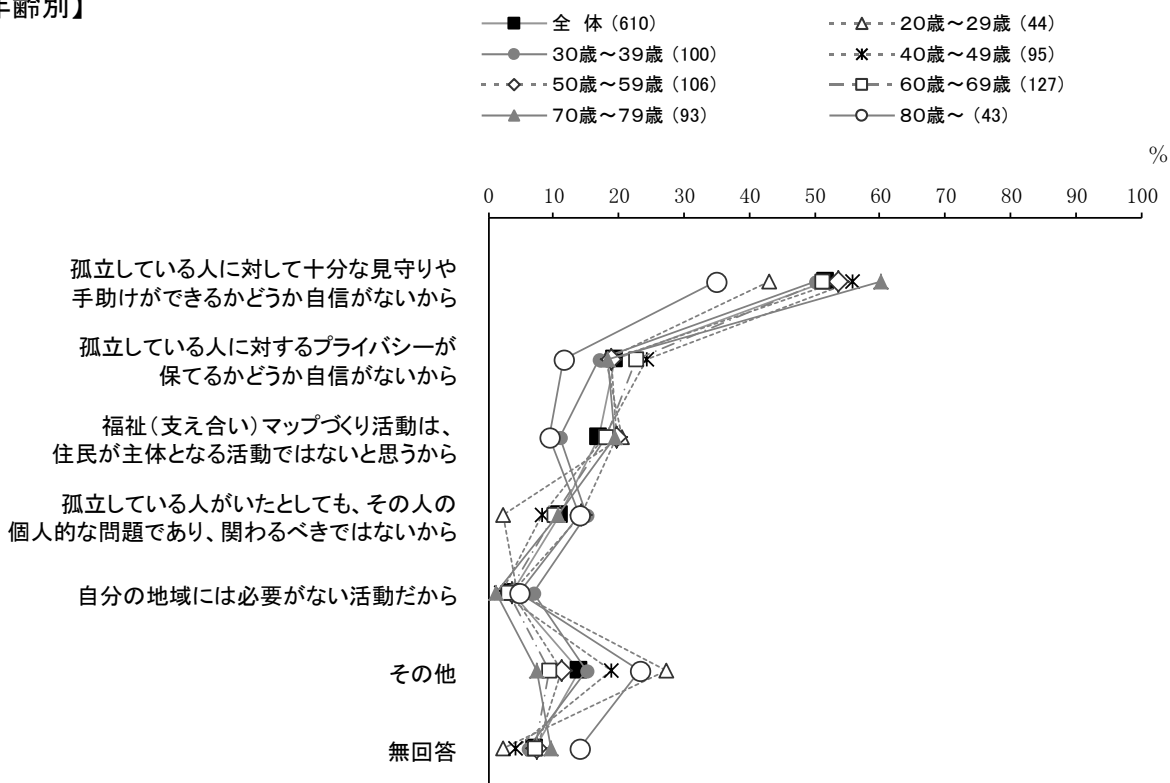
回答者の最も多くが「孤立している (しそうな) 人に対して十分な見守りや手助けができるかどうか自信がないから」(51.8%) を挙げており、次いで 2 割弱が「孤立している (しそうな) 人に対するプライバシーが保てるかどうか自信がないから」(19.5%)、「福祉 (支え合い) マップづくり活動は、住民が主体となる活動ではないと思うから (行政や福祉事業者等が主体となるべき活動である)」(17.0%) を挙げています。

なお、この質問に対し回答者の 1 割強が「その他」を挙げています。「その他」() 欄への記入は 66 件あり、その主なものとして、[自分の家族のことで手一杯/時間に余裕がない/自身も高齢である]など活動に十分参加できないことを懸念するものが 34 件、[具体的な内容がわからない/マップを作成する意味がわからない]など活動内容や意義が理解されていないことを示唆するものが 14 件、[マップが悪用されるかもしれない/プライバシーに立ち入るのはいくつか]など活動の弊害を懸念するものが 7 件ありました。



年齢別にみると、「十分な見守りや手助けができるかどうか自信がないから」の割合は、60歳代（60.2%）で、全体平均（51.8%）より1割程度高くなっており、逆に80歳代（34.9%）で、1割以上低くなっています。また、「プライバシーが保てるかどうか自信がないから」の割合は、80歳代（11.6%）で、全体平均（19.5%）より1割程度低くなっています。

【年齢別】



(8) -1 ボランティア活動に対する考え方について

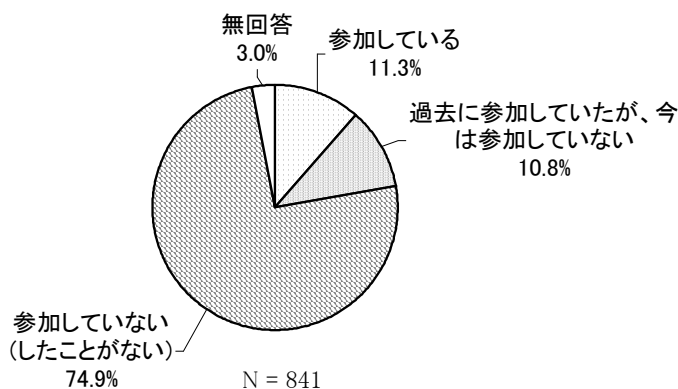
問 22 あなたは現在、ボランティア活動に参加していますか。(いずれかに○)

- 1 参加している →問22-2へ
- 2 過去に参加していたが、今は参加していない →問22-2へ
- 3 参加していない →問22-3へ

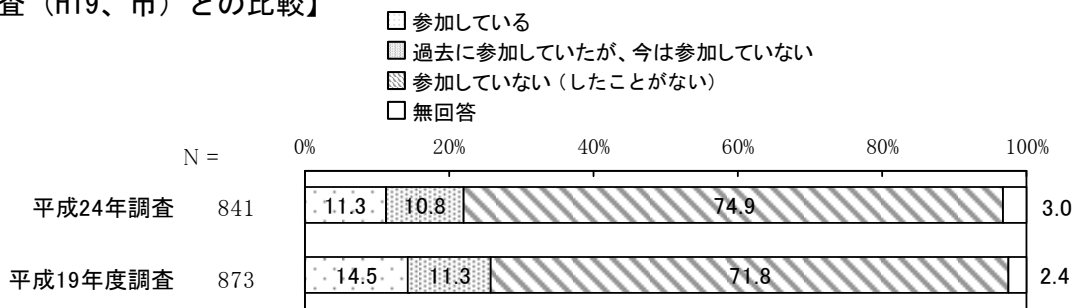
「参加している」が 11.3%に対し、「参加していない（したことがない）」が 74.9%となっています。一方、「過去に参加していたが、今は参加していない」は 10.8%となっています。

前回調査（H19、市）と比較してみると、「参加している」の割合が 3.2 ポイント減少し、「参加していない」の割合が 3.1 ポイント増加しています。

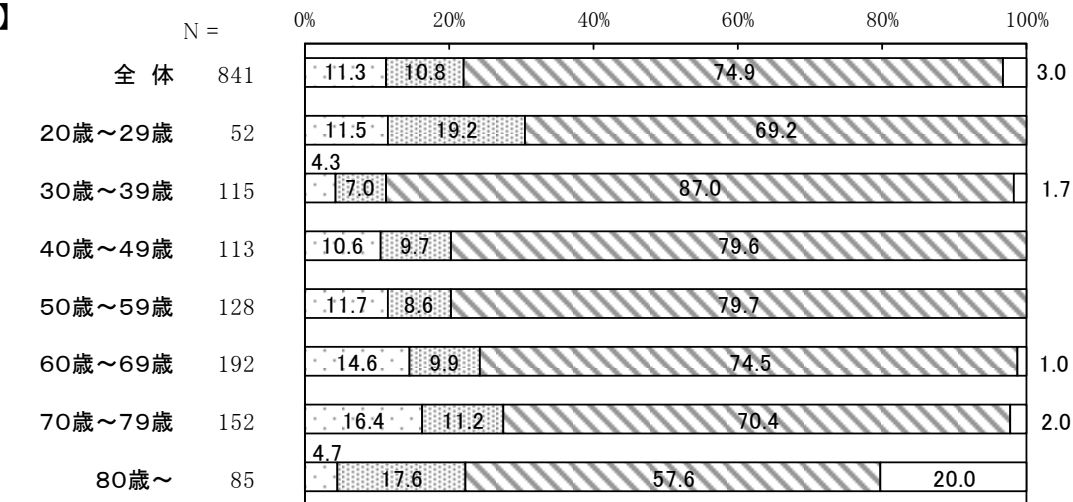
年齢別にみると、「参加している」の割合は、20 歳代（11.5%）から 30 歳代（4.3%）にかけては低下していますが、40 歳代（10.6%）からは年齢層が高くなるほど高くなる傾向が見られ、特に 60 歳代（14.6%）、70 歳代（16.4%）では全体平均（11.3%）より数ポイント高くなり、80 歳代（4.7%）になると再び低くなっています。



【前回調査（H19、市）との比較】



【年齢別】

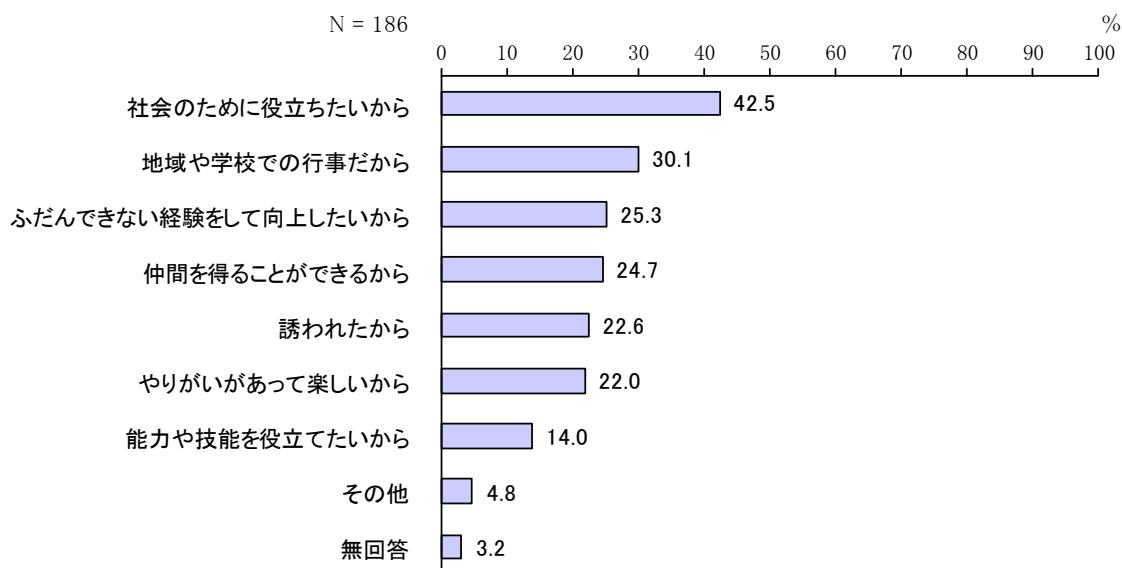


問 22-2 (問 22 で 1 か 2 を選んだ方) あなたがボランティア活動に参加している (していた) 動機は何ですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。
(当てはまるもの全てに○)

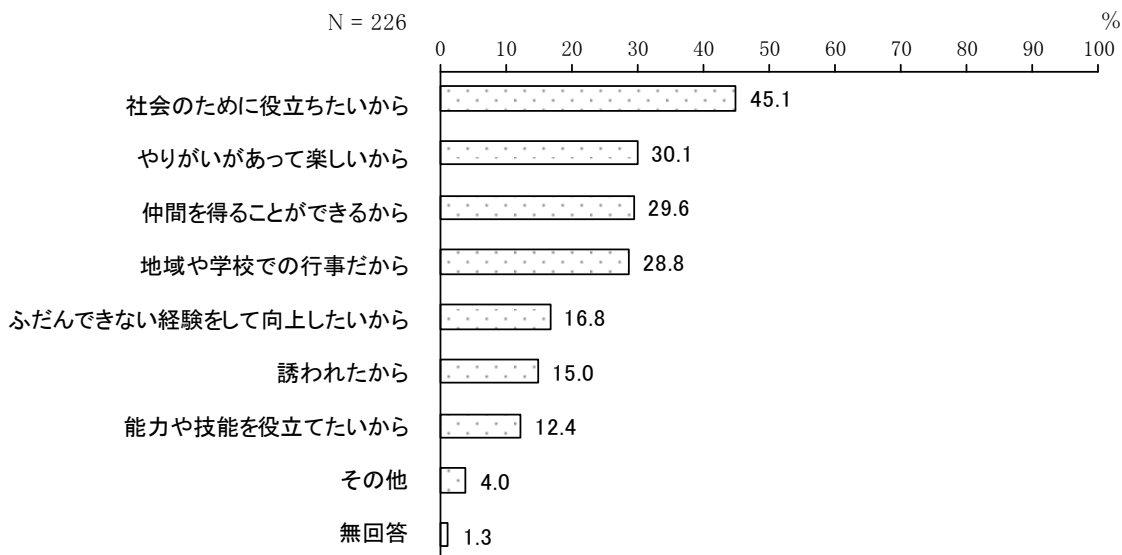
- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1 やりがいがあるから楽しいから | 2 ふだんできない経験をして向上したいから |
| 3 能力や技能を役立てたいから | 4 社会のために役立ちたいから |
| 5 仲間を得ることができるから | 6 誘われたから |
| 7 地域や学校での行事だから | 8 その他 () |

回答者の最も多くが「社会のために役立ちたいから」(42.5%) を挙げており、3割前後が「地域や学校での行事だから」(30.1%)、「ふだんできない経験をして向上したいから」(25.3%)、2割強が「仲間を得ることができるから」(24.7%)、「誘われたから」(22.6%)、「やりがいがあるから楽しいから」(22.0%) を挙げています。

前回調査 (H19、市) と比較してみると、第1位は同じですが、「やりがいがあるから楽しいから」、「仲間を得ることができるから」のような積極的動機を示す回答の割合が減少し、順位が入れ替わっています。



【前回調査 (H19、市)】

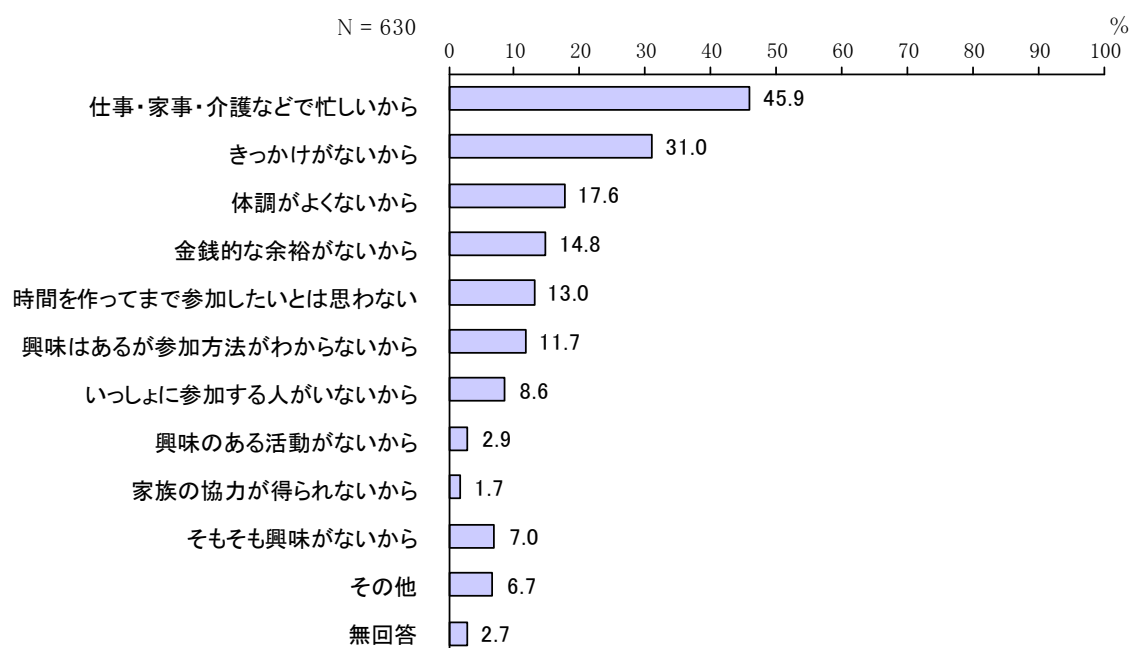


問 22-3 (問 22 で 3 を選んだ方) これまでボランティア活動に参加していない理由は何ですか。(当てはまるもの全てに○)

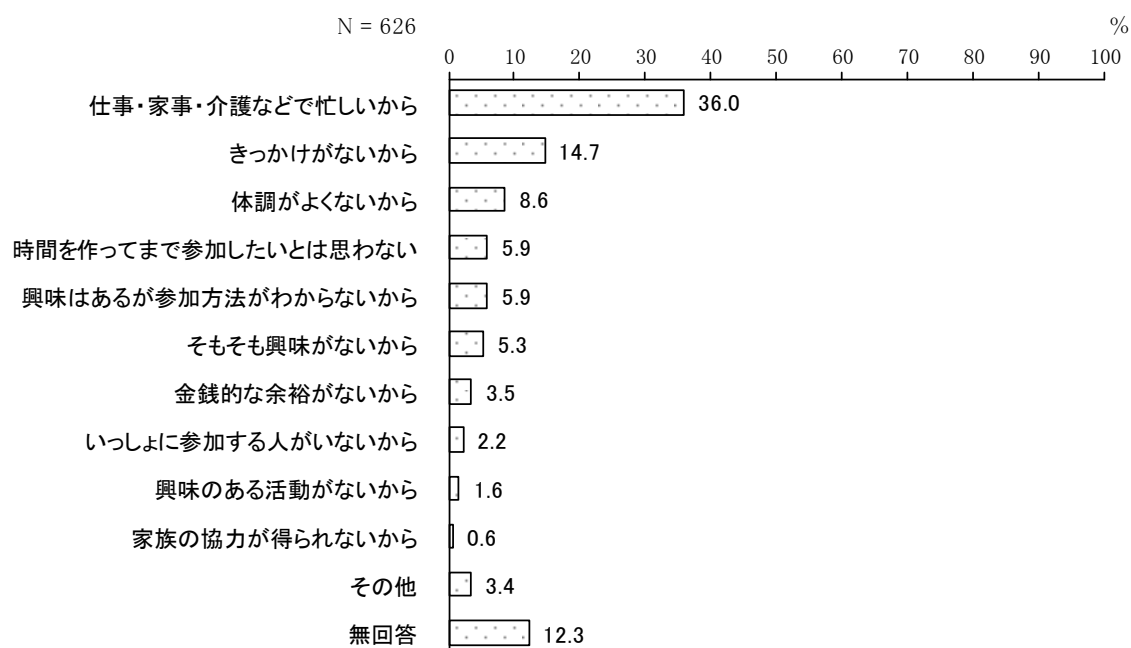
- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1 興味はあるが参加方法がわからないから | 2 仕事・家事・介護などで忙しいから |
| 3 いっしょに参加する人がいないから | 4 興味のある活動がないから |
| 5 家族の協力が得られないから | 6 金銭的な余裕がないから |
| 7 きっかけがないから | 8 体調がよくないから |
| 9 時間を作ってまで参加したいとは思わない | 10 そもそも興味がないから |
| 11 その他 () | |

回答者の最も多くが「仕事・家事・介護などで忙しいから」(45.9%)を挙げており、次いで、3割強が「きっかけがないから」(31.0%)、2割弱が「体調がよくないから」(17.6%)を挙げています

前回調査(H19、市)と比較してみると、第1位から第3位までの順位は同じとなっており、前回の調査と同様の傾向が見られます。



【前回調査 (H19、市) との比較】

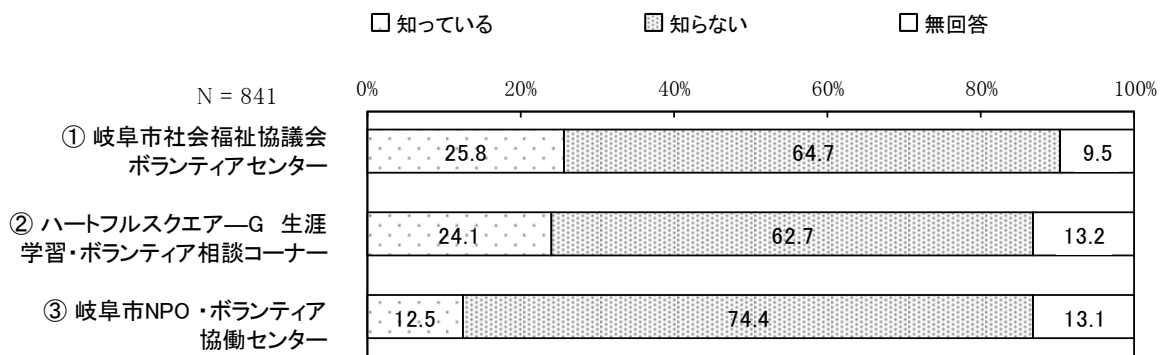


問 23 ボランティア活動を支援するための相談窓口が市内に3つありますが、あなたは知っていましたか。(それぞれ、どちらかに○)

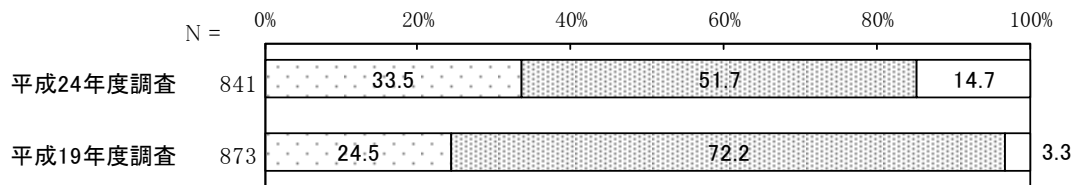
- ① 岐阜市社会福祉協議会 ボランティアセンター
1 知っている 2 知らない
- ② ハートフルスクエア-G 生涯学習・ボランティア相談コーナー
1 知っている 2 知らない
- ③ 岐阜市NPO・ボランティア協働センター
1 知っている 2 知らない

「①岐阜市社会福祉協議会 ボランティアセンター」(25.8%)、「②ハートフルスクエア-G 生涯学習・ボランティア相談コーナー」(24.1%)、「③岐阜市NPO・ボランティア協働センター」(12.5%)の順で「知っている」の割合が高くなっています。

前回調査(H19、市)と比較してみると、いずれかの相談窓口を「知っている」の割合が9.0ポイント増加しています。



【前回調査 (H19、市) との比較 (ボランティア活動の相談窓口の認知状況)】



※平成24年度調査は、上記①～③のうちいずれかを知っている場合、「知っている」に集計しています。

(8) -2 介護支援ボランティア・ポイント制度について

東京都稲城市など、いくつかの自治体においては介護保険事業の中で介護支援等のボランティア活動（介護施設におけるボランティア活動や地域住民相互の助け合い活動等）に取り組む高齢者に、ボランティア活動の実績に応じて「ポイント」を付与し、そのポイントを介護保険料や生活支援サービスの利用料に充てることができる『介護支援ボランティア・ポイント制度』の導入が図られています。

このような動向に対しては、「高齢者の社会参画が促進される結果、介護予防効果が期待される」という意見がある一方で、「ボランティア活動の自発性・無償性を損ねてしまうのではないかなど賛否を含む様々な意見があるようです。

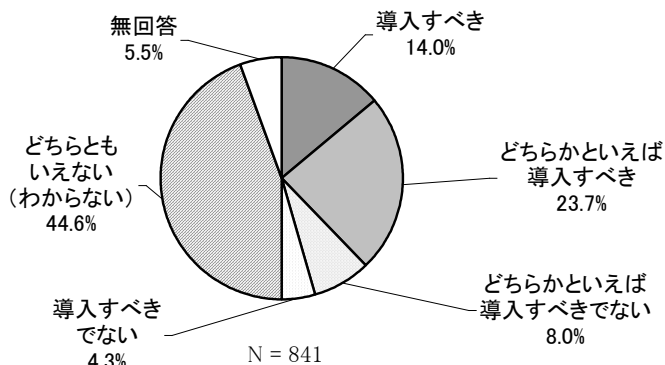
そこで、介護支援ボランティア・ポイント制度に対するあなたのお考えについてお尋ねします。

問 24 あなたは介護支援ボランティア・ポイント制度を本市でも導入すべきだと思いますか。（いずれかに○）

- 1 導入すべき →問24-2、24-3へ
- 2 どちらかといえば導入すべき →問24-2、24-3へ
- 3 どちらかといえば導入すべきでない →問24-4へ
- 4 導入すべきでない →問24-4へ
- 5 どちらともいえない（分からない）

「導入すべき」(14.0%)、「どちらかといえば導入すべき」(23.7%)のように“導入すべき”とする回答が合わせて4割弱となっているのに対し、「導入すべきでない」(4.3%)、「どちらかといえば導入すべきでない」(8.0%)のように“導入すべきでない”とする回答が1割強となっています。この一方で、「どちらともいえない（わからない）」(44.6%)の割合が4割強となっています。

年齢別にみると、“導入すべき”とする回答の割合は、20歳代、40歳代で5割弱と、全体平均（4割弱）より1割程度高くなっており、逆に70歳代、80歳代で1割以上低くなっています。



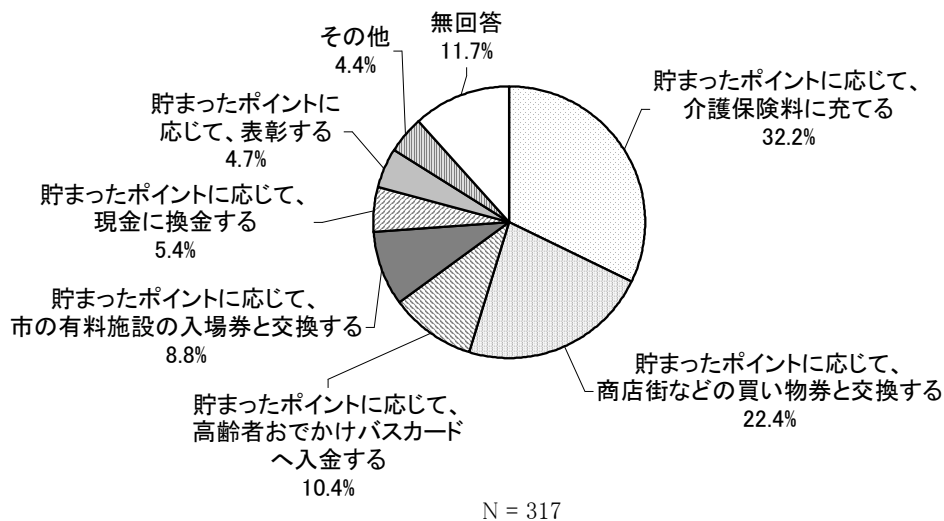
【年齢別】

年齢	N	割合 (%)					
		導入すべき	どちらかといえば導入すべき	どちらかといえば導入すべきでない	導入すべきでない	どちらともいえない(わからない)	無回答
全体	841	14.0	23.7	8.0	4.3	44.6	5.5
20歳～29歳	52	9.6	40.4	11.5	3.8	34.6	
30歳～39歳	115	13.9	26.1	10.4	1.7	45.2	1.7
40歳～49歳	113	17.7	30.1	8.0	6.2	36.3	1.8
50歳～59歳	128	10.9	30.5	8.6	4.7	45.3	
60歳～69歳	192	16.7	22.4	7.3		48.4	1.6
70歳～79歳	152	12.5	17.1	7.2	4.6	49.3	9.2
80歳～	85	14.1	7.1	4.7		42.4	28.2

問 24-2 (問 24 で 1 か 2 を選んだ方) 本市で介護支援ボランティア・ポイント制度を導入した場合、付与されたポイントをどのように還元すると良いと思いますか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(いずれかに○)

- 1 貯まったポイントに応じて、表彰する
- 2 貯まったポイントに応じて、高齢者おでかけバスカード(※市が70歳以上の高齢者へ交付する割引特典のついたバスカードのことです。)へ入金する
- 3 貯まったポイントに応じて、市の有料施設の入場券と交換する
- 4 貯まったポイントに応じて、商店街などの買い物券と交換する
- 5 貯まったポイントに応じて、現金に換金する
- 6 貯まったポイントに応じて、介護保険料に充てる
- 7 その他()

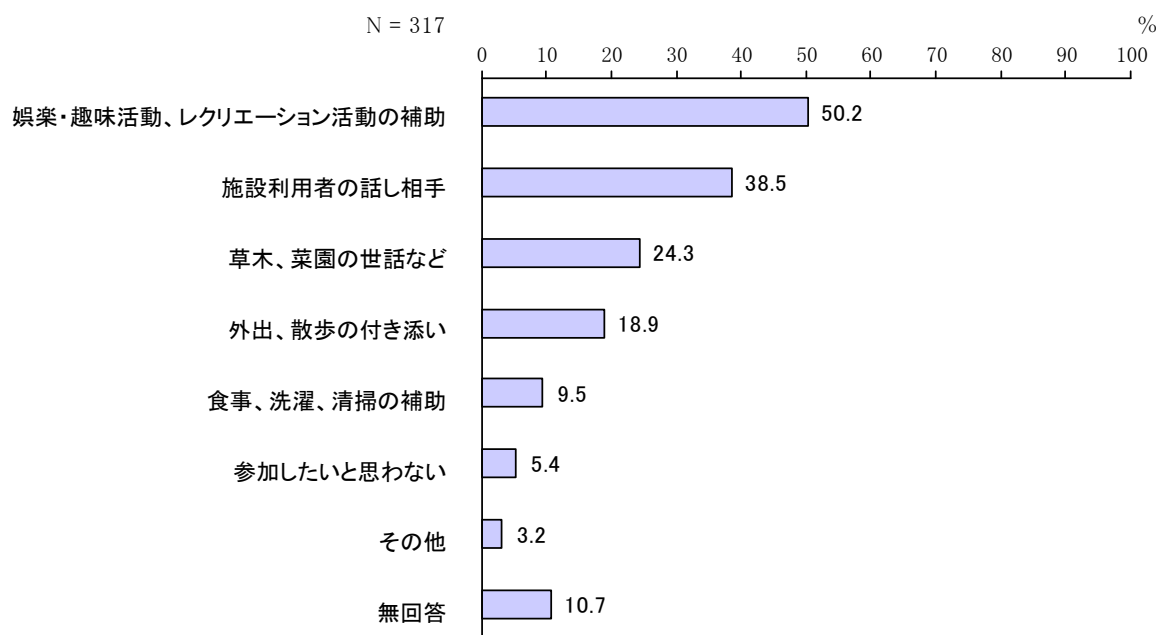
回答者の 3 割強が「貯まったポイントに応じて、介護保険料に充てる」(32.2%) を挙げており、次いで2割強が「貯まったポイントに応じて、商店街などの買い物券と交換する」(22.4%)、1割前後が「貯まったポイントに応じて、高齢者おでかけバスカードへ入金する」(10.4%)、「貯まったポイントに応じて、市の有料施設の入場券と交換する」(8.8%)、「貯まったポイントに応じて、現金に換金する」(5.4%) を挙げています。一方、「無回答」が 11.7% となっています。



問 24-3 (問 24 で 1 か 2 を選んだ方) 本市で介護支援ボランティア・ポイント制度を導入した場合、あなたならどのようなボランティア活動に参加したいですか。(以下の設問は、介護施設でボランティア活動を行うことを想定した活動メニューです。65 歳未満の方は、将来参加したいと思う活動についてお答えください。)
(当てはまるもの全てに○)

- | | |
|---------------|-------------------------|
| 1 施設利用者の話し相手 | 2 娯楽・趣味活動、レクリエーション活動の補助 |
| 3 食事、洗濯、清掃の補助 | 4 草木、菜園の世話など |
| 5 外出、散歩の付き添い | 6 参加したいと思わない |
| 7 その他() | |

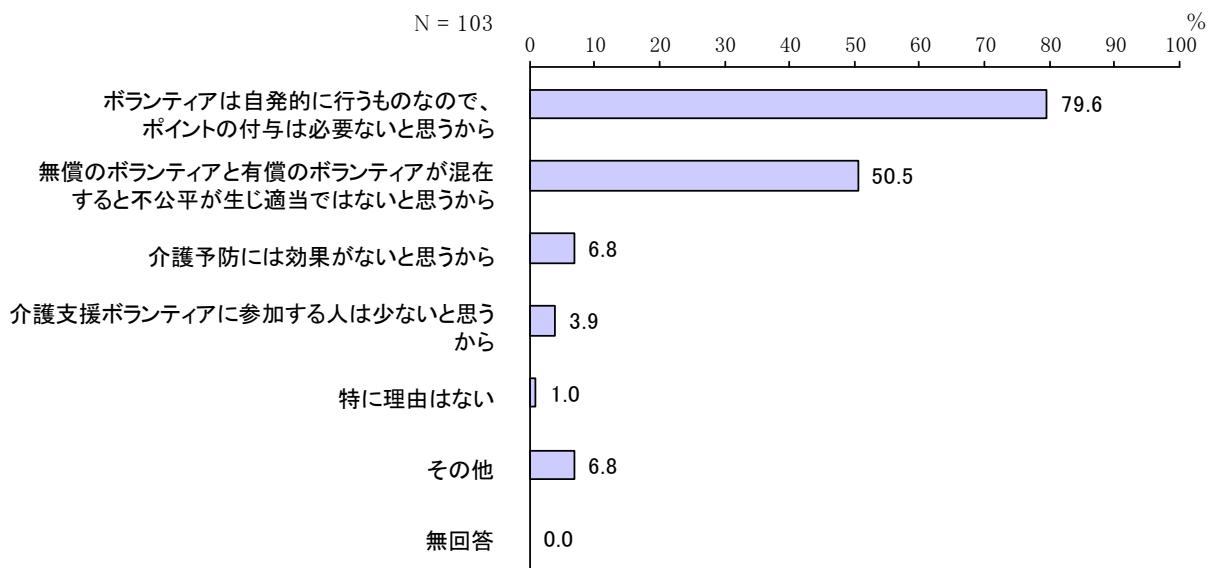
回答者の最も多くが「娯楽・趣味活動、レクリエーション活動の補助」(50.2%)を挙げており、次いで4割弱が「施設利用者の話し相手」(38.5%)、2割前後が「草木、菜園の世話など」(24.3%)、「外出、散歩の付き添い」(18.9%)を挙げています。



問 24-4 (問 24 で 3 か 4 を選んだ方) 制度を導入すべきでないと思う理由は何ですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるもの全てに○)

- 1 ボランティアは自発的に行うものなので、ポイントの付与は必要ないと思うから
- 2 無償のボランティアと有償のボランティアが混在すると不公平が生じ適当ではないと思うから
- 3 介護予防には効果がないと思うから
- 4 介護支援ボランティアに参加する人は少ないと思うから
- 5 特に理由はない
- 6 その他()

回答者の最も多くが「ボランティアは自発的に行うものなので、ポイントの付与は必要ないと思うから」(79.6%)を挙げており、次いで5割強が「無償のボランティアと有償のボランティアが混在すると不公平が生じ適当ではないと思うから」(50.5%)を挙げています。一方、「介護予防には効果がないと思うから」(6.8%)、「介護支援ボランティアに参加する人は少ないと思うから」(3.9%)は1割未満となっています。

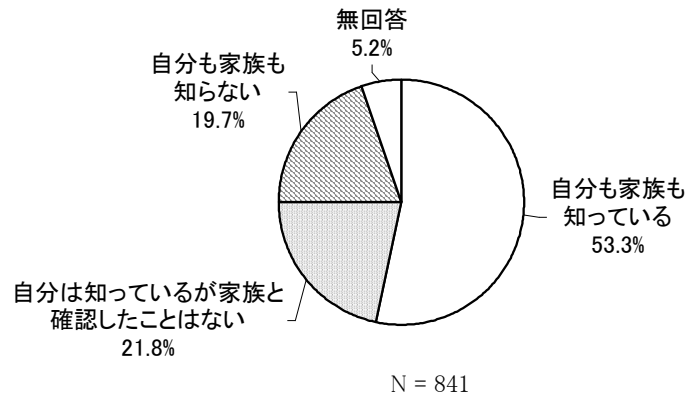


問 26 あなたは、自然災害などのとき避難する場所を知っていますか。また、ご家族がある場合、みなさんが同じ場所に避難することを確認しあっていますか。
(いずれかに○)

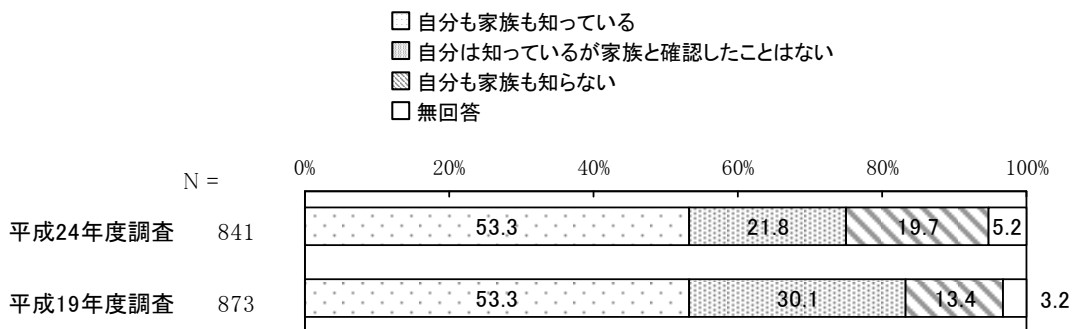
- 1 自分も家族も知っている 2 自分は知っているが家族と確認したことはない
3 自分も家族も知らない

「自分も家族も知っている」が 53.3%、「自分は知っているが家族と確認したことはない」が 21.8%、「自分も家族も知らない」が 19.7%となっています。

前回調査（H19、市）と比較してみると、「自分も家族も知っている」の割合に変化はありませんが、「自分は知っているが家族と確認したことはない」の割合が 8.3 ポイント減少し、「自分も家族も知らない」の割合が 6.3 ポイント増加しています。



【前回調査（H19、市）との比較】

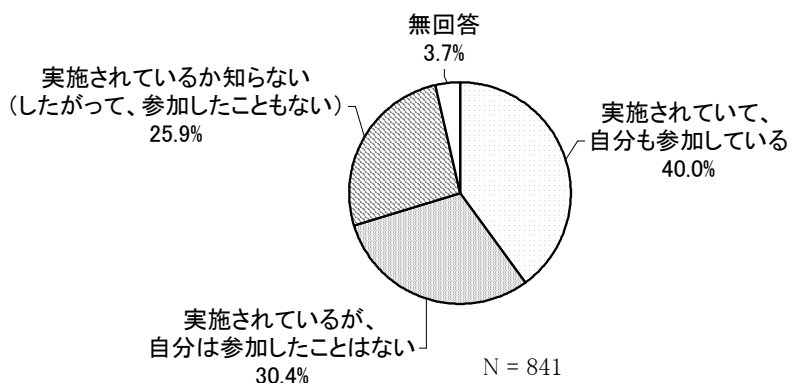


問 27 あなたの住む地域では、防災訓練などは実施されていますか。また、あなたは参加していますか。(いずれかに○)

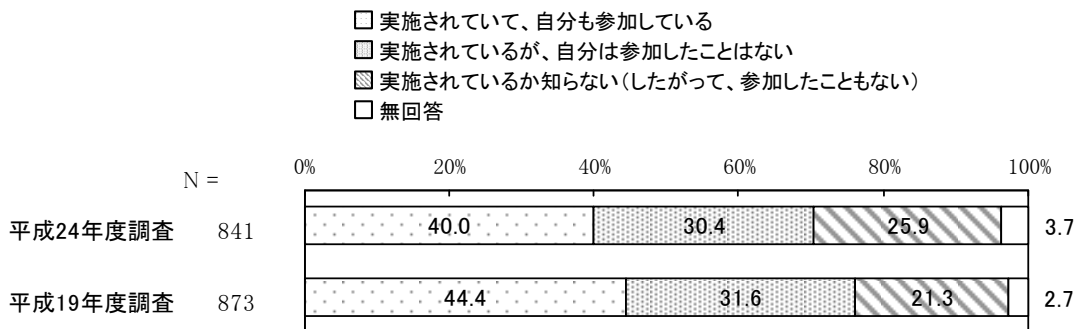
- 1 実施されていて、自分も参加している
- 2 実施されているが、自分は参加したことはない
- 3 実施されているか知らない(したがって、参加したこともない)

「実施されていて、自分も参加している」が 40.0%、「実施されているが、自分は参加したことはない」が 30.4%、「実施されているか知らない(したがって、参加したこともない)」が 25.9%となっています

前回調査(H19、市)と比較してみると、「実施されていて、自分も参加している」の割合が 4.4 ポイント、「実施されているが、自分は参加したことはない」の割合が 1.2 ポイント減少し、「実施されているか知らない(したがって、参加したこともない)」の割合が 4.6 ポイント増加しています。



【前回調査(H19、市)との比較】



(9) -2 緊急医療情報カードの活用について

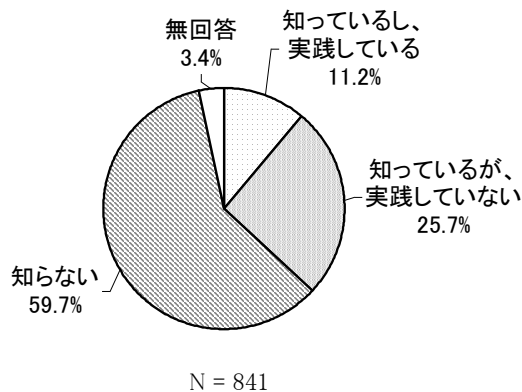
本市では、個人レベルでも実現可能な万一の「緊急事態への備え」として、災害や急病などで自宅から救助されることとなった場合に備え、救急隊員や搬送先の医療機関が必要とする情報（住所・氏名・年齢・血液型・持病・アレルギーの有無・服薬情報・受診中の医療機関・緊急連絡先など）を記載した「緊急医療情報カード」を冷蔵庫などの災害時でも壊れにくい場所に保管することを推奨しています。そこで、緊急医療情報カードに対するあなたのお考えについてお尋ねします。なお、緊急医療情報カードは「お助けマーク」「命のバトン」等と呼ばれている場合もあります。

問 28 あなたは緊急医療情報カードを知っていましたか。また、緊急医療情報カードの保管を実践していますか。(いずれかに○)

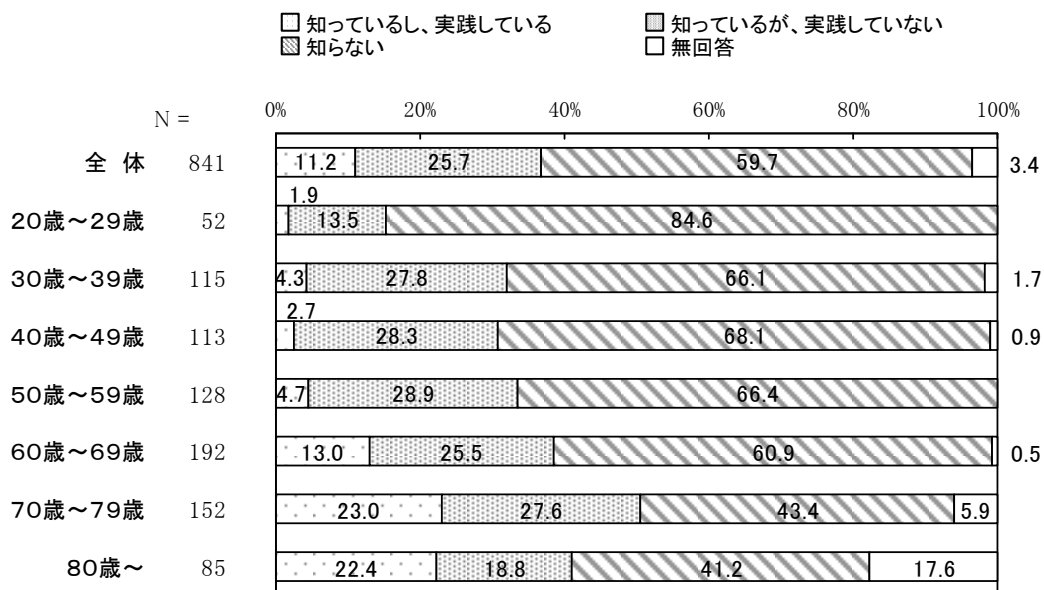
- 1 知っているし、実践している →問28-2へ
- 2 知っているが、実践していない →問28-2、3へ
- 3 知らない

「知っているし、実践している」が 11.2%、「知っているが、実践していない」が 25.7%、「知らない」が 59.7%となっています。

年齢別にみると、「知っているし、実践している」の割合は、20歳代（1.9%）から50歳代（4.7%）までは1割未満に留まっていますが、60歳代（13.0%）で1割強、70歳代（23.0%）、80歳代（22.4%）で2割強となっています。また、「知っているが、実践していない」の割合は、30歳代（27.8%）から70歳代（27.6%）までは3割弱であり、20歳代（13.5%）で1割強、80歳代（18.8%）で2割弱となっています。

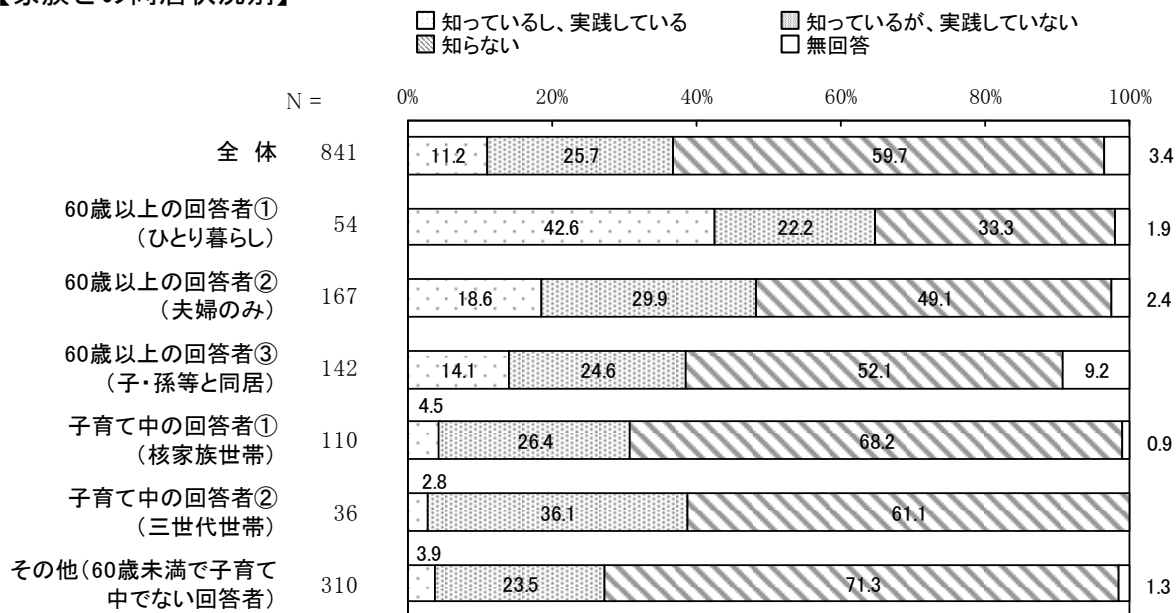


【年齢別】



家族との同居状況別にみると、「知っているし、実践している」の割合は、60歳以上の回答者①(ひとり暮らし)で4割強、60歳以上の回答者②(夫婦のみ)で2割弱と、全体平均(11.2%)の1割強より高くなっています。

【家族との同居状況別】

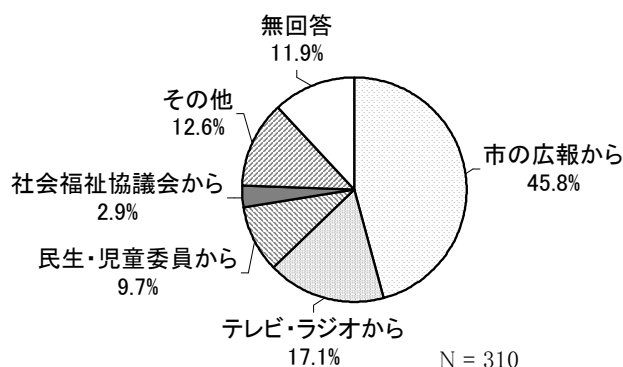


問 28-2 (問 28 で 1 か 2 を 選んだ方) 緊急医療情報カードのことをどこで知りましたか。(いずれかに○)

- 1 民生・児童委員から
- 2 社会福祉協議会から
- 3 市の広報から
- 4 テレビ・ラジオから
- 5 その他 ()

「市の広報から」が45.8%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオから」が17.1%、「民生・児童委員から」が9.7%となっています。

なお、この質問に対し回答者の1割強が「その他」を挙げています。「その他」()欄への記入は31件あり、その主なものとして、[自治会]が8件、[家族/友人]が7件、[介護施設/病院]が4件ありました。

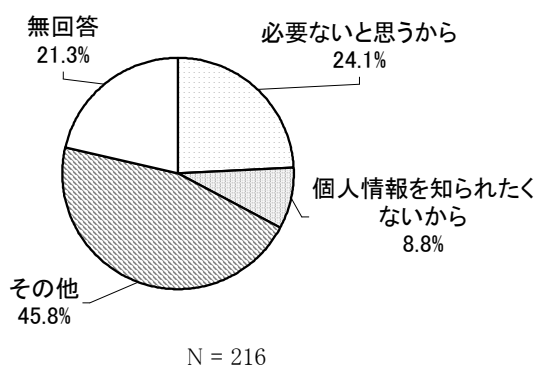


問 28-3 (問 28 で 2 を選んだ方) 緊急医療情報カードの保管を実践していない理由は何ですか。(いずれかに○)

- 1 必要ないと思うから 2 個人情報を知られたくないから
 3 その他()

「必要ないと思うから」が 24.1%、「個人情報を知られたくないから」が 8.8%となっています。

なお、この質問に対し回答者の最も多くが「その他」(45.8%)を挙げており、「その他」()欄への記入は 73 件あり、その主なものとして、[今は必要がない/あった方がよいと思う/持病等がない]など、一定程度の必要性は認めつつも実践にはいたっていないことを示唆するものが 34 件、[カードが手元にない/あれば利用したい/知らなかった]など実践する機会が与えられていなかった(様式の配布などの働きかけがあれば実践する)ことを示唆するものが 23 件ありました。



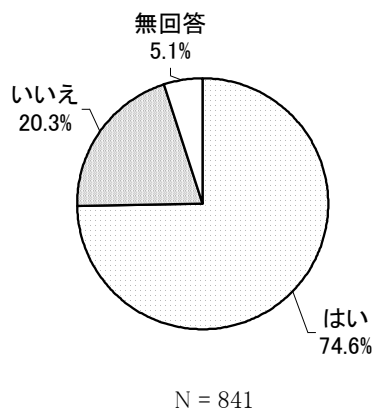
問 30 あなたは、(将来的に自分がひとり暮らし高齢者等の災害時要援護者となったときも含めて) 災害時要援護者名簿に登録したいと思いませんか(登録していますか)。(どちらかに○)

1 はい

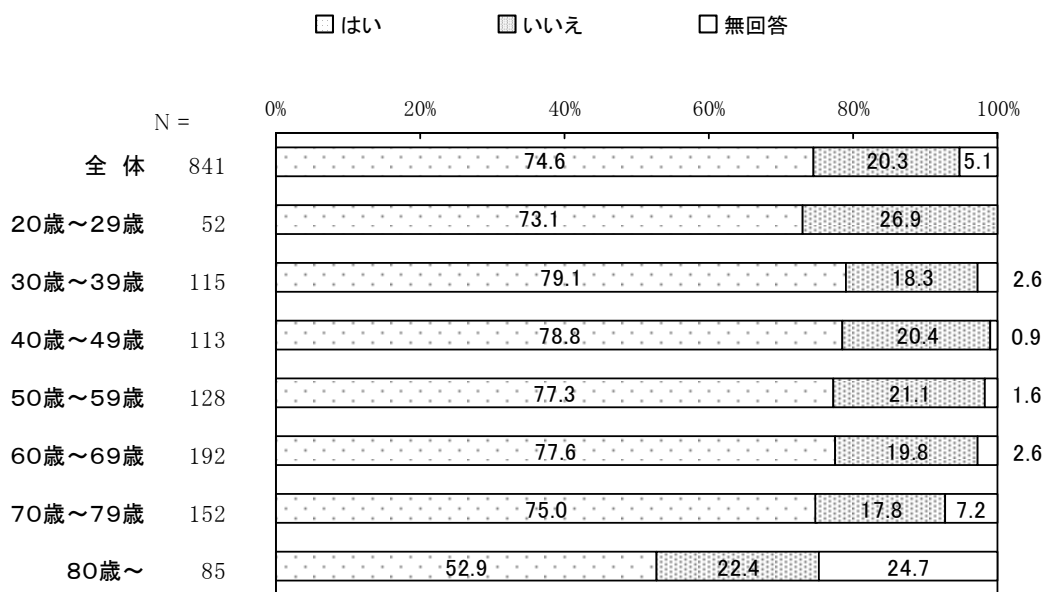
2 いいえ →問30-2へ

「はい」が74.6%に対し、「いいえ」が20.3%となっています。

年齢別にみると、「はい」の割合は、20歳代(73.1%)から70歳代(75.0%)にかけては全体平均(74.6%)との差は数ポイントに留まっていますが、80歳代(52.9)では2割強下回って低くなっています。

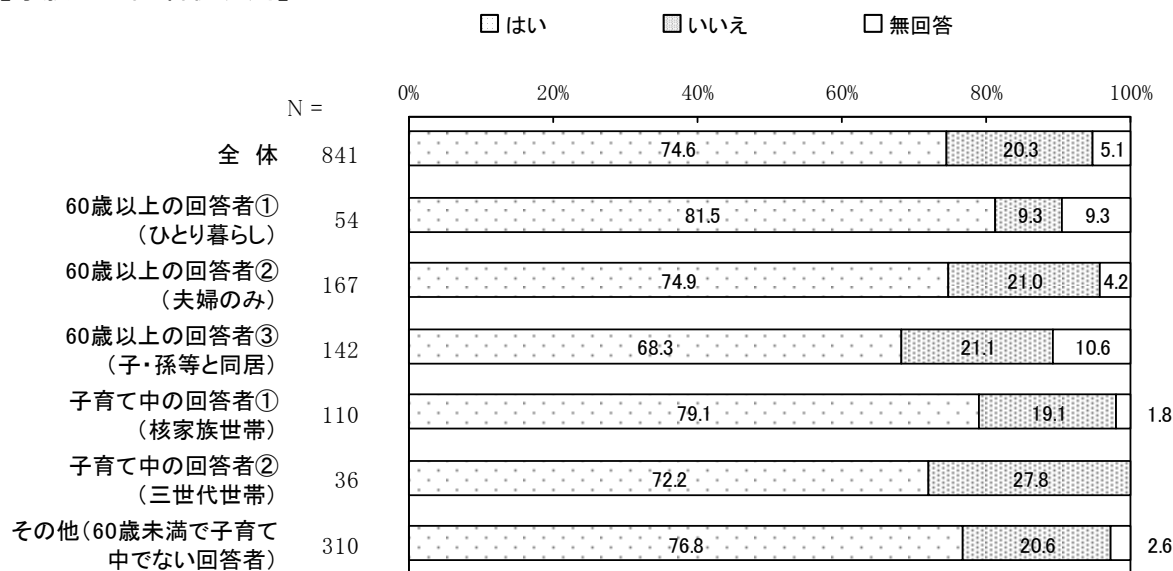


【年齢別】



家族との同居状況別にみると、「はい」の割合は60歳以上の回答者①(ひとり暮らし)(81.5%)、子育て中の回答者①(核家族世帯)(79.1%)が8割前後であり、これら以外は7割前後となっています。

【家族との同居状況別】

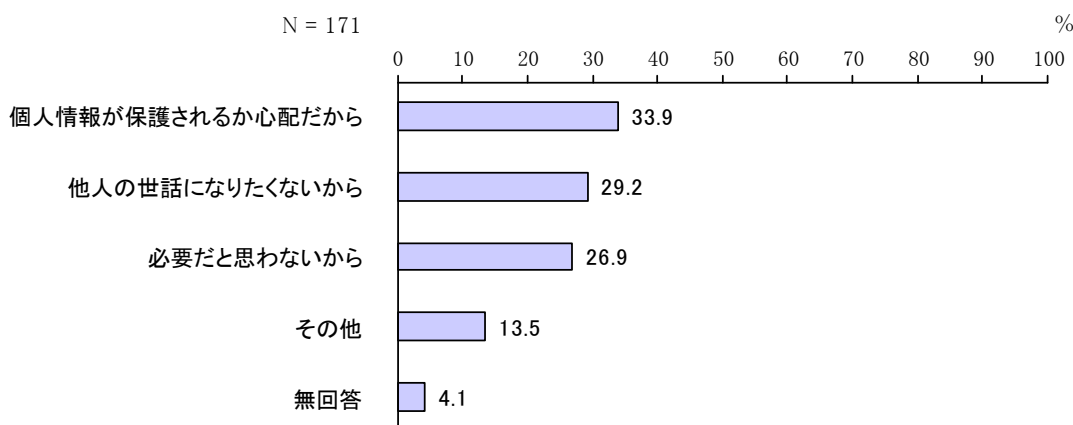


問 30-2 (問 30 で 2 を選んだ方) 登録したくないと思う理由は何ですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるもの全てに○)

- 1 個人情報保護されるか心配だから
- 2 他人の世話になりたくないから
- 3 必要だと思わないから
- 4 その他 ()

回答者の3割前後が「その他」を除く全ての回答選択肢を挙げており、「個人情報保護されるか心配だから」(33.9%)、「他人の世話になりたくないから」(29.2%)、「必要だと思わないから」(26.9%)を挙げています。

なお、この質問に対し回答者の1割強が「その他」を挙げています。「その他」()欄への記入は10件あり、その主なものとして、[家族がいるから/なるようにしかならない/まだ意識していない]などそれほど必要性を感じていないことを示唆するものが5件ありました。

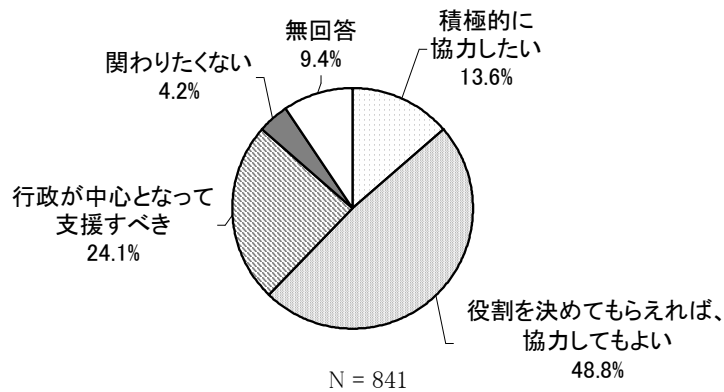


問 31 災害時要援護者の避難支援に関して、あなたの考えに最も近いものを一つお選びください。(いずれかに○)

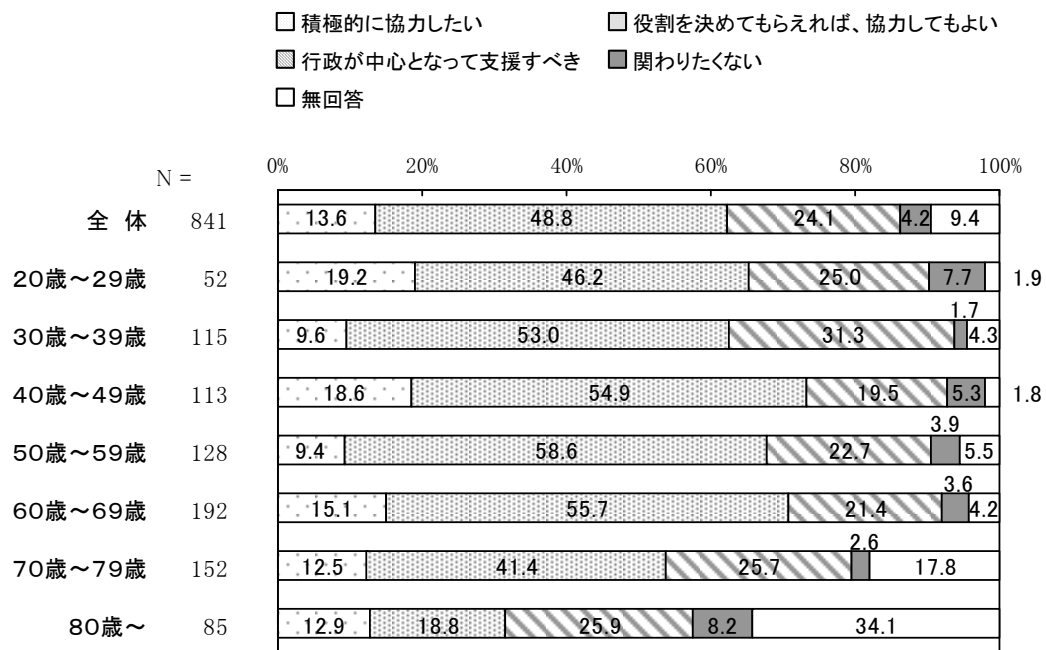
- 1 積極的に協力したい
- 2 役割を決めてもらえれば、協力してもよい
- 3 行政が中心となって支援すべき
- 4 関わりたくない

「積極的に協力したい」(13.6%)、「役割を決めてもらえれば、協力してもよい」(48.8%)のように“協力する”とする回答が6割強となっています。一方で、「行政が中心となって支援すべき」が24.1%、「関わりたくない」が4.2%となっています。

年齢別にみると、“協力する”とする回答の割合は、40歳代から60歳代にかけて7割前後となっており、全体平均の6割強を1割前後上回って高くなっています。



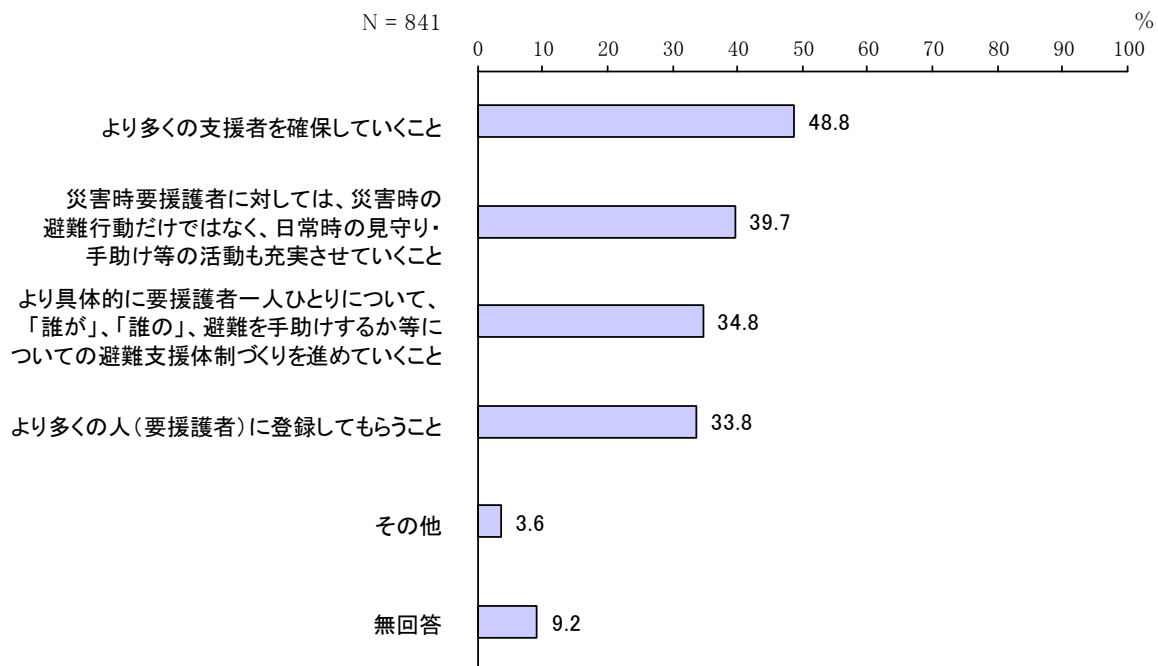
【年齢別】



問 32 災害時要援護者名簿を活用し、地域で取り組むべきことは何だと思えますか。
あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるもの全てに○)

- 1 より多くの人（要援護者）に登録してもらうこと
- 2 より多くの支援者（避難の手助けをする人）を確保していくこと
- 3 より具体的に要援護者一人ひとりについて、「誰が」、「誰の」、避難を手助けするか等についての避難支援体制づくりを進めていくこと
- 4 災害時要援護者に対しては、災害時の避難行動だけではなく、日常時の見守り・手助け等の活動も充実させていくこと
- 5 その他（具体的に)

回答者の最も多くが「より多くの支援者（避難の手助けをする人）を確保していくこと」（48.8%）を挙げており、次いで4割弱が「災害時要援護者に対しては、災害時の避難行動だけではなく、日常時の見守り・手助け等の活動も充実させていくこと」（39.7%）、3割強が「より具体的に要援護者一人ひとりについて、“誰が”、“誰の”、避難を手助けするか等についての避難支援体制づくりを進めていくこと」（34.8%）、「より多くの人（要援護者）に登録してもらうこと」（33.8%）を挙げています。



(10) その他

問 33 岐阜市の地域福祉を推進していくために、必要なことはなんだと思いますか。
(自由記述)

① 地域（近所）の人のつながり（絆）について

- ・日ごろの近所付き合いが大切だと思います。アパートだからかもしれませんが、アパート内では、挨拶し合えるのに、近所の方々は挨拶を返してくれません。これでは助け合うことはできないように思います。(30代 女性)
- ・声かけ、挨拶は必ず行っています。子供さんが居る家、高齢者宅を月1回は訪問。連絡をとり何か困っていることがないかなど聞いてあげることが必要ではないかと思います。孤独死が一つでもなくなるように周囲との絆を持てる社会を築きたいと切に思います。(60代 女性)
- ・昔からの付き合いのない人達が多いため、心から話し合える事ができないのかも知れません。世の中の流れで人間を見れば気をつけろ、子供には、他人にしゃべらないなど、本当にやりにくい世の中になったと思います。(60代 女性)
- ・地域の中で協力することだと思います。(60代 女性)
- ・これからは高齢化がきます。ますます進んでいくと思われるが、地域の中での助け合いは非常に大切になってくると思います。プライバシーの問題はありますが、適度な近所付き合いは必要だと思います。(40代 女性)
- ・全く近所付き合いがなく、知らないことばかりでびっくりです。いざと言う時、本当に心配ですが、一生懸命がんばって生きて行きたいと思います。(50代 女性)
- ・出来るだけ隣近所が親しく付き合うことだと思いますが高齢になると、自分のことだけで精一杯で出来るだけ迷惑を掛けないように心掛けています。(70代 女性)
- ・すでに私は高齢者であり、一人暮らしですが一番大事なことはお隣同士が交流を大切にしていくことだと思います。私の地区では、福祉も民生委員の方々にお世話していただけるので、ありがたいです。(80歳以上 女性)
- ・近所の人達との付き合い。また、お互いが助け合い、協力することが大切だと思う。(20代 男性)
- ・地域の関わりが大切。自分が子どもの頃は近所の人と関わりが多くありました。自分の親も近所の人と助けあっていました。今は働く女性も多いためか関わりがうすいような気がします。近所の人と助けあっていくことが大切だと思います。(30代 女性)

② 地域活動について

- ・自治会など今ある組織には、あまり参加したくない。プライバシーも保てないし、あえて付き合いもしたくないからです。また 他の地域からの転入で岐阜弁が苦手であり、街に魅力を感じない。行政の窓口をもっと明確にしてほしいです。また、自治会だけを組織の末端として位置づけることだけは、やめてほしいです。転入してきた時に、強制的に脅されて参加させられたという思いが強く、とても嫌な思いもしました。(50代 女性)
- ・今年 64 歳で一人暮らしですが、自治会入会の誘いもなく、アパートだから岐阜市の広報も回ってこないの、情報が乏しく困っています。自治会に入っていないなくても 65 歳以上の独居老人の確認は出来ているのでしょうか。まだ地域社会に役立てる素養はあると思っていますが、地域での窓口が分からないので分かるようなシステムを構築して貰いたい。(60代 男性)
- ・消防団の活動で感じるが、このままいくとやり手がいなくなる。小学校(合渡)では、PTAがポイント制度で役員になるか、親父の会の参加を強制しているが、消防には自治体の強制力 協力が弱い。団員が技術を身につけ、入れるからこそ災害の時の活動可能な人間(この場合OB)も増えるが、実際は消防も水防も高齢化していくのではないかと思う。また、地域行事の人数確保に使われることが多いことも、なり手に嫌われる要因となっている。ボランティア関係を含み、地域のルールをしっかり決めて欲しい。(30代 男性)
- ・地域の民生委員また自治会会長等、役持ちの人達また市から委嘱のされた人達によって活動して頂き、地域住民はその人達に従うよう各体制を作り、個人個人で自分のことは自分で守るとの考えを持たないと行政頼りが多すぎます。行政頼りになれば、その分税金として外の人達に負担がかかっていきます。行政は委嘱した人達の活躍によって福祉等々全てにおいて税と考えることをもっと考えて欲しい。自分勝手な考え方によって、おせっかいだったり、余計なお世話になったりと考えられる人が多く見受けられます。本当に大切な事は、本人がどこまで素直な気持ちで相手に話すか、

本心で接する気持ちが、一番大切だと思います。(70代 女性)

- ・岐阜市には助けあう、組織、自治会が充実しているので、会員増（アパート、マンション）を図っていききたい。民生委員や自治会長が一層の活躍をしてもらえば強く推進力となる（会長さん達の若年化を図りたい）(80歳以上 男性)
- ・各自治会の中で深く相談し、若い活動できる方が主だって考えて行動に進めてほしい。(70代 女性)
- ・自治会費会計が、本当にどのように活用されているのかわかりません。田んぼがないのに下水道を使用しているのにもかかわらず、ドブ掃除を他人の田んぼまでやらされる。草取りも。婦人会も強制しすぎる。婦人会を抜けるなら、自治会を抜けることだと脅された人もいる。同じ地域にいるのにアパートは関係ないのはおかしい。(50代 女性)
- ・私の地区も老人が多く、当班は10戸ある中で子どもは1件で2人の小学生のみ。1人住まいの方が2軒、2人住まい3軒、3人住まい3軒、4人住まい2軒。男性は40代2人、50代1人、60代1人、70代2人。女性は10代2人、30代1人、40代2人、50代2人、60代1人、70代1人です。40、50代は仕事で精一杯、時間もゆとりがないと思う。このような所が平等ではないのでしょうか。自治会の役員も拒否され、毎年選挙でもめまします。前述の運動会も同様に人が集められません。世間一般的な現象だと思います。(70代 男性)
- ・地域住民同士もっとつながりを持つことが大切だと思います。アパートの住人は自治会に入会がないため災害時や福祉を推進していくのに妨げになると思いますから自治会に入会することが必要だと思います。顔見知りが多くできるとよい。近所に気軽に集える場所をもっと多くつくり、いつでも出かけられる所を提供してほしいです。(60代 女性)
- ・2年前、自治会長を2年間やりました。これにより社会福祉協議会（地域）や防災訓練や地域の消防隊に参加しました。これにより思ったことは、自治会の役員になればやる、その他の人は大体のことに「逃げてしまう」無関心であります。目立たない性格の人は自治連合会の役員になりますが、一般の住民の人は、無関心の人が多いです。できれば自治会の役員にならなかつたら後は知らないという傾向です。個人情報との関係もあり、まず人と人とのつながりが必要ですのでこのバランスではないのでしょうか。(60代 男性)

③ 「孤立」することの問題意識について

- ・高齢者でも、まだ元気で体が動く人は、娯楽を望む人もいれば、楽しんでいるように見えて孤独を感じている人もいます。貯金がたくさんあっても、将来が不安でたまらない方も居る。アンケートも大切だがデスクばかりではなく現実の声をあなた方がもっと生の声、現場で聞くべきだと思います。(30代 女性)
- ・高齢者の孤立や孤独、幼児への虐待など、ニュースで毎日のように報道されていますが、一つの理由として、住民も含めて家族の形態が変化したこと、にあると思う。老人の場合は、特に近所の付き合いを全くしないという例もあり、孤立死につながる危険な状況に落ち込みやすく、若い母親などは子育てに悩みがあっても相談できない環境にある人が多くあるという事を耳にすることがあります。ふれあいサロンなどのような世代を意識しない場所があり、そこに誘ってくれる人がある。そして何時も誰かが見守ってくれる環境を行政や街、地域でつくっていく必要があると思います。(50代 女性)
- ・今は親子関係も薄れ教育も進み都会へ就職する子どもが増えて、離れた生活をする事で親のことでまで見られなくなり、老夫婦だけになり2人で居る内はよいですが、1人生活になると大変で不安です。(80歳以上)

④ ご近所同士の見守り・助け合い活動について

- ・昔のような近所づきあいは共働き夫婦には負担でしかなく、地域住民を中心にした活動より、地方自治体の公的援助を充実させてほしい。またプライバシーや個人情報の保護等が言われている中、他人の生活にどこまで踏み込んでよいのか分からないため、こちらも市役所や保健所等が介入していくべきだと思う。(30代 女性)
- ・独り暮らしの老人及び身体的に具合の悪い人がいるところの人は向3軒両隣の住民が温かく見守り行動をすることが大切だと感じます。同じ町内であっても遠方の住人には困っている人の状況を把握できないと思います。(60代 男性)
- ・自分の体が元気で健康な人であれば助け合いの心を忘れないことだと思います。助け合いがしたくても自分自身が足や腰が悪かったら出来ないと思います。私もその一人です。(70代 女性)
- ・高齢者に対する見守り、支援が大切。(60代 女性)
- ・高齢者・障がい者・支援を必要としている人への理解を深めること。特に今後は、日常の買い物を

どう支援するかが大変大事な問題です。商店が大型化して、地域から遠のいてしまっている所が多くあります。多くの問題を自治会、地域に丸投げしているような所もあると思います。行政がもう少し積極的にかかわってほしいと思います。財源の問題もあると思いますが。(60代 男性)

- ・当たり前のことですが、あいさつ、声かけが一番大切なことだと思います。(60代 女性)
- ・遠くの親戚より近くの他人ということわざもあるように日頃のあいさつ、声かけ、笑顔が人間関係をよくし、小社会ができ、生活環境がよくなると思う。皆が気を付けなくてはいけないと思います。(80歳以上 女性)
- ・基本は、個人で各自自己管理。無理な部分を行政に助けてもらうべき。「助け合い」の意味をはき違えている人が多い気がする。「高齢だから何もできない。かわいそう、子どもがいるから助けられてあたり前、すべてを国がすべき」ではなく、自分ができることはしっかりと。無理なく集まれば、問題も起きにくいと思われます。(30代 女性)

⑤ ボランティア活動について

- ・このアンケートが届いて初めてこのような取り組みを知りました。私たち市民の意識や認識を高めるために常に情報の発信が必要だと思います。関心を持つためのきっかけ作りとして各種講座やボランティア体験など、今は仕事に従事し余裕がないと思っている私たち世代もあと数年で定年、その後生き方としてボランティア活動に目を向けている人は少なくないと思います。そういう人が参加できる週末や祝日などの開催もコストはかかっても実施していけば様々な人が参加できる。支援の輪が広がっていくと思います。リーダーの育成や地域と行政の情報を共有化、各種団体のネットワークなど支援する仕組み作りも並行して整備し、誰でも分かりやすいサービスの提供を心がけていけばよいと思います。これを機にもう少し関心を持とうと思いました。(50代 女性)

⑥ 災害対策について

- ・日常会社勤務、たまの休日ぐらいいはゆっくりしたいのが本音です。現実には自分自身の自宅、両隣の方については最低限のコミュニケーションをとっているつもりです。もし3・11に匹敵する地震などの大惨事が岐阜市内で発生した場合を考えると、やはり地域での助け合うことが大重要ポイントであることは間違いありません。休日返上していても対応策についての真剣な取り組みを行政に中心となってもらい、万が一に備える準備が急務と考えます。もたもたしているうちに大地震が発生するかもしれないことを考えると本当に急務ではないでしょうか。以上よろしく願いいたします。(40代 男性)
- ・アンケートの中で災害対策について知らないことが多い。もっと積極的に広報すべきである。ハザードマップを配布して欲しい。(60代 男性)
- ・私ども夫婦は高齢のため人のために役立ちたいと思っても自分自身の体が思うように動きません。息子夫婦と同じ敷地(別棟)に住んでいますが、昼間はひとり住まいの人と同じです。他県の避難命令などの時の話をテレビで見ていると何を用意したらと思いつつ出来ません。具体的に町内などで教えて頂いたら出来ると思います。そういう指導もお願いします。少しでも自分で出来ることは自分でやりたいと思います。(80歳以上 女性)
- ・災害時緊急避難場所で行政担当官の配置を決めて的確な対処指揮を行う。(情報の混乱による不要な行動ロスを生じないこと。)(70代 男性)
- ・一人暮らしの高齢者の方や災害時援護を必要としている方の見守り隊として自治会の方からボランティアの募集がありました。災害時の援護と日常時の安否の見守りとは性質が異なり、関わるボランティアのメンバーもおのずと異なってくると思います。私もその辺のことが理解できなくて、募集に応じることができませんでした。もう少し具体的な役割分担の説明がないと、この活動は進展しないと思います。(60代 女性)
- ・日頃から地域の方々と声をかけ合い、コミュニケーションをとっておくこと。地域の自治会で災害時は誰がどの人の手助けをするか決めておくことも必要で、前もって顔見知りになってどんな手助けが必要か情報の交換が必要です。1人に1人の手助けでは都合が悪かったり、外出して地域にいないこともあるので2～3人の組で1人の人の手助けにいけるシステムづくりを行政が後押ししてくださるとよいかと思ひます。(50代 女性)

⑦-1 地域福祉活動の担い手として「活動の必要性について」

- ・行政の行っている内容、活動を知らなすぎでした。ネットなどを確認して勉強したいです。(40代 男性)
- ・今まで余り考えることもなくて、分からないことが多いです。いざという時のために勉強します。

(60代 女性)

- ・知らないことばかりで、私自身がまず関心を持つ必要がある。(20代 男性)
- ・福祉に興味を持ちすべてお互いに協力し合い話し合っって明るい社会を作ることが大切だと思います。自分もいつかはお世話になる事と思います。身近にあって気軽にお世話になり意見が言えるような地域福祉にして頂きたい。(60代 女性)
- ・一人ひとりが、この地域のこと、人々を好きになること。意識して行動に変えていく事。まず 向こう3軒、両隣、仲良くすることからスタート。大人から子供にその姿勢を普通の日常生活の場面で見せていくこと。(50代 男性)
- ・自然災害等については、勤めがあるので、できる範囲で協力し、地域にて、防犯訓練等に参加していきたいと思っています。障がい者に対して、地域の人々の理解がないと安心して私も心が開けない面が多い。特に田舎はその点遅れています。高齢者に対してもそのように思います。地域が話し合っってください、受け入れて頂ければと思います。(60代 女性)
- ・1に健康、2に健康3に健康と思っています。それがあらゆることに対してスムーズに行くことが多いと考えて、個人個人が健康であればどんなこともうまく行くのではないかと考え、老体を励まし仕事に出かけるように努力しています。仕事をやめてから町内の方々とうまく付き合えるか今後年寄りの課題だと思っています。(70代 男性)
- ・一人ひとりのやる気が大切だと思います。(70代 男性)
- ・「地域福祉推進」の市民、住民への啓蒙活動。高齢化社会や、災害、単身世帯の増加に対して、市や地域が抱える課題について、住民が、考える機会を持つこと。このアンケートに答えることは、その一つの機会になったと思います。(50代 女性)
- ・質問に順番に答えていく中で知らないことが多いと気付きました。近所の人や周りの人に頼りたくても気を使って自分で解決していく道を選びそうになりますが、そういうことも含めてみんなで考えていくことが重要なのかなと思いました。行政で見守ってもらったり助けてもらうことも必要です。これからお願いしたいですが、近所同士でできそうなことの情報やノウハウを知らせてほしいです。今までの行政としての取り組んできたことから見えてきたもの、限界を感じることも教えてほしいです。(50代 女性)
- ・自分の地域に、緊急時医療カードや災害時支援対策などあることすら、全く知らなくて驚きました。仕事で忙しいので、地域ことは、全く考えていませんでしたが、本当は考えなくてははいけないと思います。ニュースなどで、他都市のポイント制度など、見聞きしたことはあっても、それを自分の地域にあてがって、考えたことはなかった。(50代 男性)
- ・地域福祉活動がいつ、どのように、どういった方々で行われているか全く知らないため、そういった活動を広めてもらうと、より関心が高まり、参加できることに参加してみてもよいと思いました。(30代 女性)
- ・今の時点ではうちにも年寄りの母がいるので、他のお年寄り等の支援まで考えられるかわかりません。非常時にはもちろん協力し合うことが必要です。(50代 女性)
- ・福祉というとなんか難しく感じますが、一人ひとりが近所の人を気づかえ、助け合え、そういった小さなことが大切で、隣から町内へのような感じで、市、行政につながっていけばよいと思います。それと人を思う気持ちには、精神的にも身体的にもゆとりがないと無理かとも思います。(50代 女性)
- ・困っている人が居ないか一人ひとりが注意すべきだと思います。また、手助けできたらよいと思います。(20代 男性)
- ・年を重ねる人がますます多くなっている今日この頃ですが、お互いに助け合い、まず、地域で一人ひとりがしっかり地域ととけあい、生活しなければいけないと感じます。助けあいながらみんなが幸福に暮らしていけるよう協力できることがあれば、進んで参加したいと思います。(60代 女性)
- ・みんなが人は1人で生きていけないこと、地域との関わりを大切にすることへの意識を持つことだと思います。(20代 女性)

⑦-2 地域福祉活動の担い手として「活動を推進していくためのアイデアについて」

- ・専門機関の内容、連絡方法等について、多くの市民が認知できるよう、積極的に啓発すること。各自治体の活動をお互いに交流し、向上していけるようにすることなどが必要であると思う。区画整理等が進む中で、転居された方と元から住んでいる方の交流も必要であると感じている。(50代 女性)
- ・すべてを市民任せ、行政任せにせず、ある程度分担すべきだと思う。そうすれば、一人ひとりの負

担が減って、みんな参加しやすくなると思う。(20代 女性)

- ・現役を引退された方たちが、ボランティア以外にも収入を得られるような軽度の仕事や就業時間が短かったり融通の効く職場を地域福祉の中から作る。子供たちが小学校から高校まで継続してボランティア活動や、祭り、行事に参加し、当たり前のことと思うようにみんな楽しさも感じられるよう大人達も協力する。(30代 女性)
- ・広報活動。特に身近である自治会を通じての回覧配布によるのがよいと思います。(50代 男性)
- ・自治会の役割分担の確立。(60代 男性)
- ・高齢者がより活発に活動できるような環境作りが必要だと思います。(20代 女性)
- ・老人活動のために公民館とか〇〇〇園で老人を集めて習い事ばかりでなく、元気だけど習うほど元気でもないが歩いて、ただ無駄な雑談がしたいと言った老人の方々もいます。介護施設にも行けず介護保険はばっちり払い、行く所のない元気な老人をもっと大切にしてください。公民館、〇〇〇園という所に雑談に来ませんか、サロンをつくってあげてください。主人 77 歳、私 71 歳で元気です。一人でいろいろな所に行きます。何年後に一人になった時のことを考えます。そのお手伝いは元気な老人ががんばって手伝いましょう。(70代 性別不明)
- ・地域で気楽に集まれる場を持ってコミュニケーションを取って皆身近にいられるようにする。(60代 女性)
- ・様々な取り組みに興味をもってもらうこと、知ってもらうこと。(20代 男性)
- ・自発的なサロンづくり。喫茶店などに一人暮らしの人の昼食やおやつの時間の集まりなどに利用できるよう協力してもらうことはできないか。昔の縁台のような外に腰を下ろしてみんなで話し合うことのできる街の形になるとよい。車社会で通りの立ち話さえ難しい。生き生きサロンも地域の人を活用して、内容を計画したり、主体的に人の力を活用するものであってほしい。どの高齢者も豊かな経験と人生の歩みをもっている。自分たちで工夫した内容で行えることを願う。(70代 女性)
- ・その地区の自治会長を中心にやるのなら、行政と一緒にやるべきなので、月 1 回でも、集まりの場を持ち話し合いをする。(60代 女性)
- ・せめて町内にどのような人が住んでいるか把握すること。(60代 女性)
- ・新しい仕組みも大切ですが、既存のシステムへの参加のきっかけが大切だと思います。私の場合 8 年前に他県から引越してきました。今年の 4 月に子供が小学校に入り、子ども会に入会するまで地域の活動について何も知りませんでした。例えば自治会の存在や入会の仕方すら分からず、市役所から「粗大ゴミは自治会の定める」と言われても誰に聞いてよいか分からず 8 年間業者に頼っていました。このように当市の活動はある程度活発なもの「市民は子供の頃から岐阜市で生まれ育ったもの」という前提で動いているように思います。自治会などの存在を知るための情報すら人づてでは、転入者は余程強い参加の意志がなければアクセスする機会が限られます。このことを工夫して参加へのハードルを下げることも重要だと思います。(30代 男性)
- ・勤務時間を減らして、地域に居る時間を長くする。他人と接することが好きになること。他人の世話をするが苦にならないこと。自分自身の時間がなくなっても苦に思わないこと。(50代 男性)
- ・仕事をもっている人に期待は出来ない。リタイアした人の参加を呼びかけること。半強制的な参加は続かない、ゆるやかなつながりが大事。(40代 男性)
- ・「支え合い、助け合って築く豊かな暮らし」を将来の生活イメージとして持ってきた高齢者には、現在の社会、経済状況は非常に厳しく、核家族化が進み更に「孤独感」を身にしみじみ感じる昨今です。「遠い親戚より近くの他人(隣人)」とよく言われていますか、これからの生活では、とても重要な言葉に思える。各地区における自治会が活動の核となり、そしてその活動を行政が支え「人とひとのつながり」が大切であると言う輪を広げていったらよいと思う。高齢者は体力的に弱くなり、外へ向けて進むより、こもる傾向が強くなるので「声かけ運動」の充実を考えて頂きたい。(60代 女性)
- ・机の上の話でなく、多種多様な情報交換を進め、より現実にあった地域福祉を目指すべきです。時代が変わりちょっとした事でも、また考えられないような事で文句や不平をいう人が増えている中、理想の社会福祉は考えられない。一人ひとりが自分を見直すことから始め徐々にその意識を広げていく事が必要で、そのような働きがけをしていくべきだと思います。(40代 男性)
- ・声をかける気持ちを持つことも必要だと思います。(50代 女性)
- ・7月6日夜8時、テレビで団塊スタイルというのを見ました。定年後の会員が100人くらい見えてお助け隊というのをやっていた。こういうのをモデルとして実施して欲しい。私は85歳ですので何も出来ません。皆さんにお助け頂ければ幸いです。よろしく。(80歳以上 女性)
- ・地域の声を聞く事。このアンケートに答えるまで意見を伝える事もなく、情報も知らないことが多

かった。こちらから積極的に動かなければ情報に触れる事もないのでもっと身近に感じられるとよいと思います。方法は分かりませんが、「アンケート」をとるというのは、よい方法だと思いました。それ以外にネットでもよいのではないかと思います。(30代 女性)

- ・高齢者に対しては、行政、自治会と高齢者の中でも活動的な方を中心に、スポーツ、文化などを交えて孤立感をなくし、要介護の進行の軽減をやっていって欲しい。子育てについては、地域のスポーツ少年団を最大限活用して、大会の数を増やしたり、競技以外での交流をつくったりすること。その際に親の協力がないと入団しにくい団もあるので、お茶当番や試合会場まで配車等その所の基準を緩和してあげると参加しやすい。(40代 男性)
- ・地域に安価で気楽に行けるティールームを設けてもらってそこへ行けば誰かと会えておしゃべり等が出来る場所があるとよいと思います。たとえばコーヒー等 200 円位で。(60代 女性)
- ・地域ごとの活動・課題等の話し合いの場や、各家庭・個人への認知の方法の工夫。参加意識を向上させるための工夫。(30代 男性)
- ・定年退職された方で、お元気な方が見えると思いますので、その方達が、手伝いできる用なシステムをつくったら、よいのではないですか。(50代 女性)
- ・広い世代が、参加できる催しを行い、協力体制をつくりあげていくこと。(30代 女性)
- ・一人暮らしの方に対して毎日訪問して何も問題がないか確認出来るように、町内会で作るようにする事が大切であると思う。(60代 男性)
- ・若い人に興味を持たせること。若い人が地域福祉になぜ関わりたくないか考えるべき。(30代 女性)
- ・地域住民が仲よくなること。あいさつ・会話・価値の共有・地域活動への自己負担の覚悟。(50代 男性)
- ・岐阜市は地域福祉に力を入れていますか。他市より弱いのではないのでしょうか。広報だけではなく、コミセン、公民館等でまずは役員（自治会長、自治会役員、各種団体）を対象にした会合の場があればよいと思います。(40代 男性)
- ・家の中ばかりで過ごしていると、外に出て歩くのが億劫になり、家に籠もるようになります。1週間に1回でもよいから、昔話をしたり、笑うこともできるような場所をつくっていただくよう、老人会でも企画してもらおうとよいですね。(70代 女性)
- ・今後、ますます高齢化が進み自分たちがその中に入っていくことなのですが、今 50～60 歳で仕事を持っていて、なかなか地域のことには取り組めない。でも 60 歳定年を迎え、その後何をするのか、地域の中でどう生活していくのか。年金生活になるので、有償ボランティアや、元気ならば何か働ける所があれば働ける環境であってほしい。夫婦で居るうちはまだよいが、1人暮らしになったら淋しくなるから自治会の中にミニ支援センターのような所があったら。(50代 女性)
- ・まず財源の確保が必要だと思います。次に人材です。国・県からの補助というよりも、市民の自力の活用を図るようなことです。例えば、60～75 歳代の人はまだ体力・知力があり、機会があれば活動したいと思っている人はかなり見えると思います。ただその入口がわからないのです。企業についても、老人・若人・男・女の総合体で立ち上げるようなこと。やはりそういったオリエンテーションが必要だと思います。皆地域福祉を進めたいと思って見えるのではないのでしょうか。そういったきっかけ、働きかけを行える市民的リーダーが必要だと思います。(60代 女性)

⑦-3 地域福祉活動の担い手として「活動を推進していく上での課題について」

- ・情報が少ないことでどうすればよいか分からない。時間のゆとりがあれば協力したいのですが、仕事をしている間はムリだと思います。(50代 女性)
- ・個人によっては、個人情報を知られたくなく、誰に頼んでよいか分からないと言う方がかなり多いようです。従って基本となることに関しては、行政が行うことが大切だと思います。介護支援を受ける方も行政の方だと信頼できて、安心できるのではないのでしょうか。(70代 男性)
- ・地域に困っている人がいても、気軽に相談できるところが少ない。特に高齢者は自分からどこに行き相談するか、できる人が少ない。民生委員さんだって限界があるので、気軽に相談できる窓口が地域の中にもいくつもあるとよいと思います。問題が解決すれば、住みやすく、安心できる地域になっていくのではないのでしょうか。(30代 女性)
- ・「個人情報の保護」が必要以上に叫ばれることによって、連帯感を著しく阻害していると思う。独居高齢者の中には、自分から外部(地域)との交流を拒否する人が多く、取り付くことがない。それでもなお地域で責任をもつのは酷です。(70代 男性)
- ・地域の小さな活動ですら、参加しない家庭が増えてきている。人のために尽くす、貢献するという意識と行動力が希薄になってきているのを年々強く感じるようになってきている。この状態で実の

ある愛情のある活動、日常生活の中に当然のように存在している地域をどのように構築していくか、大きな課題だと思う。(70代 性別不明)

- 基本的に若い人が参加できるような体制がない。仕事や他の予定などで時間がないことを理解して頂いた上で、若い世代が参加できるような取り組み、仕組みを考えて頂きたい。何かに参加する、と言うようなことでなく、参加してもつなげるような取り組み。(30代 女性)
- 本人の意思の尊重。プライバシーの保護。個人と行政の適当な距離。(60代 女性)
- 校区内での動きが見えてこないで情報発信を願いたいと思います。プライバシーの問題などがあるとあります。(60代 女性)
- どういうことをやっているのかくわしく知る術がない。広報などもっと活用してわかりやすく説明し、一度、二度の広報ではなくて目につくように毎回でも回覧を回す。(40代 女性)
- お年寄りや若い世帯の人は、どうやって地域と関わればよいのか分からないので、仲介してくれるような人が、いてくれるとよいと思います。(30代 女性)
- 地域の状態で違うので何とも言えない。(60代 女性)
- 手を出せば出すほどクレームがつき、出さねば出さずにクレームがつく。揚げ足の引っ張り合い。私の強い個性ばかりガンとしたリーダーが必要。(70代 男性)
- すべての住民に自治会に入ってもらうのは難しいことと思いますが、少なくとも自分のまわり(自治会の班)の家族構成は長年住んでわかります。災害とか起きても誰がいないということもわかります。地域のことは、まず自治会が中心になるとよいと思いますが、どこまで立ち入れるのが問題だと思います。(60代 女性)
- 福祉活動のピーアールが足りない。ほとんどの人がよくわかっていない。行政と自治会との連携プレーだと思う。今現在もいろいろと活動はされているが、特に福祉に関してはそうした活動に参加できない人たち、特に独居老人をどのようにサポートしていくかが課題でしょう。全員参加型福祉の確立だと思う。(70代 女性)

⑧-1 行政に対して「地域福祉活動の促進について」

- 出産して初めて広報とか読むようになったので、やはり何かきっかけがないと、自分に関係のない介護のこととか障がい者福祉こととかの分野というのは、興味がないと思う。関係のない人でも何か少しでも興味をもてるようにきっかけをつくってほしい。ポイント制度というのも、いろいろな面であると思う。若い人達にも、幅広く知ってもらうように今だったらスマホを使用したアプリで何とかまず知ってもらうことが必要で大切だと思います。(30代 女性)
- 行政が、地域任せにしているのは、絶対に駄目だと思う。(20代 女性)
- 自分が高齢者や障がい者と関わることが少ないため、どのような事業を行っているか知らないことが多い。より多くの市民の協力を得るためには、市の方で対策を考え、市民にボランティア協力をつのり、具体的な役割を明確にしていかなければならないと思う。子供たちが安全に遊ぶ場所があまりない。公園の整備をお願いしたい。これからの時期は変質者も増えるのでその対策もあわせてお願いしたい。(30代 女性)
- 指導機関がもっと地域に入ってきて地域の人達に関心を持たせるよう、啓蒙してほしい必要に迫られなければならない。(60代 女性)
- 市民に分かりやすい地域福祉活動をもっと目立つぐらいにしてもよいのでは、福祉活動がまだまだ陰の活動ではないですか。福祉という言葉が陰のイメージが強いので全く新しい言葉で時代も共に進化してもよいのでは。即ち明るいイメージを持てる向上力が欲しいです。いつまでも福祉が古くからの形に知られているから今でも陰で皆知らないことが多すぎ。距離があります。常識に捕らわれない新しいことに期待します。何も変わらなければアンケートは無意味です。形式的にアンケートとして答える我々もつらいです。本当に良く考えてください。明るい未来期待しています。(40代 男性)
- 様々な人達が参画する仕組みづくり、利用者が必要なサービスを利用しやすい仕組みづくりが必要だと思う。(50代 男性)
- 地域福祉に対して行政の活動が生活している中で全く感じられません。私が特別無頓着という訳ではないと思います。もちろん個人の意識は重要だと思いますが、その個々の意識をとりまとめて、形にするのが行政の役割だと思います。(40代 女性)
- 行政と市民が力を合わせ各家々に役割を明確にさせる事。(30代 女性)
- 地域との関係が薄いため、より行政にリーダーシップを取ってほしい。(40代 女性)

- ・岐阜市行政の手厚い地域福祉の充実推進を基礎に、その安心感のうえにたつて、身近な問題については、できるだけ地域で連帯充実させていくことが、行政にとっても地域住民にとっても相乗効果が生まれると思う。そのためには、半強制的にでも、40代ぐらいから福祉に関する学習や実践的知識を身につけるような講座を設けて、それに対する啓発を喚起すべきだと思う。(70代 男性)
- ・子供の頃からの教育で意識改革をしないと先々地域社会はますます気薄なものになると思う。昔のように道徳を強く教えることだと思います。現状はしつこい程度地域に知らせることだと思います。市の方針や情報。(50代 男性)
- ・子育てに関してですが、子供たち向けのイベントは、なにかと有料が多く、一個一個ためらいます。岐阜駅周辺のイベントは、行きづらい。駐車場無料とは言いませんが、安くしてもらいたいのと、往復はがきの申し込みもわずらわしいです。せめて普通のはがきかインターネット等で。あとケータイサイトも有るとよいと思います。(30代 女性)
- ・本当に困っている人が、必要な手助けを受けられる制度を作り、周知すること。どのような状態で、どんな手助けや補助が受けられるのか客観的基準を明確にした方がよいと思う。困っていても世間体を気にして、受けられる補助を受けないでがんばってしまう人もいれば、制度を悪用して自分がかんばろうとしなくなってしまう人もいます。そのあたりを公平に判断できる人が必要だと思う。今の社会では民生委員ということになるのかもしれないが、ボランティアという形では限界があるように思う。(40代 女性)
- ・お忙しいでしょうが、行政の方にそれぞれの地区に実際に実態を見に来ていただき現状を把握していただいた上で自治会長や民生委員などと連絡を密にとっていただいで独居老人などを見守ってあげられるとよいのではないかと思います。(50代 女性)
- ・岐阜市全体で考えるのではなく、各地区の特性があるので、それをとらえたうえで、その特性にあったサービスを提供し、反応等から評価、改善し、よりその地区に合ったサービスへと改善されていくことを望みます。住民の協力も必要であると思うが、皆が周知でき、必要性、具体的な役割を示して欲しい。(20代 女性)
- ・このアンケートを通して、感じた事は地域福祉に関して、未知な事が多く有る事に気付かされました。何処で、何を通じて、理解していったらよいのでしょうか。行政の面でも周知徹底の図り方等手抜きなくやられていると思いますが、今一度のご努力を願い致します。(70代 男性)
- ・岐阜市内に大きな福祉計画をたてみんなにわかるように協力し合うようにもっと話し合い、住みよい岐阜市にしていきたい。一人ひとりがしっかりして生活をしていくことが大事だと思います。(60代 女性)
- ・それぞれの意識アップ。福祉計画は、誰がつくっているのか。誰が参加しているのか。このアンケートがどのように組み込まれているのか。情報開示。市民代表選考基準の不明確さ。是正。行政がどのようにして、推進していくのかを明確化。曖昧な文章表現ではわからない。ポイントとなる骨子を提示する。自治会や民生委員へのわかりやすい説明を。行政が一本筋を立ててくれないと誰もついていけない。広報をもっとポップな感じにして若い人も見るようにする。(20代 男性)
- ・本紙で述べられていることは大変よいことだと思います。明記するだけでなく、将来的に実施、実行していただきたい。市、行政が積極的に進んでやっていただきたい。今までもあまりにも後手にまわっていることが多いため、もっともっと進めてほしいです。(70代 男性)
- ・年齢に関わりなく福祉を受ける側に、素直さと感謝の気持ちを忘れないようにするべき。自分の苦しみや悩みだけを考え、相手へ要求されては志ある側としても困る。実際手助けするのは近所の人だとしても、間に入るのは行政の方がよいと思う。行政の人難しいとは思いますが、きちんと仕事をしてほしい。とかく福祉は正直者がバカを見る人が多い。また老人、子育て中の親に目が行きがちであるが、支えることを求められる世代は本当に苦しい。わがままな老人、自己中心的な子どものままの放任モンスター親を助けると言われても正直したくない。本当に助けるべき人を手助けしたいと思う。(40代 女性)
- ・子育て支援の充実。今後、高齢者を支えていく若者世代に対して、超高齢化社会における役割等の説明。AEDの講習の徹底。日常動作介助等の無料講習の実施。特養をたくさんつくっても、そこに入所できる人は高所得者でしかない。少ない年金生活で老老介護を行っている世帯への資金援助や介護職の手当を多くする等しなくては、介護者のなり手はなくなり、給料の高い他市への流出も止められなくなる。(30代 女性)
- ・地域福祉を充実するために拠点となる施設の充実が必要だと思う。須賀では公民館に子どもたちが一度に集まれるスペースもなく、雨漏り等老朽化している。登校班決めの際は公園で集まっていた。1年生を迎える会、6年生を送る会等も雨が降らなければ公園で行う。子ども会の行事の1つで作業する企画があったが、全員が公民館には入れず、前半後半と時間を分けての作業だった。近くに住む人々の交流の場を設備することが、地域福祉を推進していく第1歩につながるのではないかと考えます。(30代 女性)

- ・地域福祉に実際に必要なことをよく調べて今後ともよく考慮することが必要と思います。(80歳以上 男性)

⑧-2 行政に対して「福祉サービスの充実等について」

- ・私が住んでいる連合自治会下の世帯数は、791世帯。このうち高齢者世帯397世帯と民生委員様より報告が有りました。少子化により子供がいても県外にて就職し、年々独居老人が増加します。現在認知症、要介護者の施設は増加していますが、健常者（独り暮らし）の施設は私の勉強不足かも知れませんが、あまり耳にしません。人間の基本生活は、衣食住だと思いますが、高齢となりますと、特に食の問題が一番だと思います。健常者の施設が必要だと思います。(60代 男性)
- ・福祉問題の難しさに改めて理解をし、市の職員努力に感謝しております。がんばって下さい。(80歳以上 男性)
- ・老人介護は、自宅での介護が困難であっても、月々の費用が高すぎるため、介護をする者は、金銭面でも体力の面でも苦しんでいます。年金生活の人が自分の親を介護しようにも、どうしようもないのが現実です。自分が介護を必要となった時、子供に大変な負担を掛けるかもしれないと思うと、本当に不安です。国よりも各市町村で考えていくべきだと思います。(40代 女性)
- ・高齢者への福祉活動を今以上に力を入れて行ってほしいです。(50代 男性)
- ・すでに行われているのならよいですが、独居老人の所にポケットベルの設置があれば緊急時に何かがあっても安心出来ると思う。(50代 女性)
- ・なんでも行政ではなく、自分のことは自分で、行政も福祉にはお金がかかるので、余り何でも福祉をしますと言わないこと。(60代 男性)
- ・本当に手助けの必要な人に手の届く福祉をお願いしたいです。家族で介護をがんばっている人の中には金銭的にも体力的にもぎりぎりの状態の人がたくさんいらっしゃると思います。60代以上の人が思うことは、介護は家族で、という考え方が多いのでなかなか行政に助けを求めることが出来なくて追いつめられる寸前になって初めてお願いすることが多いと思います。行政ならおせっかいともプライバシーの侵害とも言えないと思います。そのためにもどんどん地域と関わって行政が積極的に地域に目を配って行ってほしいと思います。(60代 女性)
- ・民生委員を増やす。高齢者による高齢者のための福祉、高齢者を立派な労働力として活用することで、生きがいを持って元気に過ごせる。やっぱり少しでもよいのでお金が稼げる高齢者をドンドン増やしていかないと。(60代 男性)
- ・認知症や要介護が増え、超高齢化社会になり、専門職の人数が少ない。それは、賃金が低すぎ継続出来ないのが理由。男性職員（力仕事）に、継続できる市のバックアップが大きいと思う。国の政策では追いついていない。施設入居をして24時間体制で見守ってもらう要介護者は一部であり、地域で支え助け合い住み慣れた自宅で過ごしてもらうのが世間のテーマになっているが、今の体制では、難しいと思う。自分も金銭的に、将来孤独死になると思う。お金を持っている人は安心できると思うが、収入や貯金が低い人の将来を（老後を）充実して欲しい。(30代 女性)
- ・高齢者が個々の健康状態や意欲に応じて働ける場の提供や健康増進を図る前向きな施策を実施して欲しい。福祉の無料化を指向するのではなく、ある程度の受益者負担のもとに、生きがいの醸成を図ることが望ましい。(70代 男性)
- ・今後高齢者が増える一方に対して特別養護ホームが少ないのでないか、もう少し安く、入れるホームをより多くつくって欲しい。(70代 男性)
- ・要介護者、身障者の方へ行政がもっと広く目を向けて頂きたいと思います。まだまだ、見えていない部分があるように感じます。(60代 男性)
- ・生活保護については本当に困った人を対象とすべきである。就労可能年代の人が保護を受けながら車を乗りまわし、パチンコばかりをしているという風評を耳にする。もう少し厳しくチェックする必要があると思う。知る範囲では、岐阜市の保護認定は他の自治体と比べても甘いと思います。(60代 男性)
- ・小・中学校で福祉教育の徹底。①超高齢化社会になるため、公立の特別養護老人ホームを増やして欲しい。②地域福祉に関する提案をすぐ実行すること。③市役所内に総合的な市民相談室を設置して、福祉関係の相談にのる。そこで相談事項、つまり問題として取り上げられたことの解決方法を自治会などのネットワークにフィードバックして相談しに来た人に対応するようにしたらどうでしょうか。福祉マップ作りにも個人情報保護法のために限界があり、昔のような「向こう三軒両隣」のような関係作りが出来ない。従って行政が先頭に立って動けば個人情報の問題もネックにならず、孤独死も少なくなり、よりよい福祉社会が築けるのではないかと思います。(70代 性別不明)
- ・高齢者が年金だけで安心して入れる施設を多くつくって頂きたい。近くで皆がいつでも集まれる場

所をつくってください。(70代 女性)

- ・老人福祉に力を入れてください。(80歳以上 男性)
- ・障がい児や障がい者の利用できるサービスや施設をもっと充実させる。(40代 男性)
- ・現在、各地域に市役所、各支所などの行政機関がありますが、障がい者や高齢者の中には、その行政機関までの交通手段や移動困難な方々がおられると思います。そうした方々に諸手続き等する場合、市の職員がその家庭に出向き手続きを処理できるような対処法ができればと思います。(60代 男性)
- ・最近の65歳以上の方々は、高齢者と呼ぶにはまだ早すぎるのではないかと思うほど、アクティブでしっかりした方が多いと思います。私たちよりも元気でパワーがあるのではないかと思うほどです。そんな方たちが、自分たちの生活の生きがいや生活の“ハリ”になるようなお仕事をもっと増えるとよいのではと思います。若いお母さんもパートに出ることが多くなった今、50代、60代の仕事がなくなり、家にこもりがちになり、何度となく落とされる簡単なパートの面接により、自信もなくしている方が多くいます。助け合うことは、地域で協力すべきですが、若い世代から税金を多く取った結果、年輩の方の仕事が減っているのも一つの原因です。福祉・高齢。違う問題ですが、全体をみて一つ一つを根本から見直してもらえたらよいですね。(30代 女性)
- ・老人施設をもっと充実させてほしい。(40代 女性)
- ・金銭的余裕が無いから考えたこともないが、福祉は低生活者を救って上げるべき制度だと思います。(70代 女性)

⑧-3 行政に対して「施設整備、まちづくり施設等（行政一般）について」

- ・情報公開と提供。(50代 男性)
- ・市立の幼稚園の建設。(70代 男性)
- ・お年寄りだけでなく市民が暮らしやすい街づくりを作るのがまず大切。そのためには子供の頃から思いやりを養う交流行事も推進して世代間の交流や、教育の中で養うこと。街の中も足の悪い人(車椅子)などの目から、まだまだ外出しづらい状況は多く、更に改善してほしい。目線をどこに置いて街づくり、道路の整備をするかが大切で、看板ひとつでも位置や貼り付け方で他県から訪れた人を見て、見やすいとか、分かりやすいとか、小さな配慮がいろんなところで感じられることが必要です。更にそういう意識で暮らす方向へ導くと考えています。(30代 女性)
- ・住民にもっと情報を共有してもらおう。(50代 女性)
- ・厚見地区は、公園が少ない。歩道も狭いため子供が安全に遊べる場所がない。公園や遊具、児童館などの設備をつくって欲しい。回覧板が届かないので地域の情報が手に入らない。災害時などに不安があるので、連絡手段を徹底してほしい。引っ越して3ヶ月なので、特に地域の情報は手に入れたい。(20代 女性)
- ・マイナンバーで日本人全て管理し地域情報を。(50代 男性)
- ・まずはお金が必要だ、役所の職員も余裕がなく福祉の職員の対応も統一感危機感がない。給料が少ないからだろうか。他県に行って勉強した方がよい。お金をかけても岐阜市の体制では手詰まり。市民に聞くことも大切だが、自分たちで何が出来るか、自分たちも市民だと考えて欲しい。文句苦情を言うてくる人のいうことを聞きすぎ、がんばる職員がなぜ他へ飛ばされるのか。誰が後ろで手を引いているのか。まずは自分達が自分のこととして考え案を出してから市民に問うべき。他の市の真似は貧乏な岐阜市には出来ないことぐらい分かりそうだ。(40代 男性)
- ・災害に強い街づくり。(30代 男性)
- ・当地区はスーパーもなく下水もなく、岐阜市で一番の過疎地区で、最悪の不便地区で高齢者にとって一番不安な地区です。対極的には街中にコンパクトなどを展開し、医療福祉一般介護ゾーンをつくれればインフラも集中的に構築できます。(70代 男性)
- ・情報の共有化を積極的に市民に案内して欲しいと思います。(50代 男性)
- ・無駄な公共事業は減らす。その分福祉子育て介護等にふり向ける。中央からの天下りは受け入れない。地域を守るための規制強化。市から川下への公務員の天下りも完全禁止。地域を守るためには、公務員を守るためではない。市長以下、市公務員の給与、ボーナス、退職金をカットし、その資金を地域の祭りや行事に回す。(40代 男性)
- ・歩道と車道の境目が分かりにくいという、車道の白線が夜に特に雨の日は、全く分からない所があります。時々補修しているようですが、一部分の消えかけている所のみなので余計に分かりづらい。直すのであればきちんと直して欲しい。中央線が全く分からない所があり、前の車が真ん中を走っ

ていてとても恐ろしい思いをしたことがあります。その他では最近ベビーカーを引いている人達に対して思いやる人が増えていますが、私が妊娠していた7年ほど前は、本当に住みにくい環境でした。満員のバスに乗り通勤していた時誰も席を譲らない。おまけに老人が「私は年寄りなのだからそこに座っていないで席をゆずりなさい」とばかり押されてとても嫌な気分になったことがあります。その当時はまだ妊婦マークが無いので冬場は服をたくさん着込めばお腹は目立ちません。それでも様子を見て分かるような感じになっていた。また歩道橋も階段が滑りやすく危ない所が多くあります。段差をなるべくなくすのであれば横断歩道をもっときれいにしたい。自転車用と歩行者用に区別してあっても、普通に歩行者が携帯を片手に周りを見もしないで歩けば自転車の人は歩行者側を通るしかないです。(40代 女性)

- ・市立図書館や長良川鵜飼ミュージアム代に予算を付ける事よりも地域福祉や自治会に予算をつける政策が必要です。(60代 男性)
- ・道路整備をして欲しいです。普段道を歩いていると段差が多く、平坦な道はとても少なく思います。健常者の自分でも気になるので体の不自由な方はもっと気になっているのではないかと思います。歩道を整備し、もう少し広くしていただけるとよいと思います。(20代 女性)
- ・地域住民と行政があゆみより、協力しあえる、市になるとよいと思います。(60代 男性)
- ・30代、40代の働く人に対しても、もっと安い健康診断を実施して欲しい。もし実施しているなら、もっと分かりやすく周知してほしい。(30代 女性)
- ・平成25か26年から幼稚園児に対する支援金が半額にされると言うことなので、子育て支援を充実して欲しい。(30代 男性)
- ・もつと分かりやすく、情報発信して欲しい。広報だけでは情報は伝わらない。仕組みが不透明である。(70代 女性)
- ・公園・空き地の整備。幼児だけでなく、高齢者の「憩いの場」が必要。(ベンチの設置、木かげづくり)公民館は現在いろんな活動に使われています。今後とも無料でお願ひします。公民館までは歩いていけない老人たちに近場で集まれる場があるとよいのでは。空き住宅などの利用も考えて欲しい。管理・運営は地元で市は助成をしてほしい。コミュニティーバスはありがたい。コミュニティーに小さな図書館も設置していただきたい。幼稚園、保育所に近所の老人が参加できないでしょうか。生きがいにつながると思います。(60代 女性)
- ・行政の積極的な取り組みが必要。行政の活動は、まだまだの感じがある。(60代 男性)
- ・校下で行政から情報を伝える集会を定期的に催して欲しい。そうすれば、折角の行政の善意が我々に直接反映して、より協力して出来ると思います。(70代 男性)
- ・すべての人が健康で安心した暮らしが送れるようにすること。(60代 男性)
- ・公園など、自然と住民が交流できる場をつくっていくこと。(30代 女性)
- ・大学病院へ行くのが不便です。もっとバスとかを多く、安く出してもらいたい。(80歳以上 男性)
- ・岐阜市に越して来て思ったことは、子育て中で地域にすぐになじむことができ、また、地域の人の活動が大きいと感じます。子育てのことに関してですが、保健所や役所には、いろんな印刷物があり、情報が重複していたり、まとまりがなく正直、分かりにくかったです。催し物も多いのがよい所でもあります。もっと種類は少なめに、集約できたら分かりやすいのに、と感じました。小学生の地域行事もいろいろあって混乱してしまいます。(30代 女性)
- ・難しいことは言いません。市の中心部ばかりを見ないで下さい。私達の地域は夜になると電灯も少なく、厚見通りに入る時も、ミラーがないため、危険を感じます。交通事故も少なくはないのです。9月の国体に向けて工事が行われている様ですが、それも大切なことかもしれません。私達、市民はもっと身近な所で税金を使ってもらいたい。道路の段差も危険です。小さいことからこつこつとお願いします。一度見て歩いてみて下さい。お願いします。(50代 女性)
- ・いろいろな制度等があっても知らない人が多いと思うので、もっと多くの人にわかりやすく広めることが大切だと思います。公共の施設等も駐車場がないようで利用しづらいです。岐阜駅の辺りはいろいろできているようですが、郊外にももっと力を入れてほしいと思います。正直、子どもを育てにくい環境だと思っています。子どもがいろいろな意味で学べる場所がもっとあればよいなあと感じます。(あるのかもしれませんが、知らない人やよくわからない人が多数だと思うので)助け合いや声の掛け合いをしたくても、方法がわからず、できないのが現状です。(30代 女性)
- ・岐阜市は、自然に恵まれたとてもよい所だと思います。自然環境の保護に力を注ぐことは、人の心によい結果を生み出し、「よい市民生活」に欠かせないことだと思います。福祉にもつながることだと思います。(60代 性別不明)
- ・小学校の合併を早くやってほしい。1クラスでは入れたくないです。(30代 女性)

- ・今どんな政策を行っているのか、どんなことが市民は保障されているのか等をもっとわかりやすく発信し、広めていく。(30代 女性)
- ・市行政がもっと団結し合い市民の声をしっかり聞き入れながら先のことばかり考えなくて、今必要なことを取りこんでいってほしいです。(50代 女性)
- ・もっと市民の声に耳を傾けてほしい。(30代 女性)
- ・普段の地域の連携はもちろんです、そのシステムがうまく動くよう地域に対して行政は支援していくべきだと思う。登録がどうか、地域のつながりを深くという前に税金ですべての人が安心して暮らせる社会をつくってほしい。(40代 女性)

⑨ その他

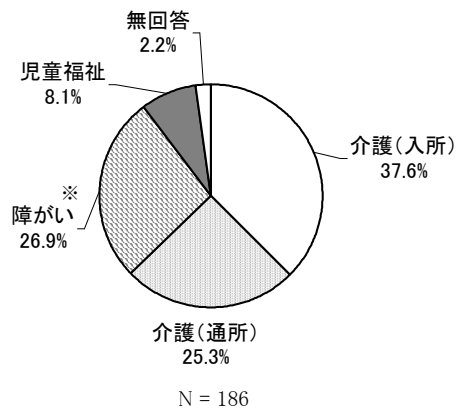
- ・事務員が自治会等に直接参加して住民の生の声を聞くことが大切だ。(60代 男性)
- ・答えになっていないかもしれませんが、気になったことを書いてみます。最近、スーパーなどの近所の外出先で「虐待では」と思った事象に数回出会いました。いずれも、母親が子供を過度に叱っていました。何人かの子供の衣服が大変汚れており、母親の子供への口調も本当に恐ろしく、「これは」と思ったものの、いずれの場合も気になりながらも、どうしてよいかわからず黙って見過ごしてしまいました。子供たちがその後どうしているかと思うと、その時のことが悩まれてなりません。行政が全て把握するのは難しいと思います。指名手配犯をみつけるように、市民が目となるので、そのとき対処法を教えていただけたらよいと思います。名前も住所もわからない外出先なので、通報しようにもできないのです。(40代 女性)
- ・全体に核家族化が進んでいるから、このような問題が生じる。困難な問題とは思いますが、次の事項が解決されない限り問題の解決は無いと考えます。①家族の過疎化現象は、市外へと同心円状に広がりつつある、これをとめることになる。②次世代のものが、同居することが上記①の解決の決め手となる。③以前は同居が多かったが、今は少ない、同居すれば色々問題も生じるが、お互いが理解し合う環境が必要である。今は余りにも、勝手な思考が多い。子供のうちから道徳の時間も有るから、学校教育の場で家族の同居を教えるべきである。教育の子供に与える影響は大と考える。(70代 男性)
- ・某政令指定都市から引越し(転勤)してきて、3か月経過しましたが、ゴミだしのマナーが悪く感じます。モラルの問題も大きなウェイトですが、細かな分別や回収日の少なさ、頻雑さも一因かと思えます。小学校の児童が登下校時に積極的に挨拶している。(近隣住民やすれ違う人達にも)姿は、よく行き届いていると思えます。(20代 男性)
- ・アンケートの意見を充分に生かしてさらに住みよい岐阜市にしてください。(40代 女性)
- ・福祉とプライベート。近くに集合住宅があります。地域自治会に参加するのはほんの一部の世帯のみ、入居者は間違いなくありますが、一般的な公的サービスを受けられているかどうか、また居住者の顔が見られないため不安に感じられることがあります。(70代 男性)
- ・声かけ。近所の人や誰が誰と住んでいるか、独りなのか、の理解。犬の糞の処理について罰則を設けている自治体もあるように、厳しく指導をしていただきたい。自分の家の敷地内だけではなく、家の前の空き地に糞をされるのも嫌です。(30代 女性)
- ・民生・児童委員になっていただける方は、大変ありがたいと思いますが、訪問時にご自身の身分の説明がなかったり証明書の提示や首から掲げたものもなく、そういった方が何人も見えるので大変不信に思うことが多々あります。自宅に上がるのですから、その方の身分を明かす事は、とても大事な事だと思いますので、訪問時の対応はご指導して頂きたいと思えます。(30代 女性)
- ・住んでいる地域は、公共の場所まで遠く不便を感じております。(60代 女性)
- ・自治会長さん等、ベラベラしゃべったりされないことを希望します。上に立つ方は、信頼性が高い方になってほしいですが、自治会長等町内で決める時も、皆行いたくないからいい加減に決めているのかと毎年思っていますが、ご近所なのでそんなことも言えずズルズル来ている。人のお世話をするには相手の立場に立ち「お世話をしてやる」ではなく「させて頂く」と言う気持ちを持った人にやって頂きたい。でも、今どれ程の方が周囲にいらっしゃるか疑問です。自分自身も親を施設に預けていますが、頭が下がる思いです。「福祉」難しい問題です。大変不安です。(60代 女性)
- ・国民全員の意識の向上。(50代 女性)
- ・福祉関連に関わらず街をきれいにするのが大切だと思います。個人個人の所有などもあり細かいことは難しくても、「汚れた所」を少なくすること。街の中、看板、空き地、路上、廃家屋など、環境がきれいになると住んでいる人も明るく活動的になると思います。危険な所も少なくなると思えます。全く無関係なことかも知れませんが、最近「のぼり旗」の広告が各店舗に必要以上に多く並べられていて困る時があります。雨・風が強い時に自転車や歩く人に当たったりまたは店舗の駐

- 車場の出入りする車など視界も悪く旗は完全に敷地内に入れて欲しいです。(50代 男性)
- ・必要性の検証、必要であればもっとPRすること。(60代 男性)
 - ・市職員が自ら足で地域を回り自らの目と目で感じ自らの耳で地域の声を聞く事。(20代 女性)
 - ・市民が助け合う気持ち。(50代 男性)
 - ・市がもっと積極的に取り組む事。(70代 男性)
 - ・福祉について話し合った事が無いのでよく分かりません。(50代 男性)
 - ・人道的な教育。(50代 男性)
 - ・強制的にしないとなかなか難しいと思います。ボランティアではなく、お金が絡んでこないとあまり、地域と関わりたくない。(20代 女性)
 - ・自治会ごとにマップを作成し、協力者に配布して、確認。どなたがどんな状態で住んでいるか町内でも分かっていないので、一般市民は民生委員のOBを協力者に依頼する。いろいろ勉強済みだから行動力がある。自治会の事など。福祉を受けている方々にはいろいろな事情があると思うのですか、ニュースで問題になっている親を生活保護受給者にして本人は楽している一人暮らしの方々は、高齢者になっても息子さんから生活費を頂き地域では手厚く行政でも見守っていただいていると、裕福な人になぜと思う。(70代 女性)
 - ・PRをしてもっと多くの人に知ってもらおうこと。(50代 男性)
 - ・何の活動をしているか多くの人に知ってもらおうべき (30代 男性)
 - ・本「ハッピーロード」の中に、「豊かな人間関係を育て、理想の共同体を築いていくための四つの徳①「布施」悩み苦しむ友に手をさしのべること、②「受語」思いやりのある言葉をかけること、③「利行」他者のために具体的に行動すること、④「同事」人々の中に入って一緒に働くこと。特に人を傷つける心ない言葉が氾濫している現代社会にあって「受語」思いやりのある言葉をかけ合うことを大切にしていきたい。その第1歩は、何といても「あいさつ」です。「こんにちは」その一言で心が和みます。「ありがとう」その一言で心が報われます。それは氷柱が解けて、春の到来を告げる最初の一滴に譬えられるかもしれません」という内容が記入されていて、あいさつの大切さ声かけ。また、地域で支えある一人暮らしの方の話し相手、買い物の付き添いなど気を付けてやっつけられるようにしていったらよいと思っています。(60代 女性)
 - ・情報の開示をわかりやすくしてほしい。(20代 女性)
 - ・行政や国が高齢者に対していろいろな支援をしているが、それに対して老人が当たり前のように受け止めている気がする。もっと老人が健康面等気を付けるべきだと思う。(30代 女性)
 - ・これだけ高齢者が多くなり、市政では手がまわらないのが実況です。個人個人が自分で自分の身のまわりのことができるよう心がけ、健康診断(保健所で行われる)のに参加して皆様に迷惑をかけないように心がけたいと思います。(自分の健康は自分で守るように) お互いに助け合いの心が大切だと思います。(70代 女性)
 - ・行政が市民と協力して推進していくこと。(70代 男性)
 - ・地域行事に参加しない人を如何にして参加させるかの対策。(80歳以上 男性)
 - ・遠くの親戚よりも近くの他人、近所付き合い向こう三軒両隣昔聞いたことのある言葉。(70代 性別不明)
 - ・私は70歳以上です。福祉を向上していただくことには感謝ですが、昔(私の若い頃子育ての頃)のことを思いますととても大事にされていると思います。子育て、老人と大変でしょうが、今一度あまり優遇され過ぎも考えた方がよいのではと思う所もあります。(70代 女性)
 - ・見つける、つなげる、見守る (70代 男性)
 - ・もっと広報活動をしては。チラシ、リーフレット等。(70代 男性)
 - ・岐阜市に住むすべての人が「普段の暮らしが幸せである」と思えることが第一だと思います。いろいろな事業を推進されることはとても大切なことではありますが、普段の暮らしが幸せと感じられない地域では福祉といっても名ばかりになってしまうと思います。(60代 男性)
 - ・一部の歩道は広く取られてきているが、危険な場所がまだまだ多いと感じる。運転者のマナーが悪くなっている部分もあるが、全体で守れる状態に変えてほしい。(40代 男性)
 - ・民生委員の増加。男女とも水防は消防団の増員。仕事の区分をはっきりする。町内美化活動。みんなが楽しく生きるため公園の草取り。防虫防除作業。(70代 男性)

3 社会福祉施設・事業所向けアンケート調査の結果

(1) 回答者属性

問1 調査対象



【参考】事業種別ごとの対象施設割合

事業種別	対象施設数	割合
介護(入所)	94	30.5%
介護(通所)	90	29.2%
障がい	95	30.8%
児童福祉	29	9.4%

※「障がい」については、入所施設の数が少ない為、通所・入所を合算して集計しています。

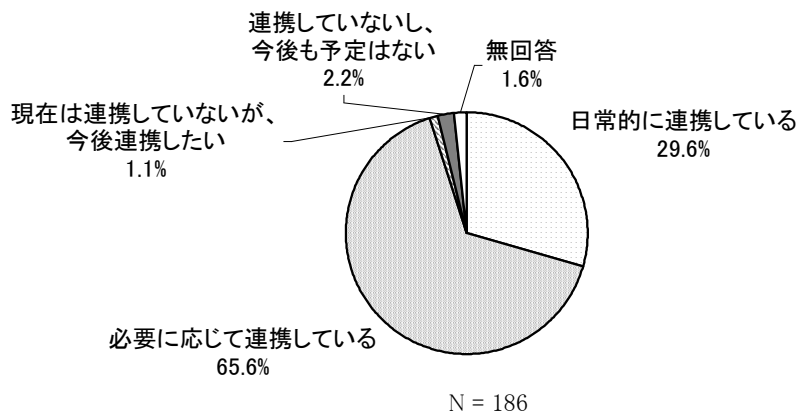
(2) 地域との連携について

問2 貴施設・事業所は地域の関係機関・団体と連携していますか。(いずれかに○)

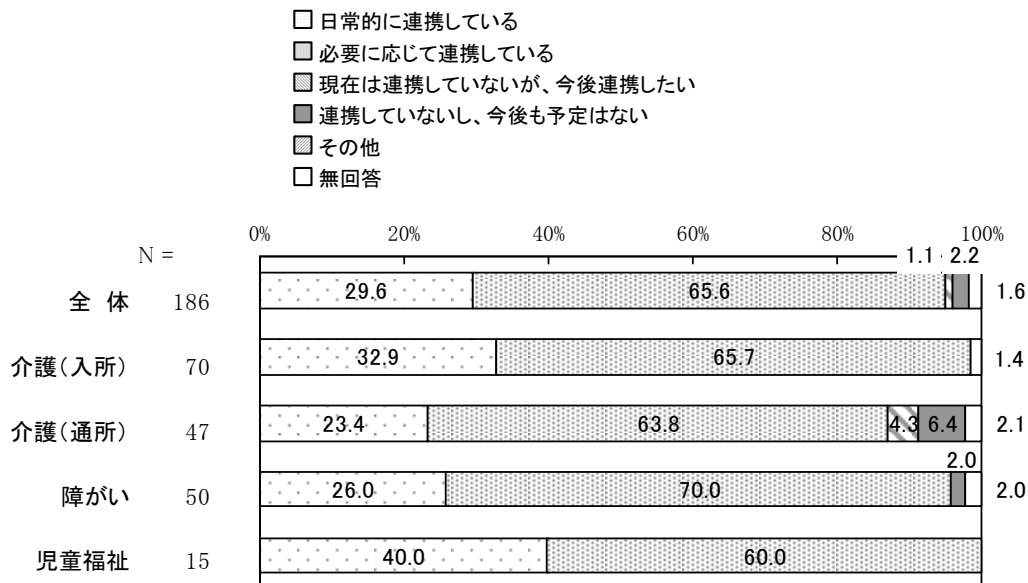
- 1 日常的に連携している →問2-2へ
- 2 必要に応じて連携している →問2-2へ
- 3 現在は連携していないが、今後連携したい →問2-2へ
- 4 連携していないし、今後も予定はない
- 5 その他 ()

「日常的に連携している」(29.6%)、「必要に応じて連携している」(65.6%)のように“連携している”とする回答が合わせて9割を超えています。これに対し、「現在は連携していないが、今後連携したい」が1.1%、「連携していないし、今後も予定はない」が2.2%となっています。

事業別にみると、「日常的に連携している」の割合が高いのは、「児童福祉」、「介護(入所)」、「障がい」、「介護(通所)」の順となっています。



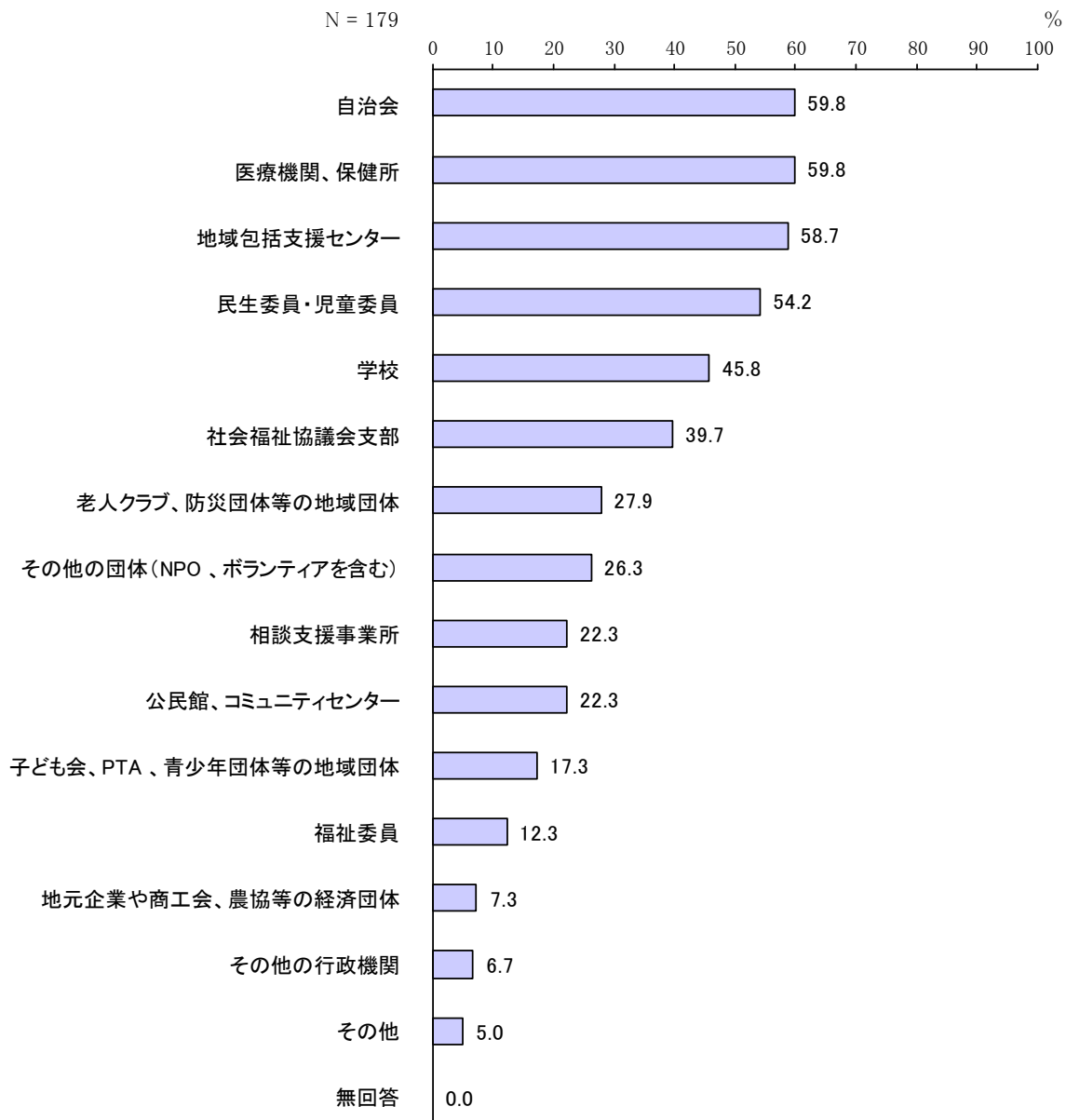
【事業別】



問 2-2 (問 2 で 1 から 3 を選んだ方) 貴施設・事業所が連携している (または、今後連携したい) 地域の関係機関・団体はどこですか。(当てはまるもの全てに○)

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| 1 自治会 | 2 社会福祉協議会支部 |
| 3 民生委員・児童委員 | 4 福祉委員 (社会福祉協議会支部が委嘱する地域の役員) |
| 5 老人クラブ、防災団体等の地域団体 | 6 子ども会、PTA、青少年団体等の地域団体 |
| 7 その他の団体 (NPO、ボランティアを含む) | 8 地域包括支援センター |
| 9 医療機関、保健所 | 10 相談支援事業所 |
| 11 学校 | 12 公民館、コミュニティセンター |
| 13 地元企業や商工会、農協等の経済団体 | 14 その他の行政機関 |
| 15 その他 () | |

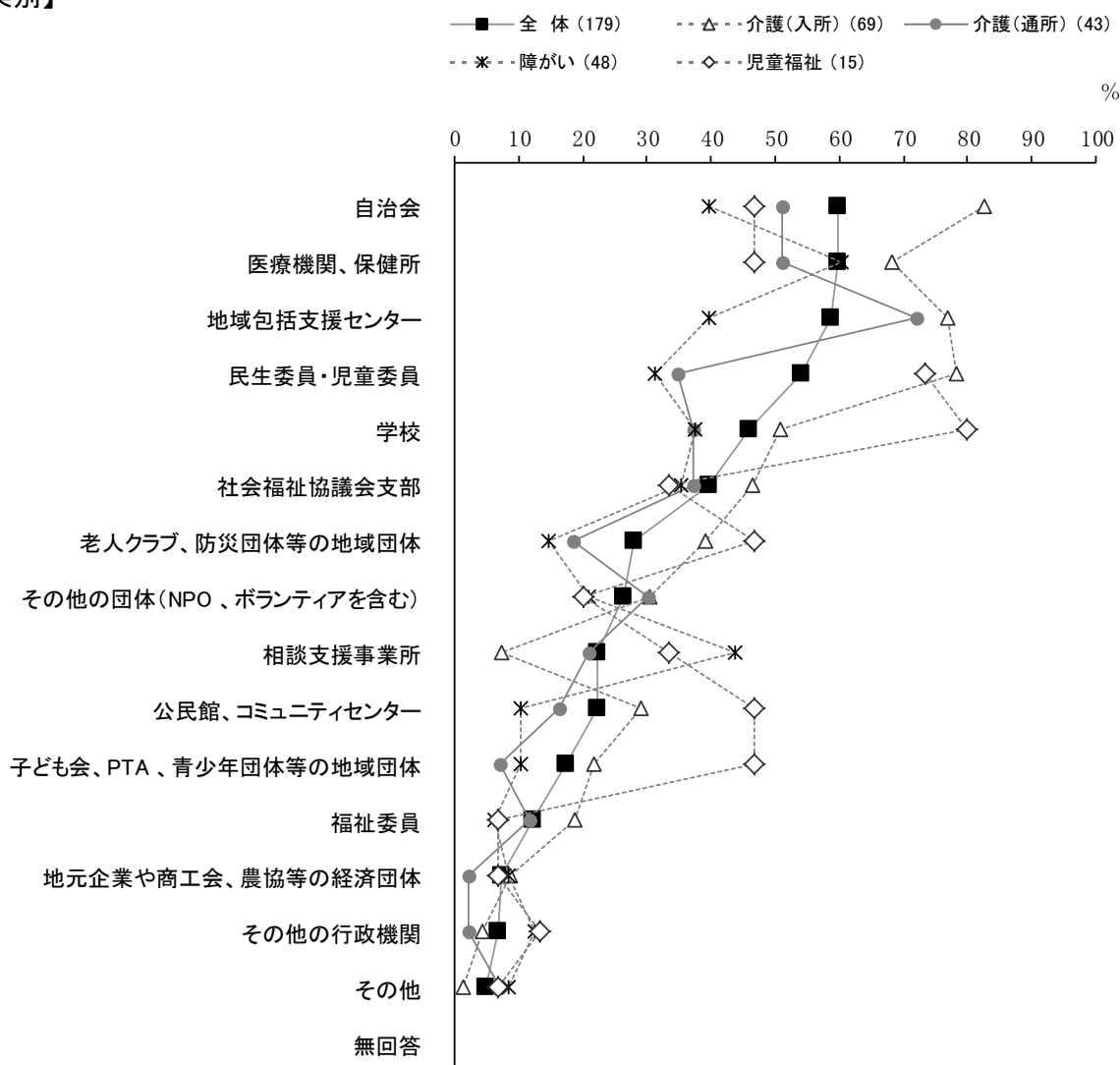
回答者の 6 割弱が「自治会」(59.8%)、「医療機関、保健所」(59.8%)、「地域包括支援センター」(58.7%)、「民生委員・児童委員」(54.2%) を挙げており、次いで、5 割弱が「学校」(45.8%)、4 割弱が「社会福祉協議会支部」(39.7%)、3 割弱が「老人クラブ、防災団体等の地域団体」(27.9%)、「その他の団体 (NPO、ボランティアを含む)」(26.3%)、2 割前後が「相談支援事業所」(22.3%)、「公民館、コミュニティセンター」(22.3%)、「子ども会、PTA、青少年団体等の地域団体」(17.3%) を挙げています。



事業別にみると、回答者の4分の1以上が挙げている項目は多い順に以下のとおりです。

- ・介護（入所）…①「自治会」、②「民生委員・児童委員」、③「地域包括支援センター」、④「医療機関、保健所」、⑤「学校」、⑥「社会福祉協議会支部」、⑦「老人クラブ、防災団体等の地域団体」、⑧「NPO、ボランティア等」、⑨「公民館、コミュニティセンター」
- ・介護（通所）…①「地域包括支援センター」、②「自治会」、②「医療機関、保健所」、④「学校」、④「社会福祉協議会支部」、⑥「民生委員・児童委員」、⑦「NPO、ボランティア等」
- ・障がい…①「医療機関、保健所」、②「相談支援事業所」、③「自治会」、③「地域包括支援センター」、⑤「学校」、⑥「社会福祉協議会支部」、⑦「民生委員・児童委員」
- ・児童福祉…①「学校」、②「民生委員・児童委員」、③「自治会」、③「医療機関、保健所」、③「老人クラブ、防災団体等の地域団体」、③「公民館、コミュニティセンター」、③「子ども会、PTA、青少年団体等の地域団体」、⑧、社会福祉協議会支部、⑧「相談支援事業所」

【事業別】



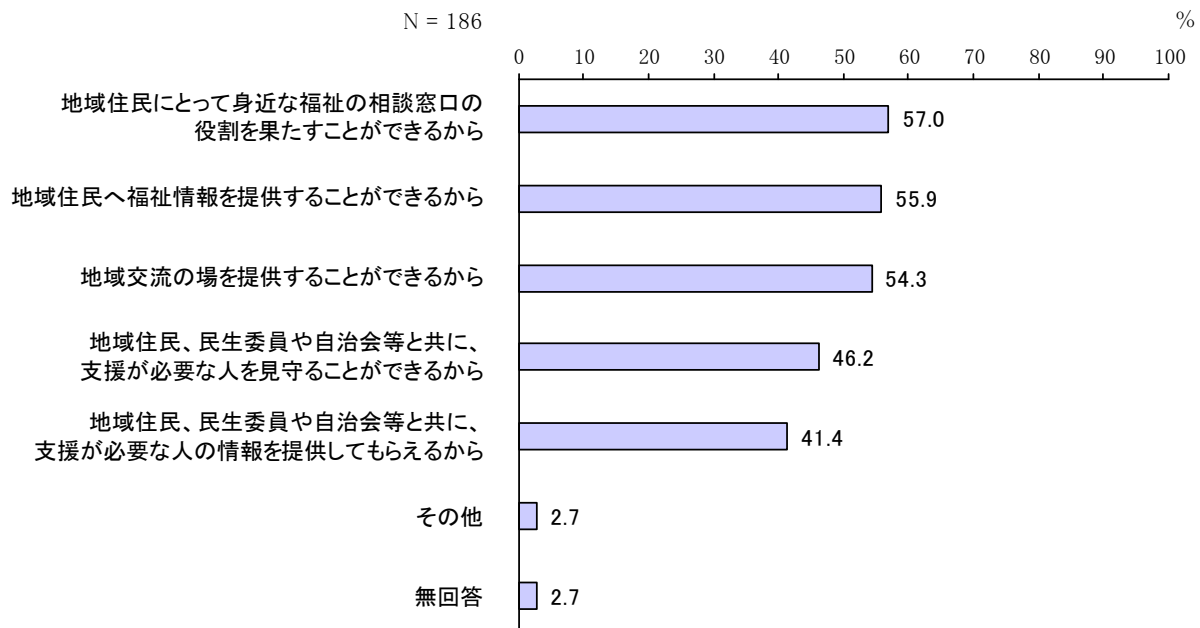
※回答を選択した施設等がない場合（0%の場合）は、グラフに表示されていません。

問3 地域と連携が必要だと思ふ理由は何ですか。貴施設・事業所のお考えに近いものをお選びください。(当てはまるもの全てに○)

① 福祉事業所として地元の地域づくりに貢献する観点から

- 1 地域住民へ福祉情報を提供することができるから
- 2 地域住民にとって身近な福祉の相談窓口の役割を果たすことができるから
- 3 地域交流の場を提供することができるから
- 4 地域住民、民生委員や自治会等と共に、支援が必要な人を見守ることができるから
- 5 地域住民、民生委員や自治会等と共に、支援が必要な人の情報を提供してもらえるから
- 6 その他 ()

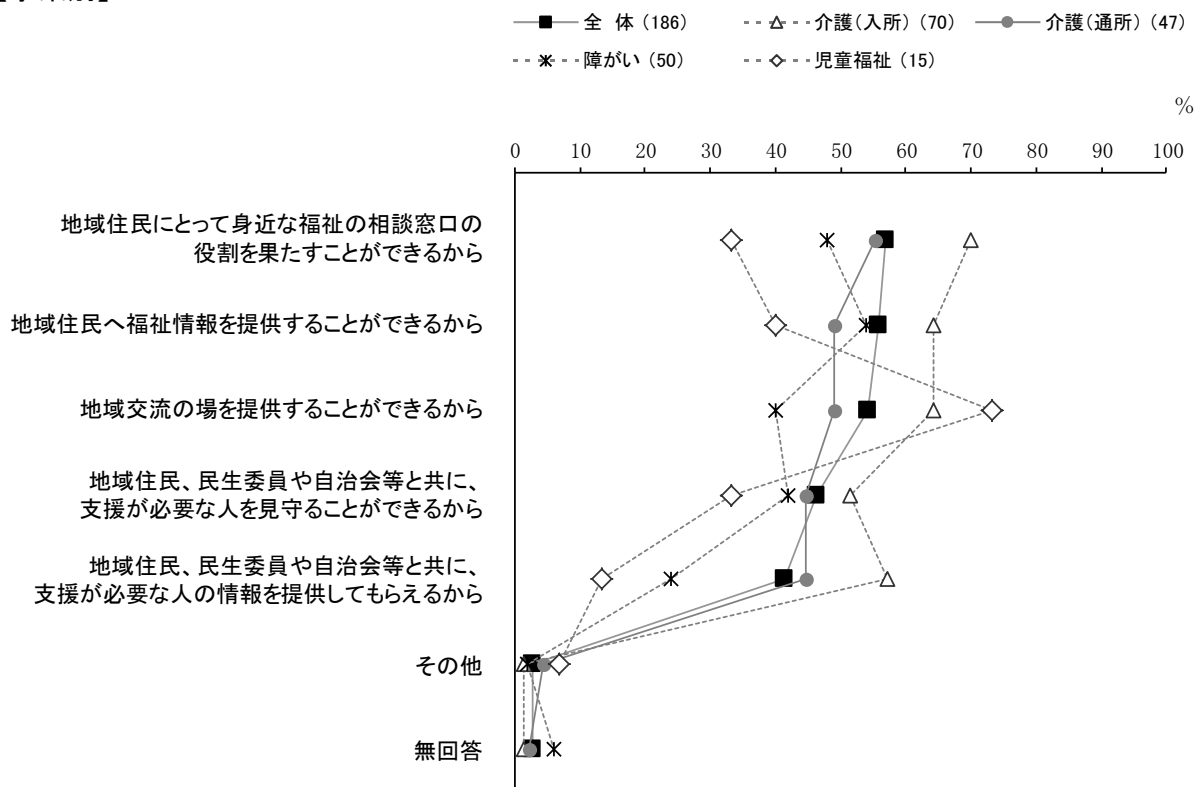
回答者の多くが「地域住民にとって身近な福祉の相談窓口の役割を果たすことができるから」(57.0%)、「地域住民へ福祉情報を提供することができるから」(55.9%)、「地域交流の場を提供することができるから」(54.3%)を挙げており、次いで4割強が「地域住民、民生委員や自治会等と共に、支援が必要な人を見守ることができるから」(46.2%)、「地域住民、民生委員や自治会等と共に、支援が必要な人の情報を提供してもらえるから」(41.4%)を挙げています。



事業別にみると、回答者の4分の1以上が挙げている項目は多い順に以下のとおりです。

- ・介護（入所）…①「身近な福祉の相談窓口」、②「福祉情報を提供」、③「地域交流の場を提供」、④「支援が必要な人の情報を提供」、⑤「支援が必要な人を見守る」
- ・介護（通所）…①「身近な福祉の相談窓口」、②「福祉情報を提供」、②「地域交流の場を提供」、④「支援が必要な人を見守る」、④「支援が必要な人の情報を提供」
- ・障がい…①「福祉情報を提供」、②「身近な福祉の相談窓口」、③「支援が必要な人を見守る」、④「地域交流の場を提供」
- ・児童福祉…①「地域交流の場を提供」、②「福祉情報を提供」、③「身近な福祉の相談窓口」、③「支援が必要な人を見守る」

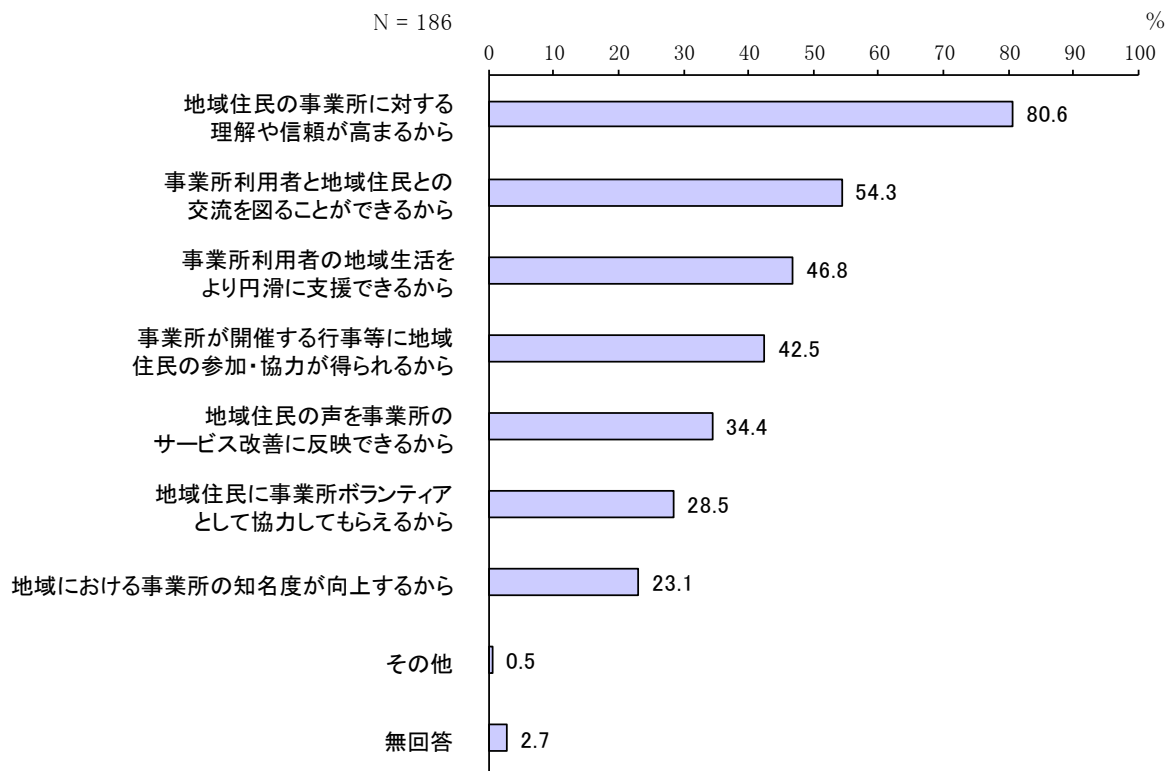
【事業別】



② 事業所のサービスの充実を図る観点から

- 1 地域住民の事業所に対する理解や信頼が高まるから
- 2 事業所が開催する行事等に地域住民の参加・協力が得られるから
- 3 事業所利用者と地域住民との交流を図ることができるから
- 4 地域住民の声を事業所のサービス改善に反映できるから
- 5 地域住民に事業所ボランティアとして協力してもらえるから
- 6 事業所利用者の地域生活をより円滑に支援できるから
- 7 地域における事業所の知名度が向上するから
- 8 その他（)

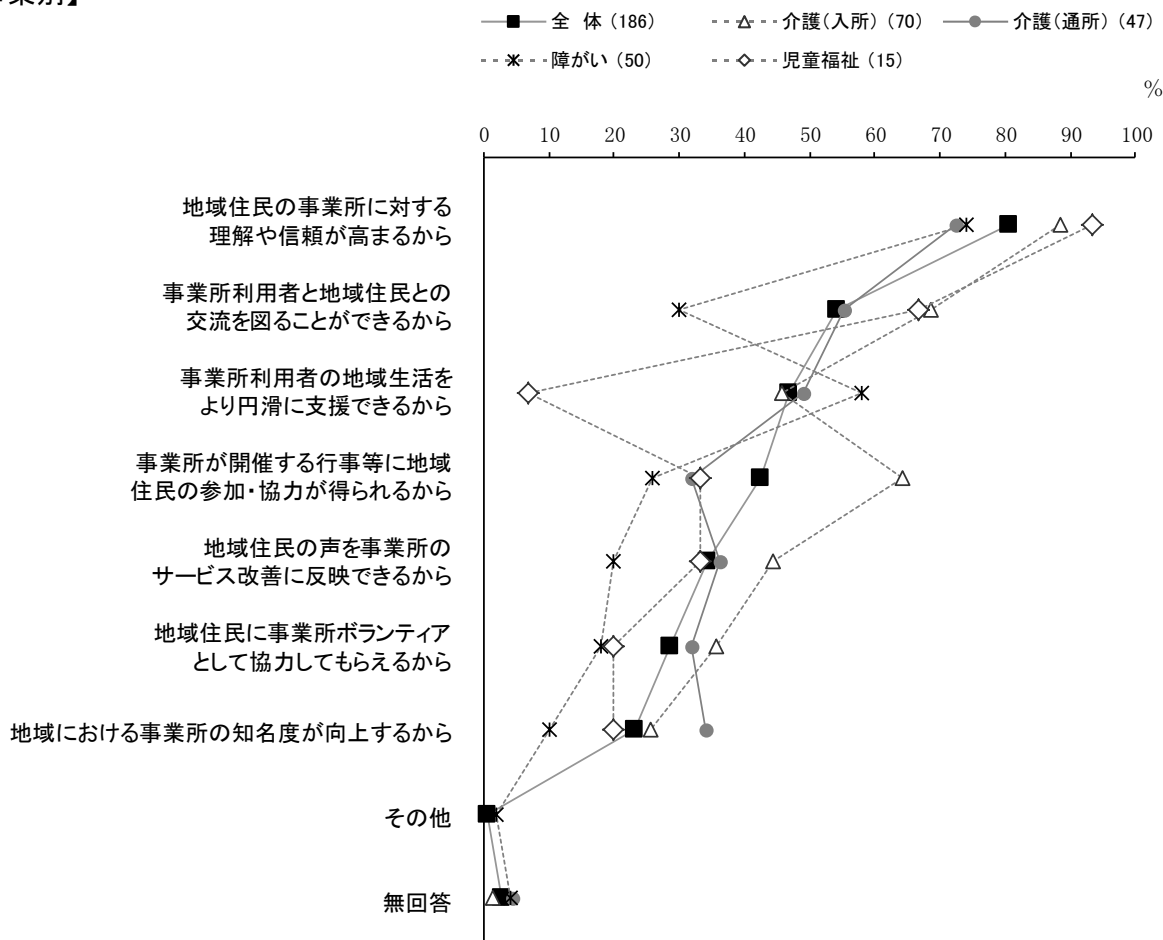
回答者の最も多くが「地域住民の事業所に対する理解や信頼が高まるから」（80.6%）を挙げており、次いで 5 割前後が「事業所利用者と地域住民との交流を図ることができるから」（54.3%）、「事業所利用者の地域生活をより円滑に支援できるから」（46.8%）、4 割強が「事業所が開催する行事等に地域住民の参加・協力が得られるから」（42.5%）、3 割前後が「地域住民の声を事業所のサービス改善に反映できるから」（34.4%）、「地域住民に事業所ボランティアとして協力してもらえるから」（28.5%）を挙げています。



事業別にみると、回答者の4分の1以上が挙げている項目は多い順に以下のとおりです。

- ・介護（入所）…①「事業所に対する理解や信頼」、②「利用者と地域住民との交流」、③「行事等に地域住民の参加・協力」、④「利用者の地域生活をより円滑に支援」、⑤「事業所のサービス改善に反映」、⑥「ボランティアとして協力」
- ・介護（通所）…①「事業所に対する理解や信頼」、②「利用者と地域住民との交流」、③「利用者の地域生活をより円滑に支援」、④「事業所のサービス改善に反映」、⑤「事業所の知名度が向上」、⑥「行事等に地域住民の参加・協力」、⑥「ボランティアとして協力」
- ・障がい…①「事業所に対する理解や信頼」、②「利用者の地域生活をより円滑に支援」、③「利用者と地域住民との交流」、④「行事等に地域住民の参加・協力」
- ・児童福祉…①「事業所に対する理解や信頼」、②「利用者と地域住民との交流」、③「行事等に地域住民の参加・協力」、③「事業所のサービス改善に反映」

【事業別】

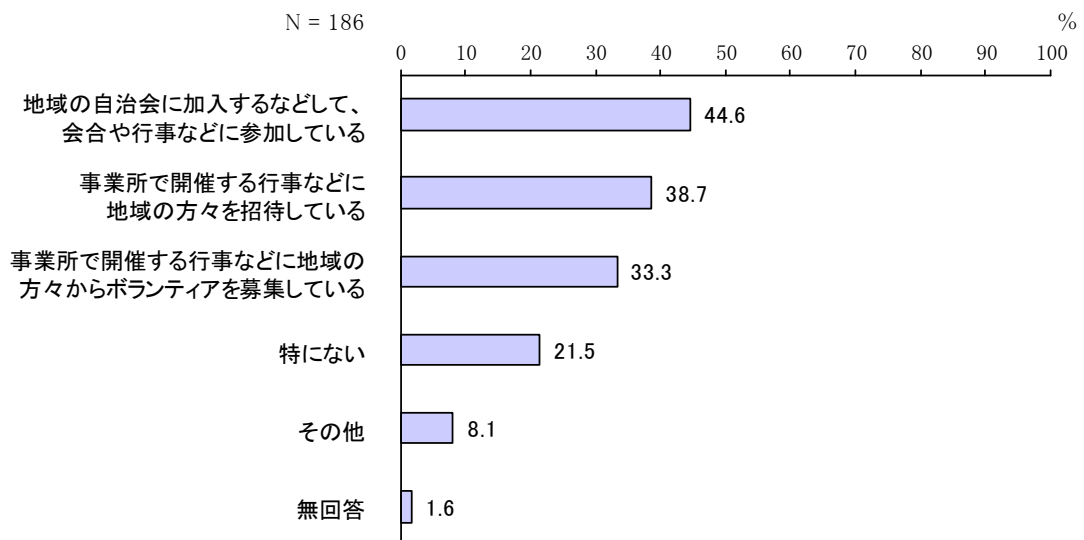


問4 貴施設・事業所では、事業に地域の方の協力を得るためにどんな工夫をされていますか。(当てはまるもの全てに○)

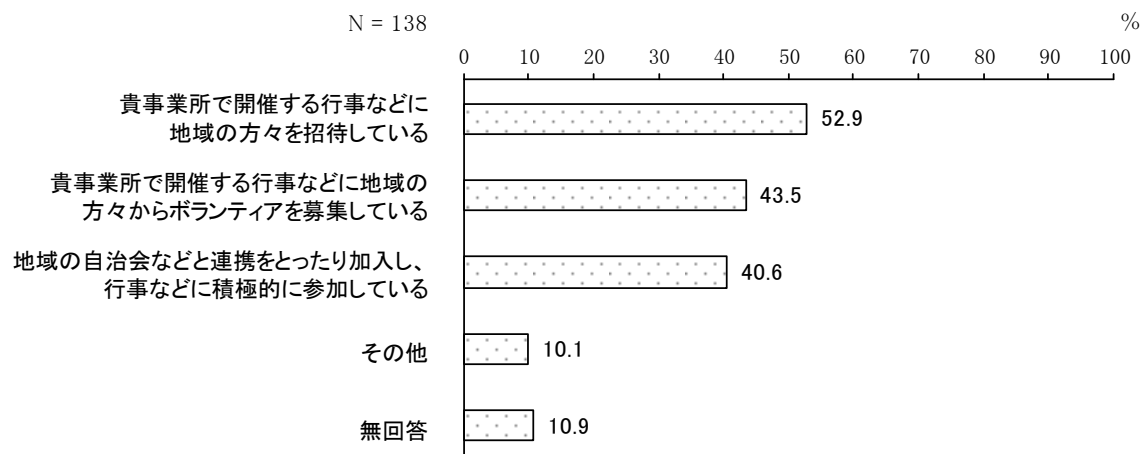
- 1 地域の自治会に加入するなどして、会合や行事などに参加している
- 2 事業所で開催する行事などに地域の方を招待している
- 3 事業所で開催する行事などに地域の方からボランティアを募集している
- 4 特にない
- 5 その他()

回答者の4割前後が「地域の自治会に加入するなどして、会合や行事などに参加している」(44.6%)、「事業所で開催する行事などに地域の方を招待している」(38.7%)を挙げており、次いで3割強が「事業所で開催する行事などに地域の方からボランティアを募集している」(33.3%)を挙げています。一方、2割強の回答者は「特にない」(21.5%)を挙げています。

前回調査(H19、市)と比較してみると、「自治会に加入し、行事に参加している」が増加し、「行事などに地域の方を招待」が減少することで、順位が逆転しています。



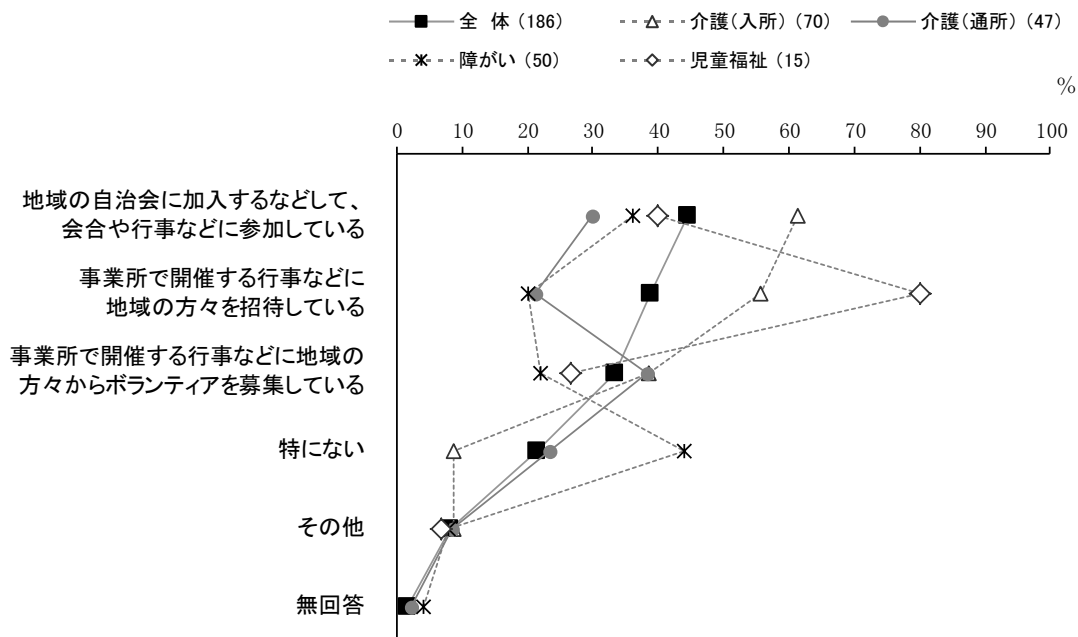
【前回調査 (H19、市) との比較】



事業別にみると、回答者の4分の1以上が挙げている項目は多い順に以下のとおりです。

- ・介護（入所）…①「会合や行事などに参加」、②「行事などに地域の方々を招待」、③「行事などに地域の方々からボランティアを募集」
- ・介護（通所）…①「行事などに地域の方々からボランティアを募集」、②「会合や行事などに参加している」
- ・障がい…①「特にない」、②「会合や行事などに参加している」
- ・児童福祉…①「行事などに地域の方々を招待」、②「会合や行事などに参加している」、③「行事などに地域の方々からボランティアを募集」

【事業別】



(3) -1 ボランティア活動の場づくりについて

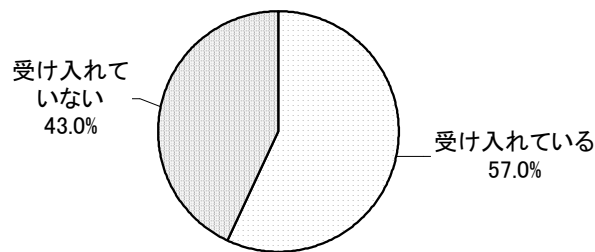
問5 現在、貴施設・事業所では、ボランティアを受け入れていますか。
(どちらかに○)

1 受け入れている →問5-2 へ

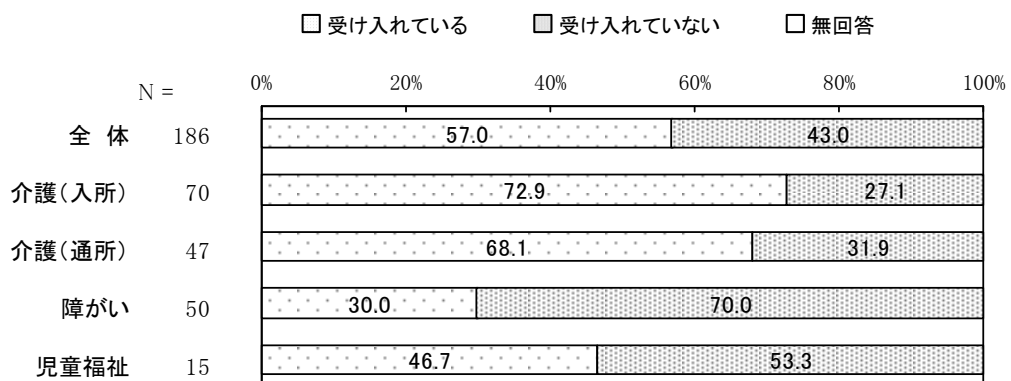
2 受け入れていない

「受け入れている」が57.0%に対し、「受け入れていない」が43.0%となっています。

事業別にみると、「受け入れている」の割合が高いのは、「介護（入所）」、「介護（通所）」、「児童福祉」、「障がい」の順となっています。



N = 186

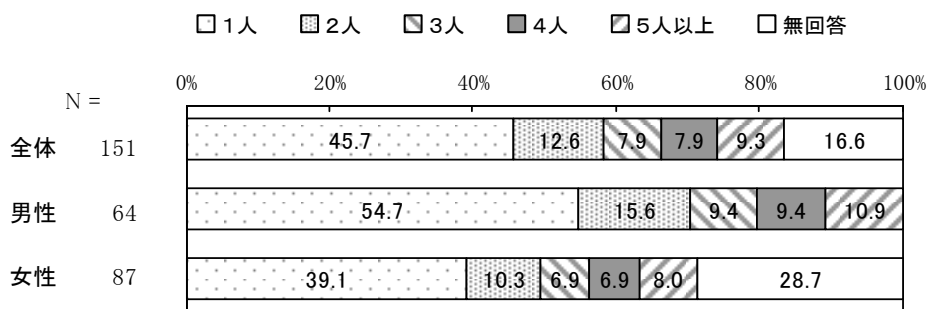
【事業別】

問 5-2(問 5 で 1 を選んだ方) 貴施設・事業所で受け入れているボランティアについて、以下の設問にご回答ください。(下線) には人数、金額等を記入してください。

① 定期的(月に1回以上)に活動しているボランティアの方は何人いますか。

男性 _____人 (うち、65歳以上 _____人)
 女性 _____人 (うち、65歳以上 _____人)

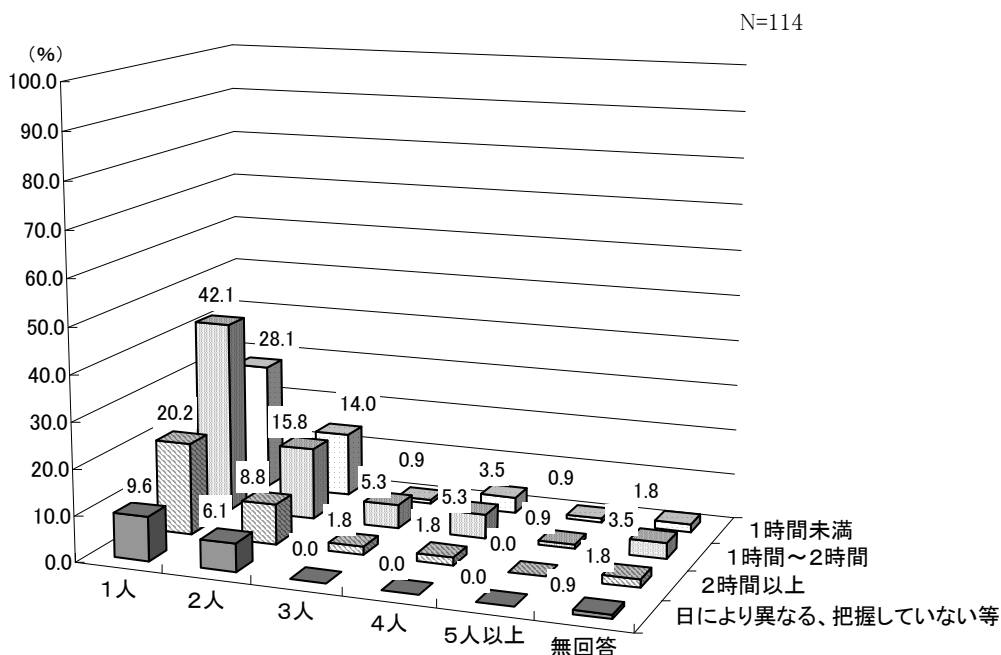
回答者の最も多くが「1人」(45.7%) とし、2人以上の人数(7.9%~12.6%)は1割前後となっています。



② 定期的に活動している65歳以上のボランティアの方について、1回の活動時間別の人数は何人くらいですか。

1時間未満 _____人
 2時間以上 _____人
 1時間~2時間 _____人
 日により異なる、把握していない等 _____人

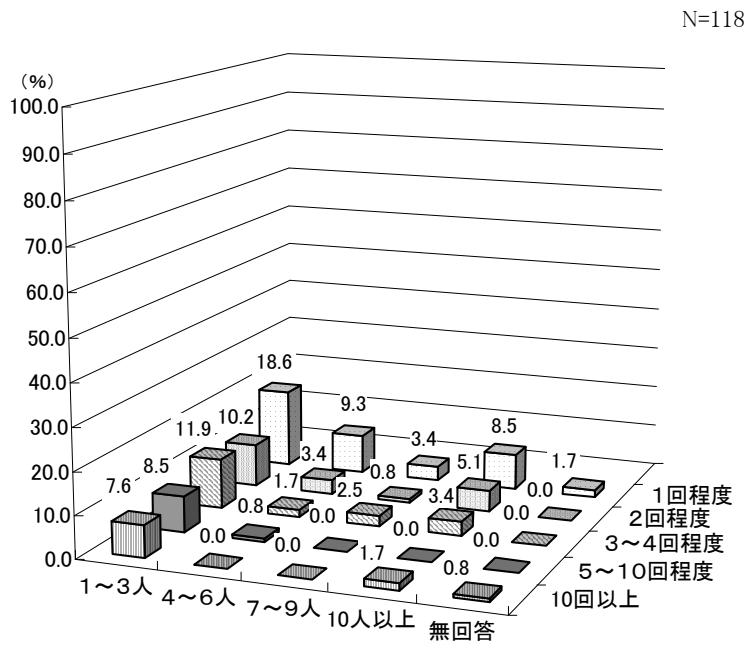
回答者の最も多くが「1時間~2時間、1人」(42.1%)を挙げており、次いで3割弱が「1時間未満、1人」(28.1%)、2割前後が「2時間以上、1人」(20.2%)、「1時間~2時間、2人」(15.8%)を挙げています。



③ 定期的に活動している65歳以上のボランティアの方について、月あたりの活動回数別の人数は何人くらいですか。

1回程度 _____人 2回程度 _____人 3~4回程度 _____人
 5~10回程度 _____人 10回以上 _____人

回答者の2割弱が「1回程度、1~3人」(18.6%)、1割前後が「2回以上、1~3人」(7.6%~11.9%)、「1回程度、4~6人」(9.3%)、「1回程度、10人以上」(8.5%)、「2回程度、10人以上」(5.1%)を挙げています。



④ ボランティアが主に行っている活動は何ですか。(当てはまるもの全てに○)

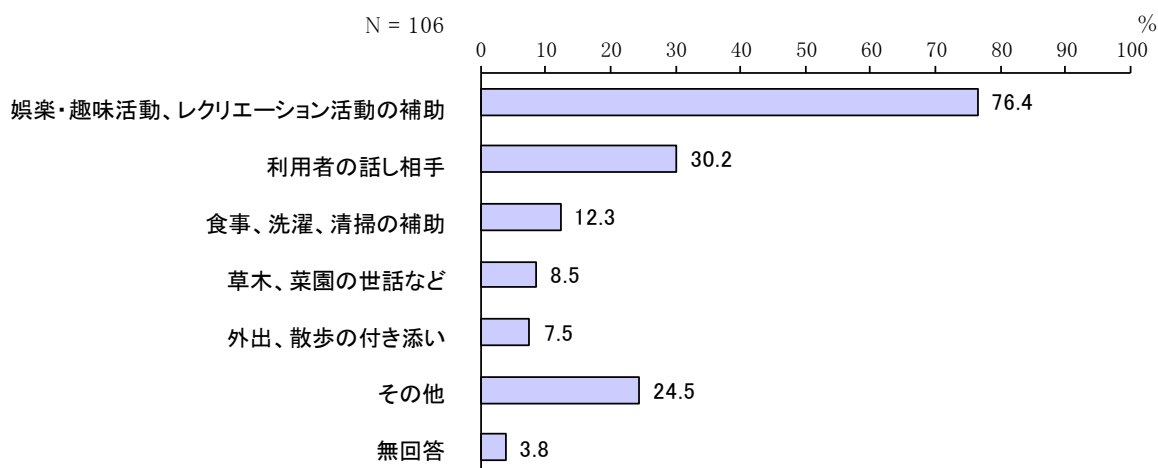
- 1 利用者の話し相手
- 2 娯楽・趣味活動、レクリエーション活動の補助
- 3 食事、洗濯、清掃の補助
- 4 草木、菜園の世話など
- 5 外出、散歩の付き添い
- 6 その他 ()

回答者の最も多くが、「娯楽・趣味活動、レクリエーション活動の補助」(76.4%)を挙げており、次いで3割強が「利用者の話し相手」(30.2%)を挙げています。

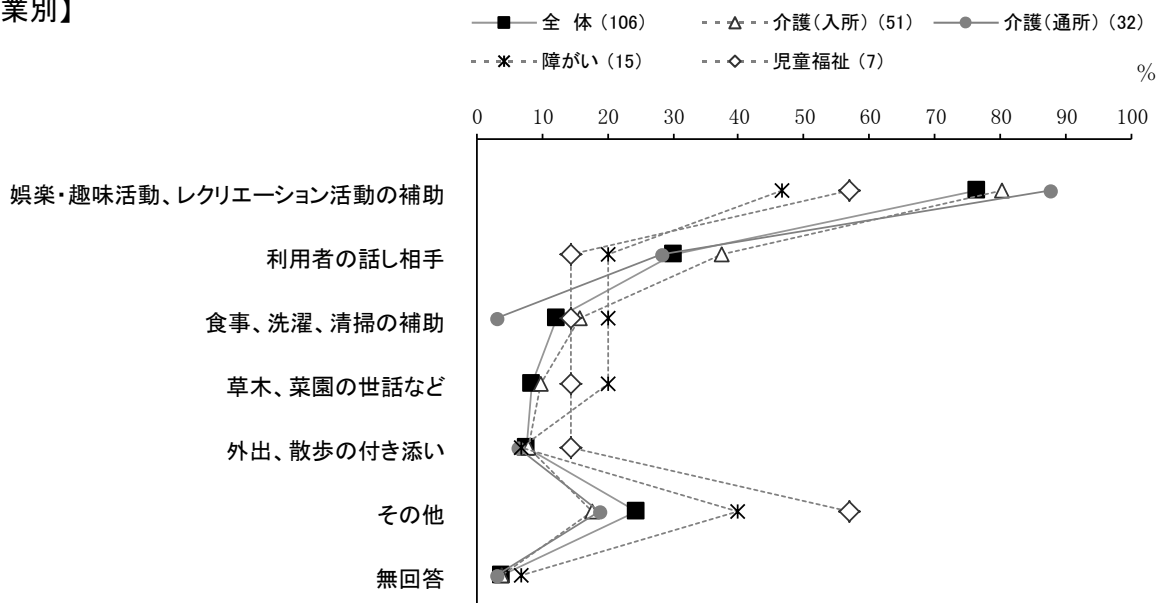
なお、回答者の2割強が挙げている「その他」()欄への記入は25件あり、そのうち14件は[歌や踊りの披露/茶道・フラワーアレンジ・絵手紙等の講師/行事の手伝い]などレクリエーションや行事に関する活動を挙げるものであり、6件は[散髪/マッサージ/喫茶]など利用者の施設生活への支援に関するものでした。

事業別にみると、回答者の4分の1以上が挙げている項目は多い順に以下のとおりです。

- ・介護(入所)…①「娯楽・趣味活動等の補助」、②「話し相手」
- ・介護(通所)…①「娯楽・趣味活動等の補助」、②「話し相手」
- ・障がい…①「娯楽・趣味活動等の補助」
- ・児童福祉…①「娯楽・趣味活動等の補助」



【事業別】



⑤ ボランティアへの謝礼、交通費、食事等の提供はありますか。(どちらかに○)

1 はい → 以下の a～d に内容を記入してください。

- a 謝礼の支給 _____ 円
- b 交通費の支給 _____ 円
- c 食事代の支給 _____ 円
- d その他 (_____)

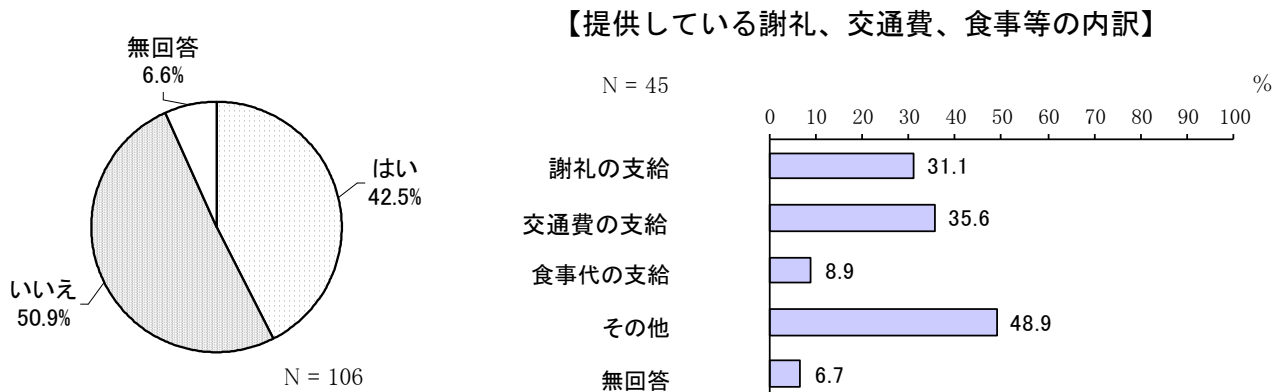
2 いいえ

「はい」が42.5%に対し、「いいえ」が50.9%となっています。

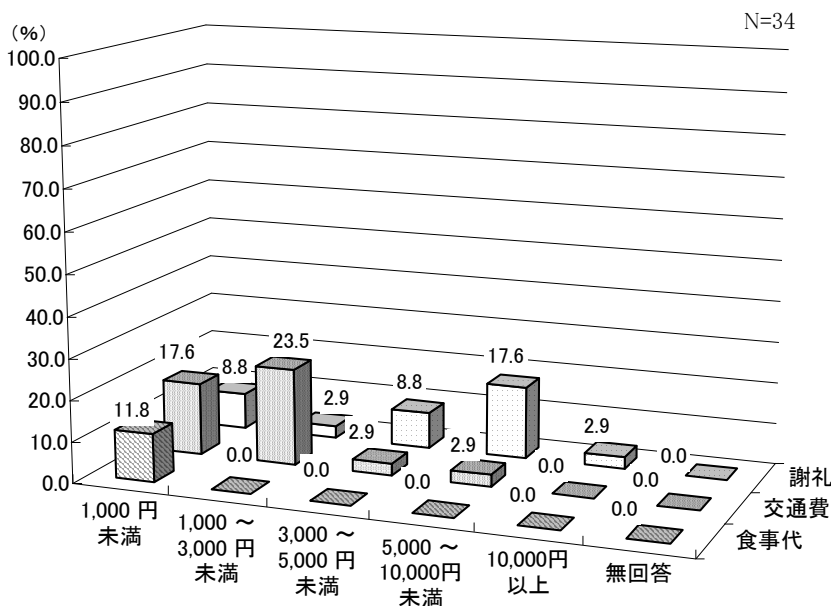
また、提供している謝礼、交通費、食事等の内訳としては、「はい」と回答した事業者の4割弱が「謝礼の支給」(35.6%)、次いで3割強が「交通費の支給」(31.1%)、1割弱が「食事代の支給」(8.9%)を挙げています。

なお、「はい」と回答した事業者の5割弱が挙げている「その他」()欄への記入は22件あり、そのうち12件は[お茶/お茶菓子/飲み物の提供]でした。

謝礼、交通費、食事代の支給金額の内訳としては、「謝礼の支給、交通費の支給、食事代の支給」と回答した事業者の2割前後が「交通費、1,000～3,000円未満」(23.5%)、「謝礼、5,000円～10,000円未満」(17.6%)、「交通費、1,000円未満」(17.6%)を挙げています。



【謝礼、交通費、食事代の支給金額の内訳】



⑥ ボランティアの受入経路はどのようになっていますか。

(当てはまるもの全てに○)

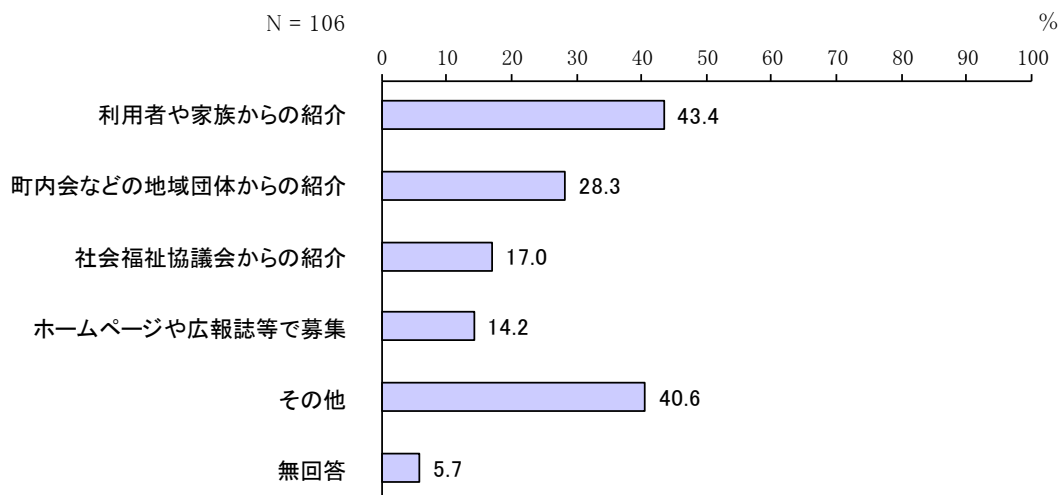
- | | |
|----------------|-------------------|
| 1 社会福祉協議会からの紹介 | 2 町内会などの地域団体からの紹介 |
| 3 利用者や家族からの紹介 | 4 ホームページや広報誌等で募集 |
| 5 その他 () | |

回答者の最も多くが、「利用者や家族からの紹介」(43.4%)を挙げており、次いで3割弱が「町内会などの地域団体からの紹介」(28.3%)を挙げています。

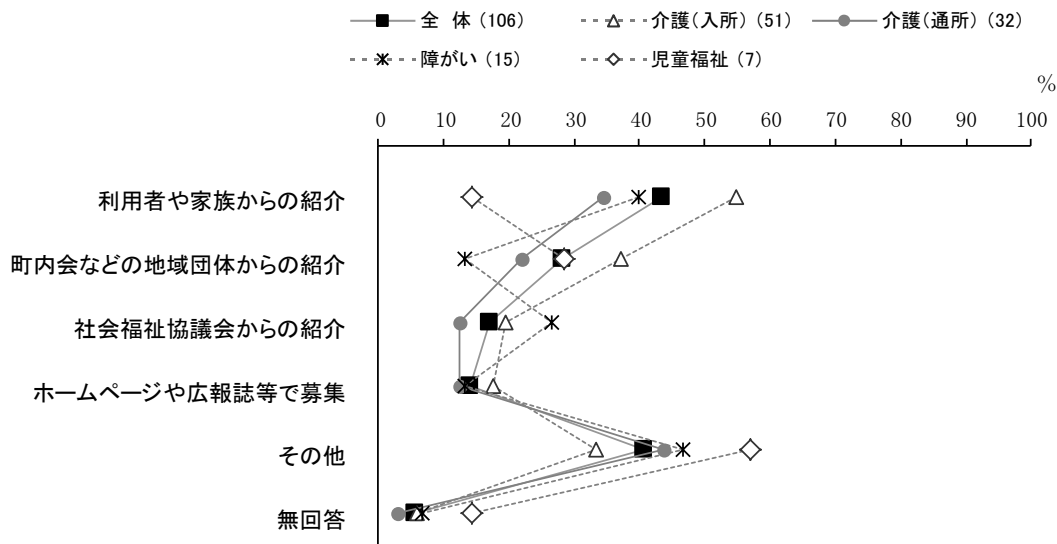
なお、回答者の4割強が挙げている「その他」()欄への記入は40件あり、そのうち11件が[本人から]、11件が[職員から/職員の知人から]でした。

事業別にみると、回答者の4分の1以上が挙げている項目は多い順に以下のとおりです。

- ・介護(入所)…①「利用者や家族からの紹介」、②「町内会などの地域団体からの紹介」
- ・介護(通所)…①「利用者や家族からの紹介」
- ・障がい…①「利用者や家族からの紹介」、②「社会福祉協議会からの紹介」
- ・児童福祉…①「町内会などの地域団体からの紹介」



【事業別】



⑦ ボランティアを受け入れて良いと感じた点は何ですか。

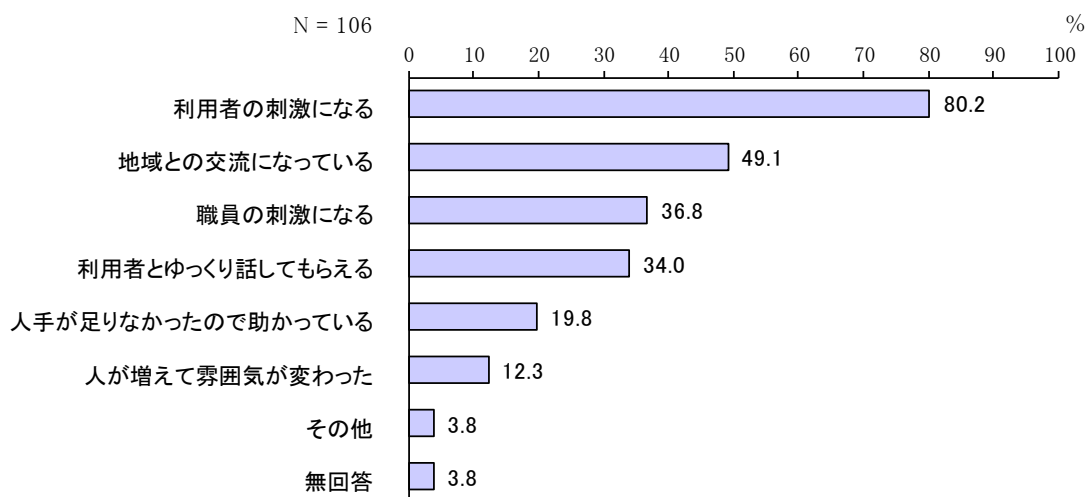
(当てはまるもの全てに○)

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1 人が増えて雰囲気が変わった | 2 職員の刺激になる |
| 3 利用者の刺激になる | 4 地域との交流になっている |
| 5 人手が足りなかったのに助かっている | 6 利用者と一緒に話してもらえる |
| 7 その他 () | |

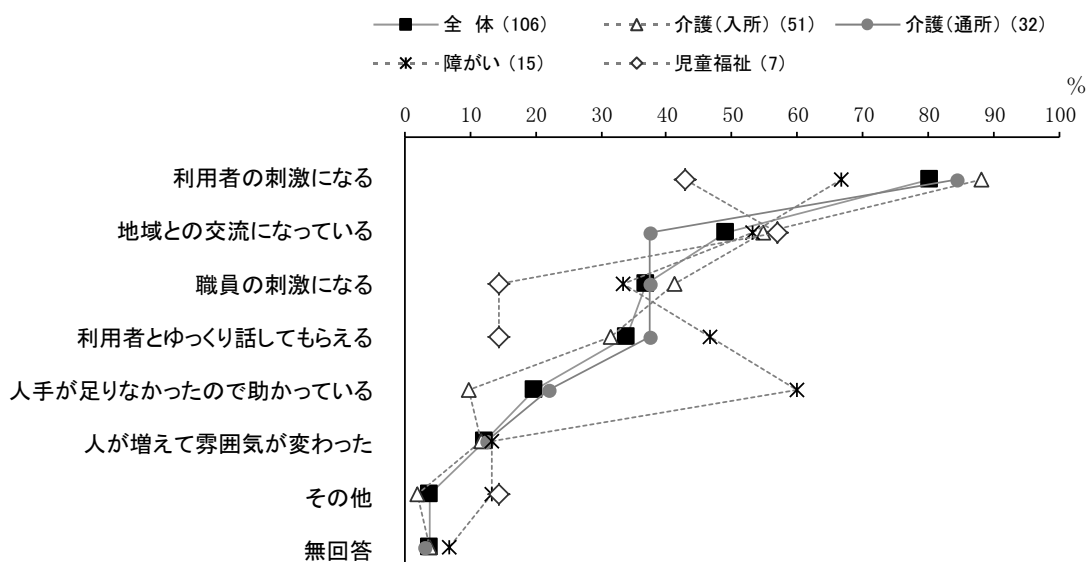
回答者の最も多くが、「利用者の刺激になる」(80.2%)を挙げており、次いで5割弱が「地域との交流になっている」(49.1%)、4割弱が「職員の刺激になる」(36.8%)、3割強が「利用者と一緒に話してもらえる」(34.0%)、2割弱が「人手が足りなかったのに助かっている」(19.8%)を挙げています。

事業別にみると、回答者の4分の1以上が挙げている項目は多い順に以下のとおりです。

- ・介護(入所)…①「利用者の刺激になる」、②「地域との交流になっている」、③「職員の刺激になる」、④「利用者と一緒に話してもらえる」
- ・介護(通所)…①「利用者の刺激になる」、②「地域との交流になっている」、②「職員の刺激になる」、②「利用者と一緒に話してもらえる」
- ・障がい…①「利用者の刺激になる」、②「人手が足りなかったのに助かっている」、③「地域との交流になっている」、④「利用者と一緒に話してもらえる」、⑤「職員の刺激になる」
- ・児童福祉…①「地域との交流になっている」、②「利用者の刺激になる」



【事業別】



⑧ 反対に、ボランティアを受け入れて良くないと感じた点は何ですか。

(当てはまるもの全てに○)

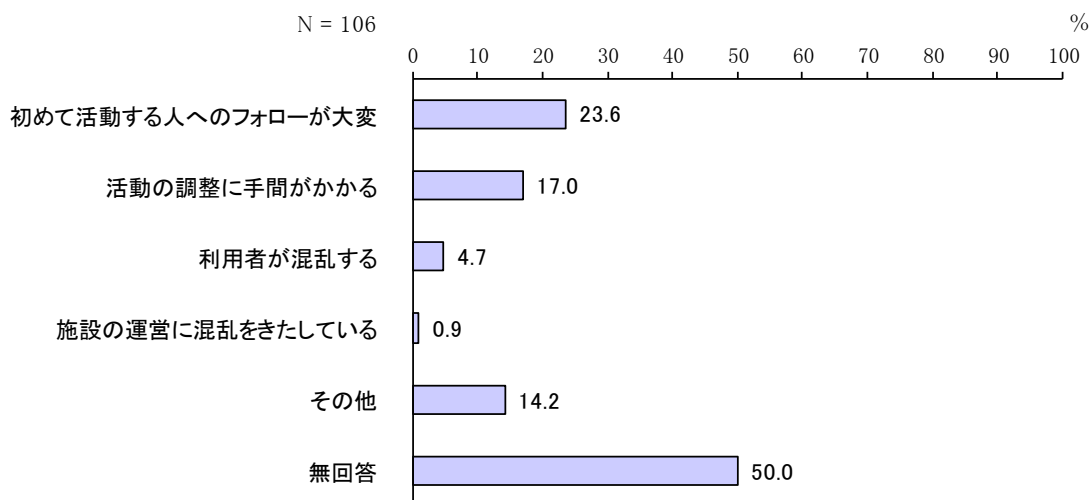
- 1 活動の調整に手間がかかる
- 2 初めて活動する人へのフォローが大変
- 3 施設の運営に混乱をきたしている
- 4 利用者が混乱する(落ちつかなくなる、生活のリズムが乱れるなど)
- 5 その他()

回答者の 2 割前後が「初めて活動する人へのフォローが大変」(23.6%)、「活動の調整に手間がかかる」(17.0%)を挙げています。

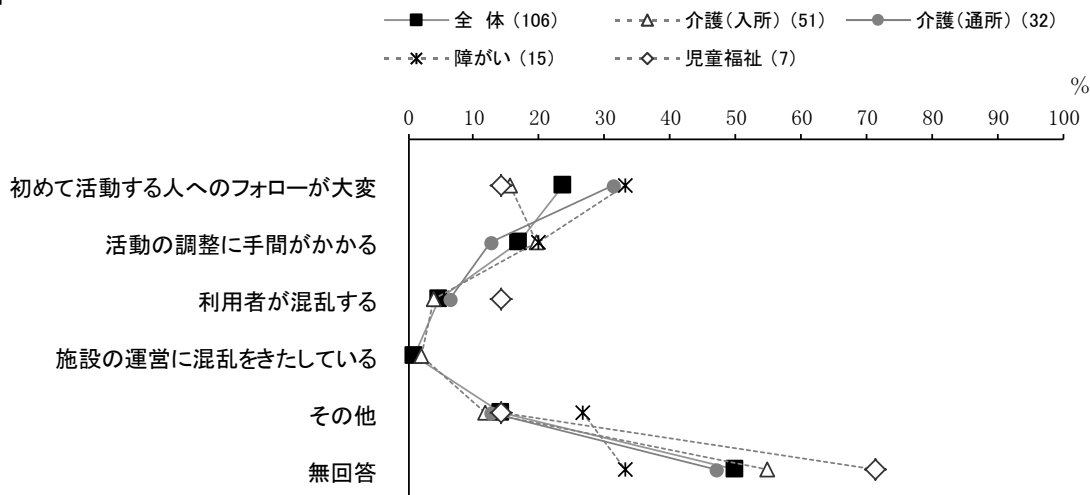
なお、回答者の 1 割強が挙げている「その他」() 欄への記入は 14 件あり、そのうち 10 件は [不満はない/特になし]でした。

事業別にみると、回答者の 4 分の 1 以上が挙げている項目は多い順に以下のとおりです。

- ・介護(通所)…①「初めて活動する人へのフォローが大変」
- ・障がい…①「初めて活動する人へのフォローが大変」



【事業別】



(3) -2 介護支援ボランティアについて

東京都稲城市など、いくつかの自治体においては介護保険事業の中で介護支援等のボランティア活動（介護施設におけるボランティア活動や地域住民相互の助け合い活動など）に取り組む高齢者に、その活動に応じて「ポイント」を付与し、そのポイントを介護保険料や生活支援サービスの利用料に充てることのできる『介護支援ボランティア・ポイント制度』の導入が図られています。

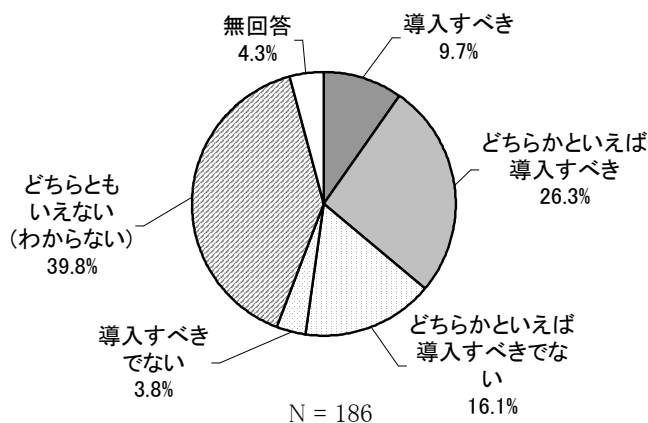
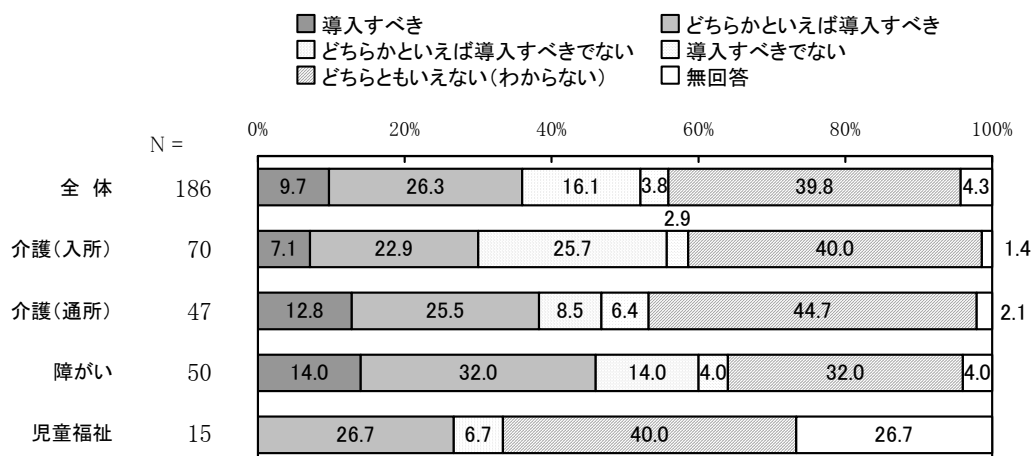
このような動向に対しては、「高齢者の社会参画が促進される結果、介護予防効果が期待される」という意見がある一方で、「ボランティア活動の自発性・無償性を損ねてしまうのではないか」など賛否を含む様々な意見があるようです。

**問6 介護支援ボランティア・ポイント制度を本市でも導入すべきだと思いますか。
（いずれかに○）**

- 1 導入すべき →問6-2へ
- 2 どちらかといえば導入すべき →問6-2へ
- 3 どちらかといえば導入すべきでない →問6-3へ
- 4 導入すべきでない →問6-3へ
- 5 どちらともいえない（わからない）

「導入すべき」(9.7%)、「どちらかといえば導入すべき」(26.3%)のように、“導入すべき”とする回答が合わせて4割弱となっているのに対し、「導入すべきでない」(3.8%)、「どちらかといえば導入すべきでない」(16.1%)のように“導入すべきでない”とする回答が合わせて2割弱となっています。この一方で、「どちらともいえない（わからない）」が39.8%となっています。

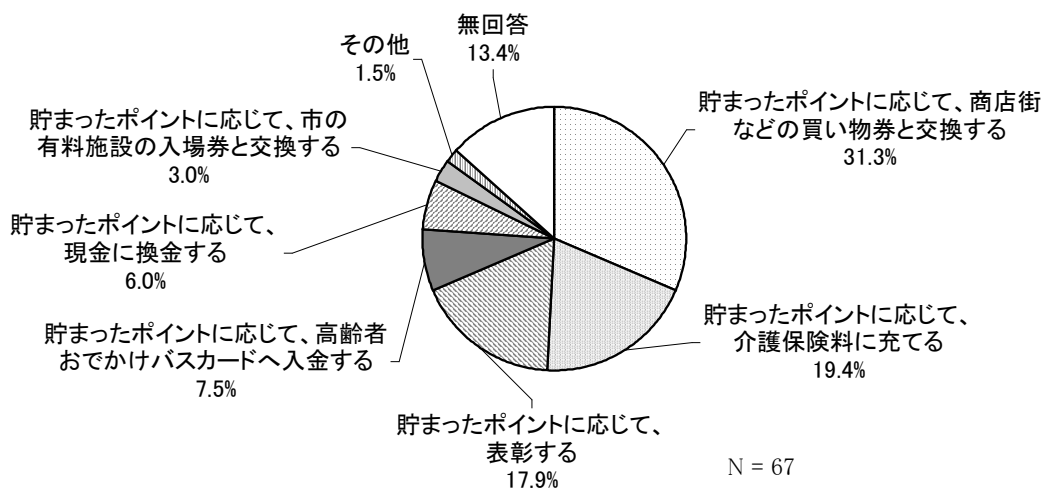
事業別にみると、“導入すべき”の割合が高いのは、「障がい」、「介護（通所）」、「介護（入所）」、「児童福祉」の順となっています。

**【事業別】**

問 6-2 (問 6 で 1 か 2 を選んだ方) 本市で介護支援ボランティア・ポイント制度を導入した場合、付与されたポイントをどのように還元すると良いと思いますか。
(いずれかに○)

- 1 貯まったポイントに応じて、表彰する
- 2 貯まったポイントに応じて、高齢者おでかけバスカード（※市が70歳以上の高齢者へ交付する割引特典のついたバスカードのことです。）へ入金する
- 3 貯まったポイントに応じて、市の有料施設の入場券と交換する
- 4 貯まったポイントに応じて、商店街などの買い物券と交換する
- 5 貯まったポイントに応じて、現金に換金する
- 6 貯まったポイントに応じて、介護保険料に充てる
- 7 その他（ ）

回答者の 3 割強が「貯まったポイントに応じて、商店街などの買い物券と交換する」(31.3%) を挙げており、次いで 2 割弱が「貯まったポイントに応じて、介護保険料に充てる」(19.4%)、「貯まったポイントに応じて、表彰する」(17.9%) を挙げています。

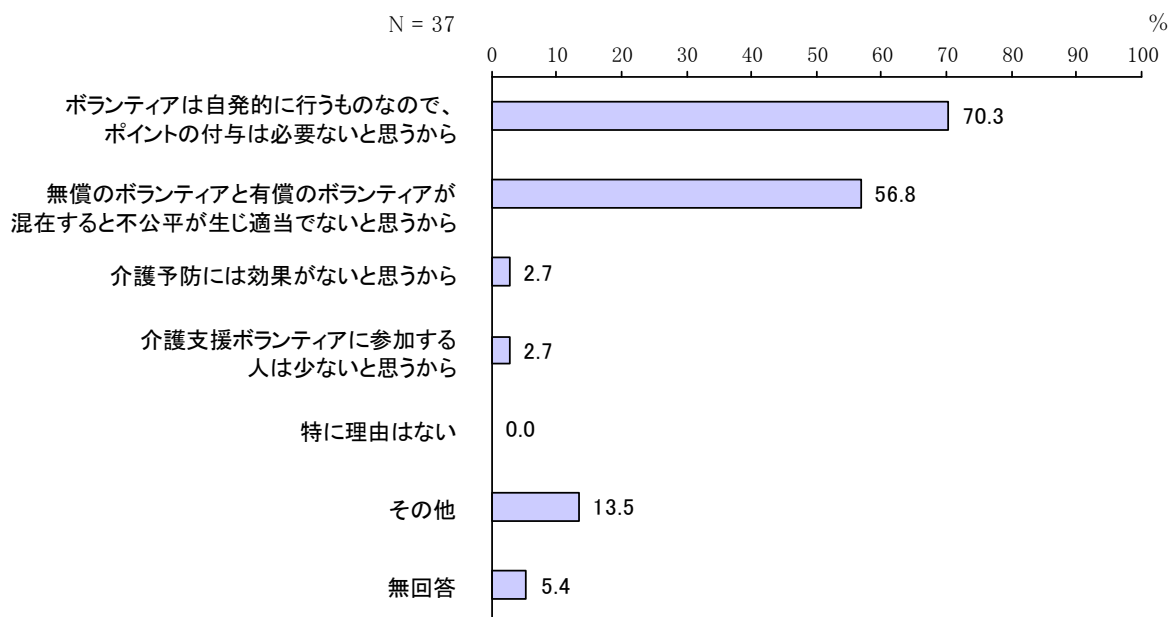


問 6-3 (問 6 で 3 か 4 を選んだ方) 導入すべきでないと思う理由は何ですか。貴施設・事業所のお考えに近いものをお選びください。(当てはまるもの全てに○)

- 1 ボランティアは自発的に行うものなので、ポイントの付与は必要ないと思うから
- 2 無償のボランティアと有償のボランティアが混在すると不公平が生じ適当でないと思うから
- 3 介護予防には効果がないと思うから
- 4 介護支援ボランティアに参加する人は少ないと思うから
- 5 特に理由はない
- 6 その他 ()

回答者の最も多くが「ボランティアは自発的に行うものなので、ポイントの付与は必要ないと思うから」(70.3%)を挙げており、次いで 6 割弱が「無償のボランティアと有償のボランティアが混在すると不公平が生じ適当でないと思うから」(56.8%)を挙げています。一方、「介護予防には効果がないと思うから」(2.7%)、「介護支援ボランティアに参加する人は少ないと思うから」(2.7%)は 1 割未満となっています。

なお、回答者の 1 割強が挙げている「その他」() 欄への記入は 5 件あり、そのうち 3 件は[知識のない者が支援するのは危険/専門性からボランティアになじまない]など知識のない者や無資格者が介護支援に携わるべきではないとするものでした。



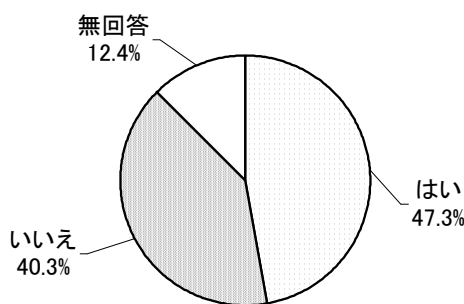
問7 本市で介護支援ボランティア・ポイント制度を導入した場合、貴施設・事業所では介護支援ボランティアを受け入れたいと思いますか。(上記の説明に対する印象に基づいてご回答いただければ結構です。)(どちらかに○)

1 はい →問7-2へ

2 いいえ →問7-3へ

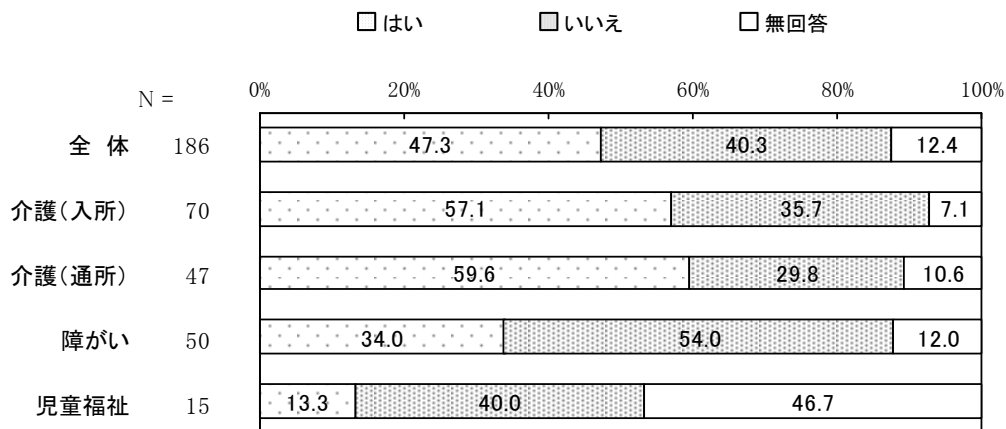
「はい」が47.3%に対し、「いいえ」が40.3%となっています。

事業別にみると、「はい」の割合が高いのは、「介護(通所)」、「介護(入所)」、「障がい」、「児童福祉」の順となっています。



N = 186

【事業別】



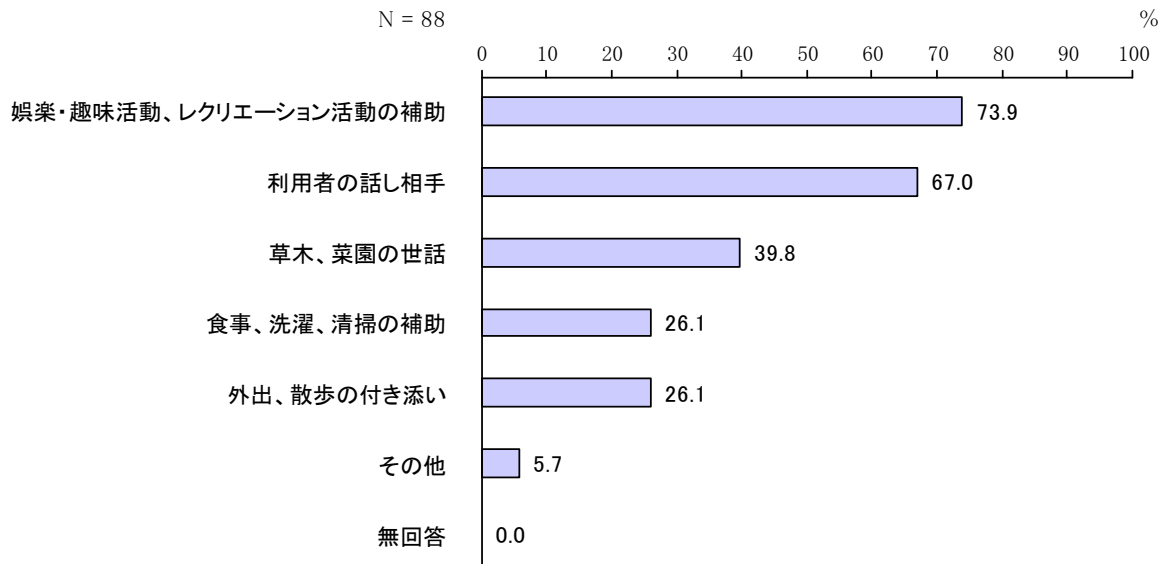
問7-2（問7で1を選んだ方）どのようなボランティア活動なら受入れ可能ですか。
（当てはまるもの全てに○）

- | | |
|---------------|-------------------------|
| 1 利用者の話し相手 | 2 娯楽・趣味活動、レクリエーション活動の補助 |
| 3 食事、洗濯、清掃の補助 | 4 草木、菜園の世話 |
| 5 外出、散歩の付き添い | 6 その他（ ） |

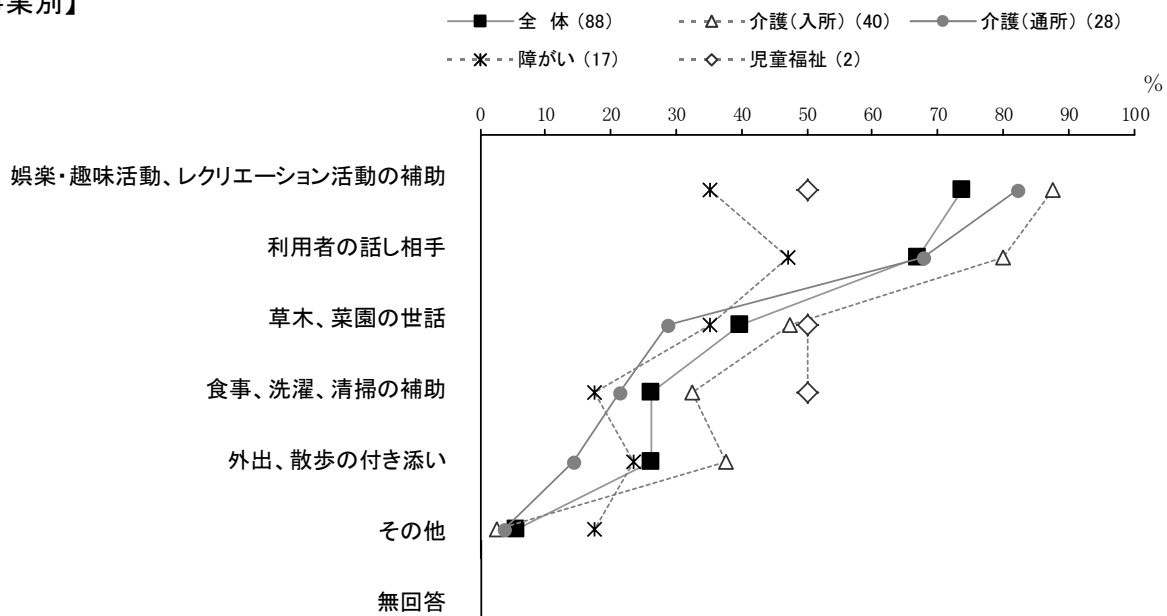
回答者の7割前後が「娯楽・趣味活動、レクリエーション活動の補助」(73.9%)、「利用者の話し相手」(67.0%)を挙げており、次いで4割弱が「草木、菜園の世話」(39.8%)、3割弱が「食事、洗濯、清掃の補助」(26.1%)、「外出、散歩の付き添い」(26.1%)を挙げています。

事業別にみると、回答者の4分の1以上が挙げている項目は多い順に以下のとおりです。

- ・介護（入所）…①「娯楽・趣味活動等の補助」、②「話し相手」、③「草木、菜園の世話」、④「外出、散歩の付き添い」、⑤「食事、洗濯、清掃の補助」
- ・介護（通所）…①「娯楽・趣味活動等の補助」、②「話し相手」、③「草木、菜園の世話」
- ・障がい…①「話し相手」、②「娯楽・趣味活動等の補助」、②「草木、菜園の世話」
- ・児童福祉…①「娯楽・趣味活動等の補助」、①「草木、菜園の世話」、①「食事、洗濯、清掃の補助」



【事業別】

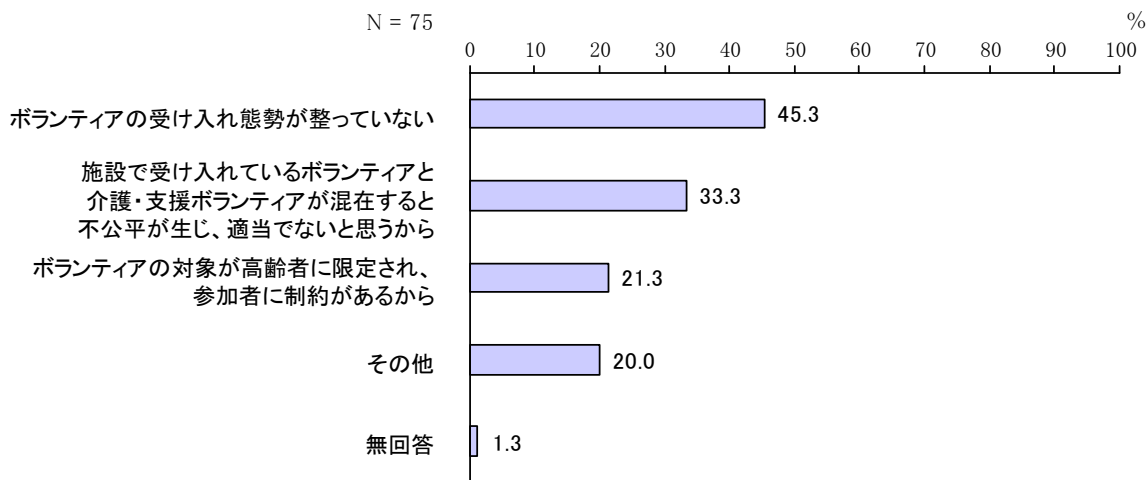


問 7-3 (問 7 で 2 を選んだ方) 受け入れできない理由は何ですか。
(当てはまるもの全てに○)

- 1 ボランティアの受け入れ態勢が整っていない
- 2 ボランティアの対象が高齢者に限定され、参加者に制約があるから
- 3 施設で受け入れているボランティアと介護・支援ボランティアが混在すると不公平が生じ、適当でないと思うから
- 4 その他 ()

回答者の最も多くが「ボランティアの受け入れ態勢が整っていない」(45.3%)を挙げており、次いで3割強が「施設で受け入れているボランティアと介護・支援ボランティアが混在すると不公平が生じ、適当でないと思うから」(33.3%)、2割強が「ボランティアの対象が高齢者に限定され、参加者に制約があるから」(21.3%)を挙げています。

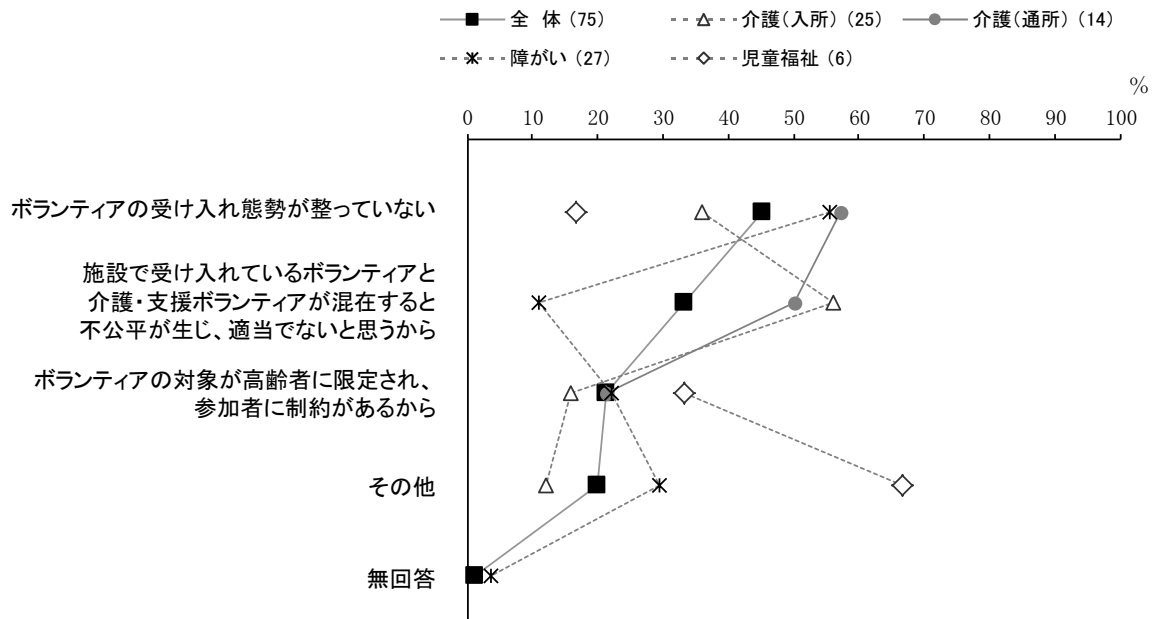
なお、回答者の2割が挙げている「その他」()欄への記入は15件あり、そのうち9件は[介護支援を必要としない事業所だから/種別的に対象外]など自らを介護支援ボランティアの受け入れ対象施設ではないと考えていることを示唆するものでした。



事業別にみると、回答者の4分の1以上が挙げている項目は多い順に以下のとおりです。

- ・介護（入所）…①「施設のボランティアと介護・支援ボランティアが混在すると不公平が生じる」、②「受け入れ態勢が整っていない」
- ・介護（通所）…①「受け入れ態勢が整っていない」、②「施設のボランティアと介護・支援ボランティアが混在すると不公平が生じる」
- ・障がい…①「受け入れ態勢が整っていない」
- ・児童福祉…①「対象が高齢者に限定され、参加者に制約があるから」

【事業別】

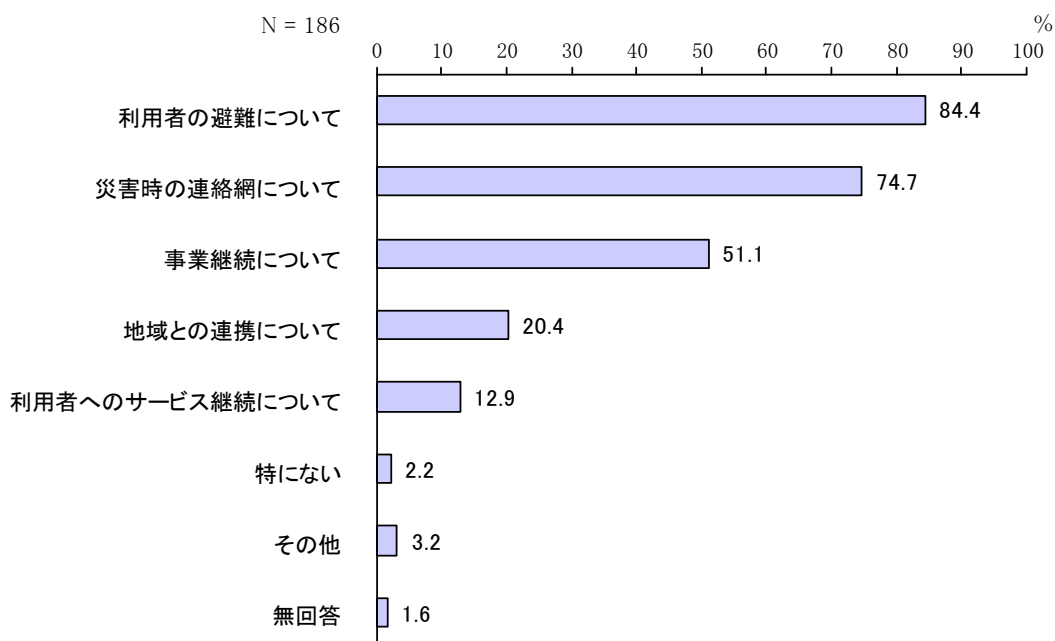


(4) 非常災害対策について

問9 貴施設・事業所では、防災計画として何を具体的に定めていますか。
(当てはまるもの全てに○)

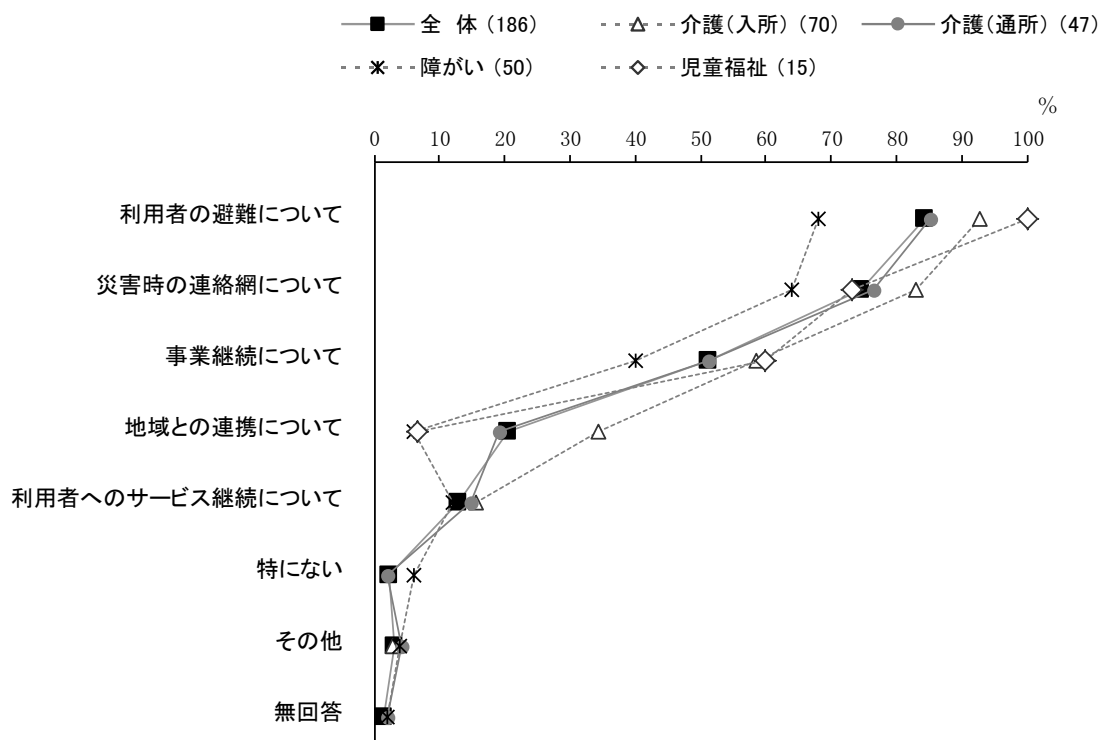
- 1 利用者の避難（避難方法・避難先）について
- 2 事業継続（職員の出勤体制、役割）について
- 3 災害時の連絡網（利用者家族・関係機関への連絡方法など）について
- 4 利用者へのサービス継続（自事業所でサービスが提供できなくなった場合に他事業所を紹介する体制など）について
- 5 地域との連携について
- 6 特にない
- 7 その他（)

回答者の最も多くが「利用者の避難（避難方法・避難先）について」（84.4%）を挙げており、次いで7割強が「災害時の連絡網（利用者家族・関係機関への連絡方法など）について」（74.7%）、5割強が「事業継続（職員の出勤体制、役割）について」（51.1%）、2割強が「地域との連携について」（20.4%）を挙げています。



事業別にみると、回答者の4分の1以上が挙げている項目はすべての業種において多い順に、①「利用者の避難（避難方法・避難先）について」、②「災害時の連絡網（利用者家族・関係機関への連絡方法など）について」、③「事業継続（職員の出勤体制、役割）について」となっています。

【業種別】

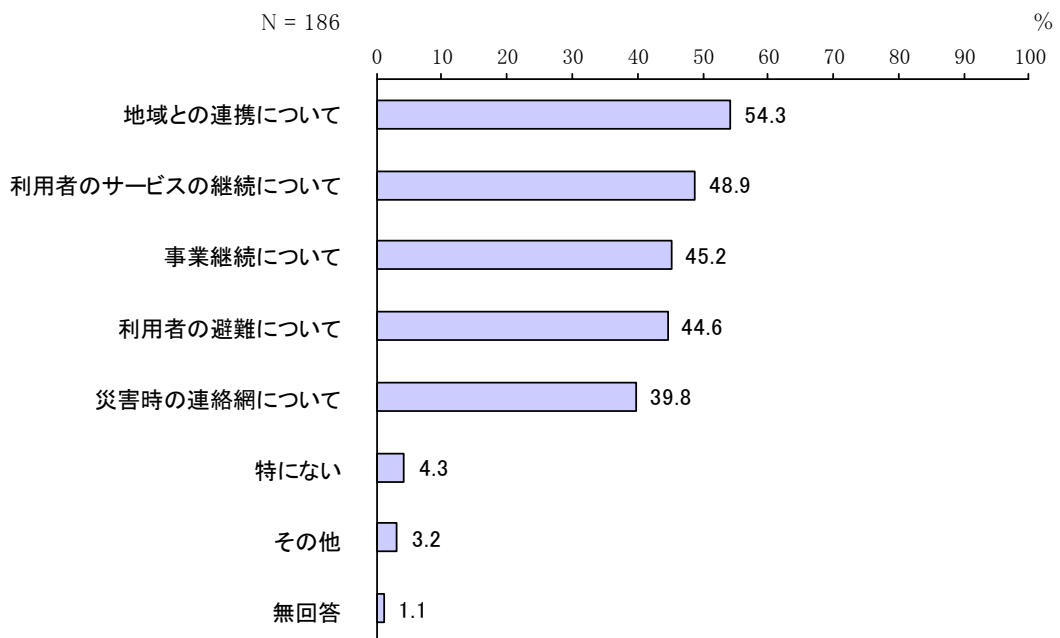


問10 防災計画について、今後強化していきたいもの（計画の内容を充実、新たに計画に盛り込むなど）は何ですか。（当てはまるもの全てに○）

- 1 利用者の避難（避難方法・避難先）について
- 2 事業継続（職員の出勤体制、役割）について
- 3 災害時の連絡網（利用者家族・関係機関への連絡方法など）について
- 4 利用者のサービスの継続（自事業所でサービスが提供できなくなった場合に他事業所を紹介する体制など）について
- 5 地域との連携について
- 6 特にない
- 7 その他（ ）

回答者の4割弱から5割前後が「特にない」及び「その他」を除く全ての回答選択肢を挙げており、「地域との連携について」（54.3%）、「利用者のサービスの継続（自事業所でサービスが提供できなくなった場合に他事業所を紹介する体制など）について」（48.9%）、「事業継続（職員の出勤体制、役割）について」（45.2%）、「利用者の避難（避難方法・避難先）について」（44.6%）、「災害時の連絡網（利用者家族・関係機関への連絡方法など）について」（39.8%）となっています。

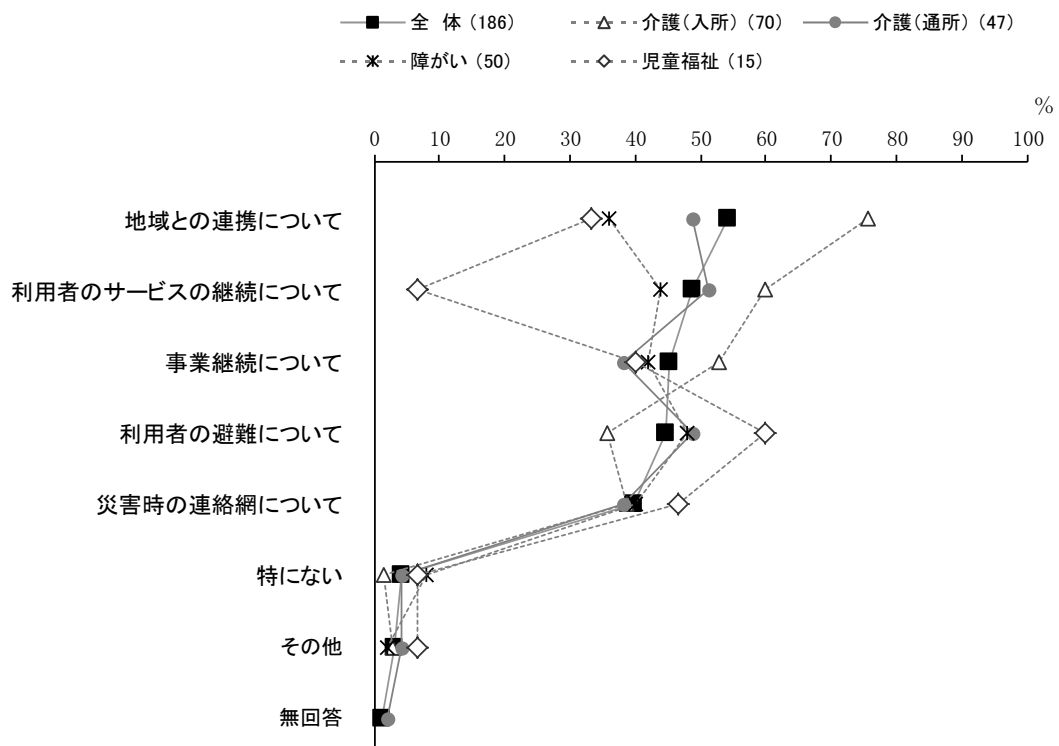
問9の結果（現在の防災計画の内容）と比較してみると、現時点においては低順位（一部の事業所のみが防災計画に盛り込んでいるのみ）であった「地域との連携」や「利用者へのサービス継続」が、ここでは上位項目に挙げられ、それぞれ、4位から1位、5位から2位となっています。



事業別にみると、回答者の4分の1以上が挙げている項目は多い順に以下のとおりです。

- ・介護（入所）…①「地域との連携」、②「利用者のサービス継続」、③「事業継続」、
④「災害時の連絡網」、⑤「利用者の避難」
- ・介護（通所）…①「利用者のサービス継続」、②「地域との連携」、②「利用者の避難」、
④「事業継続」、④「災害時の連絡網」
- ・障がい…①「利用者の避難」、②「利用者のサービス継続」、③「事業継続」、
④「災害時の連絡網」、⑤「地域との連携」
- ・児童福祉…①「利用者の避難」、②「災害時の連絡網」、③「事業継続」、
④「地域との連携」

【事業別】



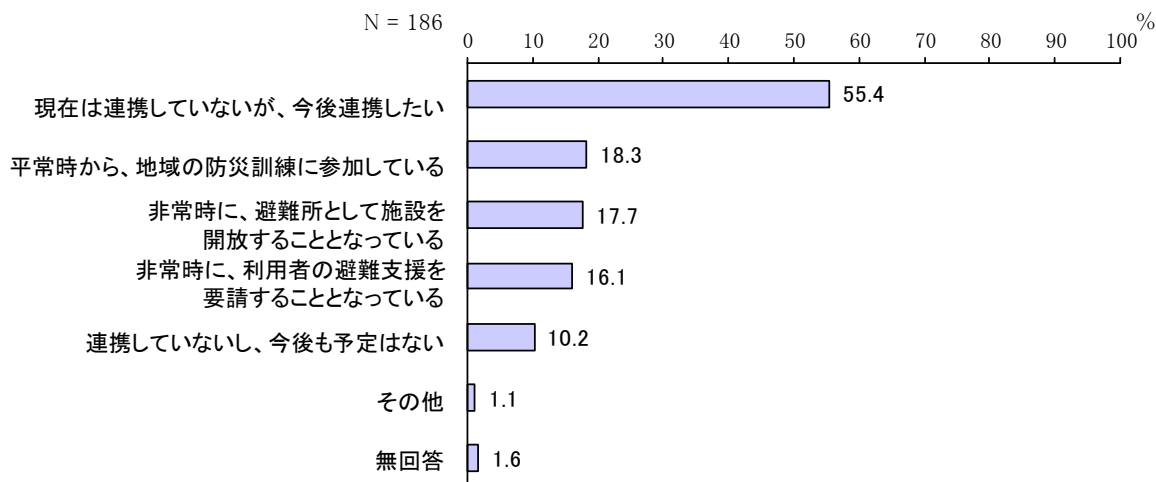
問 11 貴施設・事業所では地域の自主防災組織（自治会や消防団など）とどのように連携していますか。（当てはまるもの全てに○）

- 1 平常時から、地域の防災訓練に参加している
- 2 非常時に、利用者の避難支援を要請することとなっている
- 3 非常時に、避難所として施設を開放することとなっている
- 4 現在は連携していないが、今後連携したい
- 5 連携していないし、今後も予定はない
- 6 その他（ ）

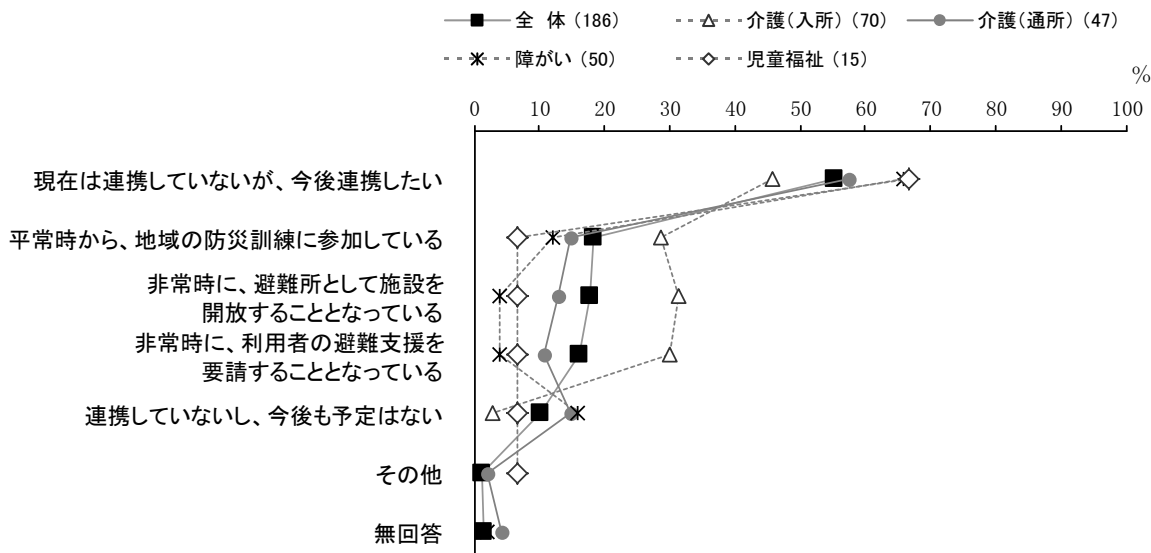
回答者の 5 割強が「現在は連携していないが、今後連携したい」（55.4%）を挙げており、次いで 2 割弱が、「平常時から、地域の防災訓練に参加している」（18.3%）、「非常時に、避難所として施設を開放することとなっている」（17.7%）、「非常時に、利用者の避難支援を要請することとなっている」（16.1%）を挙げています。一方で、回答者の 1 割強が「連携していないし、今後も予定はない」（10.2%）を挙げています。

事業別にみると、回答者の 4 分の 1 以上が挙げている項目は多い順に以下のとおりです。

- ・介護（入所）…①「現在は連携していないが、今後連携したい」、②「非常時に、避難所として施設を開放する」、③「非常時に、利用者の避難支援を要請する」、④「平常時から、地域の防災訓練に参加」
- ・介護（通所）…①「現在は連携していないが、今後連携したい」
- ・障がい…①「現在は連携していないが、今後連携したい」
- ・児童福祉…①「現在は連携していないが、今後連携したい」



【事業別】



問 12 災害時の利用者へのサービスの継続についてはどうなっていますか。
(当てはまるもの全てに○)

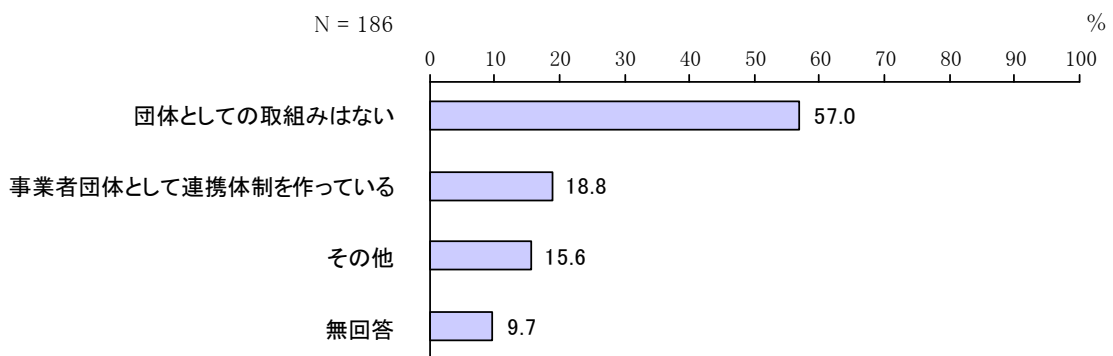
- 1 事業者団体として連携体制を作っている（具体的には、）
 2 団体としての取組みはない
 3 その他（）

回答者の6割弱が「団体としての取組みはない」(57.0%)を挙げているのに対して、「事業者団体として連携体制を作っている」(18.8%)は2割弱となっています。

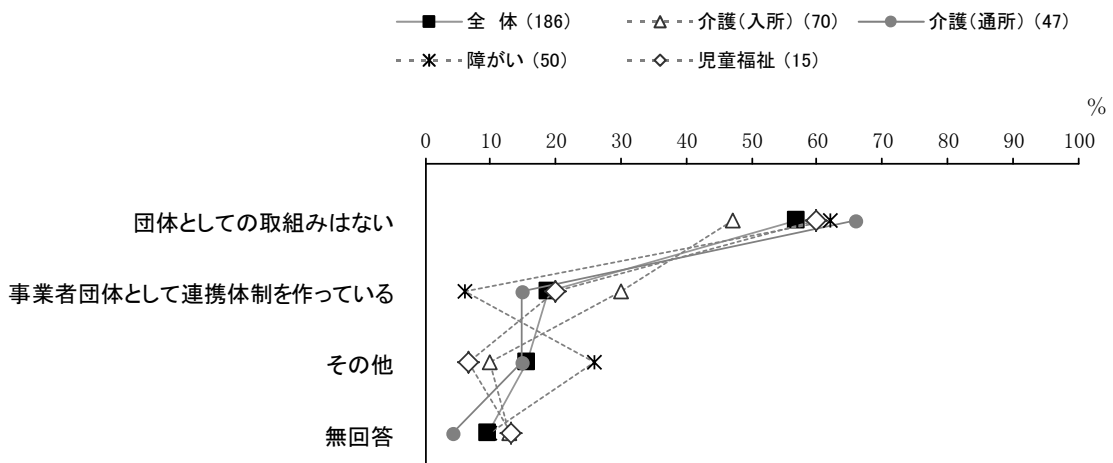
なお、選択肢1の「具体的には」()欄への記入は、25件あり、そのうち10件は同種の事業者間での協定や協議会組織を挙げるものであり、7件は法人内の施設間連携を挙げるものでした。

また、回答者の2割弱が挙げている「その他」()欄への記入は21件あり、そのうち5件は[検討中]、5件は[計画中/いずれは必要]など計画化の意向を示すものでした。

事業別にみると、「事業者団体として連携体制を作っている」の割合が高いのは、「介護（入所）」、「児童福祉」、「介護（通所）」の順となっています。



【事業別】



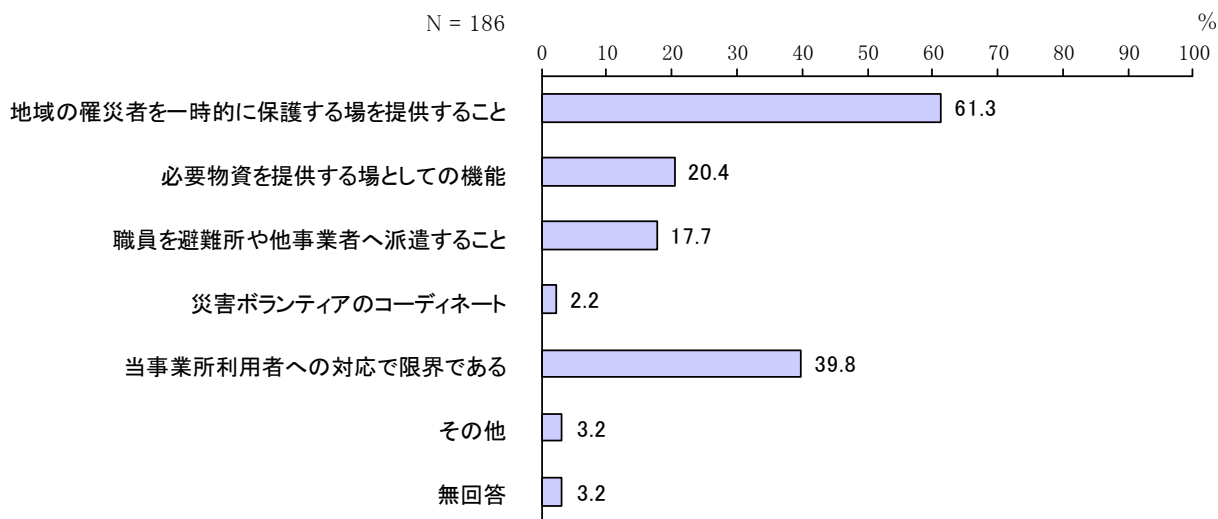
問13 貴施設・事業所では、災害発生時に利用者はもちろん地域の罹災者に対してどのような救助活動や支援ができると考えていますか。
(当てはまるもの全てに○)

- 1 地域の罹災者を一時的に保護する場を提供すること
- 2 必要物資を提供する場としての機能
- 3 災害ボランティアのコーディネート
- 4 職員を避難所や他事業者へ派遣すること
- 5 当事業所利用者への対応で限界である
- 6 その他

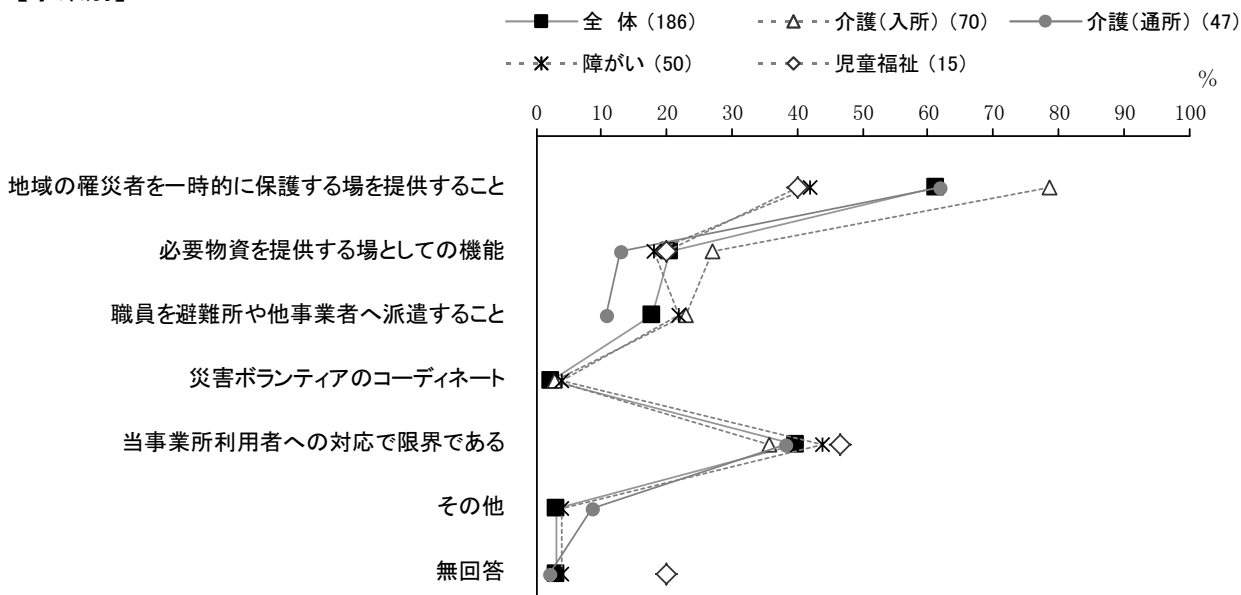
回答者の最も多くが「地域の罹災者を一時的に保護する場を提供すること」(61.3%)を挙げており、2割前後が「必要物資を提供する場としての機能」(20.4%)、「職員を避難所や他事業者へ派遣すること」(17.7%)を挙げています。一方で、回答者の4割弱が「当事業所利用者への対応で限界である」(39.8%)を挙げています。

事業別にみると、回答者の4分の1以上が挙げている項目は多い順に以下のとおりです。

- ・介護(入所)…①「罹災者を一時的に保護する場を提供」、②「利用者への対応で限界」、③「必要物資を提供する場」
- ・介護(通所)…①「罹災者を一時的に保護する場を提供」、②「所利用者への対応で限界」
- ・障がい…①「利用者への対応で限界」、②「罹災者を一時的に保護する場を提供」
- ・児童福祉…①「利用者への対応で限界」、②「罹災者を一時的に保護する場を提供」



【事業別】



(5) その他

問 14 その他、福祉行政との連携についてご意見がありましたらご記入ください。
(自由記述)

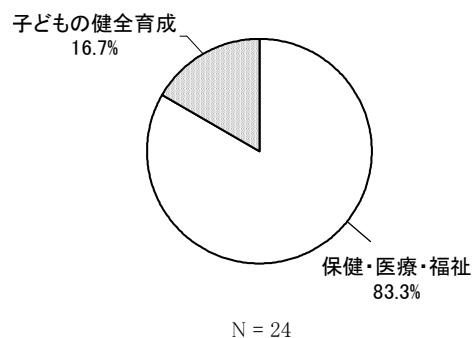
- ・地域ごとに連絡会議など定期的な情報交換の場がほしい。 『介護（入所）』
- ・介護事業所の人材確保と育成に関しての悩み、相談、助言等 『介護（入所）』
- ・介護保険が導入されてから、随分経ったが、未だに介護保険のことがわからない方が多くみえ、どこに相談してよいかわからない方もいる。地域によっては介護サービスを必要としている方が、埋もれている所もあるのではないかと思う。安心して暮らしていける地域づくりが必要であると思う。 『介護（通所）』
- ・介護保険制度になってから市との連携が浅くなったように感じる。施設の自主的経営も必要だが、措置入所や災害時連携等、関わりが必要なこともあると思う。 『介護（入所）』
- ・行政との連携はなかなか難しい点があると思う。気軽に相談できるような場をつくってほしい。グループホーム、デイサービス（認知症対応型）という表示が家族や地域の方には特別な物という認識があるように感じる。 『介護（入所）』
- ・今回、改正になった介護保険で通所介護のサービス提供時間は悪法であると思う。スタッフを疲労に追い込んでいる。 『介護（通所）』
- ・今後、地域住民の方々と障がいを持つ方々が関わり、交流を深めることで、互いが理解し、信頼関係を構築することができると思います。その実現に向けて、福祉行政との連携は重要なパイプとなりますので今後共よろしくお願いします。 『障がい』
- ・様々な情報を伝達してほしいため、連携は必要です。 『障がい』
- ・事業所として立ち上げたばかりで、福祉行政の把握ができていないのが現状です。今後はボランティア活動の受け入れや、防災計画もきちんと定めていきたいと思っています。 『障がい』
- ・市町村の福祉行政は特に福祉の現場側、当事者たちの立場に立っていただき、相談にのっていただく、あるいは現場の声を上に伝えていただくなどの役割を担っていただきたい。 『障がい』
- ・障害者自立支援法について、複雑なことが多いうえに、細かな点での変更もあつたりと、とてもわかりにくいと思います。わかりやすい情報の提供をお願いしたいです。 『障がい』
- ・地域との連携など積極的に取り組んでいきたいと思っています。 『介護（通所）』
- ・日本にお金がないのはわかりきったこと。社会に眠っている資源の見直し、発掘、利用、または開発をお願いします。ご協力できることがあれば何なりとご提案ください。互いにがんばりましょう。 『介護（通所）』
- ・窓口で直接ご本人やご家族が出向かないと障がい児（特に中途障がいの方）が受けられるサービスがわからない現状があります。日頃からご本人、ご家族への周知が計れる方法はないかと思っています。 『障がい』
- ・社協や包括のケアマネジャー様と連携し、地域の高齢者の健康維持、改善に取り組んでいるが、各民生委員の方々が直接、様々な施設に足を運んでいただき、日頃接してみえる方々へ利用を促すようにしてもらえれば更に地域の高齢者の元気を取り戻すことへつながると思います。 『介護（通所）』
- ・ボランティアに関しては、職業との区別がつきにくくなるような形のは非常にわかりにくく、いかななものかと思う。ボランティアは福祉現場が少しゆとりを持って動いていて、しっかりとしたコーディネートのもとに成り立つので現在の福祉現場では、本来の目的ではなくなってしまうと思われます。 『障がい』

- ・災害時に状況を把握し、必要な支援を受けられるような体制づくりが必要です。行政で事業所の状況把握はできるのか。 『障がい』
- ・非常時に、避難所として施設を開放した時に受け入れた方たちの食料、寝具、オムツ等を行政にて購入していただき、施設にて保管するようしてもらいたい。（非常時に備蓄倉庫等へ取りに行くのは難しい。）電源を喪失した時に喀痰吸引器を使用することができなくて、利用者の生命・安全維持のためにポータブル発電機を購入していただき施設にて保管するようしてもらいたい。 『障がい』
- ・各自治会に近隣にはこういった施設がありますよ。災害、事故発生時には救助活動や支援お願いしますと行政からも伝達（定期的）していただけたらありがたい。 『介護（入所）』
- ・この事業所が、地域の団体や他事業所と連携しまとまっていくことは難しいと考えられるので、ブロック毎のような単位で協力体制がつけられるよう、行政が調整役となり、災害に備えていただきたい。 『介護（入所）』
- ・災害時、身寄りのない方（利用者様）の保護はどうしていくか。 『介護（入所）』
- ・災害時に地域の被災した高齢者を一時避難していただく準備はしてあるが、行政よりの支援（情報等含）が適確に受けられる体制を希望します。 『介護（入所）』
- ・災害時のことで言えば、行政と事業所間のホットライン（直通電話）などがあると、どのように対応すればよいかの行動規範がより迅速に構築できると思います。 『介護（入所）』
- ・災害時を想定しての訓練は実施しているが、行政との訓練情報交換等の具体的な方策については実施していない。障がい者（主に知的）の特性があることで、支援される側、する側の問題を解決するには、相互の理解と支援が不可欠と思われる。避難指定場所に移るだけでは環境の変化や様々な要因で不適応を生ずる可能性が高いので、長期、短期の具体性のある対応、支援が求められることを理解していただきたい。 『障がい』
- ・自治会や地域と連携した防災計画をつくろうと考えており、「まちづくり協議会」で話し合っています。福祉施設として、地域にどのようなことを行えばよいか、また、地域にどのような支援をお願いするか。行政としての意見、指導をお願いすることはできるのでしょうか。 『障がい』
- ・人命確保を第一に考えます。災害時には情報取得（ガス、電気、水道等のインフラ、物資、人道支援）に不安を感じます。また、福祉施設における薬の確保等、医療機関との連携も必要と考えています。行政については災害時の情報の指示伝達の指導をお願いします。 『介護（入所）』
- ・大規模災害時のBCP（事業継続計画）の詳しい方策について学ぶ必要を感じています。防災計画や訓練については毎年行っていますが、BCPの考え方についてはまだ浸透していません。計画づくりのノウハウについての研修を開催していただきたい。ボランティアについては、ボランティアメニューのようなものを整備していただきたいと思います。 『介護（入所）』
- ・大震災があり、必要性はわかっているがいざこの近所で起こった場合、何ができるか想定外のことが起きるとマニュアル社会で育った私たちはとても弱いと思われる。福祉行政の連携は必要だと充分感じているが、どうすればよいかもわからないのが現状です。小さなことでもよいから始めていくとよいと思われます。 『介護（通所）』
- ・東日本大震災時にあったような介護現場での困乱（例えば、稼働可能な施設での利用定員を超えた受入の可否、その利用料等）をさけるべくあらかじめ方針を示してほしい。 『介護（通所）』
- ・訪問介護事業所としては、ヘルパーが訪問している時に災害が発生したらどうすればよいかを話し合い、発生後、受け持っている利用者様の安否を誰が確認するのか（包括なのか、ケアマネジャーなのか、民生委員なのか、当事業所なのか）などがよくわからない。そのあたりを地域や行政と連携し、取り決めていただけるとよいと思います。 『障がい』

4 NPO向けアンケート調査の結果

(1) 回答者属性

問1 調査対象



【参考】岐阜市内の主たる活動分野別のNPO法人※

主たる活動分野	対象法人数	割合
保健・医療・福祉	53	67.9%
子どもの健全育成	21	26.9%
その他	4	5.1%

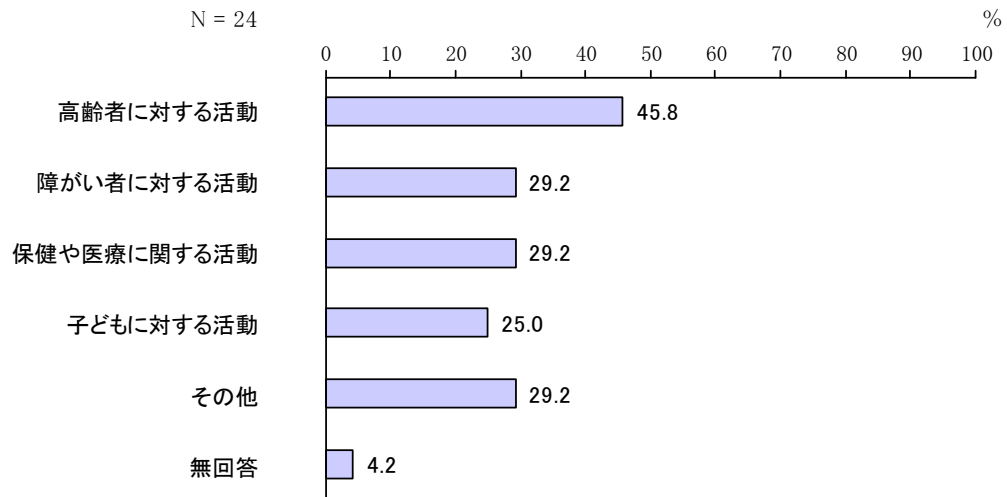
※特定非営利活動促進法（平成10年法律第7号）別表中の「1 保健、医療又は福祉の増進を図る活動」、「13 子どもの健全育成を図る活動」等を主たる活動分野とするNPO法人

問2 貴法人が現在行っている地域福祉活動は何ですか。

- 1 高齢者に対する活動
- 2 障がい者に対する活動
- 3 子どもに対する活動
- 4 保健や医療に関する活動
- 5 その他 ()

「高齢者に対する活動」が 45.8%、「障がい者に対する活動」が 29.2%、「保健や医療に関する活動」が 29.2%、「子どもに対する活動」が 25.0%となっています。

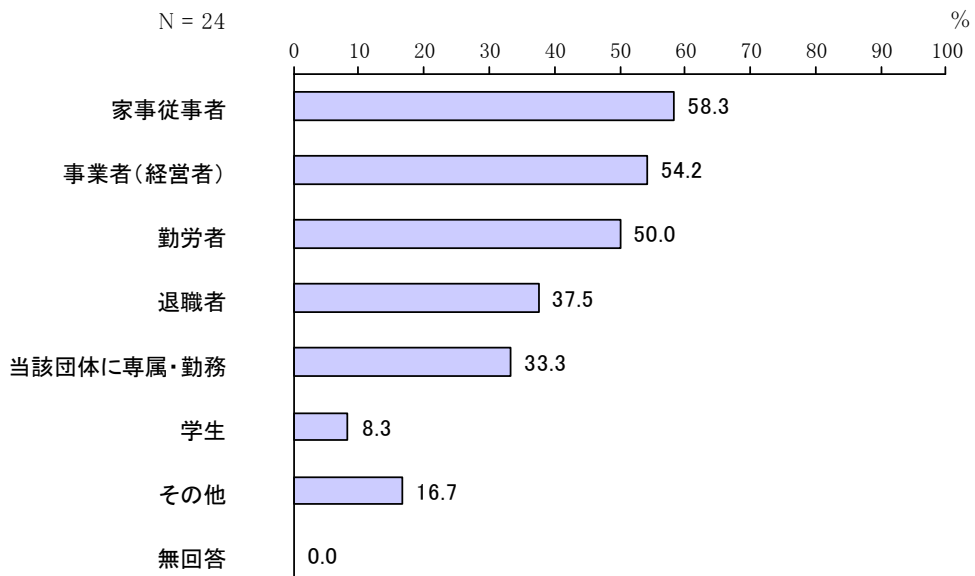
「その他」の活動として、[講師派遣]、[施設での演奏会]、[福祉系NPO団体の中間支援]、[慢性腎臓病患者への情報提示]、[結婚相談]、[ニート、引きこもりの青年への宿泊、就学支援]、[現在は特に活動していない]がありました。



問3 貴法人の構成メンバーを以下から選び、だいたいの構成比をご記入ください。(当てはまるものすべてに○)

- 1 家事従事者 () (%)
- 2 学生 () (%)
- 3 退職者 () (%)
- 4 事業者(経営者) () (%)
- 5 勤労者 () (%)
- 6 当該団体に専属・勤務 () (%)
- 7 その他 () (%)

「家事従事者」(58.3%)、「事業者(経営者)」(54.2%)、「勤労者」(50.0%)の割合が高く、次いで、「退職者」(37.5%)、「当該団体に専属・勤務」(33.3%)となっています。

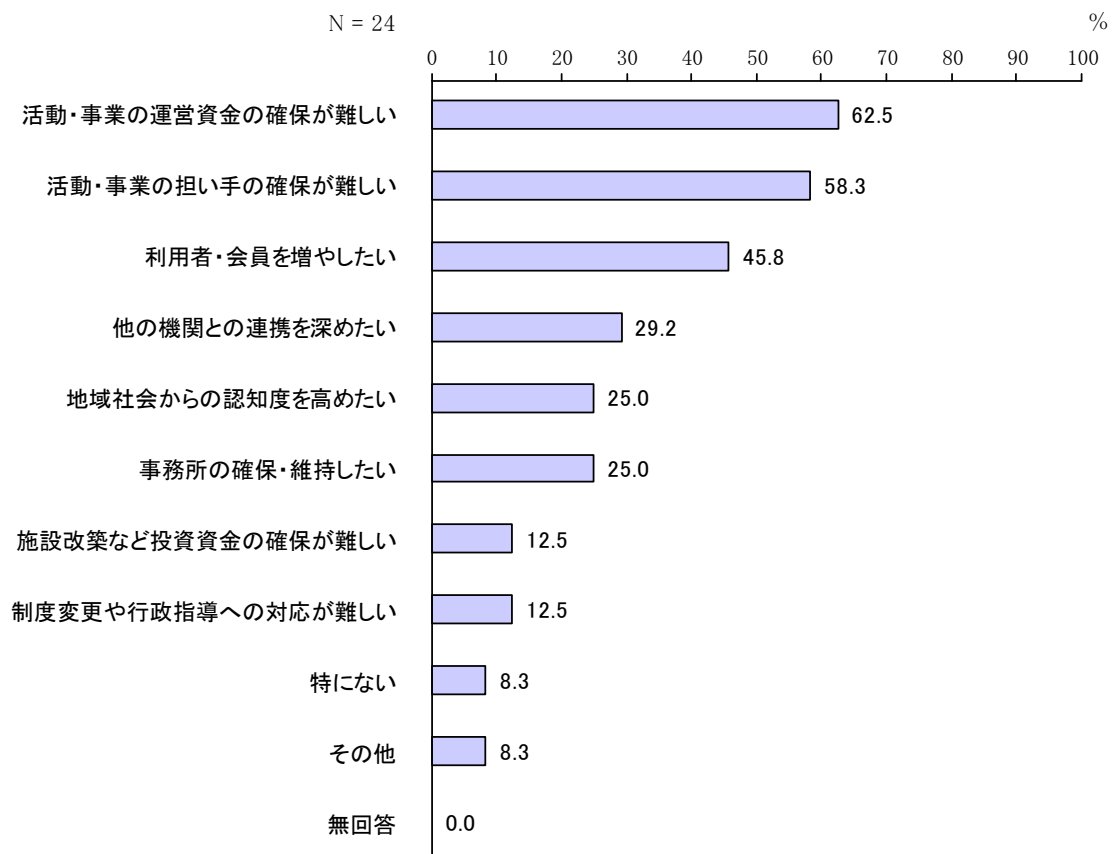


(2) 運営上の課題について

問4 貴法人の運営上の課題は何ですか。以下からお選びください。
(当てはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 利用者・会員を増やしたい | 2 活動・事業の担い手の確保が難しい |
| 3 活動・事業の運営資金の確保が難しい | 4 施設改築など投資資金の確保が難しい |
| 5 地域社会からの認知度を高めたい | 6 他の機関との連携を深めたい |
| 7 制度変更や行政指導への対応が難しい | 8 事務所の確保・維持したい |
| 9 特にない | |
| 10 その他 () | |

回答者の6割前後が「活動・事業の運営資金の確保が難しい」(62.5%)、「活動・事業の担い手の確保が難しい」(58.3%)を挙げており、次いで5割弱が「利用者・会員を増やしたい」(45.8%)、3割弱が「他の機関との連携を深めたい」(29.2%)、「地域社会からの認知度を高めたい」(25.0%)、「事務所の確保・維持」(25.0%)を挙げています。



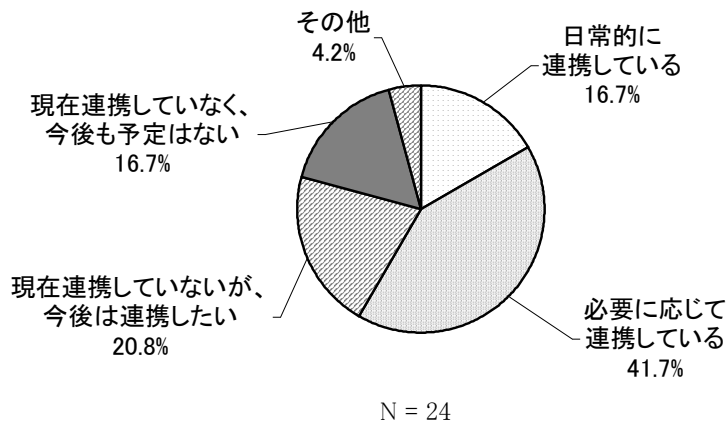
(3) 地域との連携について

問6 貴法人は地域の関係機関・団体と連携していますか。(いずれかに○)

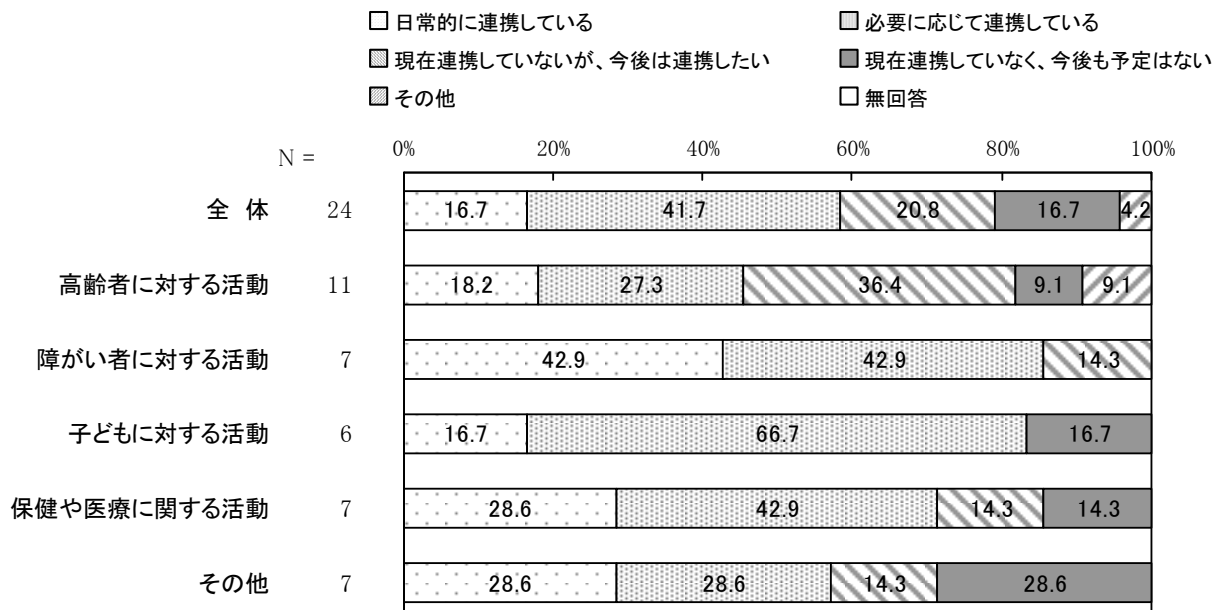
- 1 日常的に連携している →問6-2、6-3へ
- 2 必要に応じて連携している →問6-2、6-3へ
- 3 現在連携していないが、今後は連携したい →問6-2、6-3へ
- 4 現在連携していません、今後も予定はない
- 5 その他 ()

「日常的に連携している」(16.7%)、「必要に応じて連携している」(41.7%)のように、“連携している”とする回答が合わせて6割弱となっています。これに対し、「現在連携していないが、今後は連携したい」が20.8%、「現在連携していません、今後も予定はない」が16.7%となっています。

活動分野別でみると、「障がい者に対する活動」、「子どもに対する活動」、「保険や医療に関する活動」、「高齢者に対する活動」の順で“連携している”の割合が高くなっています。



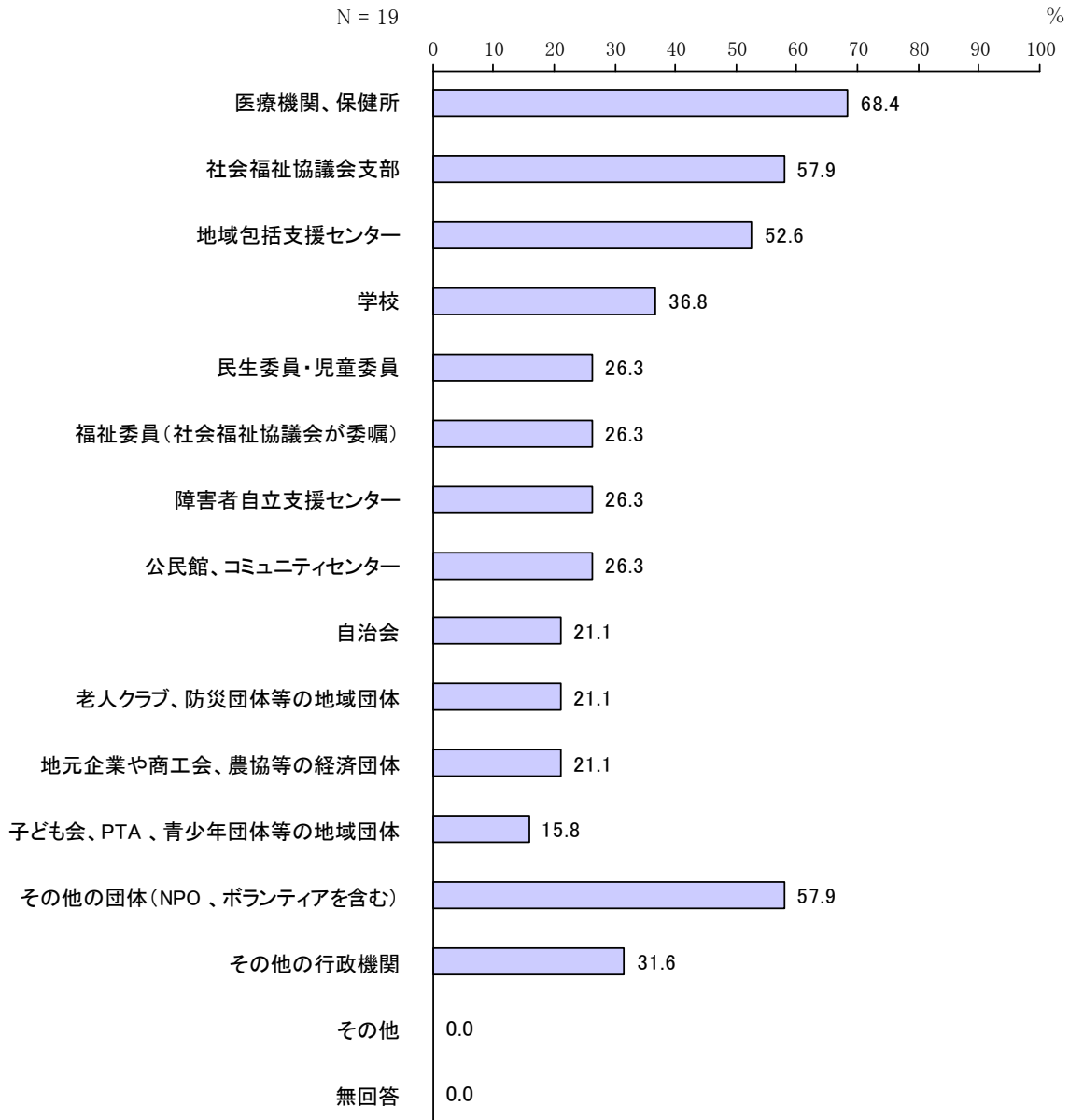
【活動分野別】



問 6-2 (問 6 で 1 から 3 を選んだ方) 貴法人が連携している (または、今後連携したい) 地域の関係機関・団体はどこですか。(当てはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1 自治会 | 2 社会福祉協議会支部 |
| 3 民生委員・児童委員 | 4 福祉委員 (社会福祉協議会が委嘱) |
| 5 老人クラブ、防災団体等の地域団体 | 6 子ども会、PTA、青少年団体等の地域団体 |
| 7 その他の団体 (NPO、ボランティアを含む) | 8 地域包括支援センター |
| 9 医療機関、保健所 | 10 障害者自立支援センター |
| 11 学校 | 12 公民館、コミュニティセンター |
| 13 地元企業や商工会、農協等の経済団体 | 14 その他の行政機関 |
| 15 その他 () | |

回答者の最も多くが「医療機関、保健所」(68.4%)を挙げており、次いで6割弱が「社会福祉協議会支部」(57.9%)、5割強が「地域包括支援センター」(52.6%)、4割弱が「学校」(36.8%)、3割弱が「民生委員・児童委員」(26.3%)、「福祉委員 (社会福祉協議会が委嘱)」(26.3%)、「障害者自立支援センター」(26.3%)、「公民館、コミュニティセンター」(26.3%)、2割強が「自治会」(21.1%)、「老人クラブ、防災団体の地域団体」(21.1%)、「地元企業や商工会、農協等の経済団体」(21.1%)を挙げています



(4) 介護支援ボランティア・ポイント制度について

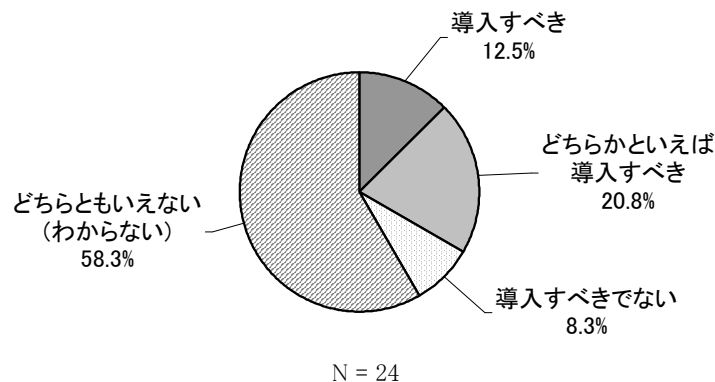
東京都稲城市など、いくつかの自治体においては介護保険事業の中で介護支援等のボランティア活動（介護施設におけるボランティア活動や地域住民相互の助け合い活動など）に取り組む高齢者に、その活動に応じて「ポイント」を付与し、そのポイントを介護保険料や生活支援サービスの利用料に充てることのできる『介護支援ボランティア・ポイント制度』の導入が図られています。

このような動向に対しては、「高齢者の社会参画が促進される結果、介護予防効果が期待される」という意見がある一方で、「ボランティア活動の自発性・無償性を損ねてしまうのではないか」など賛否を含め様々な意見があるようです。

問7 介護支援ボランティア・ポイント制度を本市でも導入すべきだと思いますか。 (いずれかに○)

- 1 導入すべき →問7-2へ
- 2 どちらかといえば導入すべき →問7-2へ
- 3 どちらかといえば導入すべきでない →問7-3へ
- 4 導入すべきでない →問7-3へ
- 5 どちらともいえない(わからない)

「導入すべき」(12.5%)、「どちらかといえば導入すべき」(20.8%)のように“導入すべき”とする回答が合わせて3割強となっているに対し、1割弱が「導入すべきでない」(8.3%)となっています。一方、6割弱が「どちらともいえない(わからない)」(58.3%)となっています。



問7-2 (問7で1か2を選んだ方) 本市で介護支援ボランティア・ポイント制度を導入した場合、付与されたポイントをどのように還元すると良いと思いますか。 (いずれかに○)

- 1 貯まったポイントに応じて、表彰する
- 2 貯まったポイントに応じて、高齢者おでかけバスカード（※市が70歳以上の高齢者へ交付する割引特典のついたバスカードのことです。）へ入金する
- 3 貯まったポイントに応じて、市の有料施設の入場券と交換する
- 4 貯まったポイントに応じて、商店街などの買い物券と交換する
- 5 貯まったポイントに応じて、現金に換金する
- 6 貯まったポイントに応じて、介護保険料に充てる
- 7 その他（)

「貯まったポイントに応じて、介護保険料に充てる」が3件、「貯まったポイントに応じて、高齢者おでかけバスカードへ入金する」「貯まったポイントに応じて、市の有料施設の入場券と交換する」がそれぞれ1件、「その他」が2件となっています。

※問7-2の回答数は7件

問7-3 問7で3か4を選んだ方) 導入すべきでないと思う理由は何ですか。貴法人の考えに近いものをお選びください。(当てはまるものすべてに○)

- 1 ボランティアは自発的に行うものなので、ポイントの付与は必要ないと思うから
- 2 無償のボランティアと有償のボランティアが混在すると不公平が生じ適当ではないと思うから
- 3 介護予防には効果がないと思うから
- 4 介護支援ボランティアに参加する人は少ないと思うから
- 5 特に理由はない
- 6 その他 ()

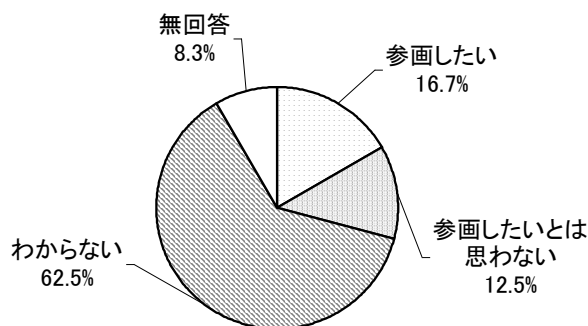
「無償のボランティアと有償のボランティアが混在すると不公平が生じ適当ではないと思うから」が2件、「ボランティアは自発的に行うものなので、ポイントの付与は必要ないと思うから」が1件となっています。

※問7-3の回答数は2件

問8 本市で介護支援ボランティア・ポイント制度を導入した場合、本制度に参画(貴法人の会員をボランティアとして派遣する。ボランティア活動の掘り起しをコーディネートする。など)してみたいと思いますか。(いずれかに○)

- 1 参画したい
- 2 参画したいとは思わない
- 3 わからない

「参画したい」が16.7%に対して、「参画したいとは思わない」は12.5%となっています。一方、「わからない」の割合が62.5%となっています。



N = 24

(5) その他

問 10 その他、福祉行政との連携についてご意見がありましたらご記入ください。
(自由記述)

- ・ 行政機関の相談窓口の一本化、総合相談窓口を開設することにより、市民は気軽に相談ができるようになり、福祉行政をより身近に感じることができるのではないかと思う。
『保健・医療・福祉』
- ・ 私共のこれからの計画のためには、市の福祉行政とも互いに連携し合っていかなければと考えています。 『保健・医療・福祉』
- ・ 行政の縦割りに組織の弊害があると思う。福祉計画は理解するが、行政がNPOなど各種団体と連携することが重要だと思う。 『保健・医療・福祉』
- ・ 福祉行政との連携に非常に難しさをもった。すべてを法でまとめてしまうことや、NPOとの連携に拒否反応があらわに出ていることを、昨年来より感じている。 『保健・医療・福祉』
- ・ 福祉のお仕事を民間の業者に丸投げしてしまえば、行政が福祉を何とかより高いものにしていくという気持ちが萎えてしまわないか。 『保健・医療・福祉』
- ・ もっと情報交換があってもよい。我々の取り組みを、市の担当は知らないのではないかと思う。 『保健・医療・福祉』
- ・ 当NPOの会員団体には福祉有償運送事業に取り組む団体がいくつかあるが、運転協力者の育成支援や運営助成、公共交通機関との連携で、移動困難者や買い物難民を支援する方策を一緒に検討してほしい。 『保健・医療・福祉』
- ・ 岐阜県内、岐阜市の福祉行政と連携し、健康に向けてのさまざまな活動に協力したいと考えています。名古屋市内の保健センター等の介護予防など個人契約で仕事をしている会員も居ることから、地域の健康活動に窓口を開けていただけることをお願いします。 『保健・医療・福祉』
- ・ 難病患者、家族への「応援員」というボランティア派遣業務を10年継続しています。応援員の研修は欠かせないし、利用者とのマッチング、コーディネートは大きな労力を要するし、力量もいります。掘り起こしについてもしかりです。ミニマムな地域で岐阜市全域で実施するには、どこかイニシアチブをとり、どう質を高めていくかかなり難しいと思う。 『保健・医療・福祉』
- ・ 当施設は、保健所が担当の行政となるが、保健所との連携をもっと取っていくことで福祉の中でも特殊な薬物依存症という病気の回復を支援していく構造をつくっていくよう関わってほしい。 『保健・医療・福祉』

5 調査票

(1) 市民向けアンケート調査

「第3期岐阜市地域福祉計画」策定のためのアンケート調査 ～ご協力をお願いします～

日ごろは、岐阜市の福祉行政にご理解とご協力を賜りまことにありがとうございます。
本市では、市民と行政が協働して地域福祉を推進していくために、5年ごとに「岐阜市地域福祉計画」を策定しています。
このほど、第3期計画（計画期間：平成26年度～30年度）を策定するための基礎調査として、住民基本台帳の中から20歳以上の方を無作為に2,000人抽出し、地域福祉に関する意識や考え方、地域福祉活動の実態などを把握することを目的としたアンケート調査を実施することになりました。
つきましては、あなたにこのアンケート調査にご協力いただきたく、次ページ以降の調査票にご記入ください。つきましては、あなたにこのアンケート調査にご協力いただきたく、次ページ以降の調査票にご記入ください。つきましては、あなたにこのアンケート調査にご協力いただきたく、次ページ以降の調査票にご記入ください。
なお、ご記入いただいた回答は、すべて集計・加工処理し、個々の調査票を本調査の目的以外に使用することは一切ございません。

平成24年7月3日

岐阜市長 樋口 茂光

◆ご記入にあたってのお願い◆

- 番号を記入するところは、**当てはまる項目の番号を○で囲んでください。**
- 当てはまる項目を選択した際に「一問△×△」とありましたら、その欄に記入してください。
- 文字は楷書で明確にご記入ください。
- 本人が高齢などで、ご記入できない場合は、ご家族の方が代替して記入してください。
- ご記入いただいた調査票は、同封いたしました返信用封筒に入れて、**7月24日（火）まで**にご返送ください。※切手は不要です
- 調査内容について不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。
岐阜市 福祉部 福祉政策課 担当：高野、近松
電話：(058) 265-4141 (内線2422)
FAX：(058) 267-6015

(1) あなた自身について

問1 あなたの性別についてお答えください。(どちらかに○)

- 1 男 2 女

問2 あなたの年齢についてお答えください。(いずれかに○)

- 1 20歳～29歳 2 30歳～39歳
3 40歳～49歳 4 50歳～59歳
5 60歳～69歳 6 70歳～79歳
7 80歳～

問3 あなたの家族構成についてお答えください。(いずれかに○)

ご家族がいる場合は、【 】内の選択肢から同意している方をすべてお選びください。

- 1 独居で一人暮らし
2 独居で家族と住んでいる
【 親 ・ 乳幼児 ・ 義務教育就学中の子 ・ 義務教育を修了した子 ・ 祖父母 ・ 孫 ・ 兄弟姉妹 ・ 子の配偶者 ・ 上記以外の親族や姻族 】
3 結婚しており、一人暮らし
4 結婚しており、家族と住んでいる
【 配偶者 ・ 親 ・ 乳幼児 ・ 義務教育就学中の子 ・ 義務教育を修了した子 ・ 祖父母 ・ 孫 ・ 兄弟姉妹 ・ 子の配偶者 ・ 上記以外の親族や姻族 】
5 その他 ()

問4 あなたの職業についてお答えください。(いずれかに○)

- 1 農林水産業 2 自営業
3 会社役員 4 会社員 (正社員)
5 会社員 (派遣、パート、アルバイト等) 6 公務員
7 学生 8 家事従事者
9 その他 ()

問5 あなたのお住まいは、次のうちどれにあたりますか。(いずれかに○)

- 1 持ち家 (一戸建て) 2 持ち家 (マンション)
3 公団住宅 (賃貸) 4 市営住宅
5 借家 6 賃貸アパート、賃貸マンション
7 社宅・公務員住宅 8 独身寮
9 その他 ()

- 2 -

問6 あなたが住んでいる地域はどちらですか。(いずれかに○)

また、お住まいの地区(自治会連合会地区)を【 】内からお選びください。

- 1 中央部①【金華・京町・明徳・白山・梅林・本郷・華蓮・木之本】
2 中央部②【加納東・加納西・善部・厚見】
3 南西部①【本荘・三里・市橋・錦島】
4 南西部②【鶴・日置江・柳津町】
5 北西部①【東野・方原・西郷・瀬戸】
6 北西部②【木田・七郷・合渡】
7 北西部③【島・早田・城西・則武】
8 北東部①【野川・三輪南・三輪北】
9 北東部②【岩野田・岩野田北】
10 北東部③【龍山・新築】
11 北東部④【長良・長良西・長良東】
12 南東部①【岩・芥見・芥見東・芥見西】
13 南東部②【日野・長森南・長森北・長森西・長森東】

※ お住まいの地区がわからない場合は、あなたのお住まいの町名を下に記入してください
町名： _____

(2) 地域(近所)の人のつながり(絆)について

問7 あなたはどの程度の近所づきあいをしていますか。(いずれかに○)

- 1 困ったときには何でも助け合える程度 2 簡単な頼みごとならできる程度
3 顔を合わせれば、世間話をする程度 4 顔を合わせれば、あいさつを交わす程度
5 ほとんどつきあいはない

問8 あなたは今の近所づきあいの程度(問7の回答)に満足していますか。(どちらかに○)

- 1 満足している 2 満足していない 一問8-2へ

問8-2 (問8で2を選んだ方) 満足していない点はどのようなところですか。あなたのお考えに最も近いものを一つお選びください。(いずれかに○)

- 1 つきあいのある人がなくて寂しいから 2 つきあいのある人が少ないから
3 つきあいのある人はいないが、関係が希薄だから 4 関係が深くつきあいに疲れるから
5 つきあわないといけな人が多いから
6 その他 ()

- 3 -

問9 近所づきあいのどのような面が大切だと思いますか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるものを全てに○)

- 1 人と人がつながりあうことで人間的に生活を送ることができること
2 「お互い様」という意識を持ちながら、見守り合い・助け合えること
3 自治会・清掃活動など、自分たちのまちを大切にすること
4 身近な日常の課題などの解決 5 防災活動の協力
6 防災活動の協力 7 地域産業や文化を共同で守っていくこと
8 自然環境や社会環境を守っていくこと 9 たいして大切とは思わない
10 その他 ()

問10 近所で接する子どもたちについてどう思いますか。あなたのお考えに最も近いものをお選びください。(いずれかに○)

- 1 その子の家庭だけでなく近所や周りのおとも声をかけて育てていくべきである
2 その子の家庭だけでなく近所や周りのおともも注意して見守るべきである
3 その子の家庭の責任であり、他人が口を挟むべきではない
4 関係がわずらわしいので関わりたくない
5 その他 ()

(3) 趣味等の活動(仲間づくり、習い事、レクリエーション、自己啓発等)を通じた人とのつながり(絆)について

問11 あなたはならぬ趣味等の活動に参加していますか。(いずれかに○)

- 1 参加している 一問11-2、3へ
2 過去に参加していたが、今は参加していない 一問11-2、3へ
3 参加していない

問11-2 (問11で1か2を選んだ方) あなたが主に参加している(していた)趣味等の活動の場所などの地域ですか。(いずれかに○)

- 1 住んでいる地域(近所) 2 それ以外

問11-3 (問11で1か2を選んだ方) あなたが参加している(していた)趣味等の活動のメンバーと、普段(活動を行っていないとき)のつきあいはどの程度だと思いますか。(いずれかに○)

- 1 困ったときには何でも助け合える程度 2 簡単な頼みごとならできる程度
3 顔を合わせれば、世間話をする程度 4 顔を合わせれば、あいさつを交わす程度
5 ほとんどつきあいはない

- 4 -

(4) 地域活動について

問12 あなたはなんらかの地域活動に参加していますか。(いずれかに○)

- 1 参加している 一問12-2、3へ
- 2 過去に参加していたが、今は参加していない 一問12-2、3へ
- 3 参加していない

問12-2 (問12で1か2を選んだ方) あなたが参加している(していた)地域の活動団体は何ですか。

(当てはまるものを全てに○)

- 1 自治会
- 2 社会福祉協議会、日赤奉仕団などの福祉関係の団体
- 3 老人クラブなどの高齢者関係の団体
- 4 子ども会育成会、青少年育成市民会議などの子ども関係の団体
- 5 消防団、水防団などの防災関係の団体
- 6 氏子など神社等の活動
- 7 商店街組合や農協団体など職業関連組合
- 8 その他 ()

問12-3 (問12で1か2を選んだ方) あなたが地域活動に参加している(していた)動機は何ですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるものを全てに○)

- 1 地域をよりよくしていきたい
- 2 地域・近所の人と仲良くしたい
- 3 人の役に立ちたい
- 4 自分自身の向上のため
- 5 自分自身の生きがいとして
- 6 持ち回りの当番で仕方なく
- 7 時間と余裕があるから
- 8 住民としての義務感から
- 9 依頼されたから
- 10 その他 ()

問13 あなたの地域で、「解決が必要な問題」があるとすれば、それはどのようなものですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるものを全てに○)

- 1 ひとり暮らしや高齢者世帯への見守り・支援に関すること
- 2 障がいのある人への見守り・支援に関すること
- 3 ひとり親家庭への支援に関すること
- 4 高齢者や子どもの虐待防止に関すること
- 5 子どもへの非行やいじめに関すること
- 6 子どもへの遊び場がないこと
- 7 火災予防や災害時の避難に関すること
- 8 自治会などの役員の手がかりないこと
- 9 暮らしや福祉のことを相談できる地域の役員がいないこと
- 10 ゴミ処理や犬のふんの後始末、駐車などの住民のマナーに関すること
- 11 特になし
- 12 その他 ()

問14 地域で抱える問題は、行政だけでなく地域のみなまも一緒に解決していく必要があります。以下の項目について、行政と地域住民のどちらがより主体性をもって取り組むべきかと思えますか。(より地域で取り組むべき場合を1、より行政で取り組むべき場合を5、その中間を3とし、1～5のいずれかに○をつけてください。)

分野	取り組むべき比重の高さ				
	地域 ←	中間	→	行政	
① 介護や退院後の生きがい探しなど高齢者に関すること	1	2	3	4	5
② 障がいのある方の社会参加などに関すること	1	2	3	4	5
③ 児童虐待や子育てなど子どもに関すること	1	2	3	4	5
④ 防災対策、防災対策に関すること	1	2	3	4	5

問15 暮らしやすい地域づくりを考えたとき、地域住民が主体的に取り組むべきことは何だと思えますか。

①高齢者、②障がい者、③子育て世帯のそれぞれについてお選びください。

(特に重要だと思うものを3つまでに○)

①<高齢者>

- 1 地域住民による見守り (安否確認や困りごとを抱えていないかなど)
- 2 簡単な家事 (ごみ出しなど) の手助け
- 3 災害時の助け合い体制づくり
- 4 急病などの際の連絡先情報の共有
- 5 犯罪の被害者にならないための啓発・見守り
- 6 交通事故の被害者にならないための啓発・見守り
- 7 まちづくり活動に参加できる機会の充実
- 8 あいさつ、声かけ
- 9 高齢者が気軽に集える場 (サロン、サークル活動など) の充実
- 10 外出 (地域の交流行事への参加など) への働きかけや移動の手助け
- 11 高齢者が暮らしやすい地域づくりについての話し合いの場づくり
- 12 健康づくり活動の充実
- 13 世代間交流の場を確保づくり
- 14 認知症高齢者に対する支援 (徘徊を見かけたときの対応など)
- 15 福祉の専門機関と地域との連携の強化 (地域の中で民生委員・児童委員や行政への連絡役員を決めるなど)
- 16 特になし
- 17 その他 ()

②<障がい者>

- 1 地域住民による見守り (困りごとを抱えていないかなど)
- 2 簡単な家事 (ごみ出しなど) の手助け
- 3 災害時の助け合い体制づくり
- 4 急病などの際の連絡先情報の共有
- 5 犯罪の被害者にならないための啓発・見守り
- 6 交通事故の被害者にならないための啓発・見守り
- 7 まちづくり活動に参加できる機会の充実
- 8 あいさつ、声かけ
- 9 障がいのある人などとの交流機会の創出
- 10 障がい者が気軽に集える場 (サロン、サークル活動など) の充実
- 11 外出 (地域の交流行事への参加など) への働きかけや移動の手助け
- 12 障がい者が暮らしやすい地域づくりについての話し合いの場づくり
- 13 障がい者に対する理解
- 14 福祉の専門機関と地域との連携の強化 (地域の中で民生委員・児童委員や行政への連絡役員を決めるなど)
- 15 特になし
- 16 その他 ()

③<子育て世帯>

- 1 地域住民による見守り (困りごとを抱えていないかなど)
- 2 簡単な家事 (ごみ出しなど) の手助け
- 3 災害時の助け合い体制づくり
- 4 急病などの際の連絡先情報の共有
- 5 犯罪の被害者にならないための啓発・見守り
- 6 交通事故の被害者にならないための啓発・見守り
- 7 まちづくり活動に参加できる機会の充実
- 8 子どもへの遊び場の整備 (清掃や見回りなど)
- 9 あいさつ、声かけ
- 10 子育て世帯が気軽に集える場 (子育てサロン、サークル活動など) の充実
- 11 子育て世帯が暮らしやすい地域づくりについての話し合いの場づくり
- 12 子ども同士が交流できる場づくり (行事の開催など)
- 13 世代間交流の場を確保づくり
- 14 福祉の専門機関と地域との連携の強化 (地域の中で民生委員・児童委員や行政への連絡役員を決めるなど)
- 15 特になし
- 16 その他 ()

(5) 「孤立」することの課題意識について

本市においても、ひとり暮らしや、夫婦のみ、親子のみなど、小規模な家庭が増えてきていることから、身近に頼れる人がいないままに、孤独感や自分自身の健康上の問題、家族の介護や子育てに関する困難や不安などを抱え込んでしまっているご家庭が増えてきていることが懸念されます。さらに、近所づきあいや友人・知人間においてもプライバシーには立ち入らないのが礼儀であるという意識等から、結果的に、身近な人も気が付かないまま事態を深刻化させてしまうことが懸念されます。そこで、孤立感に関するあなたのご意見についてお尋ねします。

問16 あなたは、現在、「孤立している」と感じていますか。(いずれかに○)

- 1 感じている 一問16-2へ
- 2 今感じているいが、将来的 (概ね10年以上先) には「孤立してしまうかもしれない」という不安を感じている 一問16-2へ
- 3 孤立する不安は感じない
- 4 わからない

問16-2 (問16で1か2を選んだ方) 「孤立している」又は「将来、孤立してしまうかもしれない」と感じる理由はありますか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるものを全てに○)

- 1 人づきあいがなく孤独感を感じるから
- 2 経済的な困難があるから
- 3 災害などのとき支援してくれる人がいないから
- 4 病気やケガなどの緊急事態に支援してくれる人がいないから
- 5 健康、障がい、介護などの問題を抱えているが、誰にどのように相談すればいいかわからないから
- 6 近隣住民、友人との間に距離を抱えているから
- 7 その他 ()

問17 生活の中で得たとき、主に誰(ど)に相談しますか。(※ここで、「同じ地域」とは同じ小学校区または自治会連合会地区のこととお答えください。)(いずれかに○)

- 1 同じ地域に暮らす家族・親族
- 2 他地域に暮らす (1以外の) 家族・親族
- 3 同じ地域に暮らす知人・友人等 一問17-2へ
- 4 他地域に暮らす (3以外の) 知人・友人等
- 5 専門機関 一問17-3へ
- 6 相談できる人はいない
- 7 その他 ()

問17-2 (問17で3を選んだ方) 具体的には、地域のどのどのような立場の人に相談しますか。

(当てはまるものを全てに○)

- 1 民生委員・児童委員
- 2 社会福祉協議会支部の役員 (福祉委員長など)
- 3 自治会の役員 (会長、班長など)
- 4 老人クラブの役員
- 5 身体/知的障害者相談員
- 6 上記以外の地域内の知人・友人
- 7 その他 ()

問17-3 (問17で5を選んだ方) 具体的には、どのような機関に相談しますか。(当てはまるものを全てに○)

1 市役所 (福祉事務所、保健所など)	2 社会福祉協議会 (本所、センター)
3 地域包括支援センター	4 心れあい保健センター
5 福祉事業者	6 医療機関
7 その他 ()	

(6) ご近所同士の見守り・助け合い活動について
本市においても、近隣住民が相互に協力し合い、ひとり暮らしの高齢者や障がい者など、生活上何らかの助けが必要な方に対する見守りや生活支援を行う活動に取り組もうとする地域が増えてきました。そこで、地域の見守り・助け合い活動に対するあなたのお考えについてお尋ねします。

問18 ご近所同士の見守り・助け合い活動について、あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるものを全てに○)

- 1 困っているときはお互いさまだから、活発にしたい
- 2 参加したいとは思いますが、困っている人への関わり方がわからない
- 3 助け合いをもちょうとや助け合うことに抵抗感がある
- 4 家族や親せきで何とかしたいと思うので、活動に参加したいとは思わない
- 5 ふだんつきあいがないので、巻えにくい
- 6 公的なサービスを充実すべし(そうすれば、近所同士の活動は必要ない)
- 7 興味がない
- 8 その他 ()

問19 地域の中で、病気や介護、子育てなどで困っている家庭があったときに、あなたは手助けしますか。(いずれかに○)

- 1 頼まれれば手助けする 一問19-2へ
- 2 頼まれなくても手助けする 一問19-2へ
- 3 手助けしない 一問19-3へ

問19-2 (問19で1か2を選んだ方) あなたはどのような手助けができると思いますか。(当てはまるものを全てに○)

1 日常的な話し相手	2 日常的な買い物
3 急な外出時などの子どもの世話	4 食事づくりや洗濯、ゴミ出しなどの家事援助
5 高齢者や障がいのある人への日常動作の介助	6 病気の時の看病や世話
7 外出時などの移動の支援	8 日常生活に関する悩みや不安の相談
9 その他 ()	

問19-3 (問19で3を選んだ方) 手助けしない理由は何ですか、あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるものを全てに○)

- 1 どのように助けようか思いつかないから
- 2 フライバーに踏み込みたくないから
- 3 家族や親せきで解決すべきだと思うから
- 4 行政が解決すべきだと思うから
- 5 十分役に立てないと思うから (自分には力が重すぎる)
- 6 その他 ()

問20 あなたは、病気や介護、子育てなどで困ったときに、地域の人に手助けを求められますか。(いずれかに○)

- 1 できる 一問20-2へ
- 2 できない 一問20-3へ
- 3 手助けされたくない 一問20-3へ

問20-2 (問20で1を選んだ方) あなたはどのような手助けをしてもらいたいですか。(当てはまるものを全てに○)

1 日常的な話し相手	2 日常的な買い物
3 急な外出時などの子どもの世話	4 食事づくりや洗濯、ゴミ出しなどの家事援助
5 高齢者や障がいのある人への日常動作の介助	6 病気の時の看病や世話
7 外出時などの移動の支援	8 悩みや不安を聞き、地域の役員や行政機関に取り次ぐ
9 その他 ()	

問20-3 (問20で2か3を選んだ方) 地域の人に手助けを求めない理由は何ですか、あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるものを全てに○)

- 1 どのように手助けを求めようか思いつかないから
- 2 フライバーが守られるか不安だから
- 3 地域の人への迷惑になりたくない (迷惑をかけたくない) から
- 4 地域の人よりも、家族や親せきで済ませたいと思うから
- 5 地域の人よりも、行政に頼るべきだと思うから
- 6 自分自身で解決すべきだと思うから
- 7 その他 ()

(7) 福祉(支え合い)マップづくり活動について
近年、本市においても福祉(支え合い)マップづくり活動に取り組む地域が増えてきました。福祉(支え合い)マップづくり活動とは、地域の中で孤立している人や孤立しそうな人がいないかどうかを点検するとともに、そのような人をどのように見守り・支えていくか等について話し合うために、ご近所に暮らす人同士が集まり、自らの地域の地図を眺みながら、お互いの気付き(孤立していると思われる人に関する情報、手助けしてあげられること、など)を書き込んでいく活動です。そこで、福祉マップづくり活動に対するあなたのお考えについてお尋ねします。

問21 あなたは「福祉(支え合い)マップづくり」を知っていましたか。また、あなたは参加したことがありますか。(いずれかに○)

- 1 知っているし、参加したことがある
- 2 知っているが、参加したことはない 一問21-2へ
- 3 知らなかった 一問21-2へ

問21-2 (問21で2か3を選んだ方) あなたは地域で福祉(支え合い)マップづくり活動が行われることになった場合(既に行われている場合は「引き続き行われる場合」)、あなたは参加したいと思えますか。(いずれかに○)

- 1 参加したい
- 2 参加したくない 一問21-3へ
- 3 どちらともいえない 一問21-3へ

問21-3 (問21-2で2か3を選んだ方) 福祉(支え合い)マップづくり活動に参加したくないと思う理由は何ですか、あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるものを全てに○)

- 1 孤立している(しそうな)人がいたとしても、その人の個人的な問題であり、関わるべきではないから
- 2 孤立している(しそうな)人に対して十分な見守りや手助けができるかどうか自信がないから
- 3 孤立している(しそうな)人に対するフライバーが保てるかどうか自信がないから
- 4 福祉(支え合い)マップづくり活動は、住民が主体となる活動ではないと思うから(行政や福祉事業者が主体となるべき活動である)
- 5 自分の志願には必要がない活動だから
- 6 その他 ()

(8-1) ボランティア活動に対する考え方について
問22 あなたは現在、ボランティア活動に参加していますか。(いずれかに○)

- 1 参加している 一問22-2へ
- 2 過去に参加していたが、今は参加していません 一問22-2へ
- 3 参加していません 一問22-3へ

問22-2 (問22で1か2を選んだ方) あなたがボランティア活動に参加している(していた)動機は何ですか、あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるものを全てに○)

- 1 やりがいがあるから
- 2 くだらない雑談をして向上したいから
- 3 能力や技能を役立てたいから
- 4 社会のために役立ちたいから
- 5 仲間を得ることができるから
- 6 話しかけたら
- 7 地域や学校での行事だから
- 8 その他 ()

問22-3 (問22で3を選んだ方) これまでボランティア活動に参加していない理由は何ですか。(当てはまるものを全てに○)

- 1 興味はあるが参加方法がわからないから
- 2 仕事・家事・介護などで忙しすぎるから
- 3 いっしょに参加する人がいないから
- 4 興味のある活動がないから
- 5 家族の協力やサポートが得られないから
- 6 金銭的な余裕がないから
- 7 きっかけがないから
- 8 体調がよくないから
- 9 時間を作ってまで参加したいとは思わない
- 10 そもそも興味がないから
- 11 その他 ()

問23 ボランティア活動を支援するための相談窓口が市内に3つありますが、あなたは知っていましたか。(それぞれ、どちらかに○)

① 岐阜市社会福祉協議会 ボランティアセンター

- 1 知っている
- 2 知らない

② ハートフルスクエア-G 生理学習 ボランティア相談コーナー

- 1 知っている
- 2 知らない

③ 岐阜市NPO ボランティア活動センター

- 1 知っている
- 2 知らない

(8-2) 介護支援ボランティア・ポイント制度について
東京都稲城市など、いくつかの自治体においては介護保険事業の中で介護支援等のボランティア活動(介護施設におけるボランティア活動や地域住民相互の助け合い活動等)に取り組む高齢者に、ボランティア活動の実績に応じて「ポイント」を付与し、そのポイントを利用保険料や生活支援サービスの利用料に充てることができる「介護支援ボランティア・ポイント制度」の導入が図られています。このような取組に対しては、「高齢者の社会参加が促進される結果、介護予防効果が期待される」という意見がある一方で、「ボランティア活動の自発性・無償性を損ねてしまうのではないか」など賛否を巻きまくる意見があるようです。そこで、介護支援ボランティア・ポイント制度に対するあなたのお考えについてお尋ねします。

問24 あなたは介護支援ボランティア・ポイント制度を本市でも導入すべきだと思いますか。(いずれかに○)

- 1 導入すべき 一問24-2、24-3へ
- 2 どちらかといえば導入すべき 一問24-2、24-3へ
- 3 どちらかといえば導入すべきでない 一問24-4へ
- 4 導入すべきでない 一問24-4へ
- 5 どちらともいえない(わからない)

問24-2 (問24で1か2を選んだ方) 本市で介護支援ボランティア・ポイント制度を導入した場合、付与されたポイントをどのように還元すると良いと思いますか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(いずれかに○)

- 1 貯まったポイントに応じて、表彰する
2 貯まったポイントに応じて、高齢者おでかけバスカード(※市が70歳以上の高齢者へ交付する割引特典のついたバスカードのことです。)へ入金する
3 貯まったポイントに応じて、市の有料施設の入場券と交換する
4 貯まったポイントに応じて、商店街などの買い物券と交換する
5 貯まったポイントに応じて、現金に換金する
6 貯まったポイントに応じて、介護保険料に充てる
7 その他()

問24-3 (問24で1か2を選んだ方) 本市で介護支援ボランティア・ポイント制度を導入した場合、あなたならどのようなボランティア活動に参加したいですか。(以下の設問は、介護施設でボランティア活動を行うことを想定した活動メニューです。65歳未満の方は、将来参加したいと思う活動についてお答えください。)(当てはまるもの全てに○)

- 1 施設利用者の話し相手 2 娯楽・趣味活動、レクリエーション活動の補助
3 食事、洗濯、清掃の補助 4 草木、菜園の世話など
5 外出、散歩の付き添い 6 参加したいと思わない
7 その他()

問24-4 (問24で3か4を選んだ方) 制度を導入すべきでないと考え理由は何か。あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるもの全てに○)

- 1 ボランティアは自発的に行うものなので、ポイントの付与は必要ないと思うから
2 無償のボランティアと有償のボランティアが混在すると不公平が生じ適当ではないと思うから
3 介護予防には効果がないと思うから
4 介護支援ボランティアに参加する人は少ないと思うから
5 他に理由はない
6 その他()

(9-1)災害対策について

問25 あなたは、ふだん自然災害(大雨・台風・地震など)に不安を感じますか。(どちらかに○)

- 1 感じる 2 感じない

問26 あなたは、自然災害などのとき避難する場所を知っていますか。また、ご家族がある場合、みなさんが同じ場所に避難することを確認していますか。(いずれかに○)

- 1 自分も家族も知っている 2 自分は知っているが家族と確認したことはない
3 自分も家族も知らない

問27 あなたの住む地域では、防災訓練などは実施されていますか。また、あなたは参加していますか。(いずれかに○)

- 1 実施されていて、自分も参加している 2 実施されているが、自分は参加したことはない
3 実施されていない(したがって、参加したこともない)

(9-2)緊急医療情報カードの活用について

本市では、個人レベルでも実現可能な方の一「緊急事態への備え」として、災害や急病などで自宅から救助されることとなった場合に備え、救急隊員や搬送先の医療機関が必要とする情報(住所・氏名・年齢・血液型・持病・アレルギーの有無・服薬情報・受診中の医療機関・緊急連絡先など)を記載した「緊急医療情報カード」を冷蔵庫などの災害時でも壊れにくい場所に保管することを推奨しています。

そこで、緊急医療情報カードに対するあなたのお考えについてお尋ねします。
なお、緊急医療情報カードは「お助けマーク」「命のバトン」等と呼ばれている場合もあります。

問28 あなたは緊急医療情報カードを知っていましたか。また、緊急医療情報カードの保管を実践していますか。(いずれかに○)

- 1 知っているし、実践している 一問28-2へ
2 知っているが、実践していない 一問28-2、3へ
3 知らない

問28-2 (問28で1か2を選んだ方) 緊急医療情報カードのことをどこで知りましたか。(いずれかに○)

- 1 民生・児童委員から 2 社会福祉協議会から
3 市の広報から 4 テレビ・ラジオから
5 その他()

問28-3 (問28で2を選んだ方) 緊急医療情報カードの保管を実践していない理由は何ですか。(いずれかに○)

- 1 必要ないと思うから 2 個人情報を知られたくないから
3 その他()

(9-3)災害時要援護者支援対策について

高齢化の進行などにより、ひとり暮らしや高齢者のみで生活をされている方、移動にあたって介助が必要な高齢者や障がい者など、災害時の避難活動に支援が必要であると考えられる方が増えてきています。

※本市では65歳以上でひとり暮らしの方「要介護3以上」など、一定の基準に該当する方を「災害時要援護者」としてあり、平成29年10月現在で約2万4千人(人口の約5.8%)が該当します。
このようことから、本市では平成19年度から、本人の同意を得た上で、災害時要援護者名簿(氏名・住所に加え、心身の状態や同居家族、緊急連絡先などが記載されているもの)を作成し、地域の役員(自主防災隊、消防団、民生委員のうち個人情報保護についての覚書を交わした者)と共有することで、災害時における避難活動に役立てようとする取組みを行っています。
そこで、本市の災害時要援護者支援対策に対するあなたのお考えについてお尋ねします。

問29 あなたは、上記のように行政と地域の役員が災害時要援護者名簿を共有する仕組みがあることを知っていましたか。(どちらかに○)

- 1 はい 2 いいえ

問30 あなたは、(将来的に自分がひとり暮らし高齢者等の災害時要援護者となるときも含めて)災害時要援護者名簿に登録したいと思いますか(登録していますか)。(どちらかに○)

- 1 はい 2 いいえ 一問30-2へ

問30-2 (問30で2を選んだ方) 登録したくないと思う理由は何ですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるもの全てに○)

- 1 個人情報で保護されるから心配だから 2 他人の世間になりたくないから
3 必要だと思わないから 4 その他()

問31 災害時要援護者の避難支援に関して、あなたの考えに最も近いもの一つをお選びください。(いずれかに○)

- 1 積極的に協力したい 2 役割を決めてもらえば、協力してもよい
3 行政が中心となって支援すべき 4 関わりたくない

問32 災害時要援護者名簿を活用し、地域で取り組むべきことは何だと思いますか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(当てはまるもの全てに○)

- 1 より多くの入(要援護者)に登録してもらうこと
2 より多くの支援者(避難の手助けをする人)を確保していくこと
3 より具体的に要援護者一人ひとりについて、「誰が」「誰の」、避難を手助けする等についての避難支援体制づくりを進めていくこと
4 災害時要援護者に対しては、災害時の避難行動だけでなく、日常の見守り・手助け等の活動も充実させていくこと
5 その他()

(10)その他

問33 岐阜市の地域福祉を推進していくために、必要なのはなんだと思いますか。(自由記述)

Blank lines for free text input.

アンケートは以上です。ありがとうございました。

(2) 社会福祉施設・事業所向けアンケート調査

**「第3期岐阜市地域福祉計画」策定のための
社会福祉施設・事業所向けアンケート調査
～調査ご協力をお願いします～**

日ごろは、岐阜市の福祉行政にご理解とご協力を賜り、まことにありがとうございます。
本市では、市民と行政が協働して地域福祉を推進していくために、5年ごとに「岐阜市地域福祉計画」を策定しています。
このほど、第3期計画（計画期間：平成26年度～30年度）を策定するための基礎調査として、市内の社会福祉施設・事業所の地域福祉に関する意識や活動実態を把握することを目的としたアンケート調査を実施することになりました。
つきましては、貴施設・事業所にこのアンケート調査にご協力頂きたい。次ページ以降の調査票にご記入くださいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。
なお、ご記入いただいた回答は、すべて集計・加工処理し、個々の調査票を本調査の目的以外に使用することは一切ございません。

平成24年7月3日
岐阜市長 郷江 茂光

◆ご記入にあたってのお願い◆

- この調査票は、施設・事業所ごとにお送りしています。複数の施設・事業所を持つ法人はお手数ですが、(施設番号の順に)施設・事業所ごとにご回答ください。
- 番号を記入するところは、**当てはまる項目の番号を○で囲んでください。**
- 当てはまる項目を選択した際に「一問△×」とありましたが、その他に選んでください。
- 文字は指書で明確にご記入ください。
- ご記入いただいた調査票は、同封いたしました返信用封筒に入れて、**7月24日(火)まで** にご返送ください。※切手は不要です
- 調査内容についてご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。
岐阜市 福祉部 福祉政策課 担当：高野、近松
電 話：(058) 265-4141 (内線2422)
FAX：(058) 267-6015

(1) 貴施設・事業所について

問1 貴施設・事業所及び貴事業者の名称等をご記入ください。

施設・事業所	名 称	
	所 在 地	
	ご記入者名	
	ご連絡先 (電話番号)	
	実施している サービス	
事業所	名 称	
	所 在 地	

(2) 地域との連携について

問2 貴施設・事業所は地域の関係機関・団体と連携していますか。(いずれかに○)

1 日常的に連携している 一問2-2へ
2 必要に応じて連携している 一問2-2へ
3 現在は連携していないが、今後連携したい 一問2-2へ
4 連携していないし、今後もしない
5 その他 ()

問2-2 (問2で1から3を選んだ方) 貴施設・事業所が連携している(または、今後連携したい)地域の関係機関・団体はどこですか。(当てはまるものを全てに○)

1 自治会	2 社会福祉協議会支部
3 民生委員・児童委員	
4 福祉委員 (社会福祉協議会支部が委嘱する地域の役員)	
5 老人クラブ、防犯団体等の地域団体	6 子ども会、PTA、青少年団体等の地域団体
7 その他の団体 (NPO、ボランティアを含む)	8 地域包括支援センター
9 医療機関、保健所	10 相談支援事業所
11 学校	12 公民館、コミュニティセンター
13 地元企業や農工会、農協等の経済団体	
14 その他の行政機関 ()	
15 その他 ()	

- 2 -

問3 地域と連携が必要だと思う理由は何ですか。貴施設・事業所のお考えに近いものをお選びください。
(当てはまるものを全てに○)

① <福祉事業所として地元の地域づくり貢献する観点から>

- 1 地域住民へ福祉情報を提供することができるから
- 2 地域住民にとって身近な福祉の相談窓口の役割を果たすことができるから
- 3 地域交流の場を提供することができるから
- 4 地域住民、民生委員や自治会等と共に、支援が必要な人を見つけることができるから
- 5 地域住民、民生委員や自治会等と共に、支援が必要な人の情報を提供してもらえるから
- 6 その他 ()

② <事業所のサービスの充実を図る観点から>

- 1 地域住民の事業所に対する理解や信頼が高まるから
- 2 事業所が開催する行事等に地域住民の参加・協力が得られるから
- 3 事業所利用者や地域住民との交流を図ることができるから
- 4 地域住民の声を事業所のサービス改善に反映できるから
- 5 地域住民に事業所ボランティアとして協力してもらえるから
- 6 事業所利用者の地域生活をより円滑に支援できるから
- 7 地域における事業所の知名度が向上するから
- 8 その他 ()

問4 貴施設・事業所では、事業に地域の力の協力を得るためにどんな工夫をされていますか。
(当てはまるものを全てに○)

- 1 地域の自治会に加入するなどして、会合や行事などに参加している
- 2 事業所で開催する行事などに地域の方々を招待している
- 3 事業所で開催する行事などに地域の方々からボランティアを募集している
- 4 特になし
- 5 その他 ()

- 3 -

(3-1) ボランティア活動の場づくりについて

問5 現在、貴施設・事業所では、ボランティアを受け入れていますか。(どちらかに○)

1 受け入れている 一問5-2へ 2 受け入れていない

問5-2 (問5で1を選んだ方) 貴施設・事業所で受け入れているボランティアについて、以下の設問にご回答ください。(下線 には人数、金額等を記入してください。)

① 定期的(月に1回以上)に活動しているボランティアの方は何人いますか。
男性 _____人 (うち、65歳以上 _____人)
女性 _____人 (うち、65歳以上 _____人)

② 定期的に活動している65歳以上のボランティアの方について、1回の活動時間別の人数は何人くらいですか。
1時間未満 _____人 1時間～2時間 _____人
2時間以上 _____人 日により異なる、把握していない等 _____人

③ 定期的に活動している65歳以上のボランティアの方について、月あたりの活動回数別の人数は何人くらいですか。
1回程度 _____人 2回程度 _____人 3～4回程度 _____人
5～10回程度 _____人 10回以上 _____人

④ ボランティアが生きている活動は何ですか。(当てはまるものを全てに○)

- 1 利用者の話し相手
- 2 読書・趣味活動、レクリエーション活動の補助
- 3 食事、洗濯、掃除の補助
- 4 草木、菜園の世話など
- 5 外出、散歩の付き添い
- 6 その他 ()

⑤ ボランティアへの贈礼、交通費、食事等の提供がありますか。(どちらかに○)

- 1 はい → 以下のa～dに内容を記入してください。
a 贈礼の支給 _____円
b 交通費の支給 _____円
c 食事代の支給 _____円
d その他 ()
- 2 いいえ

⑥ ボランティアの受入経路はどのようになっていますか。(当てはまるものを全てに○)

- 1 社会福祉協議会からの紹介
- 2 町内会などの地域団体からの紹介
- 3 利用者や家族からの紹介
- 4 ホームページや広報誌等で募集
- 5 その他 ()

- 4 -

⑦ボランティアを受け入れて良いと感じた点は何か。(当てはまるもの全てに○)

- 1 人が増えて雰囲気が変わった 2 職員の刺激になる
3 利用者の年齢になる 4 地域との交流になっている
5 人手が足りなかったのが助かっている 6 利用者とかっこよく話してもらえ
7 その他()

⑧反対に、ボランティアを受け入れて良くないと感じた点は何か。(当てはまるもの全てに○)

- 1 活動の調整に手間がかかる 2 初めて活動する人へのフォローが大変
3 施設の運営に混乱をきたしている
4 利用者が悲しい(落ちつかなくなる、生活のリズムが乱れるなど)
5 その他()

(3-2) 介護支援ボランティアについて

東京都稲城市など、いくつかの自治体においては介護保険事業の中で介護支援等のボランティア活動(介護施設におけるボランティア活動や地域住民相互の助け合い活動など)に取り組む高齢者に、その活動に応じて「ポイント」を付与し、そのポイントを介護保険料や生活支援サービスの利用料に充てることができる「介護支援ボランティア・ポイント制度」の導入が図られています。このような動向に対しては、「高齢者の社会参加が促進される結果、介護予防効果が期待される」という意見がある一方で、「ボランティア活動の自発性・無償性を損ねてしまうのではないかなど賛否を含む様々な意見があるようです。

問6 介護支援ボランティア・ポイント制度を本市でも導入すべきだと思いますか。(いずれかに○)

- 1 導入すべき 一問6-2へ
2 どちらかといえば導入すべき 一問6-2へ
3 どちらかといえば導入すべきでない 一問6-3へ
4 導入すべきでない 一問6-3へ
5 どちらともいえない(わからない)

問6-2 (問6で2を選んだ方) 本市で介護支援ボランティア・ポイント制度を導入した場合、付与されたポイントをどのように還元すると良いと思いますか。(いずれかに○)

- 1 貯まったポイントに応じて、表彰する
2 貯まったポイントに応じて、高齢者おでかけパスカード(※市が70歳以上の高齢者へ交付する高齢者向けのついでパスカードのことです。)へ入金する
3 貯まったポイントに応じて、市の有料施設の入場券と交換する
4 貯まったポイントに応じて、商店街などの買い物券と交換する
5 貯まったポイントに応じて、現金に換金する
6 貯まったポイントに応じて、介護保険料に充てる
7 その他()

問6-3 (問6で3か4を選んだ方) 導入すべきでないと考え理由は何か。貴施設・事業所のお考えに近いものをお選びください。(当てはまるもの全てに○)

- 1 ボランティアは自発的に行うもので、ポイントの付与は必要ないと思うから
2 無償のボランティアと有償のボランティアが存在すると不公平が生じ過ぎないと思うから
3 介護予防には効果がないと思うから
4 介護支援ボランティアに参加する人は少ないと思うから
5 特に理由はない
6 その他()

問7 本市で介護支援ボランティア・ポイント制度を導入した場合、貴施設・事業所では介護支援ボランティアを受け入れたいと思いますか。(上記の説明に対する印象に基づいてご回答いただければ結構です。)(どちらかに○)

- 1 はい 一問7-2へ 2 いいえ 一問7-3へ

問7-2 (問7で1を選んだ方) どのようなボランティア活動なら受け入れ可能ですか。(当てはまるもの全てに○)

- 1 利用者の話し相手 2 娯楽・趣味活動、レクリエーション活動の補助
3 食事、洗濯、清掃の補助 4 草木、菜園の世話
5 外出、散歩の付き添い 6 その他()

問7-3 (問7で2を選んだ方) 受け入れできない理由は何ですか。(当てはまるもの全てに○)

- 1 ボランティアの受け入れ態勢が整っていない
2 ボランティアの対象が高齢者に限定され、参加者に制約があるから
3 施設で受け入れているボランティアと介護・支援ボランティアが同居すると不公平が生じ、適当でないと思うから
4 その他()

問8 介護支援ボランティアに依頼したい活動があれば教えてください。なお、ボランティアの活動者は65歳以上であることを念頭に置いてご回答ください。(自由記述)

Blank lines for free text input.

(4) 非常災害対策について

問9 貴施設・事業所では、防災計画として何を具体的に定めていますか。(当てはまるもの全てに○)

- 1 利用者の選別(選別方法・選別先)について
2 事業継続(職員の仕事体制、役割)について
3 災害時の連絡網(利用者家族・関係機関への連絡方法など)について
4 利用者へのサービス継続(自事業所でサービスが提供できなくなった場合に他事業所を紹介する体制など)について
5 地域との連携について
6 特にない
7 その他()

問10 防災計画について、今後強化していきたいもの(計画の内容を充実、新たに計画に盛り込むなど)は何ですか。(当てはまるもの全てに○)

- 1 利用者の選別(選別方法・選別先)について
2 事業継続(職員の仕事体制、役割)について
3 災害時の連絡網(利用者家族・関係機関への連絡方法など)について
4 利用者へのサービスの継続(自事業所でサービスが提供できなくなった場合に他事業所を紹介する体制など)について
5 地域との連携について
6 特にない
7 その他()

問11 貴施設・事業所では地元の自主防災組織(自治会や消防団など)とどのように連携していますか。(当てはまるもの全てに○)

- 1 平常時から、地域の防災訓練に参加している
2 非常時に、利用者の避難支援を要請することとなっている
3 非常時に、避難所として施設を開放することとなっている
4 現在は連携していないが、今後連携したい
5 連携していないし、今後も予定はない
6 その他()

問12 災害時の利用者へのサービスの継続についてはどうなっていますか。(当てはまるもの全てに○)

- 1 事業者団体として連携体制を作っている(具体的には、)
2 団体としての認識が足りない
3 その他()

問13 貴施設・事業所では、災害発生時に利用者はもちろん地域の罹災者に対してどのような救助活動や支援ができるかと考えていますか。(当てはまるもの全てに○)

- 1 地域の罹災者を一時的に保護する場を提供すること
2 必要物資を提供する場としての機能 3 災害ボランティアのコーディネート
4 職員の避難所や他事業者へ派遣すること 5 当事業所利用者への対応で限界である
6 その他()

(5) その他

問14 その他、福祉行政との連携についてご意見がありましたらご記入ください。(自由記述)

Blank lines for free text input.

アンケートは以上です、ありがとうございました。なお、後日、回答について詳細をお尋ねする場合があります。その際には、ご協力をお願いいたします。

(3) NPO向けアンケート調査票

「第3期岐阜市地域福祉計画」策定のためのNPOアンケート調査
 ～ご協力をお願いします～

日ごろは、岐阜市の福祉行政にご理解とご協力を賜り、まことにありがとうございます。
 本市では、市民と行政が協働して地域福祉を推進していくために、5年ごとに「岐阜市地域福祉計画」を策定しています。
 このほど、第3期計画（計画期間：平成26年度～30年度）を策定するための基礎調査として、福祉に関わるNPO法人の地域福祉に関する意識や考え方を把握することを目的としたアンケート調査を実施することになりました。
 つきましては、貴法人にこのアンケート調査にご協力を頂きたく、次ページ以降の調査票にご記入ください。よろしくお願ひ申し上げます。
 なお、ご記入いただいた内容は、すべて集計・加工処理し、個々の調査票を本調査の目的以外に使用することは一切ございません。

平成24年7月3日

岐阜市長 樋江 茂光

◆ご記入にあたってのお願い◆

- 番号を選ぶところでは、**当てはまる項目の番号を○で囲んでください。**
- 当てはまる項目を選択した際に「一問△・×△」とありましたら、その問いに連んでください。
- 文字では簡書で明確にご記入ください。
- ご記入いただいた調査票は、同封いたしました返信用封筒に入れて、**7月24日（火）まで**にご返送ください。※切手は不要です
- 調査内容についてご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。
 岐阜市 福祉部 福祉政策課 担当：高野、近松
 電 話：(058) 265-4141 (内線2422)
 FAX：(058) 267-6015

(1) 貴法人について

問1 貴法人の名称等をご記入ください。

名 称	
所 在 地	
ご記入者名	
ご連絡先 (電話番号)	

問2 貴法人が現在行っている地域福祉活動は何ですか。該当するものを選び、()に具体的に記入ください。(該当するものすべてにご記入ください)

1 高齢者に対する活動)
(
2 障がい者に対する活動)
(
3 子どもに対する活動)
(
4 保健や医療に関する活動)
(
5 その他)
(

問3 貴法人の構成メンバーを以下から選び、()に具体的な構成比をご記入ください。(当てはまるものすべてに○)

1 家事従事者 (%)	2 学 生 (%)	3 退職者 (%)
4 事業者 (経営者) (%)	5 勤労者 (%)	
6 当該団体に専属・勤務 (%)	7 その他 (%)	

(2) 運営上の課題について

問4 貴法人の運営上の課題は何ですか。以下からお選びください。(当てはまるものすべてに○)

1 利用者・会員を増やしたい	2 活動・事業の担い手の確保が難しい
3 活動・事業の運営資金の確保が難しい	4 施設改築など投資資金の確保が難しい
5 地域社会からの認知度を高めたい	6 他の機関との連携を深めたい
7 制度変更や行政指導への対応が難しい	8 事務所の確保・維持したい
9 特になし	
10 その他 ()

問5 貴法人が活動を行っていく上で、今後取り組んでみたい地域福祉活動はありますか。該当するものを選び、()に具体的に記入ください。(該当するものすべてにご記入ください)

1 高齢者に対する活動)
(
2 障がい者に対する活動)
(
3 子どもに対する活動)
(
4 保健や医療に関する活動)
(
5 その他)
(

(3) 地域との連携について

問6 貴法人は地域の関係機関・団体と連携していますか。(いずれかに○)

- 1 日常的に連携している ー問6-2、6-3へ
- 2 必要に応じて連携している ー問6-2、6-3へ
- 3 現在連携していないが、今後は連携したい ー問6-2、6-3へ
- 4 現在連携していないが、今後も予定はない
- 5 その他 ()

問6-2 (問6で1～3を選んだ方)貴法人が連携している(または、今後連携したい)地域の関係機関・団体はどこですか。(当てはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 自治会 | 2 社会福祉協議会支部 |
| 3 民生委員・児童委員 | 4 福祉委員(社会福祉協議会が委嘱) |
| 5 老人クラブ、防災団体等の地域団体 | 6 子ども会、PTA、青少年団体等の地域団体 |
| 7 その他の団体(NPO、ボランティアを含む) | 8 地域包括支援センター |
| 9 医療機関、保健所 | 10 障害者自立支援センター |
| 11 学校 | 12 公民館、コミュニティセンター |
| 13 地元企業や商工会、農協等の経済団体 | |
| 14 その他の行政機関 () | |
| 15 その他 () | |

問6-3 (問6で1～3を選んだ方) 連携したいと思う理由は何ですか。(自由記述)

(4) 介護支援ボランティア・ポイント制度について

東京都稲城市など、いくつかの自治体においては介護保険事業の中で介護支援等のボランティア活動(介護施設におけるボランティア活動や地域住民相互の助け合い活動など)に取り組み高齢者に、その活動に応じて「ポイント」を付与し、そのポイントを介護保険料や生活支援サービスの利用料に充てることができる『介護支援ボランティア・ポイント制度』の導入が図られています。このような動向に対しては、「高齢者の社会参加が促進される結果、介護予防効果が期待される」という意見がある一方で、「ボランティア活動の自発性・無償性を損ねてしまうのではないかなど賛否を含め様々な意見があるようです。

問7 介護支援ボランティア・ポイント制度を本市でも導入すべきだと思いますか。(いずれかに○)

- 1 導入すべき ー問7-2へ
- 2 どちらかといえば導入すべき ー問7-2へ
- 3 どちらかといえば導入すべきでない ー問7-3へ
- 4 導入すべきでない ー問7-3へ
- 5 どちらともいえない(わからない)

問7-2 (問7で1か2を選んだ方) 本市で介護支援ボランティア・ポイント制度を導入した場合、付与されたポイントをもとに還元すると良いと思いますか。(いずれかに○)

- 1 貯まったポイントに応じて、表彰する
- 2 貯まったポイントに応じて、高齢者向けパスカード(※市が70歳以上の高齢者へ交付する割引特典のついたパスカードのことです。)へ入金する
- 3 貯まったポイントに応じて、市の有料施設の入場券と交換する
- 4 貯まったポイントに応じて、商店などの買い物券と交換する
- 5 貯まったポイントに応じて、現金に換金する
- 6 貯まったポイントに応じて、介護保険料に充てる
- 7 その他 ()

問7-3 (問7で3か4を選んだ方) 導入すべきでないと考え理由は何か、貴法人の考えに近いものをお選びください。(当てはまるものすべてに○)

- 1 ボランティアは自発的に行うものなので、ポイントの付与は必要ないと思うから
- 2 無償のボランティアと有償のボランティアが混在すると不公平が生じ適当ではないと思うから
- 3 介護予防には効果がないと思うから
- 4 介護支援ボランティアに参加する人は少ないと思うから
- 5 特に理由はない
- 6 その他 ()

問8 本市で介護支援ボランティア・ポイント制度を導入した場合、本制度に参画(貴法人の会員をボランティアとして派遣する、ボランティア活動の振り出しをコーディネートするなど)してみたいと思いますか。(いずれかに○。参画したいと思わない場合はその理由をお書きください。)

- 1 参画したい
- 2 参画したいとは思わない (理由) ()
- 3 わからない

問9 その他、介護支援ボランティア・ポイント制度に関してご意見・ご要望がありましたらご記入ください。(自由記述)

(5) その他

問10 その他、福祉行政との連携についてご意見がありましたらご記入ください。(自由記述)

アンケートは以上です。ありがとうございました。
なお、後日、回答について詳細をお尋ねする場合があります。その際には、ご協力をお願いいたします。

